

## 設置の趣旨等を記載した書類（目次）

1. 設置の趣旨及び必要性	1
(1) 教育研究上の理念・目的	
ア) 基本理念	
イ) 目的	
ウ) 設置の背景・必要性	
エ) 研究対象とする主たる学問分野	
(2) どのような人材を養成するのか	
ア) 基本方針	
イ) 社会における人材需要の見通し	
ウ) 卒業後の具体的進路	
2. 学部・学科の特色	8
(1) 学部の特色	
(2) 学科の主な特色	
ア) 生命工学科	
イ) 地域食物科学科	
ウ) 環境科学科	
エ) 地域社会システム学科	
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	9
(1) 学部の名称及び当該名称とする理由	
(2) 学科の名称及び当該名称とする理由	
ア) 生命工学科	
イ) 地域食物科学科	
ウ) 環境科学科	
エ) 地域社会システム学科	
(3) 学位の名称及び当該名称とする理由	
ア) 生命工学科	
イ) 地域食物科学科	
ウ) 環境科学科	
エ) 地域社会システム学科	
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	11
(1) 教育課程編成の基本的な考え方	
(2) 学科横断的な教育	
ア) 学部共通科目	
イ) 理系共通科目	
ウ) 専門科目の相互乗り入れ科目	
(3) 学科の教育の特色（専門発展科目・専門特別科目）	
ア) 生命工学科	
イ) 地域食物科学科	
ウ) 環境科学科	
エ) 地域社会システム学科	
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	15
(1) 教員組織編制の考え方	
(2) 教員組織編制の特色	
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	17
(1) 教育方法と履修指導	
(2) 卒業要件	

ア) 生命工学科	
イ) 地域食物科学科	
ウ) 環境科学科	
エ) 地域社会システム学科	
7. 施設・設備等の整備計画	18
(1) 教室等の施設・設備の整備計画について	
ア) 農場	
イ) 図書館等	
ウ) 教育・研究機器の整備計画	
8. 入学者選抜の概要	18
(1) アドミッション・ポリシー	
ア) 生命工学科	
イ) 地域食物科学科	
ウ) 環境科学科	
エ) 地域社会システム学科	
(2) 期待する入学者像	
ア) 生命工学科	
イ) 地域食物科学科	
ウ) 環境科学科	
エ) 地域社会システム学科	
(3) 入学者選抜の方法	
ア) 試験科目等	
9. 資格取得	20
ア) 生命工学科	
イ) 地域食物科学科	
ウ) 環境科学科	
エ) 地域社会システム学科	
10. 実習の具体的計画	20
(1) 農場実習	
ア) 実習先	
イ) 授業科目ごとの受入れ人数	
ウ) 移動方法	
エ) 実習水準の確保及び準備状況	
オ) 指導目標	
カ) 到達目標	
キ) 教員の配置	
ク) 評価体制	
ケ) 単位認定方法	
(2) 企業実習（社会経営学実習Ⅰ）	
ア) 実習先	
イ) 授業科目ごとの受入れ人数	
ウ) 移動方法	
エ) 実習水準の確保及び準備状況	
オ) 指導目標	
カ) 到達目標	
キ) 教員の配置	
ク) 評価体制	
ケ) 単位認定方法	
(3) インターンシップ	

11. 管理運営	24
(1) 教授会の設置	
(2) 教授会の構成員	
(3) 審議事項	
(4) 事務	
12. 自己点検・評価	25
(1) 実施体制	
(2) 実施方法及び結果の活用・公表	
13. 情報の提供	25
14. 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組み	25
(1) 学部取組（実施組織及び実施方法等）	
(2) 各学科取組（実施方法等）	
ア) 生命工学科取組	
イ) 地域食物科学科取組	
ウ) 環境科学科取組	
エ) 地域社会システム学科取組	
15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	27
(1) 教育課程内の取組みについて	
(2) 教育課程外の取組みについて	
(3) 適切な体制の整備について	



# 生命環境学部の設置の趣旨等を記載した書類

## 1 設置の趣旨及び必要性

### (1)教育研究上の理念・目的

#### ア) 基本理念

山梨大学（以下本学）は、教育人間科学部、工学部、医学部の3学部からなる国立大学法人として、「地域の中核、世界の人材」というキャッチ・フレーズを掲げて、地域の産業・文化・教育・医療の中核を担うことのできる、高い知的能力と道徳意識をもち、国際的にも活躍できる人材の育成を重要な使命としている。この使命を達成するために、高度な研究を推進するとともに、先端領域の世界的研究拠点を形成し、その成果を広く社会に提供することで、地域を活性化させ、ひいてはわが国並びに世界の一層の発展に寄与することを目標として努力を重ねてきている。本学の立地する山梨県は「未来につながるはつらつとした農業の振興」を政策に掲げる果樹栽培が盛んな農業県でもあることから、地域に根ざし世界を見据えた農学系新学部の設置が地域より強く求められている。

そこで本学は、農学系の新学部を設置すべく検討を重ねてきた。その結果、「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野をもつ人材を、自然と社会の共生科学に基づき養成する」ことを基本理念とする生命環境学部を全学的な支援のもとに新たに設置することにした。

生命環境学部（以下本学部）では、「生命・食・環境・経営」に関する実践教育により、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関する広範な知識を統合して、自然との共生可能な豊かな地域社会を実現するための課題を提起し、解決できる能力をもった人材の養成を目指す。そのための教育と研究を行う中心的な学問分野として、生命工学、食物科学、環境科学、社会経営学の4分野を設置し、専門性と学際性を重視したカリキュラムを編成する。

#### イ) 目的

2008 年末に中央教育審議会によりまとめられた「学士課程教育の構築に向けて」の答申は、学士教育課程を、学問の基本知識を生涯学び続ける基礎的能力を涵養し、21 世紀型市民として自立して行動できる教養を培う場として体系的にシステム構築するよう求めている。本学部はその提言を受けとめ、学部を構成する4つの学科（生命工学科、地域食物科学科、環境科学科、地域社会システム学科）が教育・研究において有機的に連携・機能することで多様化・複雑化する諸課題の解決に対応でき、地域社会において、ひいては国際的にも活躍できる人材を養成することを基本目的とする。さらに、学際的な学びを取り入れつつも各学科の専門性も尊重し、大学院教育との連続性を確保する。

本学部は、「生命・食・環境・経営」の実践的な教育研究により得られた学術的成果を地域社会に還元するとともに、県内の農業系各種公設試験機関等との連携のもと、学生の実習及び社会人実習生の指導などを通して地域社会との連携を強化し、教育研究の質的向上に向けた相互補完体制を確立していく。さらに、産学官の協働体系をより一層強固にし、専門職業人の養成及び社会人のリカレント教育の場としても、その機能を十分に発揮し、地域産業の発展を支える人材養成を担う高等教育機関としての充実を目指す。

#### ウ) 設置の背景・必要性

四方を海に囲まれた島々から構成される狭い国土条件の下で、1億2千万人を超える国民を養う必要がある我が国においては、食料の安定供給を将来にわたって確保していくことが重要な課題である。平成20年度の農業・食料関連産業の国内総生産額は44.8兆円であり、その内訳は農業総生産4.4兆円（ピークは7兆9,377億円（平成2年度））、食品工業12.3兆円、流通業16.5兆円となっており、農業生産より食品加工、流通業の比率が上昇している。農業生産額の低下に伴い昭和40年度に73%であった食料自給率（カロリーベース）は平成21年度には40%と低下している。平成21年度における農産物

の輸入額は4兆5,609億円、一方、輸出額は2,637億円と僅かである。この事実から国内農業は国際的農産物価格を基準にすると消費者や食品産業のニーズに十分に対応できていないことは明らかである。一国の食料自給は、国家にとって極めて重要であり、政府は食料自給率の向上は今後十数年かけて進めていかなくてはならない我が国の課題とし、平成32年度の食料自給率50%を目標としている。一方、我が国の基幹的農業従事者の平均年齢は年々上昇し65.8歳と高齢化が進行し、耕作放棄地は増加し続け、山梨県の耕作放棄率は14.7%となっている。さらに、農業所得は減少傾向にあり、農業生産者の多くは副業なくしては生活できなくなっている。我が国の食料自給率の低下は、若者にとって農業が魅力を失っていることの反映でもある。また、農業は食物を生産する過程で持続的に自然環境を保持し、多様な生物を育むことによって、美しい景観・伝統文化の継承及び国土保全へ貢献していることから、食料・農業・農村に関する施策は、我が国の経済社会のあり方や国民生活と深く結び付いている。

政府は、平成22年3月の「食糧・農業・農村基本計画」を、農業を通じて国民の命と健康を守り、さらには我が国の経済、環境、伝統文化等を含めた国民の生活を豊かなものとするための指針として位置付け、「国民全体で農業・農村を支える社会」の創造を目指している。日本の農業や食品産業が培ってきた付加価値を高める生産技術とバイオマスや環境関連の先進技術を、地域に豊富に存在する未利用資源の活用に応用することにより、農村を新たな成長産業育成の場として確立し、雇用と所得を生み出すとともに、環境面でも温室効果ガスの排出抑制等に積極的な役割を果たすことも期待されている。

このような状況下、我が国は農業所得を増加させ、若者にとっても魅力のある農業とするための一つの方策として、農業経営の大規模化を進めてきた。しかし、グローバリゼーションの中で、農業の大規模化政策は極めて困難な状況に置かれている。それは、我が国で最も大規模化が進んでいる北海道であっても、農家一戸当たりの農地面積は20ha 足らずであるのに対し、アメリカにあってはその約10倍、オーストラリアに至っては100倍以上と、比較にならない程の大規模な農業経営を展開しているからである。この問題を打開する方策として、平成21年に改正農地法が改正され、個人・法人が農業に参入することを促進した。その結果、1年間で新たに292法人が参入し、そのうち株式会社が64%を占め、従来の個人営農から企業規模で営農される新たな時代を迎え、新たな耕作者のみならず農業に長じた企業経営者も強く求められている。

一方、山梨県の農業は首都圏に近いこともあって、多品種少量生産型の都市型近郊農業として、米麦から養蚕、養蚕から果樹栽培へと、より反収の高いものへと転換を図ってきた。その結果、葡萄、桃、スモモは山梨を代表する果樹となり、首都圏あるいは国内に限らず、海外にまで、その販路を拡げている。山梨県の農業は、カロリーベースの食料自給率では僅か19%（平成19年度）に過ぎないのに対し、生産額ベースでは93%（平成19年度）となっている。これは県土の78%が森林で占められ、農家一戸当たりの農地面積がわずか0.79ha であるにもかかわらず、10a あたりの農業生産額は全国1位であり全国平均の約2倍に達していることから肯ける。

日本一の果樹王国である山梨県には、県立果樹試験場、総合農業技術センター試験場等、現場に密着した公設研究施設が数多くある。また、山梨県は「チャレンジ山梨行動計画」の基本目標2「力みなぎる・やまなしの実現」において、「未来につながるはつらつとした農業の振興」を政策に掲げるとともに、全国に先駆けて「山梨県環境首都憲章」を制定し、環境モデル都市を目指している。この地域には農業と生態系の保全とを結び付けた取組みや、生産額ベースで高い効率性を実現する仕組み、そしてグローバルな生産物の販路開拓など、農業を新たな成長産業とするための取組みが行われている。また、政府でも平成29年度までに「おいしくて安全な日本食品を世界へ」を標語に輸出額を倍増させる目標が掲げられている。

本学においては、昭和22年4月、県内の葡萄発酵技術と大学の化学研究機能とを合わせた新しい学術の発足の象徴として、発酵研究所が設立された。当該研究所は、葡萄の栽培、育種から発酵、そしてワインの製造と機能性に至る研究を60年以上にわたって行い、地域の農業と食品産業の振興に高く貢献してきた。現在ではワイン科学研究センターとして研究を続けている。昭和32年には工学部に日本で唯一の発酵生産学科が設けられた。特に醸造に関係する微生物、発酵化学の教育が専門に進められ、

生命工学科と名称を変えた現在は、様々な微生物の機能開発と食品や医薬品さらにバイオエネルギー開発への利用など、新時代のバイオテクノロジー、バイオサイエンスに基盤を置いた教育と研究が展開されている。さらに平成10年からは、循環システム工学科の新設により、地球環境への負荷の低減化、物質資源の循環を基本とするゼロエミッション社会の構築等を目指す教育研究が行われており、教育人間科学部ソフトサイエンス課程環境科学コースでも同様の教育目標を掲げている。このように、本学からはこれまでに、生命・食・環境に関する数多くの研究成果が創出されている。

法学経済の教育研究は、新制大学発足の昭和24年学芸学部の文科の中に、経済学専攻が作られたのに始まる。その後、商経科となった後、教育学部へと学部名称が変更になることに伴い、商経科を中心に経済学部が構想されるなど、地域の中心となって地域の経済を担う人材が輩出してきた。教育学部内には社会科Bコースとして、さらには総合科学課程法経コースとして、法学・経済学を中心とした教育研究が行われ、この中で社会科学部が構想されたが実現しなかった。教育人間科学部に改組するとき「共生のあり方」を法学・政治学、経済学、社会学などの社会科学と、家庭生活や良好な住環境について探求する生活科学とを有機的に関連させながら学ぶ国際共生課程共生社会コースと形を変えた。共生社会コースは、山梨県における経済学を中心とした社会科学系人材養成の中核を担っている。

これらに加え、本学は他大学に先駆け平成14年10月に、旧山梨大学と旧山梨医科大学とを統合し、新たに山梨大学を発足させ、この統合を基盤に大学院医学工学総合教育部・研究部を設置して、特色のある医工融合教育研究を進めてきている。本構想により大学院に農学分野を加え、医工農に関する学際的な教育研究を推進する。

人類が直面する食物生産、環境問題など多様化・複雑化する課題に対応しうる人材を育成するには、「生命・食・環境・経営」を体系的に教育するシステムの構築が不可欠である。しかし、多様な生物資源を利用し、一方、生態系の保全を図る中で、食料生産、食品製造や資源・環境・エネルギーなどに関わる知識や技術を体系的に教育するシステムは、未だに本学や山梨県内には構築されていない。また、食物生産環境としての生態系とその維持保全に関する自然科学的な基礎知識を地域固有の人間の営みと関連させ、食料問題や環境問題を社会・経済・行政システムとの関わりにおいて教育するシステムについても同様である。これら教育システムの構築には、本学に分散して存在する教育研究組織を統合した新学部を設置する必要がある。新学部では、県内の各種公設試験機関、農業の6次産業化に取り組んでいる企業、農業法人、県立農業大学校等と連携し、「生命・食・環境・経営」に関する実践教育を行う。

以上のように本学の教育研究実績と社会からの要請に基づき、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野をもち、多様な問題の解決に対応できる実践的専門職業人を養成する生命環境学部を、本学に設置する旨の構想に至った。

## エ) 研究対象とする主たる学問分野

本学部は、21世紀における重要課題である「生命・食・環境・経営」に関する実践教育により、学術的成果を地域社会に還元するための人材養成を目的としている。そのための教育研究の中心的な学問分野として、生命工学、食物科学、環境科学、社会経営学の4分野を設定する。これら4学問分野の教育を行う組織として、生命工学科、地域食物科学科、環境科学科、地域社会システム学科の4学科を設置する。「生命工学科」では、生命の基本単位である細胞の構造と機能を解明し、その成果を応用して、現代社会が抱える環境、食料、健康、医療等の課題を解決するための教育を行う。「地域食物科学科」では、先端的な科学的手法を駆使した果樹や野菜の生産やワイン製造などの加工を実践し、食料問題の解決や食物の利用性と機能性を高めるための教育を行う。「環境科学科」では、環境保全と社会の繁栄を両立させることのできる人材の養成を目指す。このため、人間の生活圏を取り巻く自然環境の保全に向けた科学的な理解を深め、生産活動や生活といった、環境に影響を与える人間の営みと、食料・資源・エネルギー等との関連について教育する。「地域社会システム学科」では地域社会の持続的繁栄を実現できる人材の養成を目指す。このため、生命・食・環境の基礎知識を基盤に置き、地域経済、企業経営、流通経済、フードマーケティング、人的資源管理、地域行政などの社会科学を軸に、データサイエンスや情報処理等の数値的手法を取り入れた教育を行う。

これらに加え、医工農融合の観点から医学部教員が食と健康に関する科目を担当するとともに卒業論文の指導に協力する。さらに、学年進行で医工農融合研究を発展させ、各分野の高度な教育研究を行う大学院の創設を目指す。

## (2) どのような人材を養成するのか

### ア) 基本方針

生命環境学部では「生命・食・環境・経営」に関する実践教育により、地域社会の持続的な繁栄を実現するために必要となる、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野をもち、地球規模の食料、環境問題などの解決に貢献できる実践的専門職業人を養成する。新学部を構成する4つの学科(生命工学科、地域食物科学科、環境科学科、地域社会システム学科)が有機的に連携・機能することで多様化・複雑化する関連分野の課題に対応しうる能力を身に付けさせる。

生命工学科では、生命科学(バイオサイエンス)を基礎として、生命・食・環境に関する解決すべき課題を自らの力で見出し、バイオテクノロジーの実践によってそれらの課題を解決できる高い創造力をもった人材を養成する。

地域食物科学科では、果樹・野菜の栽培、食物科学やワイン科学に関する専門知識・技術を基礎として、資源・環境などの多角的な視点から安全な農作物の生産・食品製造に取り組める人材を養成する。

環境科学科では、環境に関する自然科学の知識を基礎とし、自然環境と人間社会の共生を目指し、主として自然科学的な方法によって食料問題や環境問題をとらえ、環境調和型の人間活動を基盤とする地域社会の持続的な繁栄に貢献できる人材を養成する。

地域社会システム学科では、経済・経営及び社会科学の知識を基礎とし地域経済・企業経営・行政に関する専門知識により、食料問題や環境問題を社会・経済・行政システムとの関わりにおいて理解し、地域社会・経済の持続的な繁栄に貢献できる人材を養成する。

### イ) 社会における人材需要の見通し

本学部には、受験生、産業界、自治体等から「生命・食・環境・経営」分野に寄与する実践的な人材育成のための教育組織として強い期待が寄せられている。

#### ① 受験生・高等学校からのニーズ

本学部を設置する生命工学科、地域食物科学科、及び環境科学科は、それぞれ工学部の生命工学科、ワイン科学特別教育プログラム、及び循環システム工学科が前身にあたる。これら3学科の平成22年度個別学力前期入試競争倍率は、生命工学科3.4倍、ワイン科学特別教育プログラム4.6倍、循環システム工学科4.9倍で、入試倍率が低迷する工学部にあって山梨県内外から優秀な志願者を多数得ている。また、オープンキャンパスでは、多数の高校生と保護者が3学科の説明会場に集中した。このことから、生命工学科、地域食物科学科、及び環境科学科への受験生のニーズは高いと考えられる。

本学部を設置する地域社会システム学科は教育人間科学部国際共生課程共生社会コース、工学部循環システム工学科が前身にあたる。共生社会コースの平成22年度個別学力試験前期の競争倍率は3.3倍、ここ5年間の平均倍率も約5倍である。平成22年のアンケート結果報告書では、山梨県内の高校生は経済・経営、法学・政治学などの社会科学系学科の設置を強く希望していることが示されている。

さらに、これまでに高く評価されている前身学科の教育実績に加え、「生命・食・環境・経営」分野に寄与する実践的な人材を養成するという本学部の教育目標は受験生・高等学校からも期待されている。また、これまでは他県の農学部に進学せざるを得なかった山梨県内の受験生が本学部に進学する期待は大きい。

以上のように、受験生・高等学校の本学部を設置する4学科に対する関心は高く、今後もその需要は大きいことが予想される。

#### ② 行政・産業界からのニーズ

山梨県農業を取り巻く情勢は、農業従事者の高齢化等に伴う農業生産活動の低下、産地間競争の激化、流通の国際化など、厳しい環境下にある。そこで、県は「やまなし農業ルネサンス大綱」を掲げ、高収



益な農業の実現による魅力・活力に満ちた地域づくりを目指している。

県内の農産業は、大消費地に近いという有利な立地条件等を生かし、付加価値の高い果樹栽培や果物の輸出等に取り組んでいる。また、日本一の生産量を誇り本県の代表的な地場産業であるワインについては、地元ワイナリーによる本場欧州への輸出や、地域ブランド化の取り組みが進められている。さらに、農地法の改正を契機に農業生産法人が県内には数多く設立され、農作物の生産から加工、販売までを一貫して手がける農業の6次産業化の取り組みがはじまっている。しかし一方において、地球温暖化への対応のための品種改良や、病虫害駆除等、多くの課題を抱えている。これら課題の解決には、生態系や自然環境の保全にも配慮しなければならない。

今後、このような県の政策や産業界の取組みに貢献できる人材の養成には、「生命・食・環境・経営」に関する教育研究機関が不可欠であり、本学部の設置は、山梨県にとって長年の悲願であった。そのため、県をはじめ多くの関連諸団体から、新学部設置に関する多数の「要望書」が届いている。

(別添資料1「要望書」参照)

## ウ) 卒業後の具体的進路

本学部4つの学科の前身である工学部の生命工学科、ワイン科学特別教育プログラム、及び循環システム工学科、教育人間科学部の国際共生社会課程の卒業生の就職率の実績は高く推移している。加えて、本学部の基本理念の「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野をもつ人材を、自然と社会の共生科学に基づき養成する」を実現するために他大学・研究機関等から17名の教員を招聘し、「生命・食・環境・経営」を統合した実践的な人材育成が可能な教員配置とした。これにより地域の産業界、自治体等から強く要望されている人材育成に応えられることから卒業後の進路先の確実な確保に繋がるものと予想される。これまでに実績が高く評価されている前身の学科教育内容に、学部理念の「生命・食・環境・経営」を統合した教育内容を加えたことで、新学部の卒業生の進路には問題がないと確信する。

また、平成22年1月に実施したアンケートにおいては、既設大学の農学系学部において就職実績のある全国の109の事業所から回答があり、新学部卒業生の新規採用については52.3%が前向きな回答を示している。

(別添資料2「新学部に移行する課程・学科の進路状況」参照)

(別添資料3「山梨大学生命環境学部(仮称)設置に関するアンケート調査結果報告書」参照)

### 【生命工学科】

生命工学科では、これまで学生委員(教授)及びクラス担任(准教授)が中心となって、3年次生に対しキャリア教育を行ってきており、4年次に各研究室へ配属された後は卒論担当教員が個別に進路指導にあたってきた。過去5年間の進路決定率〔(就職・進学が決定した学生数)÷(卒業生総数)〕は、未曾有の就職難時代にあるにもかかわらず堅調で、平成18年度98%、平成19年度98%、平成20年度100%、平成21年度97%、平成22年度97%とほぼ100%近くで推移している。

生命工学科卒業生の過去5年間における民間企業及び財団法人への主な就職先としては、江崎グリコ(株)、協同乳業(株)、住商フルーツ(株)、高砂香料(株)、シャトレーゼ(株)、(株)はくばく、中外製薬(株)、大塚製薬(株)、(株)シャンソン化粧品、(財)日本食品分析センター等があげられる。官庁関係では山梨県庁等があげられる。

新学部における生命工学科では、既存の領域に加え、植物バイオテクノロジーや発生工学(多能性幹細胞のクローン技術等)分野を新たな教育研究領域として加えるとともに、実験、実習をより重視した教育を行い実践的な職業人を育てることを目的としていることから、農業関係法人、医療系産業への就職が新たに期待できる。

生命工学科卒業生の大学院修士課程への進学率の実績は、平成18年度62%、平成19年度68%、平成20年度65%、平成21年度72%、平成22年度68%である。主な進学先は山梨大学、東京大学、京都大学、大阪大学、東北大学、神戸大学等の大学院である。修士課程修了生の過去5年間における主な

進路は大学院博士課程（山梨大学、京都大学等）、官庁（山梨県等）、及び雪印乳業㈱、協同乳業㈱、タカナシ乳業㈱、日新製糖㈱、正田醤油㈱、ヤマザキナビスコ㈱、日研フード㈱、キューピー醸造㈱、全菓工業㈱、エーザイ㈱、わかもと製薬㈱、救心製薬㈱、小野薬品工業㈱、日本油脂㈱等の企業、さらに(財)製品評価技術基盤機構、(財)食品農医薬品安全性評価センター等の財団法人で就職率はほぼ100%である。

「想定される就職先」

食品系製造業（食料、飲料、醸造等）、化学系製造業（医薬、化粧品、香料）、医療系産業（機器、分析など）、学術・研究開発、環境産業（廃水处理、環境分析）、農業関係法人（JAなど）、地方公務員、国家公務員、高校教員（理科）等

### 【地域食物科学科】

ワイン科学研究センターでは、これまで学生委員（教授）及びクラス担任（教授、准教授及び助教）が中心となって、所属の学生に対しキャリア教育を行ってきており、4年次に各研究室へ配属された後は卒論担当教員と協力しながら進路指導にあたってきた。

卒業生・修了生の大部分は生命工学科に所属しており、ワイン科学特別教育プログラム（6年一貫教育として実施してきた）は、現在の最高学年が修士1年のため、これまでに修了生はない。

過去5年間の学士の就職先は、ワイン製造系として、シダックス㈱などがある。また他の民間企業として、アセラ㈱、㈱シャトレーゼ、㈱大塚商会、亜細亜工業㈱、山梨県庁、㈱三河屋本店、リコー販売㈱、大塚製薬㈱、山梨ダイハツ販売㈱、小田急商事㈱などがある。

また、大学院修士課程（山梨大学）進学、官庁関係では長野市役所、山梨県職員（農業）の就職もある。

地域食物科学科では、既存のワイン製造系の領域に加え、食品製造や食品栄養、山梨県庁や山梨県果樹試験場の要望等から農業などの分野における職業人を育てることを目的としていることから、食品製造・加工、農業（果汁や野菜等の生産分野）への就職が新たに期待できる。また、農業関係法人や医薬品関係への展開も期待される。

修士課程修了者の進路では、大学院博士課程（山梨大学）進学、信濃ワイン㈱、(有)旭洋酒、池田町（ブドウ・ブドウ酒研究所）、ホクレン農業協同組合連合会、伊那食品工業（株）、シチズン電子㈱、救心製薬㈱、㈱シャトレーゼ、実践女子大学（教員）などがあり、ワイン関係への就職が多い。

今後、食品製造系、農業系の研究室の新設に伴い、農作物栽培学、農作物生産学、食品製造学、食品保存学や食品栄養学等の授業科目も増えることから、これらの分野への就職も増えると期待される。

「想定される就職先」

食品系製造業（食料、飲料、醸造等）、化学系製造業（医薬、化粧品、香料）、農業関係法人（JAなど）農業従事者（栽培、収穫など）、医療系産業（機器、分析など）、学術・研究開発、環境産業（廃水处理、環境分析）、地方公務員、国家公務員、大学教員、高校教員（農業）等

### 【環境科学科】

循環システム工学科では、これまで学生主任（教授）と学科内学生委員（准教授）が中心となって、3年次生に対しキャリア教育を行ってきており、4年次に各研究室へ配属された後も卒論担当教員と協力しながら進路指導にあたってきた。過去5年間の進路決定率〔(就職・進学が決定した学生数) ÷ (卒業生総数)〕は、就職難の時代にもかかわらず堅調で、平成18年度94.2%、平成19年度97.4%、平成20年度100%、平成21年度92.3%、平成22年度91.5%と推移している。

循環システム工学科の特徴は、文理融合型のカリキュラムを用意し、多角的な観点や考え方を重視した教育が行われていることである。そのため、学生の就職先は、IT企業や金融、製造業、コンサルタント、公務員、自治体職員など多岐にわたっている。具体的な就職先として、山梨中央銀行㈱、静岡銀行、東京エレクトロン㈱、富士通エフ・アイ・ピー㈱、NTTファシリティーズ㈱、㈱JR東日本、㈱はくばく、JA全農、千曲商工会議所、山梨リコー㈱、ニスカ㈱、シチズンセイミツ㈱、山日YBSグ

ループ、矢崎総業(株)、(株)船井総合研究所、山梨交通、日本郵政グループ、山梨県庁、甲府市役所等があげられる。

新学部では、循環システム工学科の理系分野教員が環境科学科へ、文系及び情報系分野の教員が地域社会システム学科に配属することになる。さらに、環境科学科には、土木環境工学科所属の環境分野教員、国際流域環境研究センター教員、機器分析センター所属化学分野教員並びに教育人間科学部ソフトサイエンス地球科学系教員も加わることから、循環システム工学科に比べ理工系色の強い教育を行うことになる。

循環システム工学科の大学院への進学率の実績は、本学持続社会形成専攻への進学では平成 18-21 年度の 20%程度から平成 22 年度は 36.2%となり、直近の実績は伸びている。今後、理工系の教育が主体となり、グローバル COE プログラムを展開している国際流域環境研究センターの教員も加わることから、進学率は向上すると期待される。循環システム工学科からのこれまでの主な進学先としては、山梨大学大学院の持続社会形成専攻と国際流域環境科学特別教育プログラムが多く、他大学では、東京大学、筑波大学、名古屋大学、北海道大学、早稲田大学等の大学院があげられる。持続可能社会形成専攻修了生の主な就職先としては、徳島銀行、(株)総合環境分析、パナソニック(株)、(株)JR 東日本情報システムズ、(株)コンサルティング・エムアンドエス、山梨環境科学検査センター等があげられる。

新学部の環境科学科では、地域社会の持続的な繁栄を実現するために必要となる自然と社会の共生に関する豊富な知識と広い視野をもつ人材の養成を目的としていることから、多様な分野への就職が期待できる。

「想定される就職先」

環境産業（廃水処理、環境分析、コンサルタント、エコビジネス等）、情報産業（情報サービス、IT）、金融業、卸売業、小売業、流通業、生物生産分野、地方公務員、国家公務員、国際公務員、環境NPO、高校教員（理科）等

#### 【地域社会システム学科】

地域社会システム学科の母体である国際共生社会課程（共生社会コース）及び循環システム工学科では、これまで学生委員（教授）及びクラス担任（准教授）が中心となって、3年次生に対しキャリア教育、就職活動指導を行ってきており、3年次に各研究室へ配属された後は卒論担当教員が個別に進路指導にあたってきた。

過去5年間の進路決定率〔（就職・進学が決定した学生数）÷（卒業生総数）〕は、未曾有の就職難時代にあるにもかかわらず堅調で、平成 18 年度 94.6%、平成 19 年度 98.7%、平成 20 年度 100%、平成 21 年度 96.2%、平成 22 年度 93.3%とほぼ 100%近くで推移している。

卒業生の過去5年間における民間企業及び自治体への主な就職先としては、三井住友銀行、山梨中央銀行、静岡銀行、武蔵野銀行、中央労働金庫、長野銀行、八十二銀行、明治安田生命、三井生命、AIG生命、シャトレーゼ、明電舎、住友不動産販売、NTTデータ、日立ソリューション、富士通エフサス、テレビ山梨、名鉄観光、甲府市役所、韮崎市役所、北杜市役所、富士吉田市役所、笛吹市役所、山梨県警、甲府商工会議所、甲府市農協等があげられる。今後もこれら上場企業レベルの優良企業や近隣の自治体・団体等への就職が期待できる。

新学部における地域社会システム学科では、経済学、経営学、法学、政治学、行政学分野において充実した教育が可能となり、実践的な職業人を育てることを目的としていることから、公務員関係、高校教員（商業）をはじめ既存分野への就職がより拡充される。

学科卒業生の大学院修士課程への主な進学先は東京大学、名古屋大学、大阪大学、神戸大学、筑波大学、山梨大学、学習院大学、横浜国立大学等の大学院である。

「想定される就職先」

金融機関、保険業界、商社、製造業、食品産業（フードビジネス）、情報産業（情報サービス、IT）、卸売業、小売業、流通業、マスコミ、調査研究機関、消費生活アドバイザー、地方公務員、国家公務員、高校教員（商業）等

## 2 学部・学科の特色

### (1)学部の特色

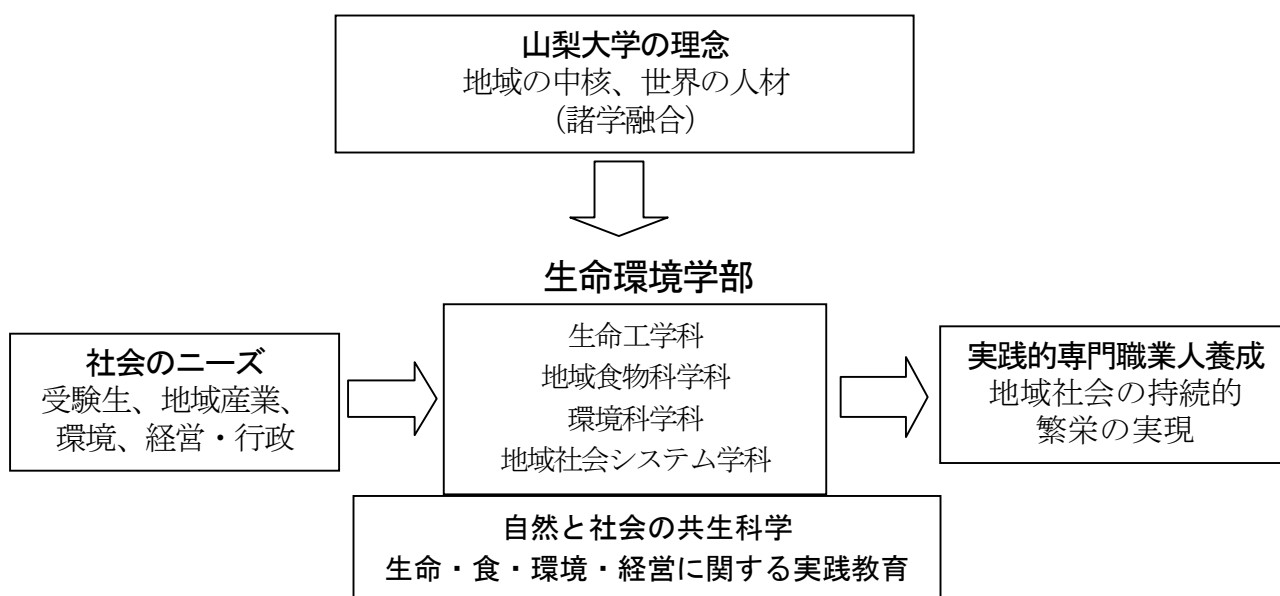
中央教育審議会の答申「我が国の高等教育の将来像」の「新時代における高等教育機関の在り方」の中で、学士課程においては、「社会が複雑かつ急激な変化を遂げる中で、各大学には、幅広い視野から物事をとらえ、高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことができる人材の育成が一層強く期待されている」と述べられている。また、「教育の具体的な方法論としては、様々な個性・特色を持つものに分化していく」ことが期待されている。

本学部は、こうした中央教育審議会答申を踏まえ、学部を構成する4つの学科（生命工学科、地域食物科学科、環境科学科、地域社会システム学科）の共通理念として「自然と社会の共生科学」を掲げる。生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関する広範な知識を統合して、21世紀における地球規模の重要課題を幅広い視野からとらえ、自らの生き方に結び付け、その解決にあたることのできる人材の養成を目的とした教育を行う。学士課程では4学科共通の授業科目を設定し、学問分野の別を超えた普遍的・基礎的な能力の育成に務める。その一方で、各学科の専門基礎教育も重視し、選択した専門を意欲的かつ主体的に学び、生涯を通じての学びにつながる専門性を学生に身に付けさせる。学士課程修了後には多くの卒業生が高度専門職業人としての学修を積むために大学院に進学することを念頭に置き、大学院教育との連続性を重視したカリキュラムとする。具体的には、専門特別科目部門の中に特別講義を設け、より専門的な教育を行うことにより、修士課程への教育にスムーズに移行できるようにする。

本学部のキーワードは、「生命・食・環境・経営」であり、4学科が有機的に連携・機能することと医学部と協働して食と健康に関して教育をすることで多様化・複雑化する課題に対応しうる能力を身に付けさせる。また、共通理念である「自然と社会の共生科学」に基づき、全学科にフィールドワーク（生物資源実習）を課す。それによって、生命科学と環境科学の基礎知識を有し、かつ社会科学の視点から食料の持続的な生産と供給を担う実践的な専門職業人を育成する。

以下に本学部の特色を要約する。

- (ア) 生命・食・環境・経営に関する実践教育を行う。
- (イ) 基礎を重視し、学科間の垣根を低くした学科横断的な学際教育を行う。
- (ウ) 大学院への連続性を重視した基礎教育と専門教育を行う。
- (エ) 地域と連携したフィールドワークを始めとする実験・実習重視の実践的な教育を行う。



## (2) 学科の主な特色

### ア) 生命工学科

生命工学科では、バイオテクノロジーによって解決すべき課題を自らの力で見出し、それらの課題を高い創造性をもって解決できる能力を備えた人材を養成する。

生物資源として微生物、動植物を対象とし、新規生物資源を探索するとともに、それらの多様な構造と機能を生体物質化学、生化学、構造生物学、遺伝子工学等の立場から教育する。そして、食料生産、健康増進、老化防止、再生可能エネルギー、環境保全、及び食の安全に関わる技術を創出するための教育・研究を展開する。さらに、生命工学としての特徴をより鮮明に打ち出すため、植物バイオ、ゲノミクス及びタンパク質構造解析（バイオインフォマティクス）に関する教育を取り入れるとともに、多能性幹細胞（iPS細胞やES細胞）の分化誘導技術やクローン技術に関して生物工学的見地から教育と研究を行う。

### イ) 地域食物科学科

地域食物科学科では、食物科学や農学に関する専門知識・技術を基礎として、果樹・野菜生産や食品製造、資源・環境などの多角的な視点から、人類が直面する食料問題に取り組める人材を養成する。

果樹や野菜等の農産物の栽培、食品製造の科学的理解、有用成分の解析と利用を課題として、地場産業であるワイン産業などを具体的な例として、農学と食品製造を包括的にとらえるための教育を行う。

また、教育モデルとして「ワイン科学特別コース」を設置し、ブドウ栽培・ワイン製造を専門に研究する国内唯一の研究機関である「ワイン科学研究センター」の歴史と実績を活かして、専門的なワイン製造技術を教育しワイン製造業界で活躍できる人材を養成する。

### ウ) 環境科学科

環境科学科では、農作物を始めとする生物資源の持続的な生産を支える土壌、水、大気の保全や生物生産の現場と周囲の生態系との調和を通して、自然と共生した豊かで持続可能な社会の形成に貢献できる人材を養成する。このため、環境にかかわる自然科学の知識を基礎とし、各種のフィールド調査技術、地理情報システムなどの環境情報解析技術、環境影響予測技術、環境保全計画作成などの環境管理技術の修得を目指した実践的な教育を行う。また、自然環境の調査・評価・管理を通じて、安全な生物資源の生産並びに国内外の環境やエネルギー、食料問題等の解決を目指した教育研究を行う。

環境の評価に重点をおいた環境評価系と、環境の管理に資する環境管理系の各科目群に加え、環境調査・分析技能等の習得を目指した各種の実験・実習科目を置き、系統的な環境の理解及び管理能力を涵養する。

### エ) 地域社会システム学科

地域社会システム学科では、生命・食・環境の基礎を理解し、経済、経営、政治、行政、法律、数理などの専門知識を学び、人類が直面している食料問題や環境問題を社会・経済・行政システムとの関わりにおいて理解し、その諸問題に立ち向かい地域社会の繁栄の実現に貢献できる人材を養成する。

共生のあり方とそれにかかわる社会の諸制度について理解するとともに、新事業の展開、新商品の開発・生産・流通・販売という一連のプロセスに関する流通経済、企業経営、地域経済、地域行政等の社会科学を総合的に学ぶ。特に、農業ビジネス、食品ビジネス、環境ビジネスなど、発展が期待されるビジネス分野での事業創造のあり方についても教育・研究を行う。実態社会の諸課題を認識し解決するための方法論としては、社会科学における定性的な方法だけでなく数理的手法も重視し、個々の対象に対する数理的分析の方法と応用についても学ぶ。このような学習過程を通じて、諸現象を総合的かつ客観的に分析し代案を提示する能力を涵養する。

## 3 学部・学科等の名称及び学位の名称

### (1) 学部の名称及び当該名称とする理由

#### 生命環境学部 (Faculty of Life and Environmental Sciences)

本学部は、「生命・食・環境・経営」に関する実践教育により、バイオテクノロジー、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関する広範な知識を統合して、自然との共生が可能な豊かな

な地域社会の実現を目指す。地域から地球規模までの広い視野からとらえ、「自然と社会の共生科学に基づく持続的な食料生産教育」を基本理念とし、地域社会の持続的な繁栄に貢献できる実践的専門職業人の養成を教育の目標としていることから、本学部の名称は「生命環境学部」とする。

## (2) 学科の名称及び当該名称とする理由

### ア) 生命工学科 (Department of Biotechnology)

動植物や微生物などのすべての生命体は、細胞を基本単位として成り立っている。この細胞の構造とその多様な機能を科学的に解明し、明らかになった有用な機能を生物工学的手法(バイオテクノロジー)により応用し、食料、環境、健康、エネルギー等の現代社会が抱える諸問題を解決できる人材の養成を目的として教育を行うことからこの名称を採用した。

### イ) 地域食物科学科 (Department of Local Produce and Food Sciences)

地域の代表的な果樹作物である葡萄、桃、スモモの栽培や育種、果樹や野菜の効率的生産とワイン製造などの実習により修得した食物科学と食品加工の手法を駆使して、人類が直面する地球規模の課題である安全な食品生産や食料問題に取り組める人材の養成を目的として教育を行うことからこの名称を採用した。

### ウ) 環境科学科 (Department of Environmental Sciences)

自然科学的なアプローチによって環境をとらえ、地球や地域レベルの環境問題に対して、総合的な視点から科学的に対処できる能力をもち、自然と社会との共生を目指す人材を育成する。また、人間の生活圏を取り巻く自然環境の維持について科学的理解を深め、地域固有の人間の営み(生産活動や生活)と食料、資源、エネルギーとの関連について教育を行うことからこの名称を採用した。

### エ) 地域社会システム学科 (Department of Regional Social Management)

経済・経営及び社会科学のアプローチから人類が直面している食料、環境等の現代社会が抱える諸問題をとらえ、地域の社会的・経済的・文化的環境の特質や発展方策の解明、及び地域規模・地球規模での環境保全との調和とにより豊かで安定した地域社会の経営に貢献できる人材を育成する。また、地域経済、流通経済、フードマーケティング、人的資源管理、地域行政などの社会科学を軸に、データサイエンスや情報処理等の数理的手法も重視した教育を行うことからこの名称を採用した。

## (3) 学位の名称及び当該名称とする理由

### ア) 生命工学科：学士(生命工学) Bachelor of Biotechnology

バイオサイエンスの知識とバイオテクノロジーの実践により、地球環境と調和のとれた技術を創出し、食料、環境、健康、エネルギー等の現代社会が抱える諸問題を解決できる人材を養成することから、学位名称を「学士(生命工学)」とする。

### イ) 地域食物科学科：学士(農学) Bachelor of Agriculture

食物科学や食品科学に関する実践的な教育・研究を通して食物生産や食品加工に関する専門知識・技術を修得し、資源・環境などの多角的視点から食料問題に取り組める人材を養成することから、学位名称を「学士(農学)」とする。

### ウ) 環境科学科：学士(環境科学) Bachelor of Environmental Sciences

自然科学的なアプローチによって環境をとらえ、地球や地域レベルの環境問題に対して、総合的な視点から科学的に対処できる能力をもち、自然と社会との共生を目指す人材を養成することから、学位名称を「学士(環境科学)」とする。

### エ) 地域社会システム学科：学士(社会科学) Bachelor of Social Sciences

経済・経営及び社会科学のアプローチから人類が直面している食料、環境等の現代社会が抱える諸問題をとらえ、地域の社会的・経済的・文化的環境の特質や発展方策の解明、及び地域規模・地球規模での環境保全との調和とにより豊かで安定した地域社会の持続的な繁栄に貢献できる人材を養成することから、学位名称を「学士(社会科学)」とする。

## 4 教育課程の編成の考え方及び特色

### (1)教育課程編成の基本的な考え方

「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野をもち、地球規模の食料、環境問題などの解決に貢献できる実践的専門職業人を、自然と社会の共生科学に基づき養成する」という本学部の理念を担保するため、自然環境と人間社会との共存・共栄を科学する「自然と社会の共生科学」を軸とする学科横断的な教育課程（カリキュラム）を編成する。

本学部の教育課程には以下のような特色がある。

- (ア) 生命・食・環境・経営を中心とする新しい農学分野における応用力を身に付けるため、基礎を重視し、また学科間の垣根を低くして、学科横断的な教育体制を構築する。
- (イ) 基礎的能力養成を重視し、学科横断的な教育をするため、多くの学部共通科目（17 単位）を必修とする。
- (ウ) 実践的な能力を養成するため、実験・実習などの体験型教育の充実を図る。特に、新しい農学分野を体験的に教育するため、学部共通必修科目としてフィールドワークである「生物資源実習」を実施する。
- (エ) 地域の協力を得て、実習科目を実施するなど、地域との関わりの中で教育することにより、実践的な力量形成を図る。
- (オ) 就業力育成をカリキュラム全体の中で行っていく教育体制とするとともに、地域の協力も得てインターンシップを実施する。
- (カ) グローバル化を見据え英語運用能力の涵養を重視したカリキュラム編成を行う。教養教育のみならず専門教育において、英語運用能力を高めるための実践的教育を実施する。
- (キ) 可能な限り、種々の資格、免許を取得できるよう配慮する。
- (ク) 卒業論文は、研究を重視したものだけでなく、実践を重視したものも推奨する。

### (2)学科横断的な教育

#### ア) 学部共通科目

豊かな地域社会を実現するために必要となる不可欠な資質・能力を涵養し、専門分野の履修内容の現代社会における役割を認識し、他の専門分野との協働を可能とするのに必要な共通の基礎能力の育成を目的として学部共通科目（13 科目、25 単位）を用意する。学部共通科目の多くは必修科目であり、卒業要件は 17 単位とする。

学部共通科目の名称	必修/選択	授業形態
共生科学入門	共通必修	講義
生命環境基礎ゼミ	共通必修	演習
生物資源論	共通必修	講義
生物資源実習	共通必修	実験・実習
情報処理及び演習	共通必修	演習
基礎統計学	共通必修	講義
基礎統計学演習	共通必修	演習
生命科学概論	学科選択必修	講義
食物科学入門	学科選択必修	講義
環境科学入門	学科選択必修	講義
経済経営学入門	学科選択必修	講義
リスクマネジメント概論	共通必修	講義
生命倫理学	学科選択必修	講義
(13 科目)	必修 17 単位	

### イ) 理系共通科目

生命工学科、地域食物科学科、環境科学科の3学科では、専門科目の一部門として理系共通科目(12科目、24単位)をおき、専門科目を履修するための基礎学力を学生に身に付けさせる。

また、食と健康に関して医学部の複数教員が担当する理系共通科目(2科目、4単位)をおき、多様化・複雑化する課題に対応しうる能力を身に付けさせる。

理系共通科目	必修/選択	授業形態
基礎数学	学科毎に指定	講義
基礎数学演習	学科毎に指定	演習
微積分学	学科毎に指定	講義
線形代数学	学科毎に指定	講義
基礎物理学	学科毎に指定	講義
基礎物理学	学科毎に指定	講義
化学概論	学科毎に指定	講義
基礎化学	学科毎に指定	講義
生物学概論	学科毎に指定	講義
基礎生物学	学科毎に指定	講義
生命科学方法論	学科毎に指定	講義
環境健康科学	学科毎に指定	講義
(12科目)		

### ウ) 専門科目の相互乗り入れ科目

各学科は、専門科目の中から4~11科目を他学科に開放し、学科横断的な学識を学生に身に付けさせる。(別添資料4「相互乗り入れ科目一覧」参照)

主な相互乗り入れ科目(開講学科、受講学科)

科目名	生命工学	地域食物	環境科学	地域社会
応用微生物学Ⅰ				
細胞培養工学				
農作物病理学				
発酵工業学				
食品成分分析学				
地球環境科学				
環境影響評価				
社会数理システム				
環境経済政策論				
バイオインフォマティクス				
環境保全学				
科学技術政策論				

### (3) 学科の教育の特色(専門発展科目・専門特別科目)

専門科目として、専門基礎科目部門、専門発展科目部門、専門特別科目部門をおく。専門基礎科目部門には、学部共通科目系列と理系共通科目系列があり、1~2年次に本学部の共通理念にかかわる基礎教育を行うとともに、理系3学科で理系学生に必要な基礎学力を身に付けさせる。学科ごとに学士教育としての体系性をもたせ、専門領域の知識を深めるため、2~3年次では、専門発展科目部門の科目を履修する。



広範で複合的な問題へチャレンジする意欲をもつ学生のために、相互乗り入れ科目を設定し、他の学科の専門科目を履修できる柔軟性のあるカリキュラムとした。4年次では、主に専門特別科目部門の科目を履修し、実践的専門職業人としての実技を修得する卒業研究、また社会的・職業的自立のためのインターンシップ等を行う。また、大学院へ向けた専門知識を身に付けるための特別講義などを履修する。

#### ア) 生命工学科

専門科目の卒業要件は学部開講科目のうちから、それぞれの部門の必修科目も含め専門基礎科目部門から 35 単位以上（学部共通科目 19 単位以上、理系共通科目 16 単位以上）、専門発展科目部門から 30 単位以上、専門特別科目部門から 10 単位以上修得し、かつ合計修得単位を 92 単位以上とする。必修科目の単位数は学部共通科目 19 単位、理系共通科目 16 単位、専門発展科目 30 単位、専門特別科目 10 単位（生命工学卒業論文（6 単位）、科学英語演習 I, II（4 単位））、計 75 単位とする。選択科目は 76 単位開講されている。生命工学科の教育の特色を以下に述べる。

3年次前期までに遺伝科学概論、応用微生物学、生体触媒学、遺伝子工学、生物化学工学、生物有機化学等の専門にかかわる基礎知識を修得させる。3年次後期までに化学実験及び4分野の生物工学実験（生化学、培養工学、微生物学、遺伝子工学）を履修し、実験手技を習得するとともに生命現象を理解する。4年次では、卒業論文のために研究室に配属され、微生物・動植物細胞の機能開発、地球環境修復、食料及び再生可能エネルギーの確保、食品の安全性・機能性の向上、健康増進等の専門分野の研究を行う。さらに、生命工学の先端分野における研究に必要なゲノム及びタンパク質構造解析の教育を推進するため、バイオインフォマティクス、ゲノミクス演習等の科目を開講する。また、最先端技術である i P S 細胞の分化誘導法、及びクローン技術に関する教育・研究を行う。

#### イ) 地域食物科学科

専門科目の卒業要件は学部開講科目のうちから、それぞれの部門の必修科目も含め専門基礎科目部門から 29 単位以上（学部共通科目 17 単位以上、理系共通科目 12 単位以上）、専門発展科目部門から 16 単位以上（ワイン科学特別コースは 34 単位以上）、専門特別科目部門から 12 単位以上（ワイン科学特別コースは 14 単位以上）、かつ合計修得単位を 92 単位以上とする。必修科目は 57 単位（ワイン科学特別コース 77 単位）（学部共通科目 17 単位、理系共通科目 12 単位、専門発展科目 16 単位（ワイン科学特別コースは 34 単位）、専門特別科目 12 単位（ワイン科学特別コースは 14 単位））とする。専門特別科目部門のうちで、地域食物科学卒業論文（6 単位）、科学英語演習 I, II（4 単位）、特別講義 III, IV（2 単位）、さらにワイン科学特別コースはインターンシップ I, II（2 単位）が必修である。選択科目は 95 単位開講されている。地域食物科学科の教育の特色を以下に述べる。

果樹・野菜の生産及びワインを含めた食品全般に関し、原料生産から製造に至る全ての過程を、科学的な側面から幅広い分野について修得させる。地域の農業生産の基盤である葡萄、桃、スモモなどの果樹栽培などを主な題材として、栽培法や植物病理学などの農業生産を学ぶと同時に、食品としての加工や発酵技術を通して、その化学的変化や機能性、安全性を学び、食料生産全般に関する体系的な知識・技術・態度を身に付けさせる。ワイン科学特別コースでは、ワイン製造に携わるための実践的な専門技術者を養成するため、1年時からワイン製造に関する教育を行う。

#### ウ) 環境科学科

専門科目の卒業要件は学部開講科目のうちから、それぞれの部門の必修科目も含め専門基礎科目部門から 31 単位以上（学部共通科目 17 単位以上、理系共通科目 14 単位以上）、専門発展科目部門から 6 単位以上、専門特別科目部門から 12 単位以上、かつ合計修得単位を 92 単位以上とする。必修科目は 47 単位（学部共通科目 17 単位、理系共通科目 14 単位、専門発展科目 6 単位、専門特別科目 10 単位）である。専門特別科目では、環境科学卒業論文（6 単位）、科学英語演習 I, II, III, IVのうち 2 科目（2 単位）が必修である。選択科目は 94 単位開講されている。環境科学科の教育の特色を以下に述べる。

農作物の安全な生産を支える地球レベルや地域レベルの環境問題は、複合的な要因を抱えて顕在化している。このような問題を解決していくためには、総合的な視点から環境問題を理解させるための

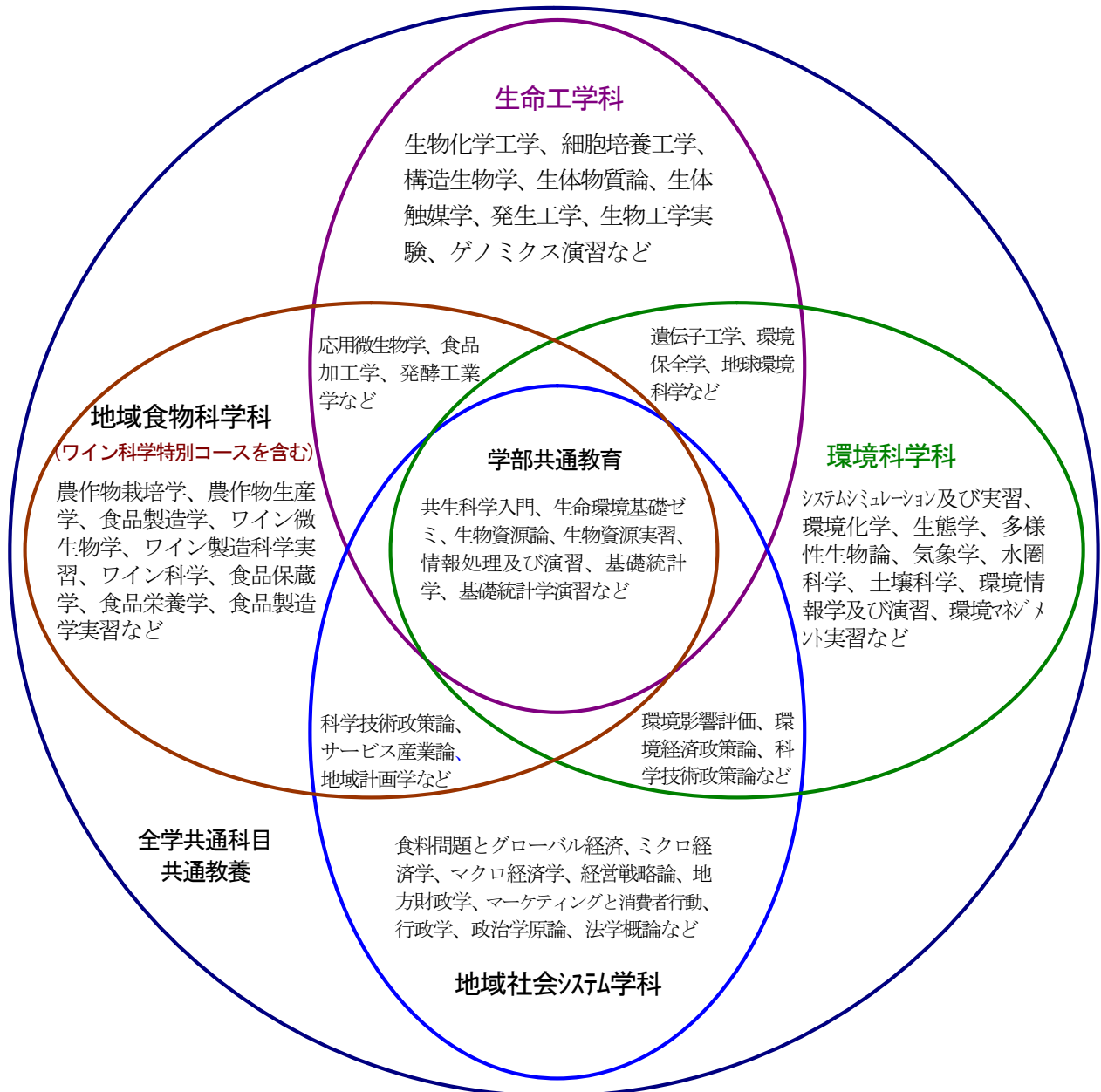
専門科目を履修することが必要である。環境問題の本質を理解した上で、特に自然科学的な観点から環境をとらえ、環境調和型の人間活動の立案・実行を通して持続可能な社会の形成に貢献できる人材を養成するために、自然環境・人間活動・社会システムの相互関係を理解しながら問題解決を目指すための知識・技術・態度を身に付けさせる。さらに、論理的思考ならびにコミュニケーション、プレゼンテーションスキルなど、問題解決に必要な基礎的能力を涵養する。

#### エ) 地域社会システム学科

専門科目の卒業要件は学部開講科目のうちから、それぞれの部門の必修科目も含め専門基礎科目部門(学部共通科目)17単位以上、専門発展科目部門54単位以上、専門特別科目部門から12単位以上、かつ合計修得単位を92単位以上とする。必修科目は37単位(学部共通科目17単位、専門発展科目10単位、専門特別科目10単位)修得しなければならない。専門特別科目では、社会経営学卒業論文(6単位)、社会経営学セミナーⅠ(2単位)、社会経営学演習(2単位)が必修である。選択科目は120単位開講されている。地域社会システム学科の教育の特色を以下に述べる。

グローバル化し複雑化する現代社会において、生命・食・環境の基礎知識を有し実践的なリーダーシップを発揮できる国際社会から地域コミュニティまで幅広く活躍できる人材を養成する。そのために、数理的分析及びモデリングの手法やシミュレーション技術を身に付けさせるための専門科目を履修させる。さらに、リサーチ、プレゼンテーション、論理的思考、コミュニケーションなど、問題解決に必要な基礎的能力を涵養する。

【生命環境学部における各学科の教育体系図】



## 5 教員組織の編成の考え方及び特色

### (1) 教員組織編成の考え方

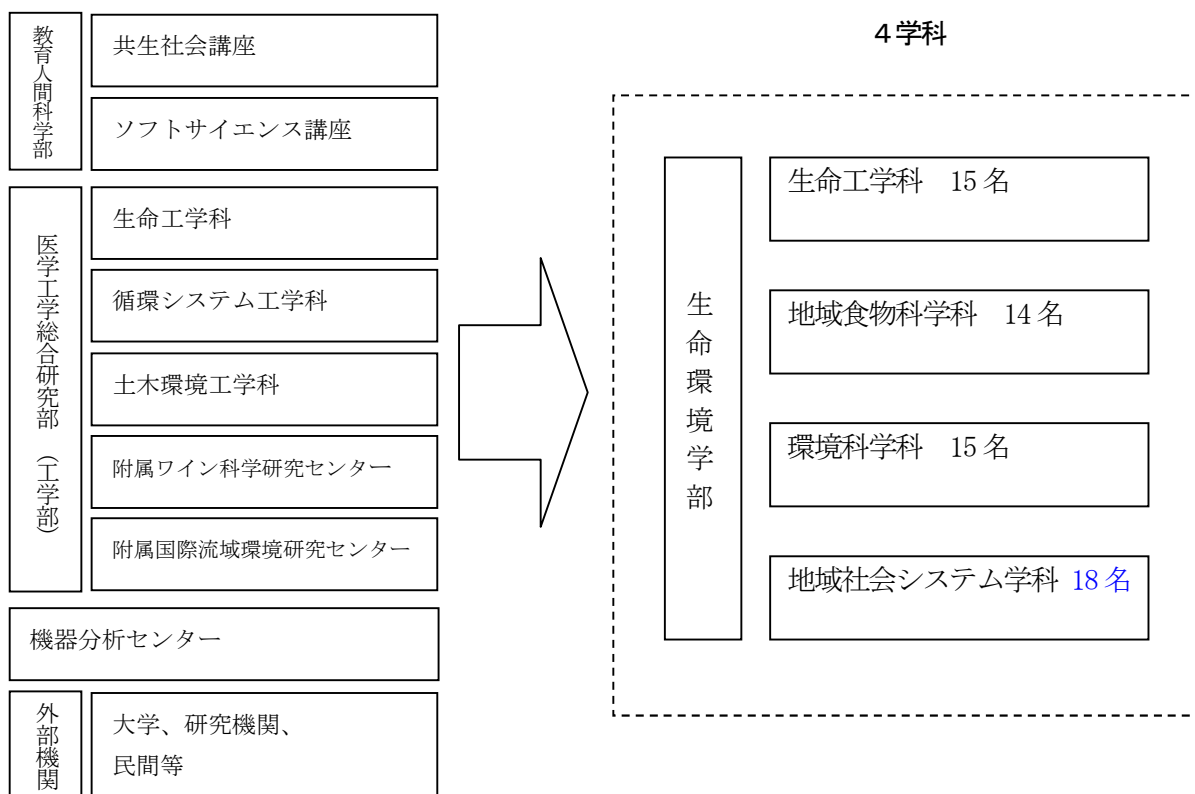
「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野をもつ人材を、自然と社会の共生科学に基づき養成する」という本学部の理念に基づき、地球規模から地域社会、人と自然、食と健康などの広範な課題に対応できる実践的な専門職業人を養成するための教員組織を編成する。具体的には、学内（教育人間科学部・医学工学総合研究部等）から42名、他大学・研究機関等から新たに20名の教員を招聘し、適切な教員配置を行う。

配置される62名の教員（生命工学科15名、地域食物科学科14名、環境科学科15名、地域社会システ

ム学科 18 名) はいずれも専任教員で、当該分野に関する十分な教育研究業績を有している。就任する教員は、全員本学の定年規定上問題はない。

なお、教員の氏名等(様式第3号(その2))の「年齢」欄において、「(高)」と表記される専任教員は学年進行中に定年に達するが、後任の教員は確保されており、問題はない。また、兼任教員及び兼任教員についても問題はない。

(別添資料5「生命環境学部専任教員構成図(移行表)」参照)



## (2) 教員組織編成の特色

本学部教員組織は、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政の各研究分野の教育と研究にあたりながら、豊かな地域社会を実現する上で十分な実績をもつ教員によって編成されている。各教員は、学際的なプロジェクトや科学研究費などによる研究を共同で行ってきた実績を有する。本学部の指導体制における総合的な視点から、科目運営と教育指導を円滑に行える教員組織である。

- (ア) 生命工学科の教員組織は、応用微生物学、微生物生態学、生体物質化学、生化学、遺伝子工学、細胞工学、バイオインフォマティクス、バイオマス、生物化学工学、生物分子科学、再生医療、クローン技術等を専門とする教員で構成する。
- (イ) 地域食物科学科の教員組織は、果樹栽培学、植物生理学、果樹遺伝育種学、食品成分分析学、食品品質評価学、食品製造学、食品栄養学、発酵微生物学、ワイン醸造学など農作物の生産や加工を専門とする教員で構成する。
- (ウ) 環境科学科の教員組織は、人間環境に係わる物理学、化学、生物学、地球科学を専門とする教員、水文学や水質学等に基づく環境管理を専門とする教員、及び持続可能な環境技術の開発などの工学分野を専門とする教員で構成する。
- (エ) 地域社会システム学科の教員組織は、経営学(農業経済学、経営学、財政学等)、法律・行政学(政治学、行政学、地域・都市計画等)、及び数理情報(基礎数学、応用数学、数理科学、OR、データサイエンス等)を専門とする教員で構成する。

## 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### (1)教育方法と履修指導

授業の方法については、講義形式と演習形式と実験・実習形式の3つのパターンを採用する。

講義形式については、学生一人ひとりに対してきめ細かい指導が行き届くように受講学生数は65名以下を原則とする。さらに視聴覚教材や映像メディア等を効果的に活用し、学生に興味と関心を喚起させるような工夫を施す。受講年次については、原則的に学部共通科目、理系共通科目、専門発展科目、専門特別科目の順に履修していくことになる。

#### (別添資料6「生命環境学部履修モデル」参照)

農場でフィールドワークを行う実習形式の授業は、2年次に履修する生物資源実習であり、全学科が履修する学部共通必修科目である。3年次では専門分野の基礎実験・実習を履修し、実践力を養う。4年次では、専門性の高い演習を少人数のゼミ形式で行い、さらに卒業論文や研究レポート等を執筆し、研究発表会等を開催し研究と学習の成果を確認する機会を設ける。インターンシップを積極的に推進し、現場での就業経験を積み、就職意識を高めさせる。

また、各学年、学科ごとに配置されているクラス担任の教員が学生一人ひとりの相談相手となり、効果的な履修指導を実施していく。

### (2)卒業要件

本学部を構成する生命工学科、地域食物科学科、環境科学科、地域社会システム学科の卒業要件は以下の通りである。

	生命工学科	地域食物科学科	環境科学科	地域社会システム学科
全学共通教育科目	32 単位以上	32 単位以上	32 単位以上	32 単位以上
専門科目	92 単位以上	92 単位以上	92 単位以上	92 単位以上
専門基礎科目部門				
学部共通科目	19 単位以上	17 単位以上	17 単位以上	17 単位以上
理系共通科目	16 単位以上	12 単位以上	14 単位以上	—
専門発展科目部門	30 単位以上	16(34) 単位以上	6 単位以上	54 単位以上
専門特別科目部門	10 単位以上	12(14) 単位以上	12 単位以上	12 単位以上
合 計	124 単位以上			

注：地域食物科学科の括弧内はワイン科学特別コース

#### ア) 生命工学科

全学共通教育科目 32 単位以上、専門科目 92 単位以上の合計 124 単位以上を修得する。専門科目は、専門基礎科目部門から 35 単位以上（学部共通科目 19 単位以上、理系共通科目 16 単位以上）、専門発展科目部門から 30 単位以上、専門特別科目部門から 10 単位以上を修得する。

必修科目は、学部共通科目 19 単位、理系共通科目 16 単位、専門発展科目 30 単位、専門特別科目 10 単位の合計 75 単位である。

#### イ) 地域食物科学科

全学共通教育科目 32 単位以上、専門科目 92 単位以上の合計 124 単位以上を修得する。専門科目は、専門基礎科目部門から 29 単位以上（学部共通科目 17 単位以上、理系共通科目 12 単位以上）、専門発展科目部門から 16 単位以上（ワイン科学特別コースは 34 単位以上）、専門特別科目部門から 12 単位以上（ワイン科学特別コースは 14 単位以上）を修得する。必修科目は学部共通科目 17 単位、理系共通科目 12 単位、専門発展科目 16 単位（ワイン科学特別コースは 34 単位）、専門特別科目 12 単位（ワイン科学特別コースは 14 単位）の合計 57 単位（ワイン科学特別コースは合計 77 単位）である。

#### ウ) 環境科学科

全学共通教育科目 32 単位以上、専門科目 92 単位以上の合計 124 単位以上を修得する。専門科目は、

専門基礎科目部門から 31 単位以上（学部共通科目 17 単位以上、理系共通科目 14 単位以上）、専門発展科目部門から 6 単位以上、専門特別科目部門から 12 単位以上を修得する。必修科目は学部共通科目 17 単位、理系共通科目 14 単位、専門発展科目 6 単位、専門特別科目 10 単位の合計 47 単位である。

#### エ) 地域社会システム学科

全学共通教育科目 32 単位以上、専門科目 92 単位以上の合計 124 単位以上を修得する。専門科目は、専門基礎科目部門（学部共通科目）17 単位以上、専門発展科目部門 54 単位（選択必修科目 18 単位中 12 単位）以上、専門特別科目部門から 12 単位以上を修得する。必修科目は学部共通科目 17 単位、専門発展科目 10 単位、専門特別科目 10 単位の合計 37 単位である。

## 7 施設・設備等の整備計画

### (1) 教室等の施設・設備等の整備計画について

教員の研究室や講義室等の施設については、現在使用している甲府キャンパスの既存施設を改修するとともに、新学部としてまとまりのある学部棟を整備する。

また、既存の設備・図書を有効利用するとともに特色ある教育研究を推進するための設備等を新たに整備する。

#### ア) 農場

甲府市が所有する「甲府市農業センター小曲試験圃場」の一部を同市から借用し農場を設置する。

管理棟敷地 (3,646 m<sup>2</sup>) には、管理棟、農機具倉庫を、農地 (22,216 m<sup>2</sup>) には、加温ハウス 2 棟、堆肥置場 1 棟を新設する。残る農地には、4 区画の作付地を設け、山梨県の特産果樹である葡萄（醸造用及び生食用品種）、桃（生食用及び加工用品種）を中心に、山梨県の地域性及びニーズを活かした農産物の作付けを行う。なお、本学部の農場実習の円滑な実施に向けて必要となる設備を新たに整備する。

（別添資料 7 「農場整備計画」参照）

#### イ) 図書館等

附属図書館（延べ床面積 7,512 m<sup>2</sup> 閲覧座席数 552 席）は、平日は 8 時 45 分～20 時、土曜日は 13 時～16 時 30 分、定期試験一週間前から終了日前日までの平日は 21 時までの開館となっており、学生にとって図書貸出・閲覧に支障はない。

図書（約 63 万冊）、学術雑誌（約 14,800 種）、視聴覚資料等（約 4,300 点）を収蔵している。また、情報検索データベースや電子ジャーナルも稼働しており、教育研究活動を支えている。なお、従前より教育人間科学部共生社会講座、ソフトサイエンス講座及び工学部生命工学科、循環システム工学科並びにワイン科学研究センターにおいて関連書籍及び教育教材（ビデオ、CD 等）を整備してきており、今後も引き続き購入し、関連書籍等の充実を図る。

#### ウ) 教育・研究機器の整備計画

教育研究機器については、既設の機器等を活用する。また、「自然と社会との共生科学に基づいた持続的な食料生産・供給カリキュラム開発プロジェクト」で必要な設備を新たに整備するほか、他の設備についても、順次整備を図る。

（別添資料 8 「教育・研究機器等整備計画」参照）

## 8 入学者選抜の概要

### (1) アドミッション・ポリシー

自然と社会の共生科学の視点から、生命・食・環境・経営などの諸課題に取り組み、解決する意欲をもつ人を求めています。

#### ア) 生命工学科

生命科学に興味をもち、バイオサイエンスやバイオテクノロジーの知識・技術を修得し、安全な食

料生産、健康増進、地球環境保全等の多様な課題の解決に貢献する意欲をもつ人を求めています。

#### イ) 地域食物科学科

果樹・野菜の栽培・加工に興味をもち、食物生産に関する知識・技術を学び、農作物の生産・加工・利用等に関する課題を解決し、食産業の発展に貢献する意欲をもつ人を求めています。ワイン科学特別コースでは、ワイン製造に強い意欲をもつ人を求めています。

#### ウ) 環境科学科

環境に関わる諸問題に興味と関心をもち、環境影響評価や環境管理計画の知識・技術を学び、生物資源の持続的な生産を支える地域および地球規模の環境についての科学的な見方を身に付け、人と環境とが共生する社会の形成に貢献する意欲をもつ人を求めています。

#### エ) 地域社会システム学科

経済・経営・行政に強い関心をもち、経済・経営・政策に関する社会科学および数学的な見方や考え方を学び、国際的視野をもって食をはじめとする産業創造等を通して地域社会の持続的な発展に貢献する意欲をもつ人を求めています。

### (2)期待する入学者像

#### ア) 生命工学科

バイオサイエンスを理解し、バイオテクノロジーを身につけるために、高等学校で学ぶ生物を中心とした学問領域に加え、多様な物質をあつかう化学に関する知識が必要です。論理的思考力を養うため、数学の素養も望んでいます。入学試験で課している科目について、十分な学力を有していることを期待しています。

#### イ) 地域食物科学科

食物生産あるいはワイン製造に関する課題を解決するためには、原料の生産・加工・利用等を含む総合的な知識が必要です。したがって、高等学校で学ぶ化学・生物などの理科科目を十分に理解できていることを望んでいます。また、自らの考えを論理的に伝える基礎として、高等学校で学ぶ国語・英語を身につけておくことを期待しています。

#### ウ) 環境科学科

高等学校で履修した物理、化学、生物、地学といった理系科目に加え、自分の言葉で他者とコミュニケーションをとるための国語や外国語が修得できていることを求めます。さらに、地理歴史、公民といった社会系科目に対する理解と同時に、環境に対する関心や興味を持っていることを望んでいます。

#### エ) 地域社会システム学科

高等学校で学ぶ国語、地理歴史、公民、数学、外国語の基礎的内容を十分に理解していることが必要です。特に、公民（現代社会、政治・経済、倫理）の学習意欲が高く、普段から新聞や書籍を読み、政治・経済の動向や現代社会の問題に強い関心を持っていることを望んでいます。

### (3)入学者選抜の方法

入学定員は、生命工学科 35 名、地域食物科学科 30 名、環境科学科 30 名、地域社会システム学科 35 名の合計 130 名である。選抜方法は一般選抜(前期日程・後期日程)で行う。いずれの入試においても、各学科単位で募集する。

#### ア) 試験科目等

前期日程では、全ての学科でセンター試験と個別学力検査を課す。

個別学力試験の科目は、

- ①生命工学科では、数学Ⅱ・数学B、数学Ⅲ・数学Cに加え、化学Ⅰ・化学Ⅱ、生物Ⅰ・生物Ⅱから1科目
- ②地域食物科学科（ワイン科学特別コース含む）では、数学Ⅱ・数学Bに加え、化学Ⅰ・化学Ⅱ、生物Ⅰ・生物Ⅱから1科目
- ③環境科学科では、数学Ⅱ・数学Bに加え、物理Ⅰ・物理Ⅱ、化学Ⅰ・化学Ⅱ、生物Ⅰ・生物Ⅱから

2科目

④地域社会システム学科では、英語Ⅱ（聴解力テストを含まない）・リーディング・ライティングに加え、国語総合・現代文・古典、数学Ⅱ・数学Bから1科目

後期日程では、ワイン科学特別コースを除く各学科ではセンター試験を課し、面接試験を行う。

## 9 資格取得

### ア) 生命工学科

高等学校教諭普通免許状（理科）取得可能（教職関連科目の履修が必要）

技術士（生物工学）、衛生管理者（国家）、作業環境測定士（国家）（いずれも、受験資格等取得可能）

### イ) 地域食物科学科

高等学校教諭普通免許状（農業）取得可能（教職関連科目の履修が必要）

技術士（農業）、山梨大学ワイン科学士（ワイン科学特別コース）（いずれも、受験資格等取得可能）

### ウ) 環境科学科

高等学校教諭普通免許状（理科）取得可能（教職関連科目の履修が必要）

技術士（環境部門）、公害防止管理者（水質）、環境カウンセラーほか（いずれも、受験資格等取得可能）

### エ) 地域社会システム学科

高等学校教諭普通免許状（商業）取得可能（教職関連科目の履修が必要）

ファイナンシャルプランナー（民間）、証券アナリスト（民間）、宅地建物取引主任（国家）、中小企業診断士（国家）、販売士（民間）、消費生活アドバイザー（民間）（いずれも、受験資格等取得可能）

## 10 実習の具体的計画

### (1) 農場実習

#### ア) 実習先

甲府市が所有する「甲府市農業センター小曲試験圃場」の一部を同市から借用し、これを農場として整備し、フィールドワークである生物資源実習等を行う。

#### イ) 授業科目ごとの受入れ人数

学部共通科目「生物資源実習」：計 130 名（4 学科別々の日程で行う。）

地域食物科学科専門科目「ブドウ栽培学実習」：地域食物科学科 6 名

#### ウ) 移動方法

大学所有のマイクロバス（専任の職員が運転する）により大学⇄農場を移動する。

#### エ) 実習水準の確保及び準備状況

現在、ワイン科学研究センター附設育種試験地（2.4ヘクタール）において、ワイン科学特別教育プログラムの学生に対し、葡萄栽培実習を行っている。県内及び海外ワイナリーで葡萄栽培の経験を有する技術職員及びワイン科学研究センター教員により指導を行っており、現在でも実習の水準は極めて高い。また、果樹栽培及び野菜栽培の専門知識・技術を有する教員・技術職員を新たに配置することで、多人数での実習も高水準に行うことが可能である。

#### オ) 指導目標

生命環境学部に入学者は、農作業経験のある者やない者、就農意識がある者、あるいは農業に全く興味の無い者など多様であると考えられる。そこで、農場実習では、農場での体験を通じて、農業技術や農業実習の現場で直面した課題を正しく理解させることを目標とする。

#### カ) 到達目標

農場で農産物の育成について体験的に学ぶことで、農業に関する基礎的な知識・技術・態度を修得させ、農業についての興味及び関心を高める。さらに農業実習の現場で直面した問題を解決する能力を伸



ばし、農業の発展意欲を高めさせる。

(目標内容)

- ①基本的なコミュニケーション能力を身につける
- ②農業に関する基礎知識と技術を修得する
- ③農業についての興味及び関心を高める
- ④農業を体験的に学習し、人間生活と農業のかかわり合いを理解する
- ⑤農業の生産活動に参加し、その意義を考える
- ⑥農業の実習現場で直面した問題を認識し、その問題を解決する能力を身に付ける

#### キ) 教員の配置

地域食物科学科の教員と農場専属技術職員が一貫した指導を行う。

#### ク) 評価体制

学生がどの程度到達目標を達成したかを知るために、次の方法により評価を行う。

目標達成度などを学生各自が実習開始前と実習終了後に自己評価するとともに、教員が試問し、到達度を評価する。

(自己評価内容)

- ①農業基礎知識
  - ・山梨県の特産農産物に関する基礎知識が身に付いている
  - ・農作業に関する基礎知識が身に付いている
  - ・農業及び農村の現実の姿及びそこに潜む問題点が把握できている
- ②農業実習知識
  - ・山梨県の特産農産物の栽培管理に関する基礎知識・技能が身に付いている
  - ・農機具に関する基礎知識・技能が身に付いている
  - ・主要病害虫及びその防除対策に関する基礎知識・技能が身に付いている
  - ・山梨県の特産農産物の加工に関する基礎知識・技能が身に付いている
- ③社会性
  - ・農業の目的を理解した計画的な行動が身に付いている
  - ・周囲と協調して農作業するためのコミュニケーション力が身に付いている

(評価基準)

- A 基礎知識が理解でき、技能が身に付いた
- B だいたい基礎知識が理解でき、技能が身に付いた
- C あまりよく基礎知識が理解できておらず、技能が身に付いていない

#### ケ) 単位認定方法

単位認定は、下記の評価項目とその評価比率で算出し、60点以上を合格とする

- ①出席 (60%) ②実習に取り組む態度、試問 (20%) ③レポート (20%)

### (2)企業実習(社会経営学実習Ⅰ)

#### ア) 実習先

食品系：サントリー、サッポロビール、マンズワイン、シャトレーゼ

流通系：オギノ、いちやまマート

マスコミ系：NHK山梨、YBS、UTY

金融系：日銀甲府、山梨中央銀行、商工中金

行政系：山梨県庁、甲府市役所

#### イ) 授業科目ごとの受入れ人数

地域社会システム学科 35名

#### ウ) 移動方法

大学所有のマイクロバスによる移動もしくは公共交通機関の利用

## エ) 実習水準の確保及び準備状況

企業訪問前の事前調査で当該企業の概要（組織構成、商品構成、主力商品市場内でのポジション、今年の業績動向、経営上の課題等）について綿密な情報収集について指導を行い、事前報告を義務づける。また、見学時調査のポイント、質問概要等の準備についても、質問票、ヒアリング・シートの作成を義務づける。当該企業に対しては、事前に調査課題、質問内容等を周知し、対応を願う。

## オ) 指導目標

地域社会システム学科に入学する学生は、実社会での就業体験もなく、企業経営や経営環境の実態について十分な知識を有していない。そこで、企業実習では、企業の生産現場、販売現場を直接観察し、当該企業の担当者との質疑応答によって経済学、経営学等の社会科学を学ぶ意義を確認させる。

## カ) 到達目標

企業経営の現場での見学、実務家との質疑、事前の産業研究、企業研究を通じて以下の目標を実現する。

(目標内容)

- ①事前の産業調査によって、当該企業が置かれている中長期的な産業動向を理解する
- ②現場での見学、実務家との質疑応答等を通じて定性情報の取得方法を体得する
- ③定性情報と定量情報を活用したケース方式の企業経営分析方法を体得する
- ④企業経営における課題、問題点の発生メカニズムを理解する
- ⑤当該市場での競争優位の形成の在り方について理解する
- ⑥社会科学の各分野での理論研究、実務的学習への意欲を高める

## キ) 教員の配置

地域社会システム学科の教員が一貫した指導を行う

## ク) 評価体制

学生が企業実習において、どの程度の新たな知見を得ることができたか。また、当該実習を通じて学科内での学習・研究活動への意欲を高めたかを自己評価させると同時に、調査レポートの作成と発表、ディスカッションを通じて以下の観点から評価を行う。

(評価対象内容)

- ①企業・地方公共体等の経営に影響を与える外的環境変化を理解できたか
- ②企業・地方公共体等の経営の実態を体系的に理解できたか
- ③企業・地方公共体等の経営における課題や問題点の発生メカニズムを理解できたか
- ④実習前に比較して、企業・地方公共体等の経営の理解、分析に有用な社会科学分野に対する学習意欲が高まったか。

(評価基準)

- A 積極的に取り組み、十分な知見と意欲を得た
- B 平均的に取り組み、平均的な知見と意欲を得た
- C 取り組みも不十分で、満足できる知見と意欲を得ていない

## ケ) 単位認定方法

出席：40点

事前学習・現場調査に取り組む態度：20点

実習調査報告レポート：40点

## (3) インターンシップ

教育の一環として、職業観を涵養するため企業・官公庁で一定の期間、就業体験を行う。インターンシップを行うことにより、将来のキャリア形成に向けた学習意欲の推進や学習計画の見直しを図る契機とすることができる。また、就業体験をすることで、専門分野の勉強の大切さのみならず、人間関係を通じた自己形成の重要性も学ぶことが可能である。さらに、企業・官公庁が求める人材についても知る機会となり、就職

活動に向けて何をすることが重要であるのかを知ることができる利点もある。インターンシップは、職業理解が深まるだけでなく、座学と実務の違いや大学での学びと実務の関連性がつかめ、さらにビジネスマナーの必要性が理解できるなど、学生個々の成長を促す重要な機会である。本学部では予め事前指導を行い、受入可能な企業・官公庁とのマッチングを経た後、夏期休暇を利用して受入企業・官公庁にて就業体験をする。インターンシップの実施に際しては、本学のキャリアセンターを活用し、以下のような要領で行う。

#### ①キャリアセンター1 day インターンシップ等

対象及び形態：学部1・2年次生、1 day インターンシップ及び正課とならないインターンシップ  
実施担当：キャリアセンター

実施時期：主に7月から9月

実施内容：3年次に行う正課インターンシップを円滑に行うための事前実習。キャリア教育の一環であり、事前指導(マナー講習)、事後指導(終了アンケート又はグループワークによる指導)を行う。

#### 【実施形式】

- ・ 1 day 型：1日での就業体験。広く浅く職場体験の中で3年次に行う正課インターンシップ事前実習を行う。
- ・ その他正課とならないタイプ：実施の期間が正課で定めた期間に満たない実習

#### ②正課のインターンシップ

対象及び形態：学部3年次生、正課インターンシップとして単位認定となる。

実施担当：本学部(学部教務事務)

実施時期：主に7月から9月

実施内容：実施期間(最低5日間以上)、プログラム内容、実施時期に要件があり、終了後に受入機関より提出いただく評価書並びに学生が提出する結果報告書、報告会での発表等により単位認定。

1. 年度初めにガイダンスを行い、登録・調査書配布
2. 所定の期日までに、登録・調査書記入、提出
3. マッチング会に出席し、希望企業・官公庁と面談
4. 受入先決定
5. 就業体験(主に夏期休暇中に1週間以上)
6. 総括、レポート作成・提出、成果発表会の開催

#### 【実施形式】

- ・ 就業体験型：1～2週間の中で、簡単な研修プログラムに沿って実習を行う。
- ・ 課題応募型：1～2週間の中で、受入側が簡単な課題を提示し、学生が期間を通じその解決方法を提案する。

#### 【受入機関】

甲府地方法務局、山梨県環境科学研究所、山梨県立富士湧水の里水族館、甲府市上下水道局、山梨県地球温暖化防止活動推進センターNPOフィールド 21、富士食品工業株式会社、シャトー酒折ワイナリー((株)木下商事)、敷島醸造株式会社、植原葡萄研究所、佐藤農園、(株)ケイコンサルタント、(株)YSKe-com、(株)甲府情報システム、フルーツパーク富士屋ホテル(富士屋ホテル株式会社)、NEXCO 中日本(中日本高速道路株式会社)名古屋支社、(株)いちやまマート、(株)エフエム甲府、(株)山交百貨店、(株)イトーヨーカ堂甲府昭和店、(株)テレビ山梨、など。

## 1 1 管理運営

### (1)教授会の設置

国立大学法人山梨大学基本規則に基づき、本学部に教授会を設置する。

### (2)教授会の構成員

本学部の専任教授、本学部の授業を担当する医学工学総合研究部の専任教授

### (3)審議事項

- ① 規則の制定又は改廃に関する重要な事項
- ② 組織の設置又は改廃に関する事項
- ③ 予算に関する重要な事項
- ④ 教員の人事に関する事項
- ⑤ 学部長候補者の選考に関する事項
- ⑥ 教育課程の編成に関する事項
- ⑦ 学生の入学、休学、転学、退学及び卒業に関する事項並びに学位の授与に関する事項
- ⑧ 学生の厚生補導及びその身分に関する重要な事項
- ⑨ 教育研究活動等の状況について、自ら行う点検及び評価に関する事項
- ⑩ その他学部運営に関する重要な事項

### (4)事務

教授会の事務は、新たに設置する生命環境学部支援課において処理する。

## 1 2 自己点検・評価

### (1)実施体制

本学では「山梨大学自己点検・評価等規程」に基づき、「大学評価本部」及び「評価室」を設置した上で、教育活動、研究活動及び社会貢献活動等の状況についての自己点検・評価等を実施している。各学部等では、大学が行う自己点検・評価の実施にあわせて、組織単位で自己点検・評価を実施している。本学部においても同様に自己点検・評価に関する組織を中心に実施する。

### (2)実施方法及び結果の活用・公表

「山梨大学自己点検・評価基本方針」を踏まえて毎年度策定される「自己点検・評価実施方法等」に基づき、各学部等は、自ら設定した目標・計画の取組内容、実施状況を点検・評価する。また、自己点検・評価の結果については、法人評価・認証評価等の第三者評価を受ける際にも活用しており、結果を学内外に公表するとともに学内にフィードバックし、今後の教育研究活動に役立てている。

このほか、教員の個人評価や学生による授業評価を実施することにより、教員個人の諸活動や教育方法等の検証の機会も設けている。

本学部においても、全学の実施方法等に沿い取り組むこととし、学部独自に実施要領を定め自己点検・評価を実施する。実施方法としては、各学科の代表教員で構成する生命環境学部自己点検・評価委員会（地域社会システム学科は、他の3学科と異なる唯一の文系学科で特有の課題等に対して複数の視点から確認する必要があるため2名の委員を選出、その他の学科各1名）が中心となって実施することとし、大学評価本部が実施する自己点検・評価をはじめ、第三者機関等の外部評価への対応及び教員等の個人評価を実施する。その上で、評価結果を検証し、所要の対応を図るほか、当該結果を踏まえ次年度以降の計画を策定することとし、自己点検・評価のPDCAサイクルを確立する。これらの結果等については、大学評価本部に報告を行い公表する。

### 1.3 情報の提供

本学では、大学ホームページ及び各種の印刷物により、大学情報の積極的な提供を行っている。

大学ホームページからは、大学プロフィール、学部・大学院・附属施設情報、入試情報、社会貢献・産学連携情報などについてホームページ等で詳細に情報発信している。本学部についてもホームページ等で積極的に情報を公表する。

なお、学校教育法施行規則第172条の2に掲げる教育研究活動等の状況について、ホームページで公表している。〔ホームページ>大学概要>教育情報の公表〕

([http://www.yamanashi.ac.jp/modules/profile/index.php?content\\_id=121](http://www.yamanashi.ac.jp/modules/profile/index.php?content_id=121))

(別添資料9「教育研究活動等の状況に関する情報の公表内容」参照)

また、受験生の確保を目的として、関係教員による高校訪問、説明会、オープンキャンパス、一日体験入学等で受験生、保護者、高等学校等の関係者に積極的に広報活動を行い、本学部の教育内容について周知する。さらに、就職先の確保を目的として、教員の企業訪問、ダイレクトメール等により、公的機関、企業等に本学部の教育内容、養成する人材像を理解してもらう広報活動を積極的に行う。

### 1.4 授業内容方法の改善を図るための組織的な取り組み

本学では、①個々の教員の授業内容・方法や学習支援方法の改善を支援すること。②学部間、教員間、教員・職員・学生間で情報を共有し教育改善に向けた課題解決方策を検討することを目的として、大学教育研究開発センター教育力向上開発部門の全学FDプロジェクト委員会が、全学FD研修会の企画・運営を行っている。また、同センターの教育活動・評価部門の教育評価・フィードバックプロジェクト委員会が、学生による授業評価アンケートの企画・実施・分析を行っている。さらに、同センターの全学共通教育部門の全学共通教育科目検討委員会及び科目群ごとに組織される各部会が全学共通教育の内容・方法の改善について検討を行っている。

全学FD研修会については毎回の参加者にアンケートを行い、その結果を次の研修会の企画に活かしている。また、学生の授業評価アンケートを実施しており、学生の授業目標達成度を把握するとともに、個々の教員あるいは教員集団が授業改善の具体的なヒントを把握する一助としている。さらに、この授業評価アンケート等のデータを経年的に分析することで、本学のFDに関するさまざまな取り組みの効果を検証している。

本学部では、学部が目指す「生命・食・環境・経営」に関する実践教育を実現するため、これらの全学的なFDに関する取り組みに本学部教員も積極的に参画し、これを通じ全学FDが持っている様々な情報等を収集して学部の取組みに反映させ、さらに各学科の取組みに反映させる。また、本学部として組織的に授業方法等の改善に取り組むため、以下の(1)のとおり、学部としてのFDの実施方策等を策定し、これに基づき実施する。実施にあたっては、各学科の特性を活かすため、以下の(2)に示す各学科の取組みに即して展開することを計画している。

このような一連の取り組みにより、学部が目指す「生命・食・環境・経営」に関する実践教育を実現するための、授業の内容及び方法の改善を図ることが可能となる。

#### (1)学部の取組（実施組織及び実施方法等）

ア) 生命環境学部のFDは、各学科の代表教員で構成する「生命環境学部FD委員会」が中心となって実施する。

イ) 生命環境学部FD委員会の構成員は、理系3学科(生命工学科、地域食物科学科、環境科学科)は各学科1名とし、地域社会システム学科は2名で構成する。さらに、医学部から1名を加える。

(地域社会システム学科は、他の3学科と異なる唯一の文系学科であり、特有の課題等に対して複数の視点から精査する必要があるため、2名とする。)

ウ) 本学部FD委員会では、FDの年度計画の策定、実施、レビューを一貫して行うこととし、次により展開する。

- ① 生命環境学部における人材育成目標、その目標を達成するための取り組みを明確にして、本学部教職員が共有できるようにする。
- ② 国立教育政策研究所高等教育研究部（FDer 研究会）が作成した、FDプログラムの体系表等を活用することとし、学部や各学科FD活動について分析を行い、それをもとに課題と今後の目標、方法・手段の設定を行う。
- ③ 上記②に沿って、研修やワークショップ、コンサルテーションを、学内外のリソースパーソンを活用しながら実施する。

## (2)各学科の取組（実施方法等）

### ア) 生命工学科の取組

学科に即したFDを実施するために、学科担当者によるFDの年度計画の策定、実施、レビューを一貫して行い、教育の改善・質保証に繋げていく。

- ① 新学科のスタートに合わせ、新学科における人材育成目標、その目標を達成するためのFDの目的を明文化し、教職員が共有できるようにする。
- ② 学科FD会議を定期的に行い、学生とのコミュニケーション法、プレゼンテーションツールの効果的利用法、話し方、宿題やレポートなどの課題内容などについて話し合い、それらの一層の向上を図る。
- ③ 分野の近い教員は、授業の内容、進め方について情報を共有し、意見交換を行うことで、より良い授業体系への構築を図っていく。
- ④ 学科FD担当者は、教員の自主的なFD活動について個別相談を実施する。

### イ) 地域食物科学科の取組

学科に即したFDを実施するために、農業実習に関係する課題を中心に展開することとし、教育の改善・質保証に繋げていく。

- ① 学科FD会議を定期的に行い、生産者や技術者からのフィードバックによる講義の改善を行う。講義は基本的に教員から学生（将来の生産者）への一方通行である。教員－生産者の意思疎通を深め、その結果、講義内容を改善する方向に導くため、山梨県で果樹あるいは野菜栽培を生業としている生産者や食品会社の技術者等を講師に迎え、今、何が問題であるのか、現場の課題を提示願う。その課題をもとに、時代の農業や食品産業を担う学生に講義を通じて、今、何を伝えるべきか、教員間で話し合い、講義内容および講義方法の改善を図る。
- ② 卒業生へのアンケートをネット上で実施する。教員の評価には、授業の満足度、授業レベル、将来における授業の有用性、改善が望まれる点を「記述式（たとえば70～100字）」で実施し、良かった授業、良くなかった授業とその理由を回収する。結果は教員にフィードバックする。

### ウ) 環境科学科の取組

環境科学科の教育の質、教員の資質の継続的向上を保証するために、以下のように学科のFD体制を整備する。

- ① 学科FD会議を定期的に行い、下記により教員の資質向上を図る。
  - ・ 大学及び学部のFD集会や学外の教員資質向上に関わる講習会等に参加した教員が他の教員に話題提供し、ディスカッションにより参加者の資質向上を図る。
  - ・ 科目間の連携を深めるために、関連科目の担当教員間で担当科目教育の点検・評価を行うことを通じて、教員の資質向上を図る。あわせて、各教員の判断だけでカリキュラム全体の構成が損なわれないようにする。
- ② 在学生や卒業生への授業アンケート結果を分析し、教育内容や方法について、教員の資質向上を図る。

### エ) 地域社会システム学科の取組

人文・社会科学系の学科の学習内容と教育内容は、自然科学系とは異なり、FDのテーマが異なる。自然科学系では、技術革新により教育内容が絶えず変化するために常に先端科学技術を教員が学習す

る必要がある。一方、人文・社会科学系では、理論は大きく変化しないが、学生にわかりやすい適切な現実の事例を挙げて教育する必要がある。たとえば東日本大震災における行政の対応など、身近な社会問題をどのような理論や視点から分析したらよいかなど、教育方法の工夫が主要なテーマとなる。また、学生の卒論指導において、学生の意欲を高めるためのゼミの運営方法なども主要なテーマとなる。このため、上記を前提として、以下のように取り組むこととする。

① 経営、経済、法律、政治の4分野の全教員により、半期終了後に「勉強会」を開催する。

ここでは、半年間での講義を通じて、分野間での講義内容の調整の必要性、講義の方法論での創意工夫の共有、学生の理解度、関心度等の共有を行い、翌年度以降での講義の質的向上を図る。同時に、翌期の学生ガイダンスでの指導に反映する。

② 経営、経済、法律、政治の各分野でも、独自にそれぞれ半期終了後に「勉強会」を開催する。

## 1.5 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### (1) 教育課程内の取組みについて

本学では、全学共通教育科目に「大学基礎・キャリア形成科目」を設定して、社会で豊富な経験を有する方々の経験から豊かな人間性と倫理性の醸成を図る「人間形成論」、さまざまな職業観や人生観を学んで自身の未来を考える「キャリア形成論」、自分自身を知り働く意義や職業への理解を深める「職業選択支援プログラム」、自己分析を基本に読解力と表現力を養う「キャリア形成のための作文演習」を開講している。

これらの科目は1～2年次生の「選択必須」に位置付けられ、各学部の要求単位により1～2科目を履修することとなっており、本学部でも同様に履修する。

本学部の専門科目では、全学科で「インターンシップⅠ・Ⅱ」を開講するとともに、地域社会システム学科では「社会経営学実習Ⅰ」を開講し、それぞれの専門に応じた教育・指導を実施する。

これら一連の科目に共通して、一方通行の座学中心型ではなく、レポート作成やグループワークを通じてその理解を深めるよう工夫する。

### (2) 教育課程外の取組みについて

本学では、キャリアセンターを中心に、年間を通じたガイダンスの実施や講座などを開講している。

具体的には、一般企業への就職希望者向けに自己分析や適性分析から企業動向解説、合同企業説明会などを、教員希望者向けに一次・二次試験対策講座を実施しているほか、公務員希望者向けには年間を通じた講座を開講している。いずれのガイダンスや講座も、単にテクニックを学ぶことにとどまらず、その本質や背景に触れるなど学生の自立を促す工夫をしていることから、本学部においてもこれらの活動に加わり、社会的及び職業的自立を支援する。また、首都圏で開催される就職イベントや教員採用に向けた説明会に無料バスを提供するほか、学生のニーズに即した活動や各学科の特徴に応じた企業との情報交換を進めるなど、職業人としての自立支援を行う。

### (3) 適切な体制の整備について

キャリアセンターを設置して、キャリア教育を担当する社会人教員を配置し、社会の実態と教育の連関を図っているほか、キャリアアドバイザー(常勤2名、非常勤2名)を配置して学生個々の相談に応じている。

また、山梨県が実施しているジョブカフェ事業から、本学に定期的に派遣されるキャリアアドバイザーからも学生に対する指導が実施されている。

さらに、インターンシップコーディネーターを配置して、企業と大学との接点を明確にしてインターンシップの実効性を高める工夫をしている。インターンシップについては、キャリアセンターの「進路支援委員会」の下に「インターンシップ部会」を設置して、キャリアセンター・各学部の教員と事務職員が連携して実施していることから、本学部でもこれを活用する。

本学部では、学科ごとに就職指導担当教員を置き、一元的に情報提供しながら、学生の動向把握や進路指導を、キャリアセンターと連携して実施する。本学部の就職指導担当教員及びキャリアセンターは、企業の

求める人材像や学生の動向を共通認識するために密な情報交換や委員会を開催するほか、必要に応じて教育関係の委員会に情報をフィードバックするなど教育体制と連携した社会化教育を視野に活動することとしている。



## 別添資料（目次）

- 別添資料 1 要望書
- 別添資料 2 新学部に移行する課程・学科の進路状況
- 別添資料 3 山梨大学生命環境学部（仮称）設置に関するアンケート調査結果報告書
- 別添資料 4 相互乗り入れ科目一覧
- 別添資料 5 生命環境学部専任教員構成図（移行表）
- 別添資料 6 生命環境学部履修モデル
- 別添資料 7 農場整備計画
- 別添資料 8 教育・研究機器等整備計画
- 別添資料 9 教育研究活動等の状況に関する情報の公表内容
- 別添資料 10 国立大学法人山梨大学就業規則



## 別添資料 1

### 要 望 書

1. 山梨県	1
2. 山梨県農業会議	3
3. J Aグループ山梨	5
4. 山梨県商工会議所連合会	9
5. 株式会社山梨中央銀行	11



# 要 望 書

国立大学法人 山梨大学  
学 長 前田 秀一郎 殿

国立大学法人山梨大学に農学系新学部を早期に設置いただけますよう次のとおり要望いたします。

山梨大学におかれましては、これまでも地域の産業・文化・教育・医療の中核を担うことのできる人材を育成し、各分野で活躍する優秀な人材を県内外に輩出されるとともに、積極的な地域貢献活動により、地域の高等教育機関の中核としての使命を果たしていただいております。

また、貴学は、行政や県内企業などとの産学官連携事業にも意欲的に取り組まれており、本県の発展になくはないものと、県民の期待もますます高まっております。

さて、本県では、落葉果樹を中心に、野菜、畜産、水稻、花きなど、気候、風土に適した様々な農業が展開され、農地の約6割が中山間地域にあるという不利な条件にもかかわらず、全国でも有数の高い土地生産性を誇っております。中でも、ぶどう、もも、すももは、30年以上にわたり生産量日本一を継続しており、今後とも本県が果樹産地として発展していくためには、産地間競争に打ち勝てるオリジナル品種の短期間育成、輸出促進につながる果実の長期貯蔵技術の確立などが必要になるとともに、経営安定を図るための省力・低コスト化技術や温暖化に伴う生理障害、病害虫などを防ぐ新たな技術の開発など、様々な課題解決が求められております。

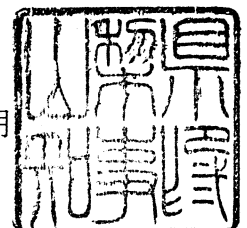
また、本県はワイン醸造においても、先人たちの並々ならぬ努力により国内の約4割のワインを生産する日本一のワイン王国となっております。近年は、醸造技術も向上し、より高品質のワインづくりが行われておりますが、更なる高品質のワインを市場に供給し、競争力を確保していくためには、醸造用ぶどうの品質向上から醸造までの一貫した技術の向上が求められています。

このような状況の中で、貴学に農学系新学部が設置され、地域に密着した技術者の育成や、より高度な試験研究が行われますことは、これら本県が直面する課題が迅速に解決されるとともに、本県への関連知的財産の優先的使用や技術移転が促進され、県農業関係研究機関、農業生産法人や農家、さらにはワイン生産者など、関係者の技術力や生産力の向上と本県の特色ある農業の発展につながるものと大いに期待しております。

つきましては、本県唯一の国立大学である貴学への農学系新学部の設置を早期に実現され、これまで以上に地域に貢献をいただけますよう特段のご配慮をお願いします。

平成22年9月14日

山梨県知事 横内 正明





抜粋版

# やまなし農業ルネサンス大綱

「未来につながる はつらつとした山梨農業」

平成19年12月

山 梨 県

# やまなし農業ルネサンス大綱の概要

## はじめに

### 1 大綱策定の趣旨

山梨農業の再生に向けて、本県の恵まれた自然や大消費地に近い有利性を活かした取組を進めるため本大綱を策定

### 2 大綱の性格

本県農業の将来像をはじめ、今後、農業分野で重点的に取り組む施策の内容、具体的な数値目標等を示した農業振興の基本指針

### 3 大綱の期間

平成19年度～平成28年度の10年間（工程表は平成19年度～平成22年度の4年間）

### 4 大綱の推進体制

本大綱が目指す将来像を実現するため、農業者はもとより、消費者や市町村、JA等関係団体との緊密な連携と協調の下、一体的な取組を推進

### 5 大綱の進行管理

本大綱に位置付けられた数値目標や施策の進捗状況等について毎年度公表

## 本県農業・農村の現状

### 1 本県の立地・気象条件

大消費地から150km圏内に位置し、農産物の流通・販売や観光農業に恵まれた条件  
昼夜や夏冬の気温較差が大きく、年間降水量が少なく日照時間が長い

### 2 本県農業・農村の特徴

果樹が農業生産額の5割以上を占め、生産性の高い農業を展開  
農村の多彩な景観は、県民だけでなく来県者の心を潤す貴重な財産

### 3 本県農業・農村の現状

- 【 農業者 】 農家数の減少（総農家数 H12 42,741戸 H17 39,721戸）  
農業就業者の高齢化（65歳以上の割合 H12 55% H17 60%）  
新規就農者の不足（H12 59人 H17 52人）
- 【 耕地 】 経営耕地面積の減少（H12 21,328ha H17 18,931ha）  
耕作放棄地面積の増加（H12 2,959ha H17 3,252ha）  
畑地の整備率の停滞（H14 17% H18 19%）（水田整備率 H18 62%）
- 【 農業生産 】 農業生産額の減少（農業全体 H12 1,002億円 H17 902億円）
- 【 新たな動き 】 販売金額1,000万円以上の農家数の増加（H12 862戸 H17 916戸）  
農業生産法人の増加（H13 26経営体 H18 50経営体）  
企業等の参入（H18 企業10法人、NPO法人3法人）等

### 4 本県農業・農村を取り巻く情勢

国際化の進行 規制緩和の進展 農産物流通の変化  
食の安全・安心への関心の高まり 環境問題への関心の高まり  
農業の多面的機能に対する期待の高まり

## 本県農業・農村の目指す方向

### 1 目指す将来像と目標

10年後の将来像 未来につながる はつらつとした山梨農業

2つの目標 担い手が育つ高収益な農業の実現  
魅力ある活力に満ちた農村の創造

### 2 視点

消費者や都市住民との共生の推進  
農村コミュニティの機能の維持・向上



## 施策の方向

### 1 未来を支える多様な担い手づくり

農業に関心を持つ若者から団塊の世代まで幅広く人材を確保するとともに、本県農業の中核を担う経営体の育成や企業の農業参入の促進、農村女性の経営参画の推進等、多様な担い手づくりを進める。

施策の主な目標：年間新規就農者数 71 人(H18) 100 人(H28)  
認定農業者数 2,179 経営体(H18) 3,000 経営体(H28)

- (1) 新規就農者の確保・育成  
農業大学校における研修教育の充実 団塊の世代等の就農支援対策の強化
- (2) 企業的経営の推進  
認定農業者の確保・育成 経営の法人化と大規模農業経営体の育成  
企業の農業参入の促進
- (3) 地域を支える営農活動の促進  
農村女性の経営参画の推進 高齢農業者の活動の促進  
集落営農組織等の育成

### 2 戦略を重視した新たな販売ルートづくり

農産物の販売が多様化する中で、県産果実の輸出拡大に向けた取組を強化するとともに、産地における生産から流通、販売までを一体的に捉えた戦略的な取組や地産地消の推進等、新たな販売ルートづくりを進める。

施策の主な目標：県産果実の輸出額 177 百万円(H18) 1,000 百万円(H28)  
農産物直売所の販売額 3,500 百万円(H18) 7,000 百万円(H28)

- (1) 県産果実の輸出戦略プランの推進  
アジア諸国への輸出の拡大 輸出向け生産出荷体制の整備
- (2) アグリビジネスの推進  
アグリビジネスモデルの確立と推進  
バーチャルショップの開設等による産直の促進
- (3) 地産地消の推進  
農産物直売所（ファーマーズマーケット）の利活用の推進  
地元農産物への理解の促進と利用の拡大 学校給食等への地元農産物の提供

### 3 次代につながる力強い産地づくり

本県の基幹品目である果樹産地の強化やワイン産地の育成、野菜、花き等特色ある産地の強化、産地強化に必要な技術の確立とその迅速な普及等、力強い産地づくりを進める。

施策の主な目標：農業生産額 897 億円(H18) 1,000 億円(H28)  
果樹園の整備率 26.3 % (H18) 42.5 % (H28)

- (1) 果樹産地の強化  
果樹生産基盤の再生 果樹経営支援対策の推進
- (2) ワイン産地の育成  
優良品種・系統の選抜 栽培技術の確立と指導体制の充実  
醸造用原料ぶどう栽培の拡大
- (3) 特色ある産地づくりの推進  
水稲 野菜 花き 畜産 水産 地域特産物
- (4) 産地の競争力強化に向けた技術の開発と普及  
高品質・安定生産技術等の確立  
研究成果等の迅速な普及

## 4 消費者から信頼される安全で優れたものづくり

食の安全・安心を確保する取組を強化するとともに、オリジナル性の高い高品質な農産物の生産、やまなしブランドの確立、消費者への正確な情報発信の推進等を通じて安全で優れたものづくりを進める。

施策の主な目標：GAP(農業生産工程管理)導入産地数 - (H18) 20産地(H28)  
オリジナル品種の生産量 29 t (H18) 2,950 t (H28)

### (1) 安全・安心な農産物の生産・供給

農産物の生産情報開示の促進 GAP(農業生産工程管理)等の導入推進  
適正な食品表示の徹底 家畜等の疾病対策と防疫体制の強化  
農薬等の適正使用の推進

### (2) やまなしブランドの確立

オリジナル品種の育成と産地化の推進 産学との連携によるブランド品の開発  
農産物等情報の全国発信 県独自の認証制度の普及・定着

### (3) 食育の推進

学校・保育所等での食育の推進 食育推進体制の整備と県民運動の展開

## 5 自然と調和した美しい里づくり

環境にやさしい生産方式への転換を図るとともに、農村資源の保全や有効活用、耕作放棄地の解消、鳥獣害防止対策の強化等、美しい里づくりを進める。

施策の主な目標：エコファーマー認定者数 6,615人(H18) 7,500人(H28)  
耕作放棄地率 14.7%(H17) 6.2%(H28)

### (1) 環境にやさしい生産方式への転換

化学肥料、化学合成農薬を低減する栽培の推進  
有機農業の導入の推進 有機性資源の利活用の推進

### (2) 美しい農村景観保全の推進

農地や農業用水等の維持保全 環境との調和に配慮した基盤整備

### (3) 中山間地域の活性化の推進

集落機能の強化による多面的機能の確保 農村の生活環境の整備

### (4) 耕作放棄地の発生防止と有効活用

耕作放棄地対策の計画的な推進 担い手への利用集積  
耕作放棄地の多様な活用の促進

### (5) 鳥獣害防止対策の強化

適正な個体数の管理 効果的な被害防止施設の整備  
地域ぐるみによる防止対策の推進

## 6 観光と連携したふれあいの里づくり

農村の持つ資源を活かしながら、都市住民のニーズに即した交流体験メニューづくりや交流拠点となる施設の整備等を通じて、観光と連携したふれあいの里づくりを進める。

施策の主な目標：主な交流施設の利用者数 4,780千人(H18) 6,700千人(H28)

### (1) 都市農村交流の推進

受入れ組織の育成・強化 地域資源や食材の活用  
多彩な体験メニューの提供

### (2) 交流拠点等の整備と農村情報の発信

魅力ある交流拠点等の整備 観光農業の推進  
農村情報の県内外への発信

## 地域別重点推進事項

### 1 中北地域

- (1) 水田地帯や畑作地帯の特性を活かした農業の振興  
水田農業の構造改革の推進 野菜、畜産等の特色ある産地の育成  
畑作地帯の生産基盤整備と企業の農業参入の促進
- (2) 特色ある果樹農業や都市近郊型農業の発展  
もも、すもも、おうとう等の産地の再生整備  
施設野菜、露地野菜等の産地強化の推進 産地を支える担い手の確保・育成  
地産地消による地域農産物の利用拡大
- (3) 豊かに広がる自然を活かした農村づくり  
都市農村交流と観光農業の推進  
美しく住みやすい農村環境の整備 鳥獣害のない地域づくり

### 2 峡東地域

- (1) 競争力のある果樹産地づくりの推進  
産地を支える担い手の確保・育成  
果樹生産基盤の再生と担い手への農地集積  
先進技術・省力技術や優良品種の普及・定着 集出荷体制の強化と販売促進  
高品質な醸造用原料ぶどうの生産体制の確立
- (2) くだもののブランド力の強化による地域農業の展開  
ブランド力を高める商品づくり 果実の輸出促進  
消費者の信頼を高める生産方式の導入  
滞在型の農業・農村体験メニューの提供 農業・農村情報の県内外への発信

### 3 峡南地域

- (1) こだわりの農産物づくりによる地域農業の活性化  
こだわりの農産物の生産振興 農産物直売所の利活用の推進  
地元農産物への理解と利用の拡大
- (2) 地域の歴史と文化を活かした農村づくり  
中山間地域の農地の保全と活用の促進 地域間で連携した都市農村交流の推進  
地域資源の有効活用 地域ぐるみによる鳥獣害防止対策の推進

### 4 富士・東部地域

- (1) 冷涼な気象等を活かした畜産や野菜、花きの生産振興  
富士ヶ嶺地区を中心とする畜産の振興 高原野菜、花き等のブランド化の推進  
地域農業を支える担い手の確保・育成 鳥獣害防止対策の強化
- (2) 富士山麓等の観光と連携した農業の推進  
中山間地域の総合的な整備の推進  
観光農園の開設等農業体験メニューの充実  
観光客等を対象とした直売所の利活用の促進  
食育と連動した地元食材の活用促進



# 要 望 書

国立大学法人山梨大学

学 長 前 田 秀 一 郎 殿

山梨大学に農学系新学部を早期に設置いただけますよう、次のとおり要望いたします。

本県における農業は、大消費地に近い有利な立地条件や変化に富んだ自然条件を活かしながら、ぶどう、もも、すもも等、日本一の生産量を誇る果樹を中心に、野菜、水稻、花き、畜産等の特色ある産地を形成し、中でも、ぶどうの生産においては、戦後から60年以上にわたり生産量日本一を誇っており、ぶどうを原料とするワイン醸造においても、国内の約4割を生産するワイン王国となっております。

山梨大学におきましては、これまでに工学部にワイン科学研究センターを設置し、醸造用ぶどうに関する品種改良やぶどうの耐病性に関する試験研究が行われ、本県のぶどう生産に多大な貢献があったと認識しております。

現在、山梨大学では、生命・食物・環境等をテーマとした農学系新学部を設置し、環境に配慮した果樹栽培等に関する研究と、これらを産業として確立させるための経済的な研究を行うこと等を検討されていると聞いております。

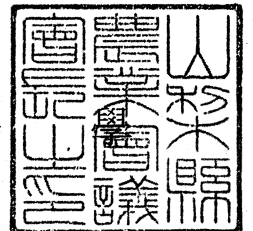
山梨大学に農学系新学部が設置され、より高度な試験研究が行われることは、ぶどう栽培に関する研究のみならず、本県の農業分野全般において、関連知的財産の優先的使用や技術移転が推進され、農業法人や先進農家との連携による技術力の向上や先進的な農業者・技術者の人材育成も推進されるものと期待しております。

つきましては、本県唯一の国立大学である山梨大学に農学系新学部の設立を早期に実現され、農学関連の人材養成や市町村農業委員会等への支援など、これまで以上に地域に貢献いただけますよう特段のご配慮をお願いいたします。

平成22年 9 月 15 日

山 梨 県 農 業 会 議

会 長 塩 島



# 山梨大学農学系新学部設置に関する要望書

JA グループ 山 梨  
山梨県農業協同組合中央会





# 要 望 書

国立大学法人山梨大学

学 長 前 田 秀 一 郎 殿

山梨大学に農学系新学部を早期に設置いただけますよう、次のとおり要望いたします。

本県農業は、大消費地に近いという有利な立地条件や変化に富んだ自然条件を最大限に活かしながら、生産量日本一のぶどう、もも、すももをはじめさくらんぼやかきなど多種多様な果実が生産され、「果樹王国やまなし」の名を全国に誇っており、また野菜、水稻、花き、畜産等特色ある産地を形成し、市場や消費者から高い評価を受けています。

中でも、ぶどうの生産においては、戦後60年以上にわたり生産量日本一を誇っており、ぶどうを原料とするワイン醸造においても、国内の4割を生産する日本一のワイン王国でもあります。

山梨大学におきましては、これまで工学部にワイン科学研究センターを設置し、醸造用ぶどうに関する耐病性や病原菌、ウイルス感染ぶどうの早期診断法の開発に関する試験研究が行われ、本県のぶどう生産に多大な貢献があったと認識しております。

国では、本年3月に新たな「食料・農業・農村基本計画」が策定され、国家戦略の下に「国民全体で農業・農村を支える社会」の実現を目指し、戸別所得補償制度の導入や6次産業化による活力ある農村の再生を図っていく等の取

り組みを総合的かつ計画的に推進していく必要がある等の提起がされました。

このような情勢を受け、本県農業も将来に向け新たな農業の創造が求められているところでありますが、現在、県内の大学には、本県農業を支える先進的な農学系技術者等の人材養成や高度な技術、知的財産等に関する試験研究を行う農学系学部は設置されていない状況にあります。

県内唯一の国立大学である貴学に農学系新学部が設置され、より高度な研究が行われることは、これまで取り組まれてきたぶどう栽培に関する研究のみならず、本県の農業分野全般において、関連知的財産の優先的使用や高度な技術の普及など先進的な農学系技術者等の人材育成も図られると期待をしているところであります。

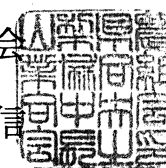
つきましては、早期に農学系新学部が実現され、農学系技術者等の人材養成やJAグループをはじめとする農業関係団体等への支援など、これまで以上に地域に貢献をいただけますよう特段のご配慮をお願い申し上げます。

平成22年9月29日

J A グ ル ー プ 山 梨

山梨県農業協同組合中央会

会 長 廣 瀬 久 信



# 要 望 書

国立大学法人山梨大学

学 長 前 田 秀 一 郎 殿

山梨大学に農学系新学部を早期に設置頂けますよう次のとおり要望いたします。

貴学においては、これまで地域社会の中核として本県はもとより全国各地で活躍する優秀な人材を輩出し、さらには本県における高等教育の中核機関として様々な領域における指導・助言など地域に貢献されておりますが、県民の期待はますます高まり、より一層の整備充実が望まれます。

本県は、国内最大の「ふどう」、「もも」、「すもも」の生産量を誇り、また、国内ワインの約4割を生産する日本一のワイン王国でもあります。

このように本県では、果樹やワインの生産・加工・流通が主要な地場産業となっており、地域資源の持続的な活用による地場産業の振興に貢献できる人材の養成が喫緊の課題となっております。

つきましては、本県唯一の国立大学である貴学に経済・経営及び社会科学の知識を基礎とし地域経済・企業経営・行政に関する専門知識を持った人材を養成する新学部、学科の設立を早期に実現され、これまで以上に地場産業に貢献できる大学となるよう特別のご配慮をお願いいたします。

平成23年5月27日

団体名 山梨県商工会議所連合会  
代表者 会 長 上 原 勇





# 要 望 書

国立大学法人山梨大学

学 長 前 田 秀 一 郎 殿

山梨大学に農学系新学部を早期に設置いただけますようお願いいたします。

貴学においては、これまで地域社会の中核として本県はもとより全国各地で活躍する優秀な人材を輩出し、さらには本県における高等教育の中核機関として様々な領域における指導・助言など地域に貢献されておりますが、県民の期待はますます高まり、より一層の整備充実が望まれます。

本県は、国内最大の「ふどう」、「もも」、「すもも」の生産量を誇り、また、国内ワインの約4割を生産する日本一のワイン王国でもあります。

このように本県では、果樹やワインの生産・加工・流通が主要な地場産業となっており、地域資源の持続的な活用による地場産業の振興に貢献できる人材の養成が喫緊の課題となっております。

つきましては、本県唯一の国立大学である貴学に経済・経営および社会科学の知識を基礎とし、地域経済・企業経営・行政に関する専門知識を持った人材を養成する新学部、学科の設立を早期に実現され、これまで以上に地場産業に貢献できる大学となるよう特別のご配慮をお願いいたします。

平成23年5月30日

団体名 株式会社 山梨中央銀行

代表者 代表取締役頭取 芦澤敏久





## 別添資料 2

新学部に移行する課程・学科の進路状況





新学部に移行する課程・学科の進路状況

学 部	課程・学科	卒業年度	卒業生数	就 職				進学・その他				
				企業	教師	公務員	計	進学	諸学校	その他	計	
教育人間科学部	国際共生社会課程 (共生社会コース)	18年度	20	16		1	17	1	1	1	3	
		19年度	18	14		1	1	16	1	1	2	
		20年度	22	16		1	1	18	3		1	4
		21年度	22	14			4	18	2	2		4
		22年度	20	17			1	18	1		1	2
	ソフトサイエンス課程 (環境科学コース)	18年度	18	10		1	1	12	5		1	6
		19年度	20	13			1	14	5		1	6
		20年度	22	16		1	1	18	3		1	4
		21年度	18	9		2	4	15	2	1		3
		22年度	18	7		1	1	9	6		3	9
工 学 部	* 物質・生命工学科	18年度	116	36		5	41	72	1	2	75	
		19年度	7	4			1	5	2		2	
	生命工学科	19年度	40	10			1	11	27		2	29
		20年度	22	16		1	1	18	3		1	4
		21年度	33	6			1	7	24		2	26
		22年度	37	7			2	9	25	1	2	28
	循環システム工学科	18年度	52	38			1	39	11		2	13
		19年度	38	27			3	30	7		1	8
		20年度	22	16		1	1	18	3		1	4
		21年度	39	25			2	27	9		3	12
22年度		47	24			2	26	14	3	4	21	



教育人間科学部 国際共生社会課程 共生社会コース

卒業生就職先一覧(企業・公務員)

18年度 (17)	19年度 (15)	20年度 (17)	21年度 (18)	22年度 (18)
アオイネオン	アクティオ	ANAセールス	足利銀行	iTTTi JAPAN
明治安田生命保険秋田支社	NECソフト	購買戦略研究所	銀座cuvoクリニック	足利銀行
甲府市農業協同組合	シネカノン	JA甲賀郡	シャトレーゼ	京都信用金庫
テイク	静岡銀行	名鉄観光サービス	東京エコール	グリーンハウス
関東島忠	十六銀行	藤二誠	東京商工リサーチ	甲府商工会議所
APEX	鈴与商事	アプラス	トヨタUグループ	シャトレーゼ
ハロックス	トップカルチャー	住友不動産販売	日本品質保証機構	積水ハウス
議員秘書	豊寿荘	富士観光開発	山梨中央銀行(4)	チャイニーズファクトリー
八十二銀行	明電舎	AIGエジソン生命	郵便事業	中央労働金庫
甲斐ゼミナール	山梨中央銀行	フシミコーポレーション	ららぽーとマネジメント	東京インテリア
大和証券	バンタン	静岡県商工会連合会	リコー販売(株) 山梨支社	日立ソリューションズ
コミー	明治生命保険	三井住友銀行	航空自衛隊	富士観光開発
アルプス中央信用金庫	山日YBSグループ	山口銀行	甲府市役所(2)	丸互
長野銀行	郵政公社	富士通エフサス	箕輪町役場	武蔵野銀行
西野商事	岡谷市	いちやまマート		モランボン
三井生命		リコー販売山梨支社		山梨県民信用組合
山梨県警		自衛隊		山梨中央銀行
				甲府市役所

教育人間科学部 ソフトサイエンス課程 環境科学コース

卒業生就職先一覧(企業・公務員)

18年度 (11)	19年度 (14)	20年度 (13)	21年度 (13)	22年度 (8)
アンリツ	P&Sコミュニケーションズ	文明堂新宿店	アイ・エス・ビー	甲斐ゼミナール
静環検査センター	インクリメントP	東日本旅客鉄道	クリークアンドリバー	第四銀行
朝日ソーラー	エヌアイデイ	富士宮信用金庫	真生会富山病院	共栄フード
トヨコン	共同カイトック	スマイルドラッグ	第一生命保険	名工建設
ミツウロコ	ジオリゾーム	小林リース	テンアライド	ユニ・テクノロジー
TOKAI	シャンソン化粧品	日本郵政グループ	バグース	山梨県立美術館・文学館
大和ハウス工業	総合スタッフ	川崎グループ	八十二銀行	自営
栃木銀行	東芝電子管デバイス	野口観光	山梨中央銀行(2)	多古町
太平洋コンサルタント	フジパン	しずおか信用金庫	東京消防庁	
自営(農業)	三島信用金庫	静岡県信用農業協同組合連合会	山梨県環境科学研究所	
松本市	山梨県信用農業協同組合連合会	総合警備保障	山梨県警察(2)	
	山梨中央銀行	韮崎市		
	横浜市青少年育成協会	佐久広域連合		
	御殿場市			

工学部 生命工学科  
卒業生就職先一覧(企業・公務員)

18年度 (*物質・生命工学科)(34)	19年度 (16)	20年度 (13)	21年度 (7)	22年度 (9)
日本食品分析センター	亜細亜工業	大塚製薬	喜多村	アマノパークス
NECコンピュータテクノ	千寿製薬	シャンソン化粧品	しずおか信用金庫	エヌオーエス
TIS	日本証券テクノロジー	総合舞台	シダックス	小田急商事
アセラ	プリムイソベン	東海東京証券	社会福祉法人忠恕会	くろがねや
アンデス電気	三井住友銀行	ニスカ	ホンダ自動車販売	ケアコミュニケーションズ
カシオマイクロニクス	ヤシマ工業	日本プラスト	ミツウロコ山梨支店	ユタカフーズ
加藤電器グループ	米久	三河屋本店	山梨県	(非開示)
オーイズミ	JR東日本	山梨ダイハツ販売		山梨県
東芝	大塚商会	山梨中央銀行		山梨県警
ミスズ工業	サニーマート	リコー販売		
京都府警	シャトレーゼ	リゾートトラスト		
コココーラセントラルジャパン	ちぼり	自営		
小林記録紙	戸田酒販	山梨県		
サンロード	三井住友銀行			
シーマ電子	山梨県			
静岡エスフード	栃木県警			
鈴鹿富士ゼロックス				
すばる書店				
大洋薬品工業				
高砂香料工業				
戸田酒販				
トヨタ紡織				
豊臣機工				
日本化学工業				
日本コーンスターチ				
ノバルティスファーマ				
古河電工産業電線				
ヤマト科学				
山梨食品衛生協会				
関塾				
はくばく				
マルハチ村松				
山梨県				
長野市				

\* 物質・生命工学科は、平成16年4月に応用化学科と生命工学科に改組

工学部 循環システム工学科

卒業生就職先一覧(企業・公務員)

18年度 (32)	19年度 (30)	20年度 (33)	21年度 (27)	22年度 (26)
CEC	eisu	NECコンピュータテクノ	TOKAI	NECフィールディング
神戸屋	H・I・S	NECソフト	YSKe-com	NTTファシリティーズ
NECコンピュータテクノ	JAなんすん	NEC通信システム	アグレックス	アグレックス
NTTファシリティーズ	NTTファシリティーズ	OLCキッチンテクノ	NTTデータ	井村屋
アイシン新和	アート印刷	YSKe-com	NTTファシリティーズ	ヴァリック
アドバンス・インフォメーション・デザイン	イズミ農園	カインズ	グリーティングライフ	河西工業
伊那食品工業	ぎょうせい	キャリア教育センター	群馬精工	九九プラス
YSKe-com	グラックスアンドアソシエイツ	チノンテック	コンピュータマインド	共立コンピュータサービス
アースサポート	商工組合中央金庫	デザインルーム JOY BOX	JA全農	ゲームオン
エヌ・ティ・ティエムイー	総合スタッフグループ	デジタルSKIPステーション	島津サイエンス東日本埼玉支店	コンピュータマインド
オークネット	タカノ	遠鉄システムサービス	シャトレーゼ	賛育会
ビーズ・インターナショナル	都留信用金庫	京葉興業	千曲商工会議所	ジャパンビバレッジホールディングス
協南精機	テレビ山梨	金沢エンジニアリングシステムズ	中央労働金庫宇都宮支店	第三銀行
シダックス	東京エレクトロンAT	山日YBSグループ	ハイランドリゾートホテル&スパ	中央労働金庫(2)
シチズンセイミツ	東京コンピュータサービス	山梨中央銀行	東日本旅客鉄道	トータス
篠原貿易	東京ソフト	新興マタイ	富士観光開発	ニッセイ情報テクノロジー
第一電材	ニスカ	太陽工業	富士ゼロックス愛知	マックスバリュ東海
東京エレクトロンAT	日軽産業	長野銀行	富士通BSC	明星工業
内外電機	日信工業	長野県信用組合	富士宮信用金庫	山下電気
長野日本ソフトウェア	日立エンジニアリングアンドサービス	東京エレクトロンAT	三峰	山梨中央銀行(2)
ニトリ	マックスバリュ東海	東京ソフト	モリ工業	郵便事業(2)
ハートアンドブレインコンサルティング	ミドリ安全	環境再生保全機構	山梨交通	山梨県
ハギワラシスコン	三浦工業	日本システムウェア	山梨中央銀行(3)	糸魚川市
日立システムバリュー	山梨信用金庫	日立システムアンドサービス	韮崎市	
富士通エフ・アイ・ビー	山梨中央銀行	飯能信用金庫	北谷町	
マツマル	長野銀行	富士通エフ・アイ・ビー		
三貴商事	富士通FIP	富士通ワイエフシー		
三井不動産ビルマネジメント	富士吉田市	綿半綱機		
山梨中央銀行	北杜市	日本郵政グループ		
山梨リコー	中央市	類グループ		
山日YBSグループ		鈴与システムテクノロジー		
笛吹市		自営		
		東松山市		

## 別添資料 3

### 山梨大学生命環境学部（仮称）設置に関するアンケート 調査結果報告書





山梨大学 生命環境学部(仮称)設置に関するアンケート調査結果

報 告 書

平成 2 2 年 3 月

財団法人 日本開発構想研究所

## 目 次

1 調査概要	1
（1）調査目的	1
（2）調査対象	1
（3）サンプル数	1
（4）調査方法	1
（5）調査実施時期	2
（6）回収状況	2
2 調査結果概要（主な調査項目）	3
3 高校生対象調査結果	8
（1）高校生単純集計	8
（2）高校生クロス集計	26
（3）高校生自由回答（問12）	47
4 進路指導教員対象調査結果	58
（1）進路指導教員単純集計	58
（2）進路指導教員クロス集計	66
（3）進路指導教員自由回答（問5）	69
5 保護者対象調査結果	71
（1）保護者単純集計	71
（2）保護者クロス集計	84
（3）保護者自由回答（問11）	87
6 事業所対象調査結果	110
（1）事業所単純集計	110
（2）事業所自由回答（問12）	127
（資料）	
・高校生対象アンケート調査票	
・進路指導教員対象アンケート調査票	
・保護者対象アンケート調査票	
・事業所対象アンケート調査票	
・生命環境学部（仮称）の概要	

## 1 調査概要

### (1) 調査目的

山梨大学における生命環境学部（仮称；生命工学科、ワイン・食物科学科、環境科学科、社会経営学科などから成る農学系学部）の設置検討の基礎資料とするため、高校生、高校進路指導教員、高校生の保護者及び事業所に対してアンケート調査を実施し、それぞれ関心のある専門分野や生命環境学部に対する考え等を把握することを目的とする。

### (2) 調査対象

#### ① 高校生対象調査

山梨大学工学部入学者上位県（山梨県、静岡県、愛知県、長野県、岐阜県、三重県、茨城県、千葉県、東京都）に所在する高等学校から抽出した 70 校のうち、山梨県内の高等学校については 1 年生及び 2 年生、山梨県外の高等学校については 2 年生。

#### ② 進路指導教員対象調査

高校生対象調査で抽出した山梨県内高等学校の学校長及び進路指導教員。

#### ③ 保護者対象調査

高校生対象調査で抽出した山梨県内高等学校の生徒の保護者。

#### ④ 事業所対象調査

既設大学の農学系学部において就職実績のある企業等。

### (3) サンプル数

- |              |   |
|--------------|---|
| ① 高校生対象調査    | 山梨県内 15 校；約 8,000 件、山梨県外 55 校；約 4,400 件 |
| ② 進路指導教員対象調査 | 山梨県内 15 校；約 300 件                       |
| ③ 保護者対象調査    | 山梨県内 15 校；約 8,000 件                     |
| ④ 事業所対象調査    | 775 件                                   |

### (4) 調査方法

調査は質問紙（調査票）により行い、高等学校（高校生、保護者、進路指導教員）及び事業所に直接調査票を配布・回収して実施。

(5) 調査実施時期

平成22年1月下旬～2月上旬

(6) 回収状況

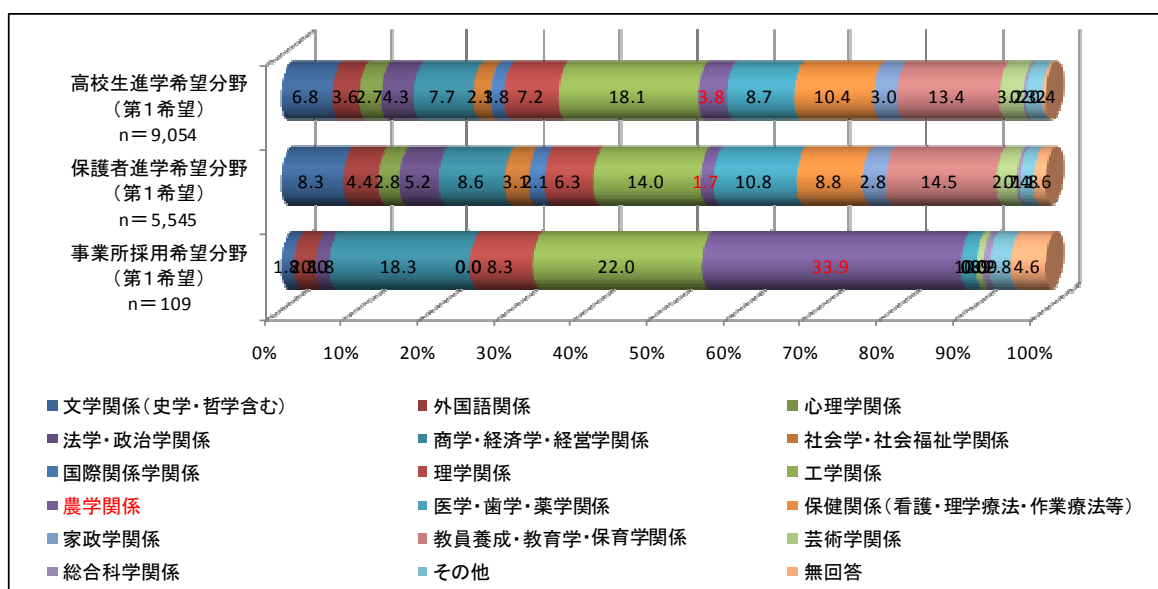
- |              |   |
|--------------|---|
| ① 高校生対象調査    | 山梨県内 15 校 ; 6,777 件、山梨県外 22 校 ; 2,436 件 |
| ② 進路指導教員対象調査 | 97 件                                    |
| ③ 保護者対象調査    | 5,636 件                                 |
| ④ 事業所対象調査    | 109 件                                   |

## 2 調査結果概要（主な調査項目）

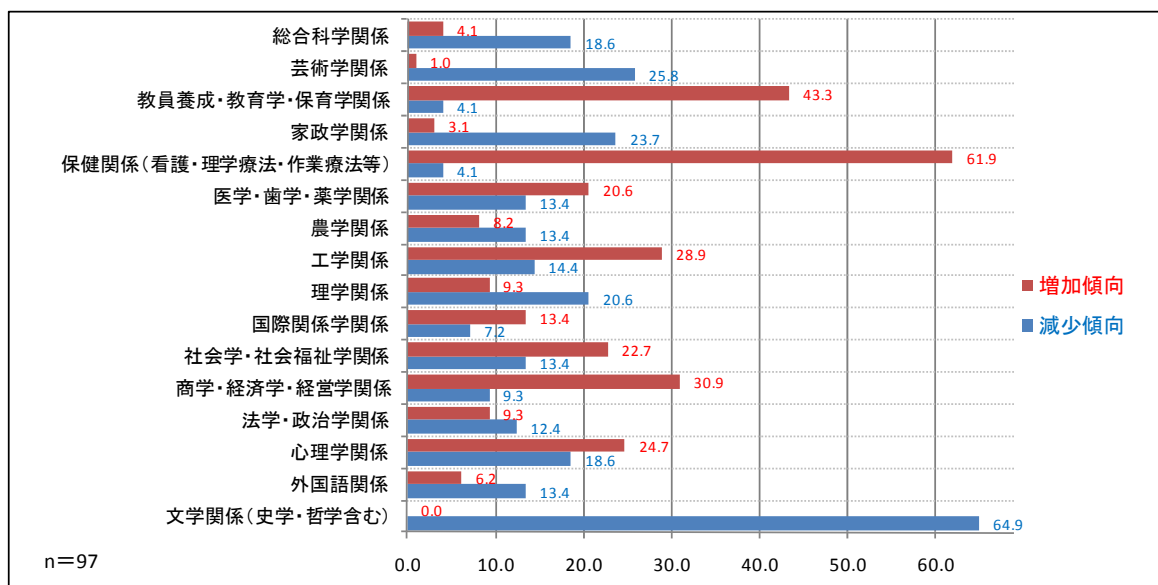
### ■ 進学希望分野（第1希望）、採用希望分野（第1希望）、生徒の進学動向 （学部学科別分類）

進学希望（第1希望）の分野については、高校生及び保護者ともに「工学関係」や「教員養成・教育学・保育学関係」が比較的多い。事業所の採用希望（第1希望）分野については「農学関係」が最も多い。最近の生徒の進学動向としては、「保健関係」や「教員養成・教育学・保育学関係」は志願者を増やす一方、「文学関係」は志願者を減らす傾向にある。

- ・高校生 進学希望分野（問6）
- ・保護者 子供の進学分野に関する希望（問5）
- ・事業所 従業員採用に当たり特に関心の高い分野あるいは今後採用を増やしたい分野（問7）



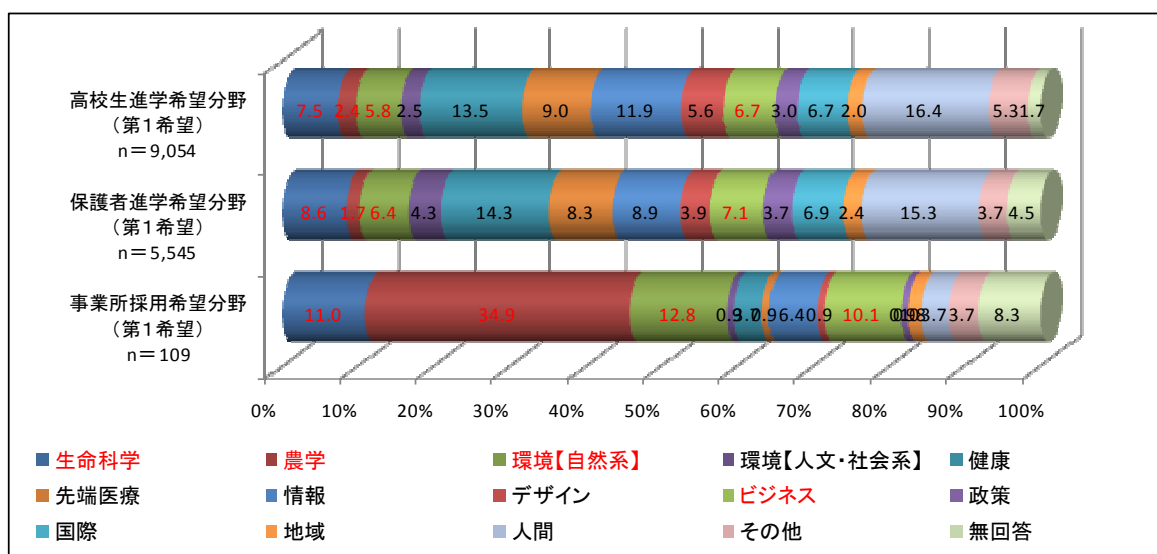
- ・進路指導教員 最近3年間程度における生徒の進学動向(3つまでの複数回答)(問2)



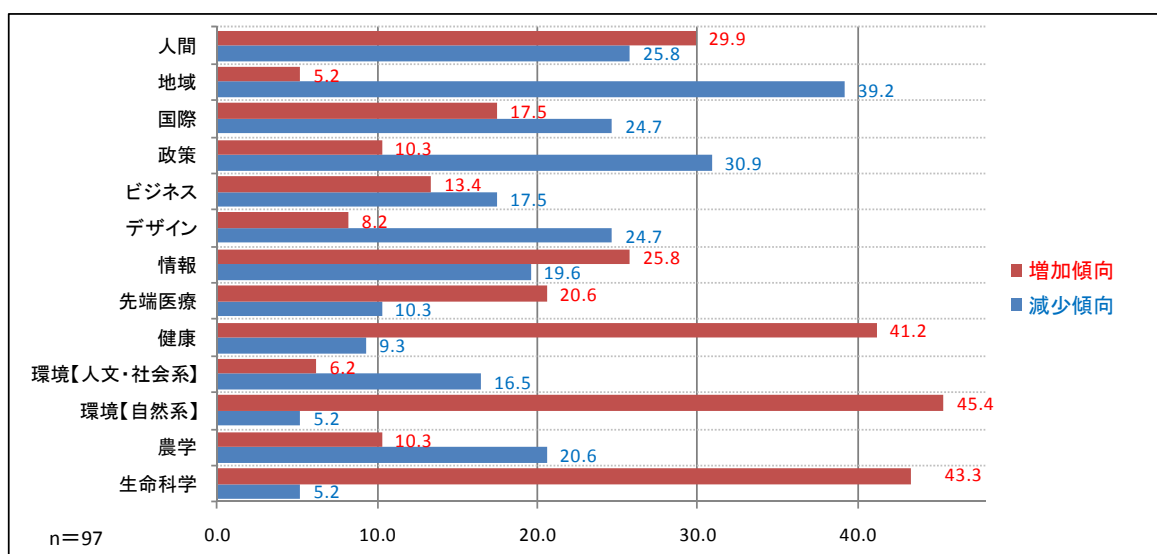
(キーワード別分類)

進学希望 (第1希望) の分野については、高校生及び保護者ともに「人間」や「健康」が比較的多い。 事業所の採用希望 (第1希望) 分野については「農学」が最も多い。 最近の生徒の進学動向としては、「環境【自然系】」、「生命科学」、「健康」は志願者を増やす一方、「地域」は志願者を減らす傾向にある。

- ・高校生 進学希望分野(問6)
- ・保護者 子供の進学分野に関する希望(問5)
- ・事業所 従業員採用に当たり特に関心の高い分野あるいは今後採用を増やしたい分野(問7)



- ・進路指導教員 最近3年間程度における生徒の進学動向(3つまでの複数回答)(問2)



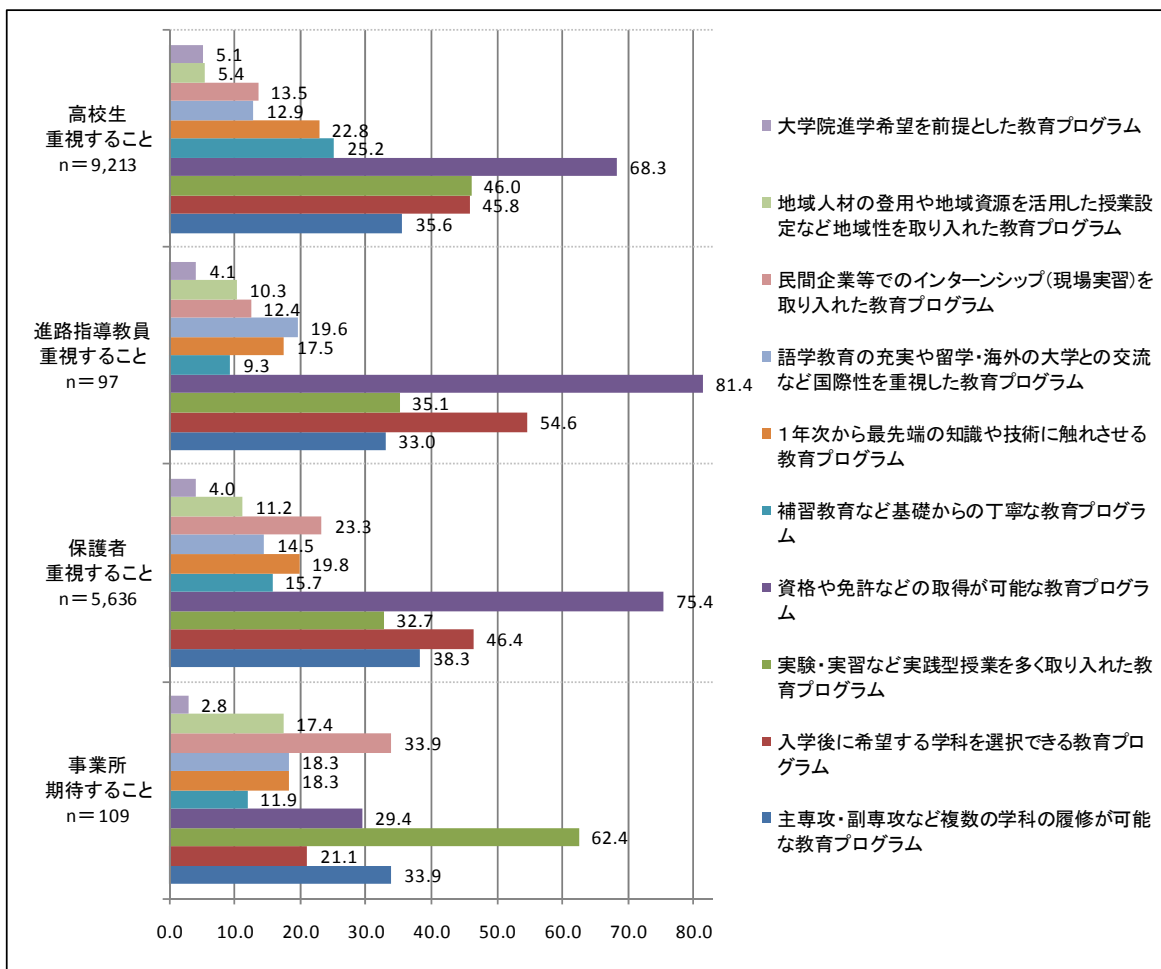
## ■ 大学を選ぶ際に重視すること、新学部の教育に対して期待すること

大学を選ぶ際に重視することについては、高校生、進路指導教員、保護者いずれも「資格や免許などの取得が可能な教育プログラム」が最も多く、他の選択肢と比べても突出している。また、高校生、進路指導教員、保護者とも「主専攻・副専攻など複数の学科の履修が可能な教育プログラム」、「入学後に希望する学科を選択できる教育プログラム」、「実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム」の回答割合が高く、ほぼ同じ回答傾向を示している。

一方、事業所が新学部の教育に対して期待することについては、「実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム」が最も多く、次いで「主専攻・副専攻など複数の学科の履修が可能な教育プログラム」、「民間企業等でのインターンシップ（現場実習）を取り入れた教育プログラム」の回答割合が高くなっている。

- ・高校生 大学を選ぶ際に重視すること(問8)
- ・進路指導教員 進路指導で大学を選ぶ際に重視すること(問3)
- ・保護者 大学を選ぶ際に重視すること(問7)
- ・事業所 新学部の教育に対して期待すること(問8)

(注)いずれも3つまでの複数回答

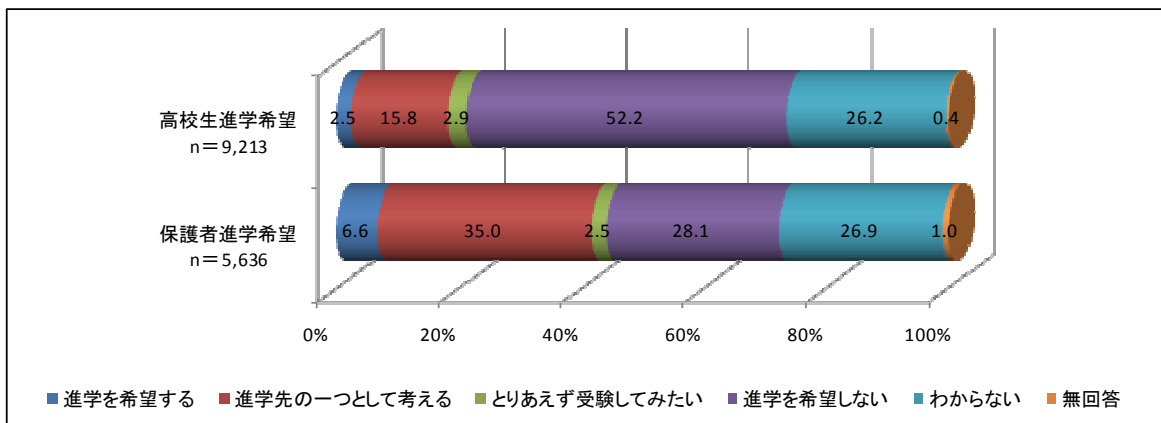


■ 新学部への進学希望、新学部卒業生に対する採用希望

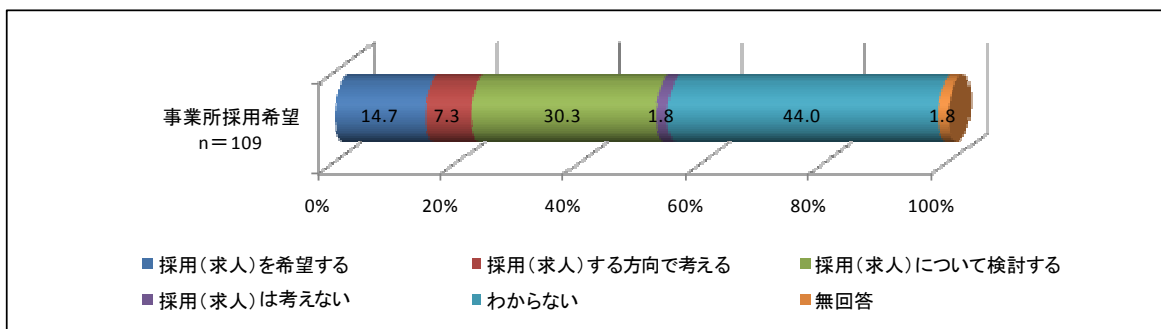
新学部への進学希望について、高校生では「進学を希望する」2.5%、「進学先の一つとして考える」15.8%、「とりあえず受験してみたい」2.9%であり、保護者では「進学を希望する」6.6%、「進学先の一つとして考える」35.0%、「とりあえず受験してみたい」2.5%である。新学部への進学に前向きな回答は、高校生よりも保護者の方が割合は高い。

一方、事業所の新学部卒業生に対する採用希望については、「採用（求人）を希望する」14.7%、「採用（求人）する方向で考える」7.3%であり、「採用（求人）について検討する」30.3%や「わからない」44.0%とする事業所が多くなっている。

- ・高校生 新学部への進学希望(問9)
- ・保護者 子供の新学部への進学について(問8)



- ・事業所 新学部卒業者の新規採用について(問10)





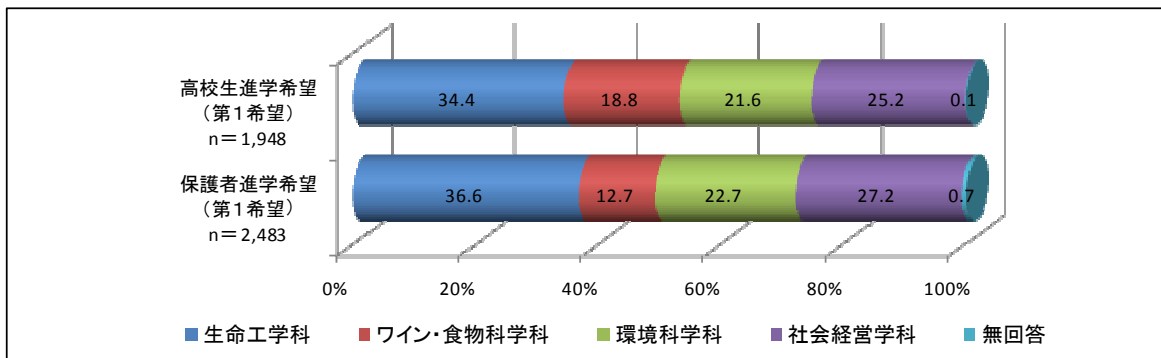
## ■ 進学希望学科、採用希望学科、生徒の進学に係る期待度

新学部に設置計画中の4学科に係る進学希望については、高校生と保護者の回答傾向はほぼ同じであり、「生命工学科」、「社会経営学科」、「環境科学科」、「ワイン・食物科学科」の順に回答が多く、「生命工学科」を第1希望にする回答者が3分の1を占めている。

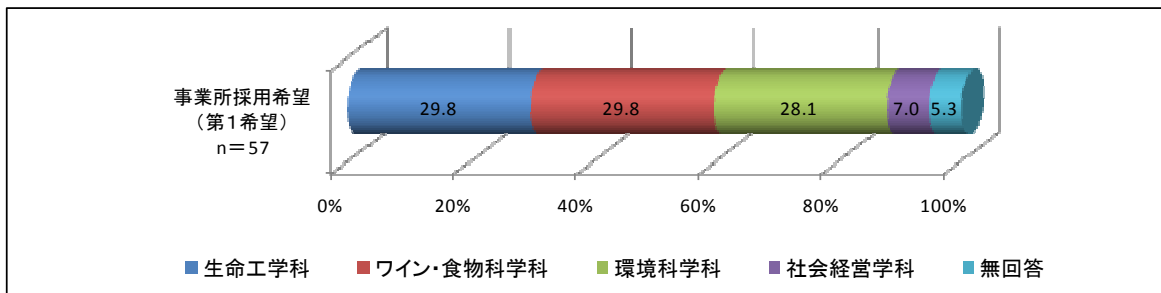
事業所が特に採用を希望する学科は、「生命工学科」と「ワイン・食物科学科」がともに29.8%、「環境科学科」が28.1%であり、これら3学科への希望が3割程度で並んでいる。

進路指導教員から見た生徒の進学希望に係る期待度（大いに期待できる＋少し期待できる）としては、「生命工学科」87.6%が最も高く、次いで「環境科学科」80.4%、「ワイン・食物科学科」69.1%、「社会経営学科」51.6%の順になっている。

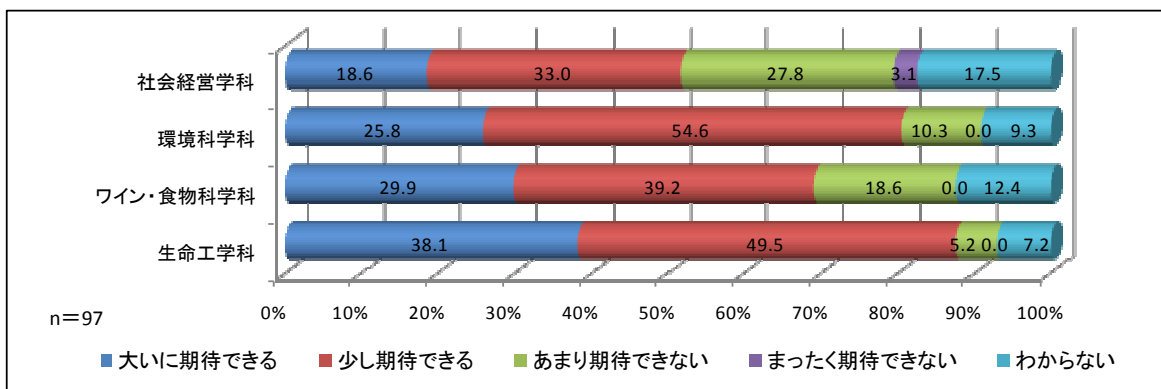
- ・高校生 進学希望学科(問10(1))
- ・保護者 子供の進学希望学科(問9(1))



- ・事業所 新学部の中で特に採用を希望する学科(問11)



- ・進路指導教員 生徒の進学希望に係る期待度(問4(1))

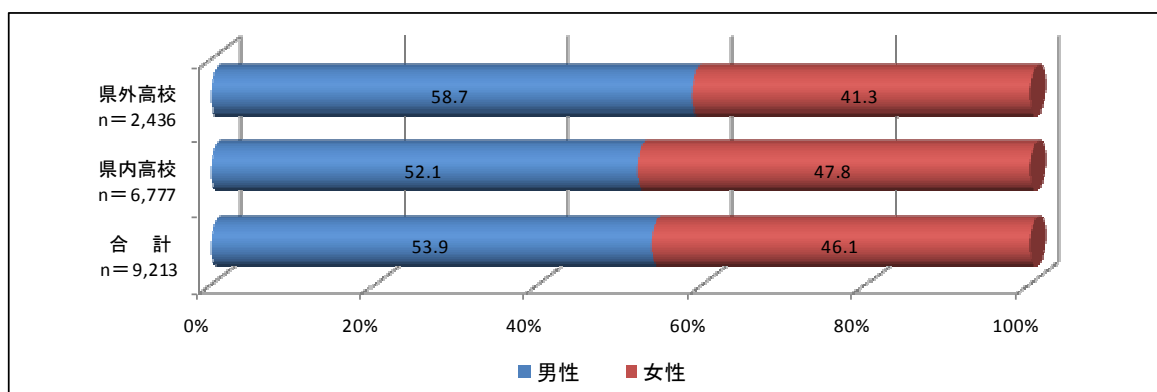


### 3 高校生対象調査結果

#### (1) 高校生単純集計

##### 問1 性別

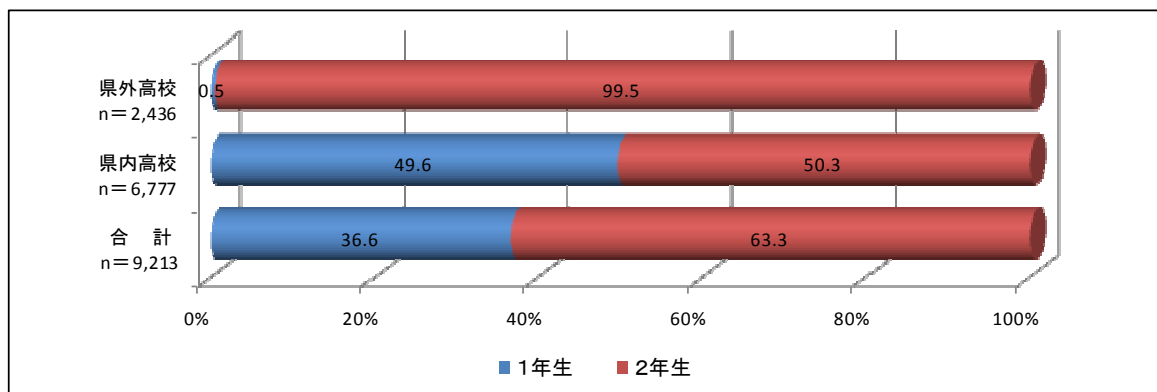
回答者の性別内訳は県内高校、県外高校合わせて「男性」53.9%、「女性」46.1%である。県内高校ではほぼ男女半々であるが、県外高校では「男性」が約6割、「女性」が約4割となっている。



		1 男性	2 女性	無回答	合計
回答者数(人)	合計	4,965	4,247	1	9,213
	県内	3,534	3,242	1	6,777
	県外	1,431	1,005	0	2,436
構成比(%)	合計	53.9	46.1	0.0	100.0
	県内	52.1	47.8	0.0	100.0
	県外	58.7	41.3	0.0	100.0

## 問2 学年

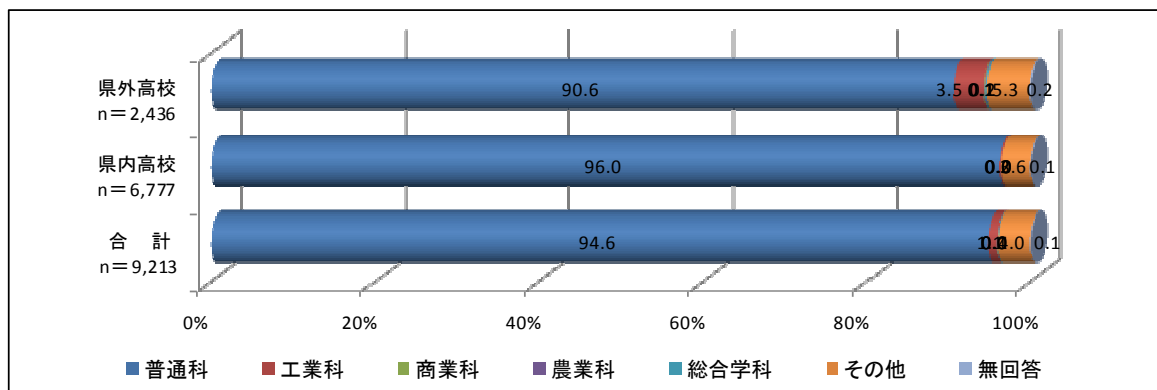
回答者の学年別内訳は、県内高校については「1年生」49.6%、「2年生」50.3%、県外高校については調査対象を基本的に2年生としたことから「2年生」が99.5%であり、全体では「1年生」が36.6%、「2年生」が63.3%となっている。



		1 1年生	2 2年生	無回答	合計
回答者数(人)	合計	3,376	5,836	1	9,213
	県内	3,364	3,412	1	6,777
	県外	12	2,424	0	2,436
構成比(%)	合計	36.6	63.3	0.0	100.0
	県内	49.6	50.3	0.0	100.0
	県外	0.5	99.5	0.0	100.0

### 問3 在籍学科

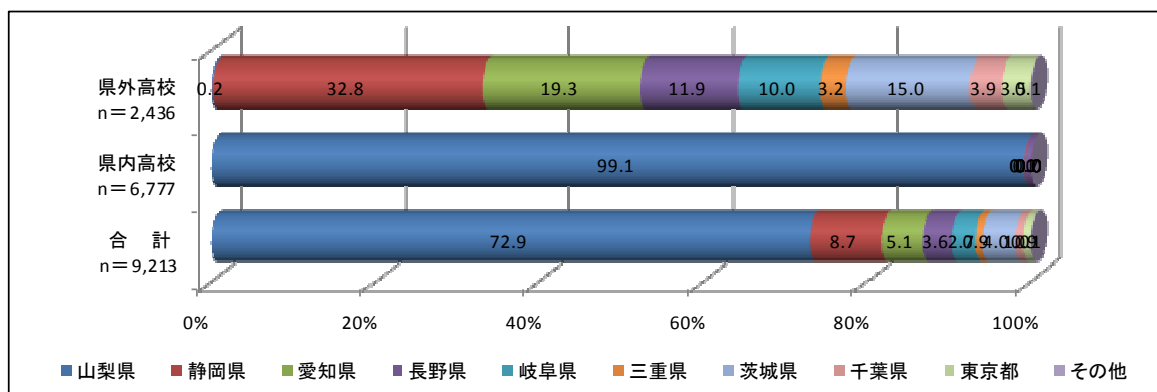
回答者の在籍学科については「普通科」が圧倒的に多く、県内高校では96.0%、県外高校では90.6%、全体では94.6%となっている。



		1	2	3	4	5	6	無回答	合計
		普通科	工業科	商業科	農業科	総合学科	その他		
回答者数(人)	合計	8,715	98	3	4	8	373	12	9,213
	県内	6,508	12	1	2	3	245	6	6,777
	県外	2,207	86	2	2	5	128	6	2,436
構成比(%)	合計	94.6	1.1	0.0	0.0	0.1	4.0	0.1	100.0
	県内	96.0	0.2	0.0	0.0	0.0	3.6	0.1	100.0
	県外	90.6	3.5	0.1	0.1	0.2	5.3	0.2	100.0

#### 問4 居住地

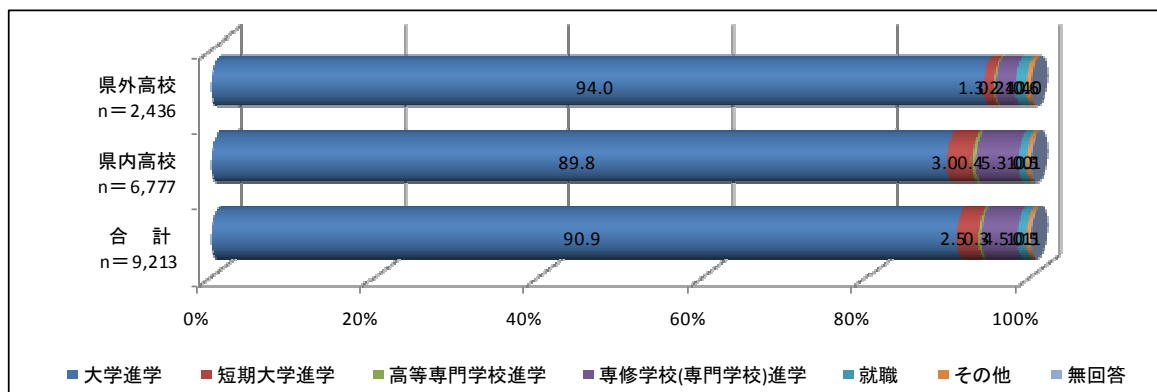
回答者の居住地については、県内高校では「山梨県」が99.1%であり、ほぼ全員が県内に居住している。県外高校では「静岡県」が32.8%で最も多く、次いで「愛知県」19.3%、「茨城県」15.0%、「長野県」11.9%、「岐阜県」10.0%などとなっている。全体では「山梨県」が7割以上（72.9%）を占めており、県外が3割弱（27.1%）である。



		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	無回答	合計
		山梨県	静岡県	愛知県	長野県	岐阜県	三重県	茨城県	千葉県	東京都	その他		
回答者数 (人)	合計	6,720	806	471	336	245	79	366	96	87	6	1	9,213
	県内	6,715	6	0	46	2	1	1	1	1	3	1	6,777
	県外	5	800	471	290	243	78	365	95	86	3	0	2,436
構成比 (%)	合計	72.9	8.7	5.1	3.6	2.7	0.9	4.0	1.0	0.9	0.1	0.0	100.0
	県内	99.1	0.1	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	県外	0.2	32.8	19.3	11.9	10.0	3.2	15.0	3.9	3.5	0.1	0.0	100.0

## 問5 高校卒業後の希望進路

高校卒業後の希望進路について見ると、回答者全体の9割（90.9%）が「大学進学」を回答している。大学進学以外では「専修学校（専門学校）進学」が4.5%、「短期大学進学」が2.5%、「就職」が1.1%となっている。



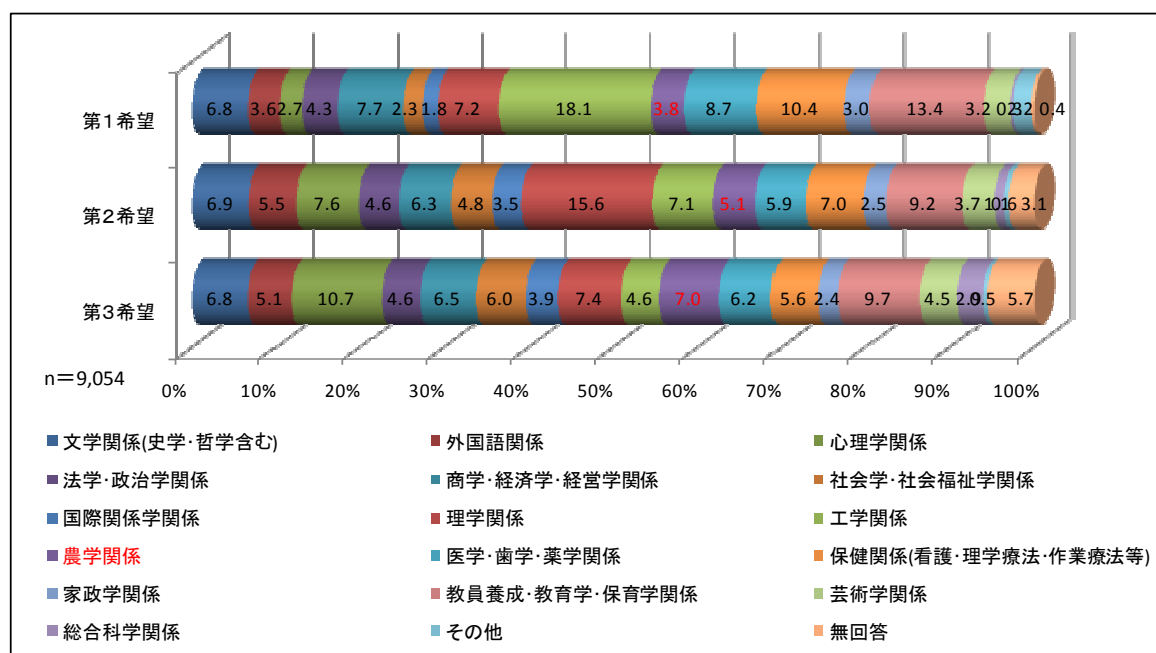
		1 大学進学	2 短期大学 進学	3 高等専門 学校進学	4 専修学校 (専門学校) 進学	5 就職	6 その他	無回答	合計
回答者数 (人)	合計	8,376	232	30	416	104	48	7	9,213
	県内	6,086	200	24	358	70	33	6	6,777
	県外	2,290	32	6	58	34	15	1	2,436
構成比 (%)	合計	90.9	2.5	0.3	4.5	1.1	0.5	0.1	100.0
	県内	89.8	3.0	0.4	5.3	1.0	0.5	0.1	100.0
	県外	94.0	1.3	0.2	2.4	1.4	0.6	0.0	100.0

問6 進学希望分野 ※問5で1～4を回答した回答者のみ回答

(1) 学部・学科別分類

高校卒業後の進路希望（問5）において「大学進学」、「短期大学進学」、「高等専門学校進学」又は「専修学校（専門学校）進学」を回答した回答者の学部・学科別分類における進学希望分野を見ると、第1希望では「工学関係」が18.1%で最も多く、次いで「教員養成・教育学・保育学関係」13.4%、「保健関係（看護・理学療法・作業療法等）」10.4%などとなっている。第2希望については「理学関係」が15.6%で最も多く、第3希望については「心理学関係」が10.7%で最も多い。

「農学関係」について見ると、第1希望で「農学関係」を回答したのは3.8%（345人）、第2希望では5.1%（463人）、第3希望では7.0%（632人）である。第1、第2、第3希望で農学関係を回答したのは合計で1,440人であることから、潜在的には回答者（9,054人）の15.9%が「農学関係」への進学に関心を持っていると考えられる。



【第1希望】

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
		文学関係 (史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係 (看護・理学療法・作業療法 等)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他			
回答者数 (人)	合計	616	322	245	390	694	210	166	655	1,637	345	790	940	272	1,214	290	29	200	39	9,054	
	県内	513	279	204	347	583	180	137	421	1,024	147	585	624	199	979	250	20	151	25	6,668	
	県外	103	43	41	43	111	30	29	234	613	198	205	316	73	235	40	9	49	14	2,386	
構成比 (%)	合計	6.8	3.6	2.7	4.3	7.7	2.3	1.8	7.2	18.1	3.8	8.7	10.4	3.0	13.4	3.2	0.3	2.2	0.4	100.0	
	県内	7.7	4.2	3.1	5.2	8.7	2.7	2.1	6.3	15.4	2.2	8.8	9.4	3.0	14.7	3.7	0.3	2.3	0.4	100.0	
	県外	4.3	1.8	1.7	1.8	4.7	1.3	1.2	9.8	25.7	8.3	8.6	13.2	3.1	9.8	1.7	0.4	2.1	0.6	100.0	

注)構成比(%)が10.0%以上のものに網掛けをしている。(【第2希望】、【第3希望】についても同じ。)

【第2希望】

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
		文学関係 (史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係 (看護・理学療法・作業療法 等)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他			
回答者数 (人)	合計	621	494	692	419	567	438	314	1,409	647	463	533	633	226	830	334	103	54	277	9,054	
	県内	524	402	526	366	472	364	267	866	440	256	359	451	173	625	271	64	41	201	6,668	
	県外	97	92	166	53	95	74	47	543	207	207	174	182	53	205	63	39	13	76	2,386	
構成比 (%)	合計	6.9	5.5	7.6	4.6	6.3	4.8	3.5	15.6	7.1	5.1	5.9	7.0	2.5	9.2	3.7	1.1	0.6	3.1	100.0	
	県内	7.9	6.0	7.9	5.5	7.1	5.5	4.0	13.0	6.6	3.8	5.4	6.8	2.6	9.4	4.1	1.0	0.6	3.0	100.0	
	県外	4.1	3.9	7.0	2.2	4.0	3.1	2.0	22.8	8.7	8.7	7.3	7.6	2.2	8.6	2.6	1.6	0.5	3.2	100.0	

【第3希望】

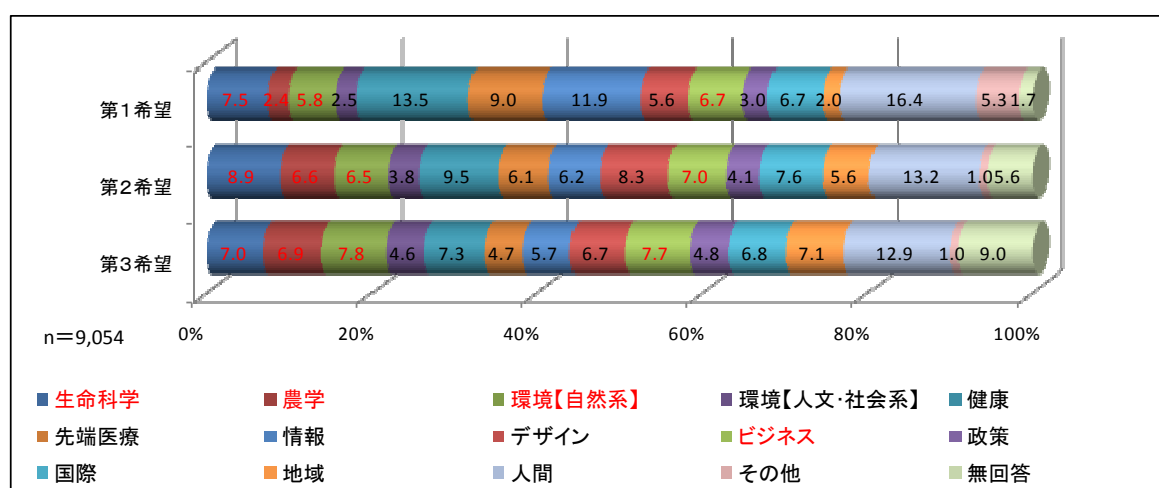
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
		文学関係 (史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係 (看護・理学療法・作業療法 等)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他			
回答者数 (人)	合計	618	464	968	414	585	545	349	672	414	632	559	503	217	875	411	267	49	512	9,054	
	県内	514	369	768	348	464	447	275	413	277	408	373	355	154	628	317	167	32	359	6,668	
	県外	104	95	200	66	121	98	74	259	137	224	186	148	63	247	94	100	17	153	2,386	
構成比 (%)	合計	6.8	5.1	10.7	4.6	6.5	6.0	3.9	7.4	4.6	7.0	6.2	5.6	2.4	9.7	4.5	2.9	0.5	5.7	100.0	
	県内	7.7	5.5	11.5	5.2	7.0	6.7	4.1	6.2	4.2	6.1	5.6	5.3	2.3	9.4	4.8	2.5	0.5	5.4	100.0	
	県外	4.4	4.0	8.4	2.8	5.1	4.1	3.1	10.9	5.7	9.4	7.8	6.2	2.6	10.4	3.9	4.2	0.7	6.4	100.0	



## (2) キーワード別分類

高校卒業後の進路希望（問5）において「大学進学」、「短期大学進学」、「高等専門学校進学」又は「専修学校（専門学校）進学」を回答した回答者のキーワード別分類における進学希望分野を見ると、第1希望では「人間」が16.4%で最も多く、次いで「健康」13.5%、「情報」11.9%などとなっている。第2希望については「人間」が13.2%で最も多く、第3希望についても「人間」が12.9%で最も多い。

生命環境学部（仮称）の4学科に比較的近い「生命科学」、「農学」、「環境【自然系】」及び「ビジネス」について見ると、第1希望では「生命科学」7.5%、「農学」2.4%、「環境【自然系】」5.8%、「ビジネス」6.7%である。第2希望については「生命科学」8.9%、「農学」6.6%、「環境【自然系】」6.5%、「ビジネス」7.0%、第3希望については「生命科学」7.0%、「農学」6.9%、「環境【自然系】」7.8%、「ビジネス」7.7%となっている。



【第1希望】

		1 生命 科学	2 農学	3 環境 【自然 系】	4 環境 【人文・ 社会 系】	5 健康	6 先端 医療	7 情報	8 デザイ ン	9 ビジネ ス	10 政策	11 国際	12 地域	13 人間	14 その他	無回答	合計
回答 者数 (人)	合計	680	221	524	223	1,221	814	1,077	510	605	275	604	179	1,487	484	150	9,054
	県内	443	118	315	191	877	552	694	386	503	215	516	152	1,242	369	95	6,668
	県外	237	103	209	32	344	262	383	124	102	60	88	27	245	115	55	2,386
構成比 (%)	合計	7.5	2.4	5.8	2.5	13.5	9.0	11.9	5.6	6.7	3.0	6.7	2.0	16.4	5.3	1.7	100.0
	県内	6.6	1.8	4.7	2.9	13.2	8.3	10.4	5.8	7.5	3.2	7.7	2.3	18.6	5.5	1.4	100.0
	県外	9.9	4.3	8.8	1.3	14.4	11.0	16.1	5.2	4.3	2.5	3.7	1.1	10.3	4.8	2.3	100.0

注)構成比(%)が10.0%以上のものに網掛けをしている。(【第2希望】、【第3希望】についても同じ。)

【第2希望】

		1 生命 科学	2 農学	3 環境 【自然 系】	4 環境 【人文・ 社会 系】	5 健康	6 先端 医療	7 情報	8 デザイ ン	9 ビジネ ス	10 政策	11 国際	12 地域	13 人間	14 その他	無回答	合計
回答 者数 (人)	合計	802	596	593	347	859	549	562	750	635	372	688	510	1,193	90	508	9,054
	県内	532	331	387	272	636	364	392	559	501	325	565	424	943	77	360	6,668
	県外	270	265	206	75	223	185	170	191	134	47	123	86	250	13	148	2,386
構成比 (%)	合計	8.9	6.6	6.5	3.8	9.5	6.1	6.2	8.3	7.0	4.1	7.6	5.6	13.2	1.0	5.6	100.0
	県内	8.0	5.0	5.8	4.1	9.5	5.5	5.9	8.4	7.5	4.9	8.5	6.4	14.1	1.2	5.4	100.0
	県外	11.3	11.1	8.6	3.1	9.3	7.8	7.1	8.0	5.6	2.0	5.2	3.6	10.5	0.5	6.2	100.0

【第3希望】

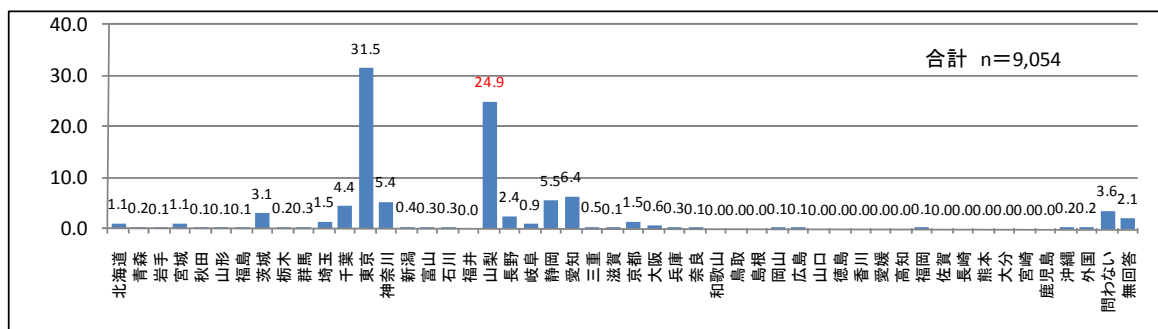
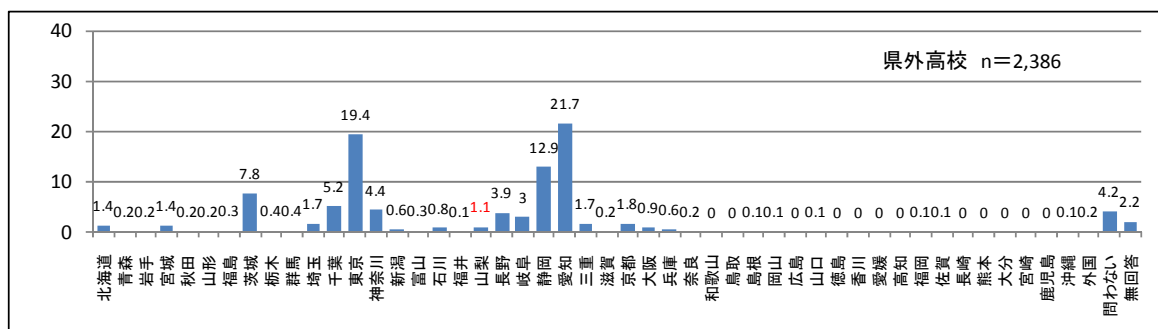
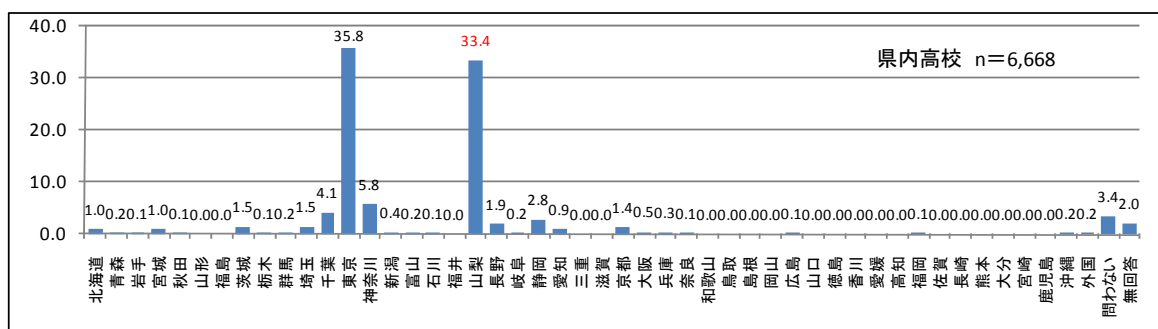
		1 生命 科学	2 農学	3 環境 【自然 系】	4 環境 【人文・ 社会 系】	5 健康	6 先端 医療	7 情報	8 デザイ ン	9 ビジネ ス	10 政策	11 国際	12 地域	13 人間	14 その他	無回答	合計
回答 者数 (人)	合計	633	623	708	417	657	425	512	610	700	435	614	646	1,165	94	815	9,054
	県内	389	407	462	322	483	279	375	467	552	371	500	523	898	65	575	6,668
	県外	244	216	246	95	174	146	137	143	148	64	114	123	267	29	240	2,386
構成比 (%)	合計	7.0	6.9	7.8	4.6	7.3	4.7	5.7	6.7	7.7	4.8	6.8	7.1	12.9	1.0	9.0	100.0
	県内	5.8	6.1	6.9	4.8	7.2	4.2	5.6	7.0	8.3	5.6	7.5	7.8	13.5	1.0	8.6	100.0
	県外	10.2	9.1	10.3	4.0	7.3	6.1	5.7	6.0	6.2	2.7	4.8	5.2	11.2	1.2	10.1	100.0

問7 進学希望地域 ※問5で1～4を回答した回答者のみ回答

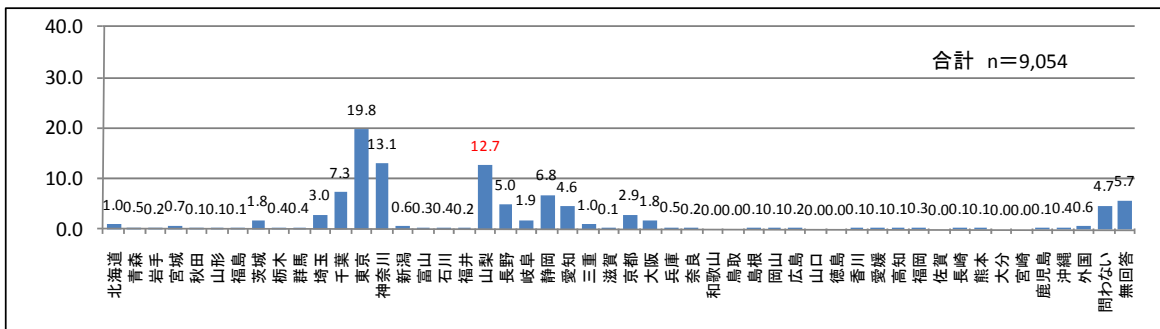
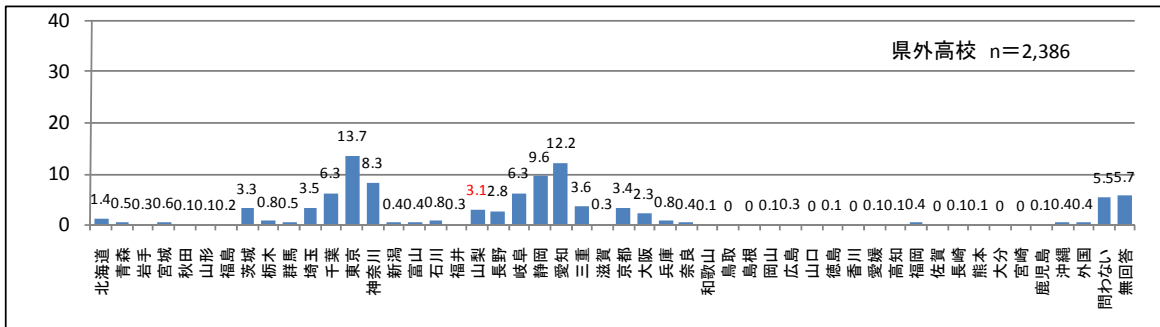
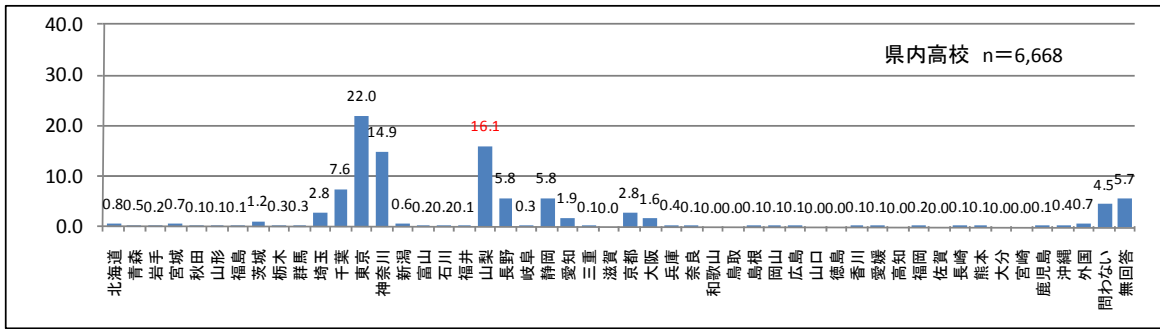
高校卒業後の進路希望（問5）において「大学進学」、「短期大学進学」、「高等専門学校進学」又は「専修学校（専門学校）進学」を回答した回答者の進学希望地域について見ると、県内高校の回答者の第1希望については「東京」が35.8%で最も多く、次いで「山梨」33.4%であり、この2都県に集中している。第2希望については「東京」が22.0%で最も多く、次いで「山梨」16.1%、「神奈川」14.9%となっている。

県外高校の回答者について見ると、第1希望では「愛知」が21.7%で最も多く、次いで「東京」19.4%、「静岡」12.9%であり、第2希望については「東京」13.7%、「愛知」12.2%「静岡」9.6%などとなっている。

【第1希望】（上段：県内高校、中段：県外高校、下段：県内高校+県外高校）



【第2希望】（上段：県内高校、中段：県外高校、下段：県内高校＋県外高校）



【第1希望】

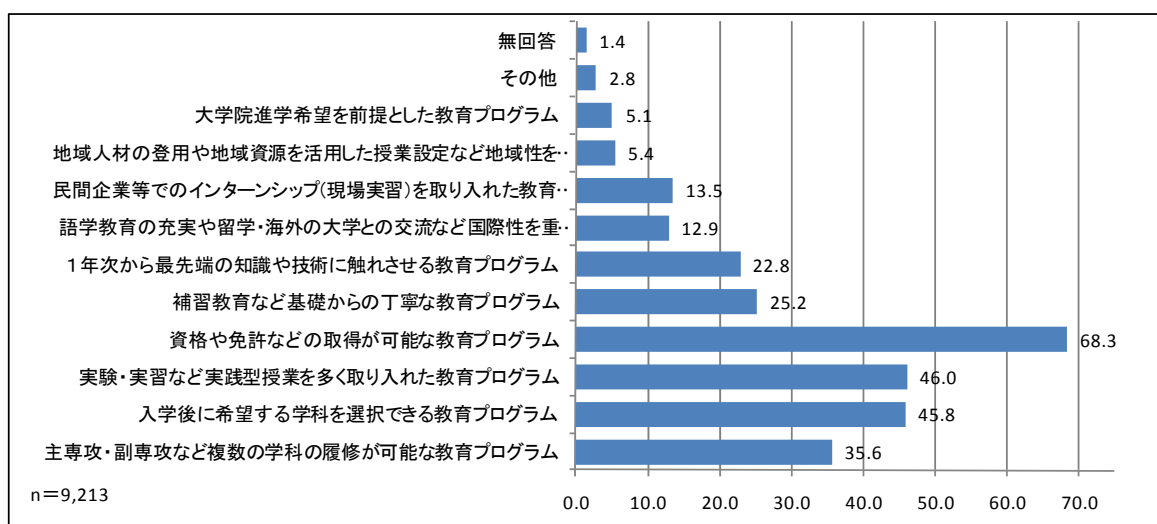
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
		北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	
回答者数 (人)	合計	7	19	9	100	10	7	10	285	19	23	138	397	2,850	491	40	23	28	3	2,256	220	
	県内	67	15	5	67	6	2	3	100	10	14	98	274	2,388	385	25	16	8	1	2,229	126	
	県外	33	4	4	33	4	5	7	185	9	9	40	123	462	106	15	7	20	2	27	94	
構成比 (%)	合計	1.1	0.2	0.1	1.1	0.1	0.1	0.1	3.1	0.2	0.3	1.5	4.4	31.5	5.4	0.4	0.3	0.3	0.0	24.9	2.4	
	県内	1.0	0.2	0.1	1.0	0.1	0.0	0.0	1.5	0.1	0.2	1.5	4.1	35.8	5.8	0.4	0.2	0.1	0.0	33.4	1.9	
	県外	1.4	0.2	0.2	1.4	0.2	0.2	0.3	7.8	0.4	0.4	1.7	5.2	19.4	4.4	0.6	0.3	0.8	0.1	1.1	3.9	
		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
		岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	
回答者数 (人)	合計	82	497	580	41	8	133	54	31	13	1	2	2	5	7	4	1	0	0	0	8	
	県内	11	190	62	1	3	91	32	17	9	1	2	0	2	6	1	1	0	0	0	5	
	県外	71	307	518	40	5	42	22	14	4	0	0	2	3	1	3	0	0	0	0	3	
構成比 (%)	合計	0.9	5.5	6.4	0.5	0.1	1.5	0.6	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
	県内	0.2	2.8	0.9	0.0	0.0	1.4	0.5	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
	県外	3.0	12.9	21.7	1.7	0.2	1.8	0.9	0.6	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
		41	42	43	44	45	46	47	48	49	無回答		合計									
		佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	外国	問わない												
回答者数 (人)	合計	2	0	3	0	2	0	16	20	326	188	9,054										
	県内	0	0	3	0	2	0	14	15	226	135	6,668										
	県外	2	0	0	0	0	0	2	5	100	53	2,386										
構成比 (%)	合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	3.6	2.1	100.0										
	県内	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	3.4	2.0	100.0										
	県外	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	4.2	2.2	100.0										

【第2希望】

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
		北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	
回答者数 (人)	合計	87	42	19	61	8	13	13	159	38	35	270	659	1,797	1,190	50	25	35	14	1,151	453	
	県内	54	31	13	47	6	10	9	81	19	23	186	508	1,469	992	40	15	15	8	1,076	387	
	県外	33	11	6	14	2	3	4	78	19	12	84	151	328	198	10	10	20	6	75	66	
構成比 (%)	合計	1.0	0.5	0.2	0.7	0.1	0.1	0.1	1.8	0.4	0.4	3.0	7.3	19.8	13.1	0.6	0.3	0.4	0.2	12.7	5.0	
	県内	0.8	0.5	0.2	0.7	0.1	0.1	0.1	1.2	0.3	0.3	2.8	7.6	22.0	14.9	0.6	0.2	0.2	0.1	16.1	5.8	
	県外	1.4	0.5	0.3	0.6	0.1	0.1	0.2	3.3	0.8	0.5	3.5	6.3	13.7	8.3	0.4	0.4	0.8	0.3	3.1	2.8	
		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
		岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	
回答者数 (人)	合計	168	613	414	90	10	266	160	43	18	3	4	6	9	17	1	3	5	8	5	23	
	県内	17	385	124	4	2	186	106	25	9	0	3	5	6	9	1	1	4	6	2	13	
	県外	151	228	290	86	8	80	54	18	9	3	1	1	3	8	0	2	1	2	3	10	
構成比 (%)	合計	1.9	6.8	4.6	1.0	0.1	2.9	1.8	0.5	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.3	
	県内	0.3	5.8	1.9	0.1	0.0	2.8	1.6	0.4	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	
	県外	6.3	9.6	12.2	3.6	0.3	3.4	2.3	0.8	0.4	0.1	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.4	
		41	42	43	44	45	46	47	48	49	無回答		合計									
		佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	外国	問わない												
回答者数 (人)	合計	2	9	7	2	3	9	36	58	429	514	9,054										
	県内	1	6	5	1	2	6	26	49	298	377	6,668										
	県外	1	3	2	1	1	3	10	9	131	137	2,386										
構成比 (%)	合計	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.4	0.6	4.7	5.7	100.0										
	県内	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.4	0.7	4.5	5.7	100.0										
	県外	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.4	0.4	5.5	5.7	100.0										

問8 大学を選ぶ際に重視すること（3つまでの複数回答）

大学を選ぶ際に重視することについては、「資格や免許などの取得が可能な教育プログラム」が68.3%で最も多く、回答した高校生の7割は資格や免許の有無に高い関心を持っている。次いで多いのは「実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム」46.0%、「入学後に希望する学科を選択できる教育プログラム」45.8%、「主専攻・副専攻など複数の学科の履修が可能な教育プログラム」35.6%であり、座学中心の教育ではなく実験や実習など実際に見たり触ったりする実践的・体験的な教育への関心が比較的高いことや、入学段階で特定の分野を選択するのではなく入学してから分野を選んだり複数の分野を学べるシステムを望む高校生が比較的多いことが伺える。

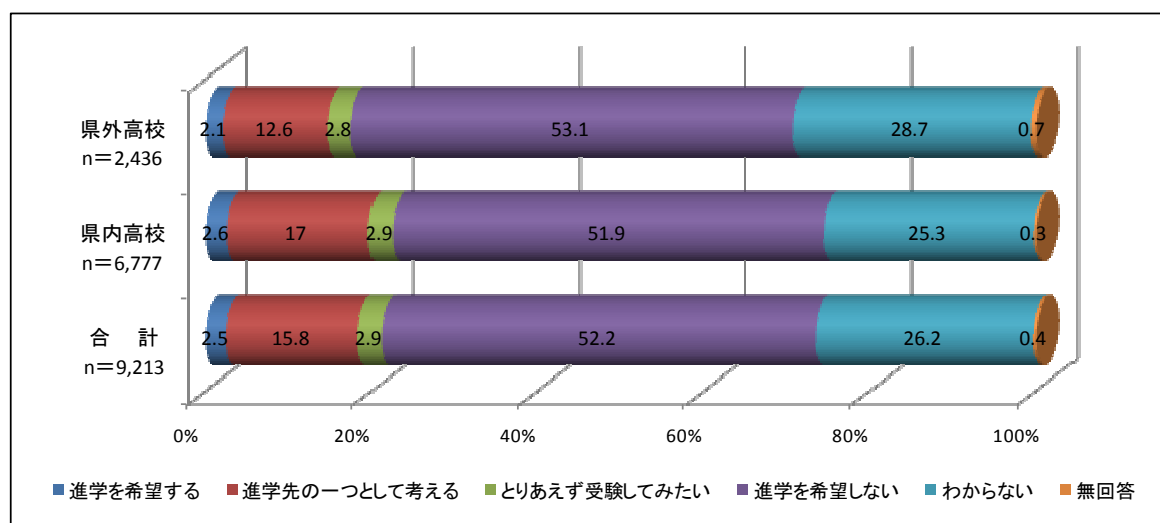


		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計	
		主専攻・副専攻など複数の学科の履修が可能な教育プログラム	入学後に希望する学科を選択できる教育プログラム	実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム	資格や免許などの取得が可能な教育プログラム	補習教育など基礎からの丁寧な教育プログラム	1年次から最先端の知識や技術に触れさせる教育プログラム	語学教育の充実や留学・海外の大学との交流など国際性を重視した教育プログラム	民間企業等でのインターンシップ(現場実習)を取り入れた教育プログラム	地域人材の登用や地域資源を活用した授業設定など地域性を重視した教育プログラム	大学院進学希望を前提とした教育プログラム	その他		延数	実数
回答者数 (人)	合計	3,283	4,217	4,237	6,294	2,326	2,101	1,191	1,240	495	471	257	127	26,239	9,213
	県内	2,476	3,177	2,959	4,667	1,727	1,509	957	946	371	318	159	77	19,343	6,777
	県外	807	1,040	1,278	1,627	599	592	234	294	124	153	98	50	6,896	2,436
構成比 (%)	合計	35.6	45.8	46.0	68.3	25.2	22.8	12.9	13.5	5.4	5.1	2.8	1.4	284.8	100.0
	県内	36.5	46.9	43.7	68.9	25.5	22.3	14.1	14.0	5.5	4.7	2.3	1.1	285.4	100.0
	県外	33.1	42.7	52.5	66.8	24.6	24.3	9.6	12.1	5.1	6.3	4.0	2.1	283.1	100.0

### 問9 新学部への進学希望

新学部(生命環境学部(仮称))への進学希望について見ると、「進学を希望する」は2.5%、「進学先の一つとして考える」は15.8%、「とりあえず受験してみたい」は2.9%であり、これらを合計すると回答者の21.2%は新学部を受験する可能性があると考えられる。

県内外別に見ると、県内高校の方が県外高校よりも新学部への進学にやや高い関心を示しているが、それほど大きな差は見られない。

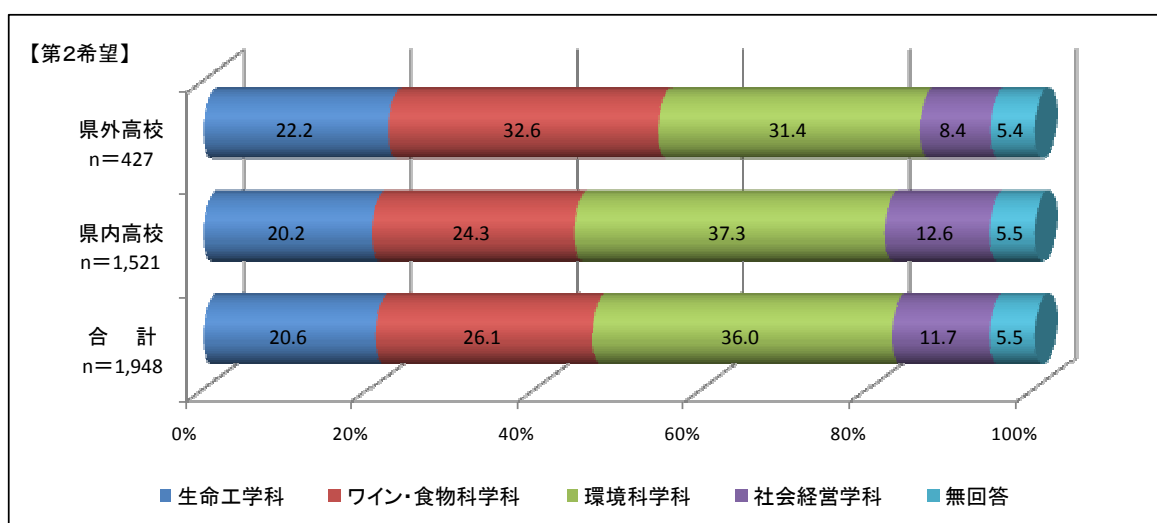
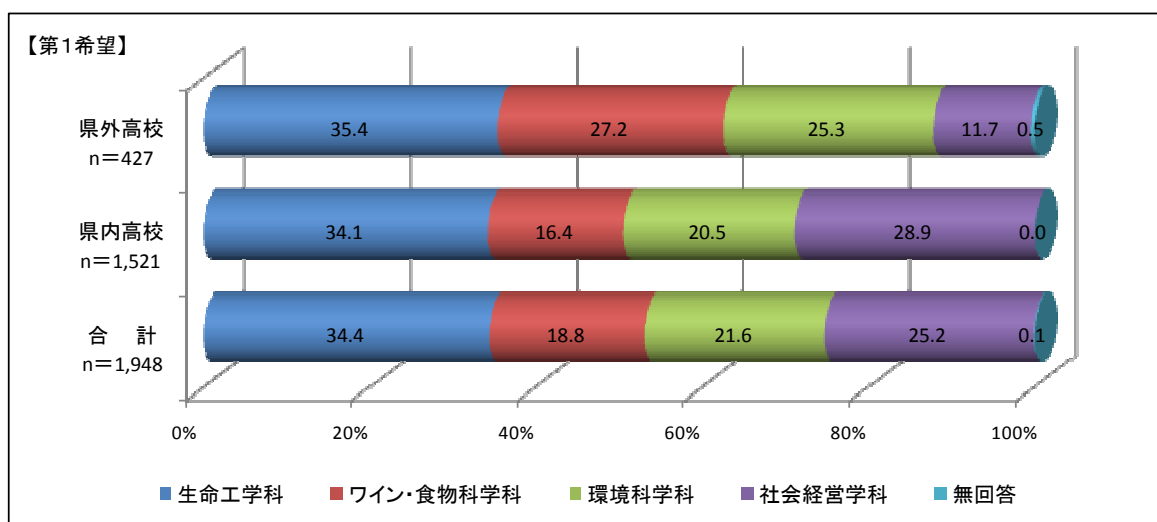


		1 進学を希望する	2 進学先の一つとして考える	3 とりあえず受験してみたい	4 進学を希望しない	5 わからない	無回答	合計
回答者数(人)	合計	226	1,455	267	4,813	2,411	41	9,213
	県内	174	1,149	198	3,520	1,713	23	6,777
	県外	52	306	69	1,293	698	18	2,436
構成比(%)	合計	2.5	15.8	2.9	52.2	26.2	0.4	100.0
	県内	2.6	17.0	2.9	51.9	25.3	0.3	100.0
	県外	2.1	12.6	2.8	53.1	28.7	0.7	100.0

問 10（1） 進学希望学科 ※問 9 で 1～3 を回答した回答者のみ回答

新学部への進学希望（問 9）において「進学を希望する」、「進学先の一つとして考える」又は「とりあえず受験してみたい」を回答した回答者の進学希望学科について見ると、第 1 希望では「生命工学科」が 34.4% で最も多く約 3 分の 1 を占めており、県内外別に見てもほぼ同様の傾向を示している。次いで多いのは「社会経営学科」25.2% であり、特に県内高校において高い割合を示している（県内高校 28.9%、県外高校 11.7%）。また、「環境科学科」は 21.6%、「ワイン・食物科学科」は 18.8% であり、どちらも県外高校の方が県内高校よりも回答割合が高く、特に「ワイン・食物科学科」については県外高校で 27.2% と県外高校では 2 番目に多い結果となっている。

第 2 希望については「環境科学科」が 36.0% で最も多く、次いで「ワイン・食物科学科」26.1%、「生命工学科」20.6%、「社会経営学科」11.7% となっている。





【第1希望】

		1 生命工学科	2 ワイン・食物科 学科	3 環境科学科	4 社会経営学科	無回答	合計
回答者数(人)	合計	670	366	420	490	2	1,948
	県内	519	250	312	440	0	1,521
	県外	151	116	108	50	2	427
構成比(%)	合計	34.4	18.8	21.6	25.2	0.1	100.0
	県内	34.1	16.4	20.5	28.9	0.0	100.0
	県外	35.4	27.2	25.3	11.7	0.5	100.0

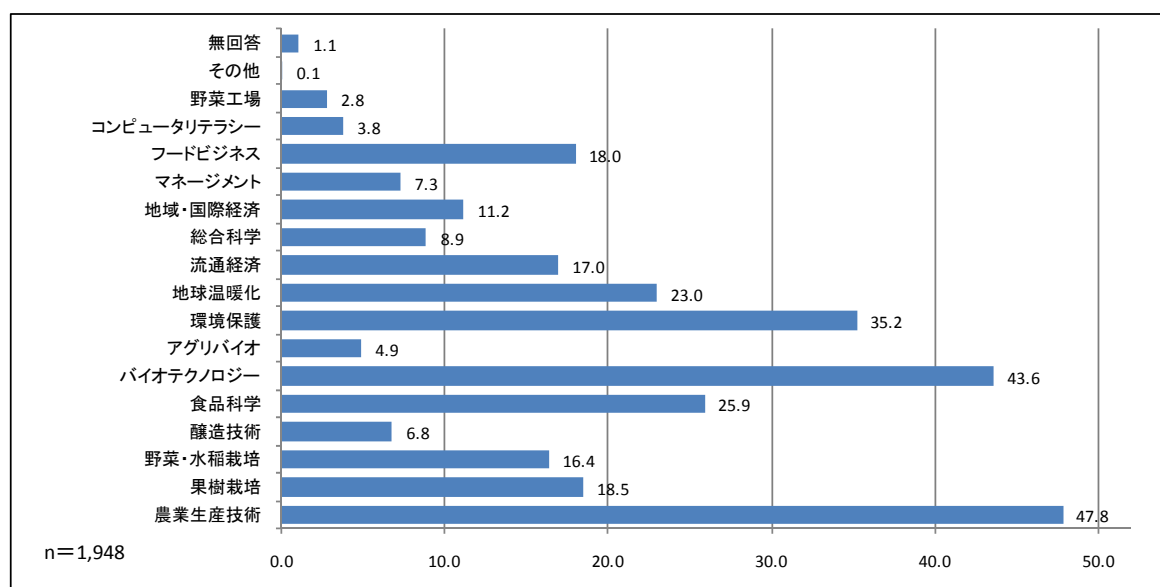
【第2希望】

		1 生命工学科	2 ワイン・食物科 学科	3 環境科学科	4 社会経営学科	無回答	合計
回答者数(人)	合計	402	509	702	228	107	1,948
	県内	307	370	568	192	84	1,521
	県外	95	139	134	36	23	427
構成比(%)	合計	20.6	26.1	36.0	11.7	5.5	100.0
	県内	20.2	24.3	37.3	12.6	5.5	100.0
	県外	22.2	32.6	31.4	8.4	5.4	100.0

問10(2) 農学を学ぶ上で将来必要なこと(3つまでの複数回答)

※問9で1~3を回答した回答者のみ回答

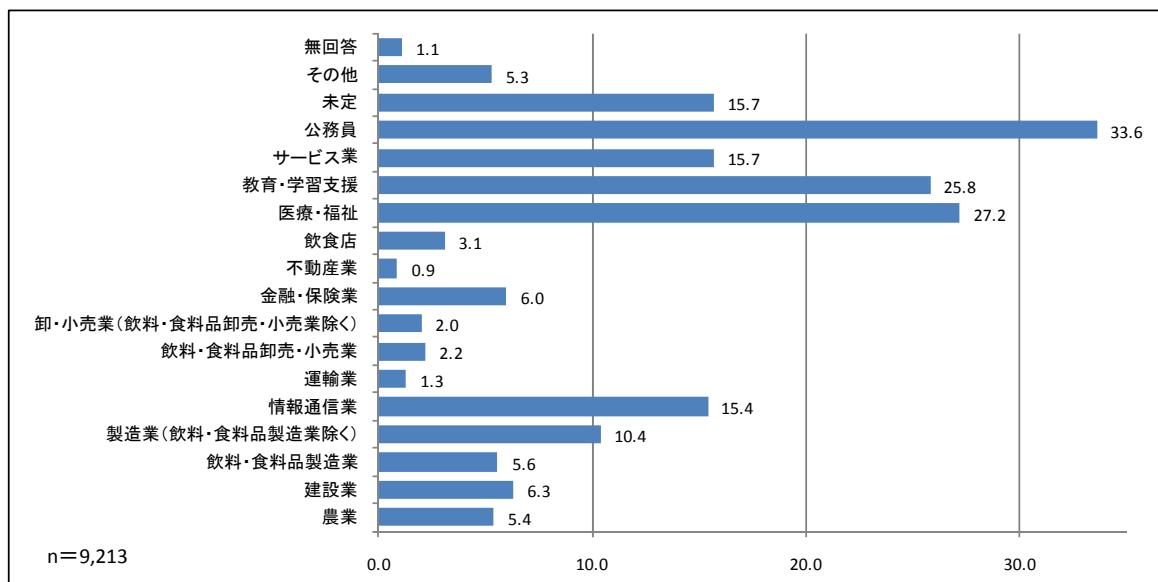
新学部への進学希望(問9)において「進学を希望する」、「進学先の一つとして考える」又は「とりあえず受験してみたい」を回答した回答者に対して、農学を学ぶ上で将来必要なことについて尋ねたところ、「農業生産技術」が47.8%で最も多く、次いで「バイオテクノロジー」43.6%、「環境保護」35.2%、「食品科学」25.9%などの回答が多くなっている。



		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
		農業生産技術	果樹栽培	野菜・水稲栽培	醸造技術	食品科学	バイオテクノロジー	アグリバイオ	環境保護	地球温暖化	流通経済	総合科学	地域・国際経済	マネージメント	フードビジネス	コンピュータリテラシー	野菜工場	その他		延数	実数
回答者数 (人)	合計	931	361	320	133	504	849	95	686	449	332	174	219	143	351	74	55	2	22	5,700	1,948
	県内	743	292	247	110	384	648	61	549	353	274	144	180	110	262	58	44	2	10	4,471	1,521
	県外	188	69	73	23	120	201	34	137	96	58	30	39	33	89	16	11	0	12	1,229	427
構成比 (%)	合計	47.8	18.5	16.4	6.8	25.9	43.6	4.9	35.2	23.0	17.0	8.9	11.2	7.3	18.0	3.8	2.8	0.1	1.1	292.6	100.0
	県内	48.8	19.2	16.2	7.2	25.2	42.6	4.0	36.1	23.2	18.0	9.5	11.8	7.2	17.2	3.8	2.9	0.1	0.7	294.0	100.0
	県外	44.0	16.2	17.1	5.4	28.1	47.1	8.0	32.1	22.5	13.6	7.0	9.1	7.7	20.8	3.7	2.6	0.0	2.8	287.8	100.0

### 問 11 就職希望の業種（2つまでの複数回答）

就職希望業種について見ると、「公務員」が 33.6%で最も多く、回答者の約3分の1は将来公務員になることを考えている。次いで多いのは「医療・福祉」27.2%、「教育・学習支援」25.8%、「サービス業」15.7%、「情報通信」15.4%などとなっている。



		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
		農業	建設業	飲料・食料品製造業	製造業(飲料・食料品製造業除く)	情報通信業	運輸業	飲料・食料品卸売・小売業	卸・小売業(飲料・食料品卸売・小売業除く)	金融・保険業	不動産業	飲食店	医療・福祉	教育・学習支援	サービス業	公務員	未定	その他		延数	実数
回答者数 (人)	合計	493	584	518	961	1,421	119	207	188	551	83	285	2,510	2,376	1,449	3,094	1,443	491	100	16,873	9,213
	県内	297	370	298	593	962	83	144	158	429	67	209	1,815	1,846	1,176	2,439	1,101	377	67	12,431	6,777
	県外	196	214	220	368	459	36	63	30	122	16	76	695	530	273	655	342	114	33	4,442	2,436
構成比 (%)	合計	5.4	6.3	5.6	10.4	15.4	1.3	2.2	2.0	6.0	0.9	3.1	27.2	25.8	15.7	33.6	15.7	5.3	1.1	183.1	100.0
	県内	4.4	5.5	4.4	8.8	14.2	1.2	2.1	2.3	6.3	1.0	3.1	26.8	27.2	17.4	36.0	16.2	5.6	1.0	183.4	100.0
	県外	8.0	8.8	9.0	15.1	18.8	1.5	2.6	1.2	5.0	0.7	3.1	28.5	21.8	11.2	26.9	14.0	4.7	1.4	182.3	100.0

(2) 高校生クロス集計

- 学部・学科別分類（問6（1））の第1希望、第2希望、第3希望で「農学関係」を回答した回答者の学部・学科別分類（問6（1））の第1希望、第2希望、第3希望

問6（1）×問6（1）

学部・学科別分類の第1希望で「農学関係」を選択した回答者の第2希望、第3希望の回答をみると、「理学関係」を回答する回答者が比較的多く、第2希望では約3人に1人（30.7%）、第3希望まで含めると2人に1人（48.7%）が「理学関係」を回答している。また、理学関係以外では「工学関係」、「保健関係」、「医学・歯学・薬学関係」などの回答も比較的多く、第3希望まで合わせると、いずれも4人に1人がこれらの分野を回答している。

同様に、第2希望もしくは第3希望で「農学関係」を回答した回答者の回答を見ると、第2希望で「農学関係」を回答した回答者の3割（31.1%）は第1希望で「工学関係」を回答しており、2割（22.7%）は「理学関係」を回答している。また、第3希望で「農学関係」を回答した回答者の第1希望、第2希望の回答を見ると、第1希望では「工学関係」が4割（41.6%）、第2希望では「理学関係」が4割（42.6%）となっている。

以上のことから、「農学関係」を希望する回答者は同時に「工学関係」あるいは「理学関係」を希望する傾向が強いことが分かる。

問6(1)学部・学科別分類の第1希望で「農学関係」を回答した回答者(345人)の第2希望、第3希望

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
		文学 関係 (史 学・哲 学含 む)	外国語 関係	心理学 関係	法学・ 政治学 関係	商学・ 経済 学・経 営学関 係	社会 学・社 会福祉 学関係	国際関 係学関 係	理学関 係	工学関 係	農学関 係	医学・ 歯学・ 薬学関 係	保健関 係 (看護・ 理学療 法・作 業療法 等)	家政学 関係	教員養 成・教 育学・ 保育学 関係	芸術学 関係	総合科 学関係	その他			
回答 者数 (人)	第2 希望	5	6	13	3	7	2	2	106	57	0	36	49	12	18	7	5	4	13	345	
	第3 希望	13	9	21	3	15	4	6	62	29	1	50	39	5	35	14	11	1	27	345	
構成比 (%)	第2 希望	1.4	1.7	3.8	0.9	2.0	0.6	0.6	30.7	16.5	0.0	10.4	14.2	3.5	5.2	2.0	1.4	1.2	3.8	100.0	
	第3 希望	3.8	2.6	6.1	0.9	4.3	1.2	1.7	18.0	8.4	0.3	14.5	11.3	1.4	10.1	4.1	3.2	0.3	7.8	100.0	

問6(1)学部・学科別分類の第2希望で「農学関係」を回答した回答者(463人)の第1希望、第3希望

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計
		文学関係 (史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係 (看護・理学療法・作業療法等)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他		
回答者数 (人)	第1希望	5	1	3	2	10	1	2	105	144	0	55	50	37	25	9	4	10	0	463
	第3希望	8	12	25	9	28	12	4	108	43	0	47	41	7	47	25	24	2	21	463
構成比 (%)	第1希望	1.1	0.2	0.6	0.4	2.2	0.2	0.4	22.7	31.1	0.0	11.9	10.8	8.0	5.4	1.9	0.9	2.2	0.0	100.0
	第3希望	1.7	2.6	5.4	1.9	6.0	2.6	0.9	23.3	9.3	0.0	10.2	8.9	1.5	10.2	5.4	5.2	0.4	4.5	100.0

問6(1)学部・学科別分類の第3希望で「農学関係」を回答した回答者(632人)の第1希望、第2希望

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計
		文学関係 (史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係 (看護・理学療法・作業療法等)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他		
回答者数 (人)	第1希望	15	3	10	5	16	5	2	105	263	1	74	52	16	47	10	1	7	0	632
	第2希望	9	4	22	15	30	14	3	269	106	0	40	47	11	36	14	9	3	0	632
構成比 (%)	第1希望	2.4	0.5	1.6	0.8	2.5	0.8	0.3	16.6	41.6	0.2	11.7	8.2	2.5	7.4	1.6	0.2	1.1	0.0	100.0
	第2希望	1.4	0.6	3.5	2.4	4.7	2.2	0.5	42.6	16.8	0.0	6.3	7.4	1.7	5.7	2.2	1.4	0.5	0.0	100.0

■ 学部・学科別分類（問6（1））の第1希望から第3希望で「農学関係」を回答した回答者のキーワード別分類（問6（2））の回答 問6（1）×問6（2）

学部学科別分類の第1希望において「農学関係」を回答した回答者のキーワード別分類における第1希望から第3希望の回答を見ると、「農学」、「生命科学」、「環境【自然系】」などを回答する回答者が比較的多くなっている。

問6(1)学部・学科別分類の第1希望で「農学関係」を回答した回答者(345人)の(2)キーワード別分類の回答

		1 生命科学	2 農学	3 環境 【自然系】	4 環境 【人文・社会系】	5 健康	6 先端医療	7 情報	8 デザイン	9 ビジネス	10 政策	11 国際	12 地域	13 人間	14 その他	無回答	合計
回答者数 (人)	第1希望	94	150	71	1	11	3	0	3	0	0	0	0	0	12	0	345
	第2希望	92	118	50	11	23	15	5	7	2	0	1	1	11	3	6	345
	第3希望	57	33	90	14	38	31	12	12	4	3	9	4	20	0	18	345
構成比 (%)	第1希望	27.2	43.5	20.6	0.3	3.2	0.9	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	0.0	100.0
	第2希望	26.7	34.2	14.5	3.2	6.7	4.3	1.4	2.0	0.6	0.0	0.3	0.3	3.2	0.9	1.7	100.0
	第3希望	16.5	9.6	26.1	4.1	11.0	9.0	3.5	3.5	1.2	0.9	2.6	1.2	5.8	0.0	5.2	100.0

■ キーワード別分類（問6（2））の第1希望で「生命科学」、「農学」、「環境【自然系】」及び「ビジネス」を回答した回答者の学部・学科別分類（問6（1））の第1希望

問6（2）×問6（1）

キーワード別分類の第1希望において「生命科学」、「農学」、「環境【自然系】」を回答した回答者の学部・学科別分類における第1希望を見ると、キーワードで「農学」を回答した回答者については7割近くが「農学関係」（67.9%）を回答している。「生命科学」を回答した回答者については「理学関係」が32.2%で最も多く、次いで「工学関係」24.0%、「農学関係」13.8%の順に多く、「環境【自然系】」を回答した回答者については「工学関係」42.6%、「理学関係」30.3%、「農学関係」13.5%の順になっている。

このことから、キーワードで「農学」をイメージする回答者は「農学関係」の学部・学科を第1希望に考えているが、「生命科学」や「環境【自然系】」をキーワードにイメージする回答者は、最初に「工学関係」あるいは「理学関係」をまずは希望し、その次に「農学関係」を希望する傾向にあると言えよう。

また、キーワード別選択の第1希望で「ビジネス」を回答した回答者の回答を見ると、75.0%の回答者が「商学・経済学・経営学関係」を第1希望に選択しており、「農学関係」を回答したものは一人もいない。

問6(2)キーワード別分類(第1希望)で「生命科学」「農学」「環境【自然系】」「ビジネス」を回答した回答者の(1)学部・学科別分類の回答(第1希望)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計
		文学 関係 (史 学・哲 学含 む)	外国語 関係	心理学 関係	法学・ 政治学 関係	商学・ 経済 学・経 営学関 係	社会 学・社 会福祉 学関係	国際関 係学関 係	理学関 係	工学関 係	農学関 係	医学・ 歯学・ 薬学関 係	保健関 係 (看護・ 理学療 法・作 業療法 等)	家政学 関係	教員養 成・教 育学・ 保育学 関係	芸術学 関係	総合科 学関係	その他		
回答 者数 (人)	生命科学	38	4	9	6	3	3	1	219	163	94	79	25	1	26	1	2	6	0	680
	農学	8	1	5	1	2	0	0	19	13	150	6	3	1	7	0	0	5	0	221
	環境【自然系】	8	1	4	3	5	3	1	159	223	71	6	8	1	19	0	6	6	0	524
	ビジネス	32	5	2	37	454	11	1	13	26	0	4	4	2	9	3	1	1	0	605
構成 比 (%)	生命科学	5.6	0.6	1.3	0.9	0.4	0.4	0.1	32.2	24.0	13.8	11.6	3.7	0.1	3.8	0.1	0.3	0.9	0.0	100.0
	農学	3.6	0.5	2.3	0.5	0.9	0.0	0.0	8.6	5.9	67.9	2.7	1.4	0.5	3.2	0.0	0.0	2.3	0.0	100.0
	環境【自然系】	1.5	0.2	0.8	0.6	1.0	0.6	0.2	30.3	42.6	13.5	1.1	1.5	0.2	3.6	0.0	1.1	1.1	0.0	100.0
	ビジネス	5.3	0.8	0.3	6.1	75.0	1.8	0.2	2.1	4.3	0.0	0.7	0.7	0.3	1.5	0.5	0.2	0.2	0.0	100.0

■ 学部・学科別分類（問6（1））の第1希望で「農学関係」を回答した回答者の進学希望地域（問7）（第1希望） 問6（1）×問7

学部・学科別分類で「農学関係」を第1希望に回答した回答者の進学希望地域を見ると、山梨県内居住者については「東京」が39.6%で最も多く、次いで「山梨」18.1%となっている。山梨県以外の都県居住者については、概ね自分の居住する都県内もしくは東京都（岐阜県居住者について愛知県）への進学希望比率が高く、地元もしくは大都市圏を希望する回答者が多くなっている。

問6(1)学部・学科別分類の第1希望で「農学関係」を回答した回答者(345人)の問7進学希望地域(第1希望)

都県	進学希望地域の上位都道府県
山梨県<144人>	東京(39.6%)／山梨(18.1%)／問わない(9.7%)／北海道(5.6%)／長野(4.9%)／茨城(3.5%)等
静岡県<63人>	静岡(27.0%)／東京(22.2%)／北海道・問わない(9.5%)／宮城・愛知(6.3%)／岩手(3.2%)等
愛知県<41人>	愛知(41.5%)／静岡(17.1%)／岐阜(14.6%)／東京(7.3%)／千葉(4.9%)等
長野県<19人>	長野(36.8%)／東京(31.6%)／千葉(10.5%)／岩手・秋田・新潟(5.3%)
岐阜県<25人>	岐阜(36.0%)／愛知(32.0%)／北海道・東京(8.0%)／長野・滋賀・京都(4.0%)
三重県<11人>	三重(72.7%)／茨城・静岡・京都(9.1%)
茨城県<34人>	茨城(50.0%)／東京(17.6%)／神奈川(11.8%)／栃木・千葉・問わない(5.9%)
千葉県<5人>	東京(80.0%)／千葉(20.0%)
東京都<2人>	東京(100.0%)
その他<1人>	北海道(100.0%)
合計<345人>	東京(27.2%)／静岡・愛知(8.7%)／山梨(7.8%)／茨城(7.0%)／問わない(6.4%)等



- キーワード別分類（問6（2））の第1希望で「生命科学」、「農学」、「環境【自然系】」、「ビジネス」を回答した回答者の進学希望地域（問7）（第1希望）

**問6（2）×問7**

キーワード別分類において「生命科学」を第1希望に回答した回答者の第1希望の進学希望地域を見ると、山梨県内居住者については「山梨」32.2%と「東京」30.3%がほぼ同数を占めている。他の都県居住者については、自分の居住する都県内を第1希望にあげる回答者が多くなっている。

問6(2)キーワード別分類の第1希望で「生命科学」を回答した回答者(680人)の問7進学希望地域(第1希望)

都県	進学希望地域の上位都道府県
山梨県<435人>	山梨(32.2%)／東京(30.3%)／北海道(5.3%)／問わない(5.1%)／静岡(4.8%)／茨城(3.0%)等
静岡県<70人>	静岡(25.7%)／東京(17.1%)／宮城・問わない(10.0%)／愛知(7.1%)／北海道・千葉(4.3%)等
愛知県<62人>	愛知(53.2%)／東京・静岡(8.1%)／北海道・問わない(6.5%)／岐阜(4.8%)等
長野県<27人>	長野(40.7%)／東京(22.2%)／山梨(7.4%)等
岐阜県<30人>	岐阜(30.0%)／愛知(20.0%)／長野(13.3%)／北海道・東京・京都・大阪(8.0%)等
三重県<8人>	愛知(87.5%)／静岡(12.5%)
茨城県<29人>	茨城(44.8%)／東京(27.6%)／千葉(10.3%)／北海道(6.9%)等
千葉県<15人>	東京(60.0%)／千葉(40.0%)
東京都<4人>	東京(75.5%)／千葉(25.0%)
その他<0人>	—
合計<680人>	東京(26.0%)／山梨(21.3%)／愛知(8.7%)／静岡(6.6%)／北海道・問わない(5.1%)等

同様に、「農学」を第1希望に回答した回答者の第1希望の進学希望地域を見ると、山梨県内居住者については「東京」が36.2%で最も多く、次いで「山梨」25.9%となっている。他の都県居住者については、自分の居住する都県内を第1希望にあげる回答者が比較的多い。

問6(2)キーワード別分類の第1希望で「農学」を回答した回答者(221人)の問7進学希望地域(第1希望)

都県	進学希望地域の上位都道府県
山梨県<116人>	東京(36.2%)／山梨(25.9%)／千葉(6.9%)／問わない(6.0%)／神奈川(3.4%)等
静岡県<33人>	静岡(30.3%)／東京(21.2%)／問わない(12.1%)／北海道・宮城・神奈川・長野・愛知(6.1%)等
愛知県<19人>	愛知(57.9%)／岐阜(15.8%)／茨城・千葉・東京・静岡・三重(5.3%)
長野県<9人>	長野(33.3%)／東京(22.2%)／岩手・千葉・新潟(11.1%)
岐阜県<15人>	岐阜(33.3%)／愛知(26.7%)／東京(13.3%)／北海道・千葉・神奈川・滋賀(6.7%)
三重県<4人>	三重(50.0%)／茨城・静岡(25.0%)
茨城県<19人>	茨城(52.6%)／栃木・千葉・神奈川・問わない(10.5%)／東京(5.3%)
千葉県<1人>	東京(100.0%)
東京都<4人>	東京(100.0%)
その他<1人>	北海道(100.0%)
合計<221人>	東京(27.1%)／山梨(13.6%)／愛知(7.7%)／茨城・千葉・静岡・問わない(5.9%)等

同様に、「環境【自然系】」を第1希望に回答した回答者の第1希望の進学希望地域を見ると、山梨県内居住者については「山梨」が32.9%で最も多く、次いで「東京」26.8%となっている。他の都県居住者については、自分の居住する都県内を第1希望にあげる回答者が比較的多い。

問6(2)キーワード別分類の第1希望で「環境【自然系】」を回答した回答者(524人)の間7進学希望地域(第1希望)

都県	進学希望地域の上位都道府県
山梨県<313人>	山梨(32.9%)／東京(26.8%)／長野・問わない(5.8%)／神奈川(4.5%)／千葉(4.2%)等
静岡県<77人>	静岡(36.4%)／問わない(13.0%)／東京・愛知(7.8%)／宮城・茨城・神奈川(3.9%)等
愛知県<31人>	愛知(51.6%)／静岡(22.6%)／三重(6.5%)／青森・千葉・石川・岐阜・京都・問わない(3.2%)
長野県<20人>	東京(30.0%)／長野(25.0%)／石川・問わない(10.0%)／秋田・福島・千葉・山梨・愛知(5.0%)
岐阜県<26人>	愛知(38.5%)／岐阜(26.9%)／東京(7.7%)／北海道・青森・茨城・長野・京都・大阪・問わない(3.8%)
三重県<10人>	三重(70.0%)／愛知(20.0%)／京都(10.0%)
茨城県<35人>	茨城(60.0%)／東京(20.0%)／北海道・千葉・神奈川・島根・沖縄・問わない(2.9%)
千葉県<8人>	千葉(62.5%)／北海道・東京(12.5%)
東京都<4人>	東京(100.0%)
その他<0人>	—
合計<524人>	東京(21.0%)／山梨(20.6%)／静岡(8.6%)／愛知(7.4%)／茨城(6.7%)／問わない(6.3%)等

キーワード別分類において「ビジネス」を第1希望に回答した回答者の第1希望の進学希望地域を見ると、山梨県内居住者については「東京」が53.8%で最も多く、半数以上が回答している一方、「山梨」は14.7%にとどまっている。他の都県居住者についても、「東京」もしくは「愛知」とする回答が比較的多い。

問6(2)キーワード別分類の第1希望で「ビジネス」を回答した回答者(605人)の間7進学希望地域(第1希望)

都県	進学希望地域の上位都道府県
山梨県<498人>	東京(53.8%)／山梨(14.7%)／神奈川(11.2%)／千葉・静岡(3.2%)／問わない(3.0%)等
静岡県<22人>	東京(27.3%)／静岡(22.7%)／北海道・神奈川(13.6%)／千葉・愛知(9.1%)／三重(4.5%)
愛知県<17人>	愛知(64.7%)／問わない(11.8%)／埼玉・東京・岐阜・兵庫(5.9%)
長野県<23人>	東京(30.4%)／長野(17.4%)／神奈川・京都(8.7%)等
岐阜県<3人>	愛知(66.7%)／東京(33.3%)
三重県<4人>	愛知(50.0%)／東京・三重(25.0%)
茨城県<24人>	東京(33.3%)／茨城(20.8%)／埼玉・千葉(16.7%)／問わない(8.3%)／外国(4.2%)
千葉県<5人>	東京(60.0%)／千葉(62.5%)・神奈川(20.0%)
東京都<4人>	東京(88.9%)
その他<0人>	—
合計<605人>	東京(50.1%)／山梨(12.1%)／神奈川(10.2%)／静岡(3.5%)／埼玉(3.1%)等

以上のことから、山梨県内居住者については、キーワードとして「農学」を希望する回答者は山梨県内よりも東京を第1希望にあげる回答者が多く、キーワードとして「生命科学」や「環境【自然系】」を希望する回答者は東京よりも山梨県内を希望する比率が高いことが分かる。山梨県以外の都県居住者については、自分の居住する都県内を第1希望に考える回答者が多く、次いで東京や愛知などの大都市圏を希望する回答者が多い。

また、キーワードとして「ビジネス」を希望する回答者については、いずれの都県居住者とも東京や愛知などの大都市圏を第1希望に考える回答者が最も多く、次いで自分の居住する都県を希望する回答者が多い。したがって、地元志向よりも大都市志向が強いことが伺える。

■ 学部・学科別分類（問6（1））の第1希望で「農学」を回答した回答者及びキーワード別分類（問6（2））の第1希望で「生命科学」、「農学」、「環境【自然系】」、「ビジネス」を回答した回答者が大学を選ぶ際に重視すること（問8） 問6（1）（2）×問8

大学を選ぶ際に重視することについて、学部・学科別分類の進学希望分野（第1希望）において「農学関係」を回答した回答者、キーワード別分類の進学希望分野（第1希望）において「生命科学」、「農学」、「環境【自然系】」及び「ビジネス」を回答した回答者の回答を見ると、いずれも「資格や免許などの取得が可能な教育プログラム」を選択する回答者が多い。また、「入学後に希望する学科を選択できる教育プログラム」の回答比率も比較的高く、特に「生命科学」希望者と「ビジネス」希望者では5割以上が回答している。

進学希望分野別の違いとして特徴的なのは、「農学関係」、「生命科学」、「農学」、「環境【自然系】」を希望する回答者の6割近くが「実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム」を回答している一方、「ビジネス」希望者の同回答は2割強にとどまり傾向に違いが見られる。また、「生命科学」と「環境【自然系】」希望者では「1年次から最先端の知識や技術に触れさせる教育プログラム」の回答比率が他分野の希望者よりも10ポイントほど高い。さらに、「ビジネス」希望者については「主専攻・副専攻など複数の学科の履修が可能な教育プログラム」が4割以上に達しており、他の分野希望者よりもやや回答比率が高くなっている。

「農学関係」、「生命科学」、「農学」、「環境【自然系】」、「ビジネス」希望者が大学を選ぶ際に重視すること(複数回答)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計	
		主専攻・副専攻など複数の履修が可能な教育プログラム	入学後に希望する学科を選択できる教育プログラム	実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム	資格や免許などの取得が可能な教育プログラム	補習教育などの丁寧な教育プログラム	1年次から最先端の知識や技術に触れさせる教育プログラム	語学教育の充実や留学・海外の交流など国際性を重視した教育プログラム	民間企業等でのインターンシップ(現場実習)を取り入れた教育プログラム	地域人材の登用や地域資源を活用した授業設定など地域性を取り入れた教育プログラム	大学院進学希望を前提とした教育プログラム	その他		延数	実数
回答者数 (人)	農学関係※1	105	148	213	221	83	77	20	32	30	23	14	5	971	345
	生命科学	250	362	433	379	132	217	40	49	27	45	18	3	1,955	680
	農学※2	68	95	138	142	59	49	13	26	17	12	11	1	631	221
	環境【自然系】	189	240	292	303	139	169	33	46	40	40	15	4	1,510	524
	ビジネス	254	325	139	417	159	126	95	140	30	23	16	8	1,732	605
構成比 (%)	農学関係※1	30.4	42.9	61.7	64.1	24.1	22.3	5.8	9.3	8.7	6.7	4.1	1.4	281.4	100.0
	生命科学	36.8	53.2	63.7	55.7	19.4	31.9	5.9	7.2	4.0	6.6	2.6	0.4	287.5	100.0
	農学※2	30.8	43.0	62.4	64.3	26.7	22.2	5.9	11.8	7.7	5.4	5.0	0.5	285.5	100.0
	環境【自然系】	36.1	45.8	55.7	57.8	26.5	32.3	6.3	8.8	7.6	7.6	2.9	0.8	288.2	100.0
	ビジネス	42.0	53.7	23.0	68.9	26.3	20.8	15.7	23.1	5.0	3.8	2.6	1.3	286.3	100.0

※1 の「農学関係」は問6(1)学部学科別分類における「農学関係」回答者、※2 の「農学」は問6(2)キーワード別分類における「農学」回答者

■ 回答者の居住地別（問2）による新学部への進学希望（問9） 問2×問9

新学部への進学希望について、回答者の居住地別に回答を見ると、サンプル数の違いから一概に比較は出来ないが、「進学を希望する」の回答比率は愛知県居住者が3.4%で最も高く、次いで静岡県居住者2.9%、山梨県居住者2.6%、三重県居住者2.5%などとなっております。愛知県居住者及び静岡県居住者に関しては山梨県居住者を上回っている。また、「進学先の一つとして考える」や「とりあえず受験してみたい」という回答においても、愛知県居住者の回答比率は山梨県居住者と同水準にあり、静岡県居住者についても近い水準にある。以上のことから、新学部への進学希望者は、山梨県内のみならず愛知県や静岡県からも期待できると考えられる。

回答者の居住地別（問2）による新学部への進学希望（問9）

		1 進学を希望する	2 進学先の一つとして考える	3 とりあえず受験してみたい	4 進学を希望しない	5 わからない	無回答	合計
回答者数 (人)	山梨県	172	1,140	193	3,494	1,699	22	6,720
	静岡県	23	110	22	392	253	6	806
	愛知県	16	76	16	208	153	2	471
	長野県	1	43	9	193	86	4	336
	岐阜県	4	37	10	130	64	0	245
	三重県	2	9	2	41	23	2	79
	茨城県	5	22	13	237	87	2	366
	千葉県	2	12	2	62	17	1	96
	東京都	0	6	0	52	28	1	87
	その他	1	0	0	4	1	0	6
	無回答	0	0	0	0	0	1	1
	合計	226	1,455	267	4,813	2,411	41	9,213
	構成比 (%)	山梨県	2.6	17.0	2.9	52.0	25.3	0.3
静岡県		2.9	13.6	2.7	48.6	31.4	0.7	100.0
愛知県		3.4	16.1	3.4	44.2	32.5	0.4	100.0
長野県		0.3	12.8	2.7	57.4	25.6	1.2	100.0
岐阜県		1.6	15.1	4.1	53.1	26.1	0.0	100.0
三重県		2.5	11.4	2.5	51.9	29.1	2.5	100.0
茨城県		1.4	6.0	3.6	64.8	23.8	0.5	100.0
千葉県		2.1	12.5	2.1	64.6	17.7	1.0	100.0
東京都		0.0	6.9	0.0	59.8	32.2	1.1	100.0
その他		16.7	0.0	0.0	66.7	16.7	0.0	100.0
無回答		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
合計		2.5	15.8	2.9	52.2	26.2	0.4	100.0

■ 学部・学科別進学希望分野（問6（1））（第1希望）による新学部への進学希望（問9） 問6（1）×問9

新学部への進学希望に関して、学部・学科別の進学希望分野（第1希望）による回答を見ると、「農学関係」、「理学関係」、「工学関係」を希望する回答者については、新学部への進学や受験に積極的な回答が他分野希望者よりも多く、また、「商学・経済学・経営学関係」希望者に関しても、新学部への進学や受験に積極的な回答が他分野よりも多くなっている。

このほか、「文学関係」希望者において、「進学を希望する」が4.5%、「進学先の一つとして考える」が13.3%となっており、新学部の内容とは異なる分野を希望する回答者からも新学部への進学希望者がいることは注目される。

学部・学科別の進学希望分野(問6(1)第1希望)による新学部への進学希望(問9)

		1 進学を希望 する	2 進学先の一 つとして考 える	3 とりあえず 受験してみ たい	4 進学を希望 しない	5 わからない	無回答	合計
回 答 者 数 (人)	文学関係	28	82	18	331	156	1	616
	外国語関係	4	21	9	212	76	0	322
	心理学関係	3	32	7	139	64	0	245
	法学・政治学関係	7	32	15	244	91	1	390
	商学・経済学・経営学関係	20	146	25	329	172	2	694
	社会学・社会福祉学関係	3	36	4	116	51	0	210
	国際関係学関係	1	19	4	102	39	1	166
	理学関係	31	153	25	254	191	1	655
	工学関係	51	371	53	703	458	1	1,637
	農学関係	16	125	20	98	85	1	345
	医学・歯学・薬学関係	13	114	29	438	193	3	790
	保健関係	8	96	15	567	253	1	940
	家政学関係	3	41	8	143	77	0	272
	教員養成・教育学・保育学関係	31	143	28	695	315	2	1,214
	芸術学関係	2	16	1	193	78	0	290
	総合科学関係	0	3	2	13	11	0	29
	その他	1	16	2	132	47	2	200
構 成 比 (%)	文学関係	4.5	13.3	2.9	53.7	25.3	0.2	100.0
	外国語関係	1.2	6.5	2.8	65.8	23.6	0.0	100.0
	心理学関係	1.2	13.1	2.9	56.7	26.1	0.0	100.0
	法学・政治学関係	1.8	8.2	3.8	62.6	23.3	0.3	100.0
	商学・経済学・経営学関係	2.9	21.0	3.6	47.4	24.8	0.3	100.0
	社会学・社会福祉学関係	1.4	17.1	1.9	55.2	24.3	0.0	100.0
	国際関係学関係	0.6	11.4	2.4	61.4	23.5	0.6	100.0
	理学関係	4.7	23.4	3.8	38.8	29.2	0.2	100.0
	工学関係	3.1	22.7	3.2	42.9	28.0	0.1	100.0
	農学関係	4.6	36.2	5.8	28.4	24.6	0.3	100.0
	医学・歯学・薬学関係	1.6	14.4	3.7	55.4	24.4	0.4	100.0
	保健関係	0.9	10.2	1.6	60.3	26.9	0.1	100.0
	家政学関係	1.1	15.1	2.9	52.6	28.3	0.0	100.0
	教員養成・教育学・保育学関係	2.6	11.8	2.3	57.2	25.9	0.2	100.0
	芸術学関係	0.7	5.5	0.3	66.6	26.9	0.0	100.0
	総合科学関係	0.0	10.3	6.9	44.8	37.9	0.0	100.0
	その他	0.5	8.0	1.0	66.0	23.5	1.0	100.0

■ キーワード別進学希望分野（問6（2））（第1希望）による新学部への進学希望（問9） 問6（2）×問9

新学部への進学希望に関して、キーワード別の進学希望分野（第1希望）による回答を見ると、「生命科学」を希望する回答者においては「進学を希望する」が9.4%であり、他の分野よりも進学希望比率が高くなっている。また、「農学」、「環境【自然系】」を希望する回答者においても、新学部への進学や受験に積極的な回答が多く、「ビジネス」希望者に関しても、新学部への進学や受験に積極的な回答が比較的多く見られる。

キーワード別の進学希望分野(問6(2)第1希望)による新学部への進学希望(問9)

		1 進学を希望 する	2 進学先の一 つとして考 える	3 とりあえず 受験してみ たい	4 進学を希望 しない	5 わからない	無回答	合計
回 答 者 数 (人)	生命科学	64	178	34	222	182	0	680
	農学	10	81	12	65	53	0	221
	環境【自然系】	25	178	20	163	136	2	524
	環境【人文・社会系】	6	36	7	97	77	0	223
	健康	20	139	25	662	373	2	1221
	先端医療	9	117	25	467	194	2	814
	情報	24	197	38	496	321	1	1077
	デザイン	6	60	13	286	144	1	510
	ビジネス	17	125	22	291	148	2	605
	政策	5	31	10	174	55	0	275
	国際	9	53	12	392	136	2	604
	地域	2	29	8	86	54	0	179
	人間	18	182	30	901	355	1	1487
	その他	6	33	9	330	106	0	484
構 成 比 (%)	生命科学	9.4	26.2	5.0	32.6	26.8	0.0	100.0
	農学	4.5	36.7	5.4	29.4	24.0	0.0	100.0
	環境【自然系】	4.8	34.0	3.8	31.1	26.0	0.4	100.0
	環境【人文・社会系】	2.7	16.1	3.1	43.5	34.5	0.0	100.0
	健康	1.6	11.4	2.0	54.2	30.5	0.2	100.0
	先端医療	1.1	14.4	3.1	57.4	23.8	0.2	100.0
	情報	2.2	18.3	3.5	46.1	29.8	0.1	100.0
	デザイン	1.2	11.8	2.5	56.1	28.2	0.2	100.0
	ビジネス	2.8	20.7	3.6	48.1	24.5	0.3	100.0
	政策	1.8	11.3	3.6	63.3	20.0	0.0	100.0
	国際	1.5	8.8	2.0	64.9	22.5	0.3	100.0
	地域	1.1	16.2	4.5	48.0	30.2	0.0	100.0
	人間	1.2	12.2	2.0	60.6	23.9	0.1	100.0
	その他	1.2	6.8	1.9	68.2	21.9	0.0	100.0

■ 新学部への進学希望（問9）で「進学を希望する」、「進学先の一つとして考える」、「とりあえず受験したい」を回答した回答者の学部・学科別の進学希望分野（問6（1））（第1希望） **問9×問6（1）**

新学部への進学や受験に前向きな回答を示した回答者の学部・学科別による進学希望分野（第1希望）を見ると、「進学を希望する」を回答した回答者においては「工学関係」希望者が 22.6%で最も多く、「進学を希望する」とした回答者の4人に1人は「工学関係」を第1希望にあげた回答者となっている。工学関係以外では、「理学関係」と「教員養成・教育学・保育学関係」を第1希望に回答した回答者がともに 13.7%、「文学関係」を第1希望とした回答者が 12.4%を占めている。「農学関係」を第1希望とした回答者に関しては、「進学を希望する」回答者の7.1%である。

「進学先の一つとして考える」及び「とりあえず受験してみたい」を回答した回答者に関しては、いずれも「工学関係」を第1希望とする者が最も多く、次いで「理学関係」、「商学・経済学・経営学関係」、「教員養成・教育学・保育学関係」、「農学関係」などが比較的多くなっている。

問9新学部進学希望で「進学を希望する」「進学先の一つとして考える」「とりあえず受験してみたい」を回答した回答者の問6(1)学部・学科別分類の回答(第1希望)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
		文学関係 (史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会学関係	国際関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係 (看護・理学療法・作業療法等)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他			
回答者数 (人)	進学を希望する	28	4	3	7	20	3	1	31	51	16	13	8	3	31	2	0	1	4	226	
	進学先の一つとして考える	82	21	32	32	146	36	19	153	371	125	114	96	41	143	16	3	16	9	1,455	
	とりあえず受験してみたい	18	9	7	15	25	4	4	25	53	20	29	15	8	28	1	2	2	2	267	
	合計	128	34	42	54	191	43	24	209	475	161	156	119	52	202	19	5	19	15	1,948	
構成比 (%)	進学を希望する	12.4	1.8	1.3	3.1	8.8	1.3	0.4	13.7	22.6	7.1	5.8	3.5	1.3	13.7	0.9	0.0	0.4	1.8	100.0	
	進学先の一つとして考える	5.6	1.4	2.2	2.2	10.0	2.5	1.3	10.5	25.5	8.6	7.8	6.6	2.8	9.8	1.1	0.2	1.1	0.6	100.0	
	とりあえず受験してみたい	6.7	3.4	2.6	5.6	9.4	1.5	1.5	9.4	19.9	7.5	10.9	5.6	3.0	10.5	0.4	0.7	0.7	0.7	100.0	
	合計	6.6	1.7	2.2	2.8	9.8	2.2	1.2	10.7	24.4	8.3	8.0	6.1	2.7	10.4	1.0	0.3	1.0	0.8	100.0	



■ 新学部への進学希望（問9）で「進学を希望する」、「進学先の一つとして考える」、「とりあえず受験したい」を回答した回答者のキーワード別の進学希望分野（問6（2））（第1希望） 問9×問6（2）

新学部への進学や受験に前向きな回答を示した回答者のキーワード別による進学希望分野（第1希望）を見ると、「進学を希望する」を回答した回答者については「生命科学」希望者が 28.3%で最も多く、「進学を希望する」とした回答者の4人に1人は「生命科学」を第1希望にあげている。生命科学以外では、「環境【自然系】」11.1%、「情報」10.6%などが比較的多い。

「進学先の一つとして考える」及び「とりあえず受験したい」を回答した回答者に関しては、いずれも「情報」を第1希望に回答しているほか、「生命科学」や「人間」といった回答も比較的多い。

問9新学部進学希望で「進学を希望する」「進学先の一つとして考える」「とりあえず受験してみたい」を回答した回答者の問6(2)キーワード別分類の回答(第1希望)

		1 生命科学	2 農学	3 環境【自然系】	4 環境【人文・社会系】	5 健康	6 先端医療	7 情報	8 デザイン	9 ビジネス	10 政策	11 国際	12 地域	13 人間	14 その他	無回答	合計
回答者数 (人)	進学を希望する	64	10	25	6	20	9	24	6	17	5	9	2	18	6	5	226
	進学先の一つとして考える	178	81	178	36	139	117	197	60	125	31	53	29	182	33	16	1,455
	とりあえず受験してみたい	34	12	20	7	25	25	38	13	22	10	12	8	30	9	2	267
	合計	276	103	223	49	184	151	259	79	164	46	74	39	230	48	23	1,948
構成比 (%)	進学を希望する	28.3	4.4	11.1	2.7	8.8	4.0	10.6	2.7	7.5	2.2	4.0	0.9	8.0	2.7	2.2	100.0
	進学先の一つとして考える	12.2	5.6	12.2	2.5	9.6	8.0	13.5	4.1	8.6	2.1	3.6	2.0	12.5	2.3	1.1	100.0
	とりあえず受験してみたい	12.7	4.5	7.5	2.6	9.4	9.4	14.2	4.9	8.2	3.7	4.5	3.0	11.2	3.4	0.7	100.0
	合計	14.2	5.3	11.4	2.5	9.4	7.8	13.3	4.1	8.4	2.4	3.8	2.0	11.8	2.5	1.2	100.0

■ 新学部進学希望者（問9）の希望学科（問10（1）） 問9×問10（1）

新学部への進学や受験を希望している回答者の学科別希望について見ると、「進学を希望する」とした回答者の47.3%は「生命工学科」を第1希望にしており、次いで「社会経営学科」19.0%、「環境科学科」16.8%、「ワイン・食物科学科」16.4%となっている。次に、「進学先の一つとして考える」及び「とりあえず受験してみたい」を回答した回答者の希望学科を見ると、同じく「生命工学科」を第1希望にあげる回答者が3割強で最も多く、次いで「社会経営学科」が25%強で続いている。

第2希望については、「進学を希望する」回答者においては「ワイン・食物科学科」が38.9%で最も多く、次いで「環境科学科」31.0%、「生命工学科」17.7%、「社会経営学科」6.2%となっている。「進学先の一つとして考える」及び「とりあえず受験してみたい」を回答した回答者については、「環境科学科」を第2希望にあげる回答者が最も多く、次いで「ワイン・食物科学科」、「生命工学科」、「社会経営学科」の順となっている。

問9新学部進学希望で「進学を希望する」「進学先の一つとして考える」「とりあえず受験してみたい」を回答した回答者の問10(1)進学希望学科

(第1希望)

		1 生命工学科	2 ワイン・食物 科学科	3 環境科学科	4 社会経営学 科	無回答	合計
回答者数 (人)	進学を希望する	107	37	38	43	1	226
	進学先の一つとして考える	480	268	335	371	1	1,455
	とりあえず受験してみたい	83	61	47	76	0	267
	合計	670	366	420	490	2	1,948
構成比 (%)	進学を希望する	47.3	16.4	16.8	19.0	0.4	100.0
	進学先の一つとして考える	33.0	18.4	23.0	25.5	0.1	100.0
	とりあえず受験してみたい	31.1	22.8	17.6	28.5	0.0	100.0
	合計	34.4	18.8	21.6	25.2	0.1	100.0

(第2希望)

		1 生命工学科	2 ワイン・食物 科学科	3 環境科学科	4 社会経営学 科	無回答	合計
回答者数 (人)	進学を希望する	40	88	70	14	14	226
	進学先の一つとして考える	312	354	524	182	83	1,455
	とりあえず受験してみたい	50	67	108	32	10	267
	合計	402	509	702	228	107	1,948
構成比 (%)	進学を希望する	17.7	38.9	31.0	6.2	6.2	100.0
	進学先の一つとして考える	21.4	24.3	36.0	12.5	5.7	100.0
	とりあえず受験してみたい	18.7	25.1	40.4	12.0	3.7	100.0
	合計	20.6	26.1	36.0	11.7	5.5	100.0

■ 学科別進学希望（問10（1））における第1希望と第2希望のクロス集計

問10（1）×問10（1）

学科別の進学希望で第1希望に回答した回答者の第2希望の回答を見ると、第1希望で「生命工学科」を回答した回答者については、その約半数（50.3%）が第2希望で「環境科学科」を回答しており、次いで「ワイン・食物科学科」が36.6%となっている。

「ワイン・食物科学科」を第1希望とした回答者の第2希望については、「環境科学科」が39.9%で最も多く、次いで「生命工学科」32.5%となっている。

「環境科学科」を第1希望とした回答者の第2希望については、「生命工学科」が46.4%で最も多く、次いで「ワイン・食物科学科」が29.0%となっている。

「社会経営学科」を第1希望とした回答者の第2希望については、「環境科学科」が44.7%で最も多く、次いで「ワイン・食物科学科」が29.0%となっている。

問10(1)学科別進学希望における第1希望と第2希望のクロス集計

		1 生命工学科 (第2希望)	2 ワイン・食物 科学科 (第2希望)	3 環境科学科 (第2希望)	4 社会経営学 科 (第2希望)	無回答	合計
回答者数 (人)	生命工学科(第1希望)	4	245	337	59	25	670
	ワイン・食物科学科(第1希望)	119	0	146	82	19	366
	環境科学科(第1希望)	195	122	0	87	16	420
	社会経営学科(第1希望)	84	142	219	0	45	490
	合計(第1希望)	402	509	702	228	105	1,946
構成比 (%)	生命工学科(第1希望)	0.6	36.6	50.3	8.8	3.7	100.0
	ワイン・食物科学科(第1希望)	32.5	0.0	39.9	22.4	5.2	100.0
	環境科学科(第1希望)	46.4	29.0	0.0	20.7	3.8	100.0
	社会経営学科(第1希望)	17.1	29.0	44.7	0.0	9.2	100.0
	合計(第1希望)	20.7	26.2	36.1	11.7	5.4	100.0

■ 学科別進学希望（問10（1））（第1希望）の回答による学部・学科別分類（問6（1））

における進学希望分野（第1希望） 問10（1）×問6（1）

新学部の学科別希望で第1希望に回答した回答者の学部・学科別進学希望分野（第1希望）の回答を見ると、「生命工学科」、「ワイン・食物科学科」及び「環境科学科」を第1希望にあげた回答者に関しては、いずれも「工学関係」を学部・学科別分類の第1希望にあげている回答者が最も多く、特に「環境科学科」を第1希望とした回答者では39.5%が「工学関係」を第1希望にあげている。「社会経営学科」を第1希望とした回答者については、「商学・経済学・経営学関係」を第1希望にしている回答者が33.5%で最も多い。

問10(1)新学部の学科別進学希望(第1希望)による問6(1)学部・学科別分類の回答(第1希望)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
		文学 関係 (史 学・哲 学含 む)	外国語 関係	心理学 関係	法学・ 政治学 関係	商学・ 経済学・ 経営学 関係	社会 学・社 会福祉 学関係	国際関 係学関 係	理学関 係	工学関 係	農学関 係	医学・ 歯学・ 薬学関 係	保健関 係 (看護・ 理学療 法・作 業療法 等)	家政学 関係	教員養 成・教 育学・ 保育学 関係	芸術学 関係	総合科 学関係	その他			
回 答 者 数 (人)	生命工 学科	32	3	13	6	11	3	2	104	186	62	114	60	5	52	5	2	6	4	670	
	ワイン・食 物科学科	28	11	7	10	13	5	3	18	75	45	20	31	42	38	8	0	9	3	366	
	環境科 学科学科	15	5	9	5	3	8	5	75	166	53	12	16	0	40	1	2	2	2	3	420
	社会経 営学科	53	15	13	33	164	27	14	11	48	1	10	12	5	72	5	1	2	4	490	
	合計	128	34	42	54	191	43	24	208	475	161	156	119	52	202	19	5	19	14	1,946	
構 成 比 (%)	生命工 学科	4.8	0.4	1.9	0.9	1.6	0.4	0.3	15.5	27.8	9.3	17.0	9.0	0.7	7.8	0.7	0.3	0.9	0.6	100.0	
	ワイン・食 物科学科	7.7	3.0	1.9	2.7	3.6	1.4	0.8	4.9	20.5	12.3	5.5	8.5	11.5	10.4	2.2	0.0	2.5	0.8	100.0	
	環境科 学科学科	3.6	1.2	2.1	1.2	0.7	1.9	1.2	17.9	39.5	12.6	2.9	3.8	0.0	9.5	0.2	0.5	0.5	0.7	100.0	
	社会経 営学科	10.8	3.1	2.7	6.7	33.5	5.5	2.9	2.2	9.8	0.2	2.0	2.4	1.0	14.7	1.0	0.2	0.4	0.8	100.0	
	合計	6.6	1.7	2.2	2.8	9.8	2.2	1.2	10.7	24.4	8.3	8.0	6.1	2.7	10.4	1.0	0.3	1.0	0.7	100.0	

■ 学科別進学希望（問10（1））（第1希望）の回答によるキーワード別分類（問6（2））

における進学希望分野（第1希望） 問10（1）×問6（2）

新学部の学科別希望で第1希望に回答した回答者のキーワード別進学希望分野（第1希望）の回答を見ると、「生命工学科」を第1希望とした回答者では「生命科学」をキーワード別分類の第1希望にしている回答者が33.3%で最も多く、「ワイン・食物科学科」を第1希望とした回答者では「健康」を第1希望とする回答者が24.0%で最も多い。また、「環境科学科」を第1希望とした回答者に関しては「環境【自然系】」を第1希望とする回答者が40.7%で最も多く、「社会経営学科」を第1希望とした回答者については、「ビジネス」を第1希望にしている回答者が28.8%で最も多い。新学部の各学科の第1希望者がキーワード別分類で第1希望にあげた分野は、それぞれ各学科の特徴を反映した回答傾向を示している。

一方で、各学科に共通するキーワードとして「情報」分野を回答している回答者がいずれも10.0%以上を占めているのも特徴的である。

問10(1)新学部の学科別進学希望(第1希望)による問6(2)キーワード別分類の回答(第1希望)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	無回答	合計
		生命 科学	農学	環境 【自然系】	環境 【人文・社会系】	健康	先端 医療	情報	デザイン	ビジネス	政策	国際	地域	人間	その他		
回答者数 (人)	生命工学科	223	33	27	6	52	115	96	22	9	1	11	2	52	13	8	670
	ワイン・食物科学科	17	48	18	8	88	17	48	24	11	8	12	3	46	13	5	366
	環境科学科	28	20	171	15	23	11	59	16	3	6	13	2	33	16	4	420
	社会経営学科	8	2	7	20	21	8	55	17	141	31	38	32	99	6	5	490
	合計	276	103	223	49	184	151	258	79	164	46	74	39	230	48	22	1,946
構成比 (%)	生命工学科	33.3	4.9	4.0	0.9	7.8	17.2	14.3	3.3	1.3	0.1	1.6	0.3	7.8	1.9	1.2	100.0
	ワイン・食物科学科	4.6	13.1	4.9	2.2	24.0	4.6	13.1	6.6	3.0	2.2	3.3	0.8	12.6	3.6	1.4	100.0
	環境科学科	6.7	4.8	40.7	3.6	5.5	2.6	14.0	3.8	0.7	1.4	3.1	0.5	7.9	3.8	1.0	100.0
	社会経営学科	1.6	0.4	1.4	4.1	4.3	1.6	11.2	3.5	28.8	6.3	7.8	6.5	20.2	1.2	1.0	100.0
	合計	14.2	5.3	11.5	2.5	9.5	7.8	13.3	4.1	8.4	2.4	3.8	2.0	11.8	2.5	1.1	100.0

■ 学科別の進学希望者（問10（1））（第1希望）による農学を学ぶ上で将来必要なこと（問10（2）） 問10（1）×問10（2）

新学部の学科別進学希望における第1希望の回答により、農学を学ぶ上で将来必要なことの回答を見ると、「生命工学科」を第1希望とした回答者では「バイオテクノロジー」が57.2%で最も多く、次いで「農業生産技術」50.3%、「環境保護」31.3%などとなっている。

「ワイン・食物科学科」を第1希望とした回答者では「農業生産技術」が42.9%で最も多く、次いで「バイオテクノロジー」36.1%、「食品科学」35.5%などとなっている。

「環境科学科」を第1希望とした回答者では「環境保護」が52.4%で最も多く、次いで「農業生産技術」46.9%、「バイオテクノロジー」44.0%などとなっている。

「社会経営学科」を第1希望とした回答者では「農業生産技術」が49.0%で最も多く、次いで「流通経済」32.0%、「環境保護」31.2%などとなっている。

いずれの学科希望者も「農業生産技術」を回答する回答者が多いほか、「バイオテクノロジー」や「環境保護」などの回答も多く回答傾向は似ている面もあるが、「ワイン・食物科学科」希望者の「食品科学」や「社会経営学科」希望者の「流通経済」など、各学科の特徴を反映した回答も見られる。

問10(1)進学希望学科(第1希望)別の問10(2)農学を学ぶ上で必要なこと

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
		農業生産技術	果樹栽培	野菜・水稲栽培	醸造技術	食品科学	バイオテクノロジー	アグリバイオ	環境保護	地球温暖化	流通経済	総合科学	地域・国際経済	マネージメント	フードビジネス	コンピュータリテラシー	野菜工場	その他		延数	実数
回答者数 (人)	生命工学科	337	116	106	35	187	383	56	210	142	76	84	48	34	86	28	21	2	6	1,957	670
	ワイン・食物科学科	157	106	70	58	130	132	15	103	66	54	26	32	25	84	12	13	0	0	1,083	366
	環境科学科	197	68	61	17	88	185	13	220	148	45	33	43	23	53	13	12	0	7	1,226	420
	社会経営学科	240	71	83	23	99	149	11	153	93	157	31	96	61	128	21	9	0	7	1,432	490
	合計	931	361	320	133	504	849	95	686	449	332	174	219	143	351	74	55	2	20	5,698	1,946
構成比 (%)	生命工学科	50.3	17.3	15.8	5.2	27.9	57.2	8.4	31.3	21.2	11.3	12.5	7.2	5.1	12.8	4.2	3.1	0.3	0.9	292.1	100.0
	ワイン・食物科学科	42.9	29.0	19.1	15.8	35.5	36.1	4.1	28.1	18.0	14.8	7.1	8.7	6.8	23.0	3.3	3.6	0.0	0.0	295.9	100.0
	環境科学科	46.9	16.2	14.5	4.0	21.0	44.0	3.1	52.4	35.2	10.7	7.9	10.2	5.5	12.6	3.1	2.9	0.0	1.7	291.9	100.0
	社会経営学科	49.0	14.5	16.9	4.7	20.2	30.4	2.2	31.2	19.0	32.0	6.3	19.6	12.4	26.1	4.3	1.8	0.0	1.4	292.2	100.0
	合計	47.8	18.6	16.4	6.8	25.9	43.6	4.9	35.3	23.1	17.1	8.9	11.3	7.3	18.0	3.8	2.8	0.1	1.0	292.8	100.0

■ 新学部進学希望者（問9）の就職希望業種（問11） 問9×問11

新学部への進学や受験を希望する回答者の就職希望業種を見ると、「進学を希望する」を回答した回答者では「公務員」が31.9%で最も多く、次いで「建設業」26.1%、「農業」24.8%となっている。「進学先の一つとして考える」及び「とりあえず受験してみたい」を回答した回答者に関しては、いずれも「公務員」が4割前後を占め最も多く、次いで「医療・福祉」や「教育・学習支援」が2割強で続いている。

進学希望度の強弱に関係なく「公務員」を希望する回答者が最も多いなど、進学希望度に関係なく比較的回答傾向は似ているが、進学希望度が最も強い回答者（「進学を希望する」）については、「農業」や「建設業」を希望する回答者もそれぞれ24.8%、26.1%おり、4人に1人の割合で回答者がいるのは特徴的である。

問9新学部進学希望者の就職希望業種

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
		農業	建設業	飲料・食品製造業	製造業（飲料・食品製造業除く）	情報通信業	運輸業	飲料・食品卸売・小売業	卸・小売業（飲料・食品卸売・小売業除く）	金融・保険業	不動産業	飲食店	医療・福祉	教育・学習支援	サービス業	公務員	未定	その他		延数	実数
回答者数 (人)	進学を希望する	56	59	20	21	24	8	8	8	17	5	7	35	36	16	72	22	10	1	425	226
	進学先の一つとして考える	133	88	149	210	264	16	49	29	100	11	44	357	295	172	538	212	48	10	2,725	1,455
	取り阿須受験してみたい	23	24	24	34	47	3	7	6	19	4	10	63	63	36	110	27	9	2	511	267
	合計	212	171	193	265	335	27	64	43	136	20	61	455	394	224	720	261	67	13	3,661	1,948
構成比 (%)	進学を希望する	24.8	26.1	8.8	9.3	10.6	3.5	3.5	3.5	7.5	2.2	3.1	15.5	15.9	7.1	31.9	9.7	4.4	0.4	188.1	100.0
	進学先の一つとして考える	9.1	6.0	10.2	14.4	18.1	1.1	3.4	2.0	6.9	0.8	3.0	24.5	20.3	11.8	37.0	14.6	3.3	0.7	187.3	100.0
	取り阿須受験してみたい	8.6	9.0	9.0	12.7	17.6	1.1	2.6	2.2	7.1	1.5	3.7	23.6	23.6	13.5	41.2	10.1	3.4	0.7	191.4	100.0
	合計	10.9	8.8	9.9	13.6	17.2	1.4	3.3	2.2	7.0	1.0	3.1	23.4	20.2	11.5	37.0	13.4	3.4	0.7	187.9	100.0

■ 進学希望学科（問10（1））（第1希望）別の就職希望業種（問11） 問10（1）×問11

新学部の学科別進学希望における第1希望の回答により、将来の就職希望業種の回答を見ると、「生命工学科」を第1希望とした回答者では「医療・福祉」が38.5%で最も多く、次いで「公務員」31.0%となっている。

「ワイン・食物科学科」を第1希望とした回答者では「公務員」が25.4%で最も多く、次いで「飲料・食料品製造業」が24.0%とほぼ同じ割合が続いている。

「環境科学科」を第1希望とした回答者では「公務員」が39.0%で最も多く、次いで「教育・学習支援」20.2%となっている。

「社会経営学科」を第1希望とした回答者では「公務員」が51.6%で最も多く、次いで「教育・学習支援」24.7%となっている。

各学科とも「公務員」希望者が多い点は共通しているが、特に「社会経営学科」希望者に関しては半数以上が「公務員」を希望しており、他学科よりも公務員志向が強く表れている。また、「生命工学科」希望者では「医療・福祉」を希望する回答者が多く、「ワイン・食物科学科」希望者では「飲料・食料品製造業」を希望する回答者が多いなど、学科により回答傾向に違いも見られる。

問10(1)学科別の進学希望者(第1希望)の問11就職希望業種

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
		農業	建設業	飲料・食品製造業	製造業(飲料・食品製造業除く)	情報通信業	運輸業	飲料・食品卸売・小売業	卸・小売業(飲料・食品卸売・小売業除く)	金融・保険業	不動産業	飲食店	医療・福祉	教育・学習支援	サービス業	公務員	未定	その他		延数	実数
回答者数(人)	生命工学科	87	75	64	105	98	10	21	9	16	5	13	258	121	57	208	81	26	5	1,259	670
	ワイン・食物科学科	52	35	88	46	55	4	15	6	13	3	26	80	67	49	93	51	10	0	693	366
	環境科学科	61	47	27	83	77	8	7	5	10	3	10	59	85	21	164	83	18	4	772	420
	社会経営学科	12	14	14	31	104	5	21	23	97	9	12	58	121	97	253	46	13	4	934	490
	合計	212	171	193	265	334	27	64	43	136	20	61	455	394	224	718	261	67	13	3,658	1,946
構成比(%)	生命工学科	13.0	11.2	9.6	15.7	14.6	1.5	3.1	1.3	2.4	0.7	1.9	38.5	18.1	8.5	31.0	12.1	3.9	0.7	187.9	100.0
	ワイン・食物科学科	14.2	9.6	24.0	12.6	15.0	1.1	4.1	1.6	3.6	0.8	7.1	21.9	18.3	13.4	25.4	13.9	2.7	0.0	189.3	100.0
	環境科学科	14.5	11.2	6.4	19.8	18.3	1.9	1.7	1.2	2.4	0.7	2.4	14.0	20.2	5.0	39.0	19.8	4.3	1.0	183.8	100.0
	社会経営学科	2.4	2.9	2.9	6.3	21.2	1.0	4.3	4.7	19.8	1.8	2.4	11.8	24.7	19.8	51.6	9.4	2.7	0.8	190.6	100.0
	合計	10.9	8.8	9.9	13.6	17.2	1.4	3.3	2.2	7.0	1.0	3.1	23.4	20.2	11.5	36.9	13.4	3.4	0.7	188.0	100.0



### (3) 高校生自由回答 (問 12)

#### 〔山梨県内高校〕

- 学部を増やせば選択の幅も増え、とても良いと思います。進路で考えていなくても、増えれば少しだけでも考えると思います。ぜひお願いいたします。
- 職業選択の幅も広がっていいと思います。
- 新学部の設置は良いと思います。
- 立地ならではの学部を設立して下さい。
- 学部ではなく附属高校をつくるべきだと思います。
- 薬学部をつくって欲しい。
- もっと新学部ができることをアピールしてほしい。
- ワインのことを学ぶというのは、面白そうだと思います。「山梨」らしくて良いと思います。
- 良いと思う。
- 小動物についての学部も希望。
- 未成年でもワインの研究をすることになるのはなんだか興味深い気がする。
- 理系にとってはとても興味深い学部だと思います。
- 附属高校も設立してほしい。
- 現在不況の影響で就職が難しくなっている。故に専門的な知識を身に付け就職に生かしたいと思う友人も多いです。だから、一年次より専門的なことを学べる学部がよいのではないのでしょうか。
- 入学者数を増やして下さい。
- 文系に適した学部が少ない。
- 文系の学部・学科を増やして下さい。(例:政・経・史学)
- 山梨大学は学部が少ないイメージがあったので増やすことはイメージアップにつながると思う。
- 農学に関わる機会の減った現在において、良い提案だと思います。
- 地域・国際経済分野の学部があればよいと思う。
- 山梨県内での進学を希望しているので、山梨大学の学部が多くなってくれるのを希望します。
- 法学系をつくって。
- 新学部を作る前に、工学部のレベルを上げて。
- 文系の学部がもう少しあったらな・・・と思います。
- 自然豊かな山梨の大学に生命や環境を学ぶは絶対に必要だと思うので是非設置してほしい。
- 山梨県の特徴を生かした研究を進めてゆける、すばらしい学部ではないかと思います。
- 農学部を作ってみては。
- もう少し定員を増やしてほしい。
- 地元の農家と連携した計画があればよいと思う。
- 醸造技術について、非常に気になります。菌を学ぶのですか？

- 山梨の大学にワインや環境科学、そして山梨の大学に少ない経営学ができるというのはとてもうれしいです。
- ワイン・食物科学科について、ワインを前面に出しているのはわかるけど、将来就職の際、履歴書に記入しにくいと思う。少し名称を変えたほうが良いと思う。
- ワイン・食物科学科で栄養士免許も取得できるようにしてほしい。
- 食物科学科は具体的にどんな研究をしていくのか？具体的な就職先は？
- 山梨の発展につながれば良いと思います。
- ワインや生物科学は、山梨県にとって大切であると思うので、より広い範囲で取り組んでほしい。
- いいと思いました。
- 山梨を良くする人材を育ててください。
- ワインを学ぶのはおもしろそうだけど、未成年がどうやってワインを研究するのか、またのんだこともないのに興味を持つか疑問だ。
- 地域振興もかねて、学生で実際に店をつくるなどの授業、実習があるとよいと思います。
- ワイン・食物科学科に興味を持ちました。どのようなことを学ぶか詳しくわかるようになると良いと思います。
- 植物について詳しく学べるプログラムがあったらうれしい。
- 良いと思う。
- 理学部とかも山梨の地形からして、研究しやすいと思うので洗ってもらいたい。
- 県民(山梨県で働くことを前提として)の優先枠を作ってほしい。
- 入れる人が増えるのなら山梨大学で学ぶことのできる人が増えるので良いことだと思います。
- なるべく早いうちから説明会などを行ってもらいたい。
- 良いと思います。
- 経営系の学部は作ってほしいです。
- 地域を活性化する取り組みにもつながり、とても良いと思います。
- 文系学科を増やしてほしい。教育学部しかないのは残念。もっと新しいことがしたい。
- 新学部も良いですが、元々ある学部のクオリティーを向上させてほしいです。
- 地域の発達につながるようなプログラムを期待しています。
- いいと思います。
- 進学先の1つとして考えているので、もっと詳しく知りたいです。
- 実際にワインを作ったりしますか。本場のフランスに研修旅行等の企画はありますか。
- 自分の地元の大学なので興味があります。
- 地元の大学なので興味はあります。
- 地元の学生が入りやすいような制度を整えてほしい。
- 社会経営学科は山梨には私立しかないなので、国公立にできると良いと思う。
- 文系の学部を増やしてほしい。

- いらぬのではないか。
- 地域密着の学部にならばいいと思っています。
- 森林科学があればいい。
- 具体的な授業カリキュラムが知りたい。
- 理学部をつくってほしい。ワイン学部とかおもしろそう。
- これまでの学部の定員を減らさないでほしいです。
- 山梨大学に経営学科ができてうれしいと思います。
- ウイルスについての研究をする学部をつくってほしい。(抗ウイルス薬またはワクチン)
- 社会経営学科の定員が少ない。
- 医学部の学科を増やしてほしい。
- 学部を増やすのは生徒の将来の夢をサポートする、とても良い機会だと思う。山梨の特産物であるワインを取り入れた学部は山梨の大学らしいもので良い。
- ワインの醸造技術を大学で学べるようになれば、その技術を残していけるだけでなく、さらに発展させられると思うので、大事な技術を守っていくことになり、とてもいいと思う。
- 新学部について、もう少し詳しく知りたいです。模擬授業のようなものをしていただけたら良いと思います。
- 化学部を設置してほしかった。
- ワイン・食物科学科は地域に関係している気がして良いと思いました。
- 文理の壁を越えた新学部の構想にとっても期待を抱きました。「山梨にこの学部があつてよかった」と思われるような、地域密着型の研究や、全国に誇れるほどレベルの高い教育プログラムを目指していただきたいと思います。
- レベルを山梨医大と同じくらいにしてください。
- 地域に根ざした教育の上で、役立つ人材の育成に大いに貢献できる学部だと思います。山梨県に発展のために、ぜひ新学部を設置していただきたいと思います。
- 「生命工学科」という学科の研究内容に、脳関連のものを追加してほしい。
- 地域の活性化につながるので、ぜひ設置してほしい。
- 薬学部を新設してほしい。
- ワイン・食物科学科では、ワイン造り以外で、農業に関することはしますか？
- 是非、設置して下さい。
- 樹木医の資格が取れるといいなと思う。あと、フィールドワークをやりたい…と思う。
- 設置すると良いと思う。
- 医学部の建物をきれいに新しくしてほしい。(新学部とは関係ないが)
- 山梨大学をより良いものにしてほしい。
- 工学部など、元からある学部との違いや、同じ部分などを示していただけるとありがたいです。
- 何が目的で学部を作るかわからない。
- 自分の希望している学科があるので、是非設置して下さい。

- 今の時代は環境問題などがさわがれているので、とてもいい学部だと思います。
- もしできたらいきたいです。
- 山梨は農業と密接に関わっている地域だと思うので今の衰退していく農家を助けるためにも、とても未来につながる事だと思います。国立なので、高い知識が得られるように頑張って下さい。
- 就職についての記述が浅いため、よくわからなかった。
- 教員免許がとれていいと思う。
- 奨学金を増やした方がよい。
- 今の農業、知識だけではやってけませんよ。厳しい時代ですね・・・。
- 作って下さい。
- 文系が行ける科をお願いします。
- もっと華やかにして下さい。
- ワイン、食物科学科は山梨県の大事な産業を支えると思う。だから、学べる人を増やすために、定員を増やすことをおすすめする。
- 設置計画には賛成です。生命環境学部で学ぶことは、とても興味があり、設置されることになったら、進学の実験室に入れる人は多いと思います。
- もしかしたらその系統とあっていると思うので、早く新設してほしい。
- 設備を良くしてほしい。
- 建築がほしかった。
- 是非とも社会経営学科を設置して頂きたいです。
- 社会経営学科の設置を強く望んでいます。
- 定員を増やしてほしい。
- 定員を増やしてほしい。
- 定員増やしてあげてください。
- 定員、学部ふやせ。
- 定員を増やしてほしい。
- 看護学科の定員を増やしてほしいです。
- キャンパスにあこがれます。
- 定員増やして、偏差値下げて下さい。
- 定員が少ないと思う。
- できれば、芸術関係の学部をつくって下さい。
- 定員増やして、偏差値下げて下さい。
- 美術系の学部がほしい。
- 経済学部も設置してほしい。
- この学部を設置することによって世の中が生まれかわってくれると思う。
- いいと思う。

- 農学校を作るのではなく、もっと山梨県内にない学科を作ったほうがいいと思います。正直必要ないと思います。
- 山梨の特産物について勉強できることは今後の山梨の発展にもつながると思うので頑張って立ち上げて下さい。
- 新たに学部を設置して、環境について学ぶことは、これからの時代、人々に非常に重要になるので、そういった人材を育てる為にも有益だと考える。
- 理学部がほしい。
- 新学部はどれも興味のある学部なので、ぜひ入学してみたくなった。必要な科目を知りたい。
- 理学系統があつたらいいと思う。
- 賛成です。
- 環境科学科などでは直接森に行く体験を取り入れてほしいです。
- 資料がとてもわかりやすかった。
- 医療・福祉にも力を入れてほしい。
- 付属の資料である生命環境学部(仮称)のイメージが分かりやすかった。
- 新学部が設置された場合、偏差値はどれくらいになるでしょうか？
- 学部が増えることにより、今までより広い進路選択が可能になってくるし、地域の企業にも良い影響になると思うので、新学部開設はとても良いことだと思います。
- 新学部設置によって学生が新たな道に進む可能性が広がると思うので良いことだと思う。
- 環境系の学部がなくて、他県の大学を志望する人もいると思うので、是非設置してほしいです。
- ワイン、食物科学科では、ワインを飲めるんですか？飲みたいです。
- 将来、就職に生かせるような学部であってほしい。
- 新設されるようなら、進学先の1つとして考えたいと思います。
- ワイン、食物科学部に期待しています。
- これからもよりよい教育、人材育成に精を出してください。
- 良いと思います。
- 山梨には大学が少ないので新学部ができるのはいいと思う。
- 自分に全くもって関係ない学部だなと思った。
- ぜひ設置してほしい。
- 医学部だけではなく、その他の学部も偏差値が高いといいと思う。
- 新たに学部をもうけるより、すでにある学部の人々(生徒)を増やすことに力を入れるべきだと思います。例えば工学部とかです。
- この学部は理系の人向けだと思います。文系の人でも受験できるように理科の科目は選択で1科目にさせていただきたいです。数学も同様にⅢ、C以外の範囲から選択できるようにさせていただきたいです。
- 面白い学部だと思います。人気が出るといいですね。応援しています。
- 実験をできるだけたくさんして、いろいろなことに触れさせてほしい。そして、それらが社会でどんなことに役立つ(技術的・社会的)のかも教えてほしいです。食品関係に就きたいと思っているので、興味

を持ちました。

- ワインは山梨が日本一というのはすばらしい。
- ワインはいいと思います。
- 山梨の大学が有名になったらいいなあと思います。
- 文学部を作って欲しい。
- 地域の産業の活性化を主とした、学部で良いと思います。しかし、この就職難の現代で「農学系学部」に人気があるのか…というとなかなか難しいと思います。
- 山梨のブドウを使用できワインを学べる新学部はいいと思います。
- 定員数をもっと増やしてほしい。
- 経済学部を設けていただきたいです。
- ぜひ作ってください。
- 県内の学生を優遇して欲しい。
- どの科も、地元で活かせる内容の学習なので、期待しています。地域の活性化につながるような学部になれば良いと思います。
- パンフレットが表で生命、ワイン、環境、社会の進学先などが書いてあって良かった。
- 興味がわいてくる学部だと思った。
- ワイン醸造だけでなく、他のお酒などの醸造があるとおもしろいと思います。(簡単にできるものがあれば)。環境科学は山梨の自然を生かしてほしいです。
- 校舎をきれにする。
- 募集定員を増やして入りやすくしてほしい。
- 山梨県内には、国公立で経済・経営学部がないのでつくってほしいです。
- 山梨は果物などが多く生産されているので、このような新学部ができてとても良いと思う。
- 経営学科の定員をもう少し増やしてほしい。
- 新学部ができていいと思う。
- 山梨は果物栽培が盛んなので、とても良い考えだと思います。
- 新学部ができることによって、世界に貢献できると思います。設置できるといいです。
- 非常に興味深いです。
- 獣医学部。動物の生態。
- これだけは負けないぞという学部があれば、入学してみたいと思うかもしれない。
- CG やメディアに特化した専門的な学科。来年中にはお願いします。
- 画期的でとても良い案だと思います。地元なので、そういう事が行われるのはとても嬉しい事であるし、将来の進路の幅も広がって良いと思いました。
- ワイン・食物科学科(仮称)においては、地域の特色を活かした他に類することのないすばらしい発想だと思います。その科の地域との連携を望みます。
- ぜひ環境科学部を設置していただきたい。交学や、学費などの面でも、山梨大学に環境科学部があれば助かります。お願いします。

- 選択が増えていいと思います。
- 地域活性化に役立てて欲しいと思います。
- 良いと思う。
- おもしろい試みだと思います。
- 新しい取り組み、とても良いと思います。型にはまった学部にならないようにしてもらいたいです。
- 山梨の特産品である「ワイン」などを学科に入れるのは、とても良いことだと思います。
- 農学部が近所になく、今回の話を聞いて進路の1つとして考えられるようになり、ありがたいです。
- 新学部ができてうれしいです。
- 入学定員を増やして欲しい。
- 地域密着という感じ。
- 地域の伝統文化の発展のために、とてもいい計画だと思います。
- 地域の産業の発展のためにも、設置するのは良いことだと思います。
- 授業の中に地域の人とふれ合う時間を作ってほしいです。
- 良いと思う。
- 地域の発展に力を尽くして頂きたく思います。
- 教員免許が取得可能という面は、教師になりたい私は助かります。
- 良いと思います。とくに、取得可能な資格がたくさんあるので良いと思います。
- ワイン、食物学科は、どのような理由で設置しようと思ったのか？
- 良いと思う。
- 山梨の特産のワインの学部ができるということは他県の人にも知ってもらえると思う。
- よいと思います。
- とても良いものだった。
- ワイン学科は日本に全然ないということなので、できてよかったと思います。その他にも新たに学科が増えたことは良かったと思います。
- 進学先が増えて、とてもうれしいです。
- 進学先が増え、とてもうれしい。
- 家にもう少し近いと行きやすくていいな、と思いました。でも、やはりどのような学校なのか、もっと詳しく知りたいと思います。
- 地域独特の新しい学科もあり良いと思う。
- 人気がでると思います。
- おもしろそうな学部だと思います。すこし興味を持ちました。
- ワイン楽しみにしています。
- もっと自動車について学びたいと考えています。環境に対応する自動車をもっと知りたいです。
- 山梨は果物が多いと思うので、それを活かしていろんなワインを作れるような学科になったら良いと思う。僕の進路希望とは、残念ながら一致しませんが、新学部が良いものになる事を期待しています。

- ワイン、食物学科にブドウの栽培を取り入れてみてはどうでしょうか。
- 興味あり。
- 体験授業を受けてみたい。
- 山梨らしさがあって良いと思う。
- 期待しています。
- 様々なものがあり、とても興味深い内容だと思います。
- 生物とってないと行けない学部ばかりでいやだ。
- ワインに関しては地元の特産だけあって興味深い学科だと思います。
- できるだけやく新学部をつくってほしいです。
- 社会経営学科いいと思います。
- 山梨大学の名をもっと全国へひろげてほしい。山梨学院に負けている。
- 外国人教師を増やしてほしい。
- 外国人を増やして下さい。
- ワインの科を作るなら、山梨のワインを世界の人に知ってもらうために海外の人達とも交流したい。
- 社会全体の基礎となる農業なので、ここでしっかりと人を排出していかなければ基礎が壊れて社会崩壊してしまいますので、しっかりとしてもらいたい。
- 入学定員をもっと増やしてほしいです。
- 定員数を増やしてほしい。
- 定員を増やして欲しい。
- 体育学部をつくってほしい。
- 定員数を増やしてほしい。
- 行きたい人もいると思うので、いいと思う。
- ワインの学部は珍しいと思う。
- できて良かったと思います。
- ワイン以外の食品についての学科がほしいです。それと海水ではなく、淡水の水中生物の学科があってもいいと思います。
- 無くていいと思う
- 栄養士の資格が取れるようにしてほしい。
- 社会経営学科に入りたいと思っています。
- 入学希望者が増えるといいですね。
- 私は山梨大学の教育人間科学部に進学したいのですが、新学部の設立によってどの程度この学部の定員が減るのか教えていただきたいです。
- 新学部ができるために他の学科の人数が減るのは、入りづらくなるので嫌です。
- 栄養士、管理栄養士の資格を取れるようにしてほしい(ワイン・食物科学科)
- 栄養学も学べればいいと思います。



- 山梨大学の学部が増えるのは、良い事だと思う。経済学や商学も増えたらうれしい。
- 新しい学部に対し興味を沸かした。
- 山梨県には「経済学」を学べる大学が少ないので是非つくってもらいたい。定員を増やしてほしい。
- いいと思う。
- 全く持って言いたいことが分からない。
- 自分は成績があまり良くない方だと思うから、自分にあつた偏差値なら進学も考えたい。
- 新学部に関して興味があるので来年の受験に間に合うように設立されると嬉しいです。
- 社会で必要とされる力をつけられる学部にしてほしい。
- 新学部より薬学部を作ってください。
- 専門的なことが色々学べてとても魅力的な学科だと思います。
- 地域の特色を生かした学部をつくるのは独自性が出て面白みがあるのでよいと思います。山梨に住んでいる人たちも、より山梨大に親しみがわくと思います。
- 少子化のご時勢につくる意味はない。

#### 〔山梨県外高校〕

- 色々な資格がとれるのはいいと思う。
- 4年で多くの資格・免許がとれる学部にするとうれしいと思います。
- 新学部の内容は興味をもてるものだと思います。
- なぜワインなのか？
- ワイン学科が気になります。
- ワイン、食物科学がおもしろそうだった。
- 山梨という、地元に着した学部のように思えます。
- どうして学科名にワインが入っているか疑問に思う。ワイン醸造学は専門的すぎて、職種の幅が広がらない。
- いいと思います。
- 新しいからといって、何もかもが新しい訳ではないから、何か、もっと特筆点があれば、行きたくなると思います。
- 私は経営学に興味があるので、いいと思う。
- 応用生物科学を設置してほしい。
- 応用生物科学を設置してください。
- 果物おいしくて、山梨好きです。
- 資料などの情報を高校に送ってほしい。
- 繁栄を願います。
- ワイン・食物科学は、とても興味をもちます。
- これから、私たちにとってバイオテクノロジーは大切だと思います。

- 学部についてはおもしろくて、行ってみたいと思った。しかし、山梨は少しだけ遠いかなと思うので気が進まない。
- 新学部ができれば、ワインを作りたい人は進学先を選びやすくなっていいと思う。伝統が続いていくのでいいと思う。マニアックな人にもいいと思う。
- 自分にとってとても興味のある内容が入っているので面白いと思う。特にワイン醸造学など、めずらしいので一度体験してみたい。
- 教員から食品衛生管理者まで多くの資格や免許がとれることには、魅力を感じると思う。
- 生命、食、環境、経営を総合的に学ぶということは、どの分野に関しても不完全な人材ができてしまうという危険も孕んでいると思う。
- 他にはなかなかない学部だと思うので、新学部をつくるのはとても良いと思いました。
- 地域性を活かした学科があり、いいと思った。
- ワイン学科を作っても18才で入学した人たちは1、2年の間はほとんどの人がお酒を飲めないからなんだかかわいそうに思う。未成年の飲酒につながって悪い噂をたてられないようにがんばってください。おいしいワインをつくってください。
- なかなかよさそうな学部だと思いました。
- 取得可能な資格をもっと増やしてほしい。
- ワインにこだわっているんですね。
- ワイン、食物科学科は、とても興味を持ってました。
- リハビリテーション学部
- ワイン醸造学とありますが、これは、白ワイン、赤ワイン、スパークリングワインごとに分かりますか？またブドウの品種や、貴腐菌のことも勉強するのですか？またワイン関連というのはどのような分野で活躍するのですか？ソムリエとかですか？
- どのくらいの生徒がいるのか。
- ワインというのはおもしろい学科だと思います。
- おもしろそうです。
- 現代社会のニーズに対応できる人を育成できそうな学部で、とても期待ができるものだと思う。
- 興味なし。印象薄い。
- 20歳未満の飲酒は、法律で禁止されています。
- 出前講座最高でした。ありがとうございました。
- これからは厳しくなるとはいますが、活躍に期待します。
- 出前講座に来ていただいてありがとうございました。忙しい中、時間をさいてくださった事を本当に感謝しています。
- ワイン、食物科学科がおもしろそう。
- 牛(乳牛のホルスタインで)を育てるのならば、進学を考えたいと思います。
- ワインというのはおもしろい。
- 社会経営学科はすごい興味があるので、ぜひつくってください。
- 生物系のバイオテクノロジー、薬学部があると良い。

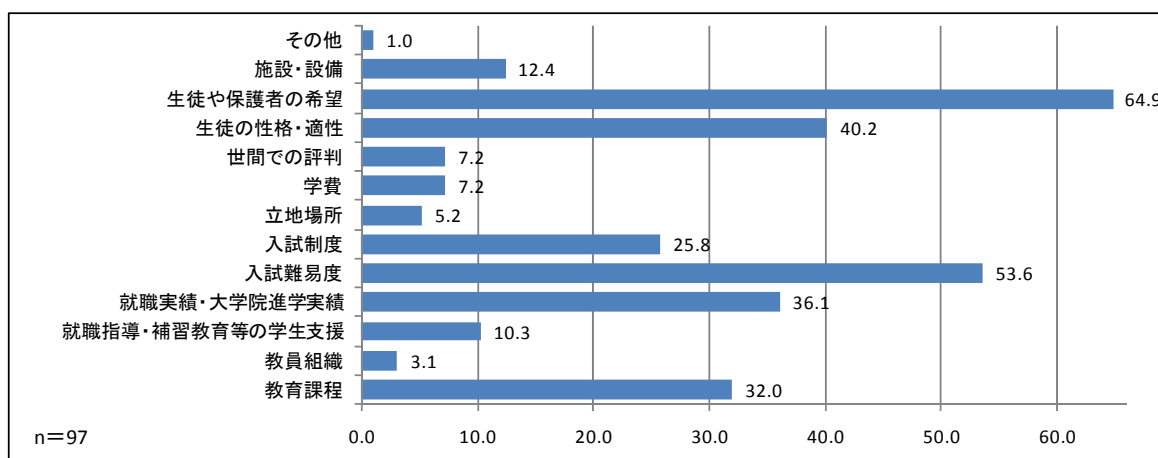
- 臨床工学科が欲しかったです。
- 環境問題について考えるところがあるといいと思います。
- ワイン・食物科学科→食物科学科
- 推薦入試で入ることができるようにしてほしい。
- ぜひ設置して下さい。
- ワイン・食物科学科という学部は興味が湧きました。生命工学と環境学科は似た様な学部な気がしました。
- ワイン・食物科学科というのはおもしろそうだった。
- ワインが興味深いです。
- 生命工学科では脳科学はやらないのでしょうか？
- 良いと思います。
- 植物に関する資格が多くとれる学部を設置してほしいです。
- 交通の便。
- 偏差値はどのくらいか。
- 実習が多いといい。
- ワインはいらないと思います。
- いい学部を作って下さい。よかったら入りたいと思います。ワイン興味あります。
- 食品科学科のある大学が少なく、選択に困っていたのでぜひ作ってほしいです。
- このアンケートの結果を公表してほしい。
- できるだけレベルの高い授業をして下さると嬉しいです。
- 遠い。
- 山梨と聞くと田舎のイメージしかありません。大学の建っている場所にその人の人生が左右されると思うので。新学部に行きたくても、僕はもっと都会の新学部に行きたいです。
- 難しい。

#### 4 進路指導教員対象調査結果

##### (1) 進路指導教員単純集計

##### 問1 進路指導の際に重視すること（3つまでの複数回答）

進路指導の際に重視することについて見ると、「生徒や保護者の希望」が64.9%で最も多く、次いで「入試難易度」53.6%、「生徒の性格・適性」40.2%、「就職実績・大学院進学実績」36.1%、「教育課程」32.0%、「入試制度」25.8%などとなっている。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	無回答	合計	
	教育課程	教員組織	就職指導・補習教育等の学生支援	就職実績・大学院進学実績	入試難易度	入試制度	立地場所	学費	世間での評判	生徒の性格・適性	生徒や保護者の希望	施設・設備	その他		延数	実数
回答者数 (人)	31	3	10	35	52	25	5	7	7	39	63	12	1	0	290	97
構成比 (%)	32.0	3.1	10.3	36.1	53.6	25.8	5.2	7.2	7.2	40.2	64.9	12.4	1.0	0.0	299.0	100.0

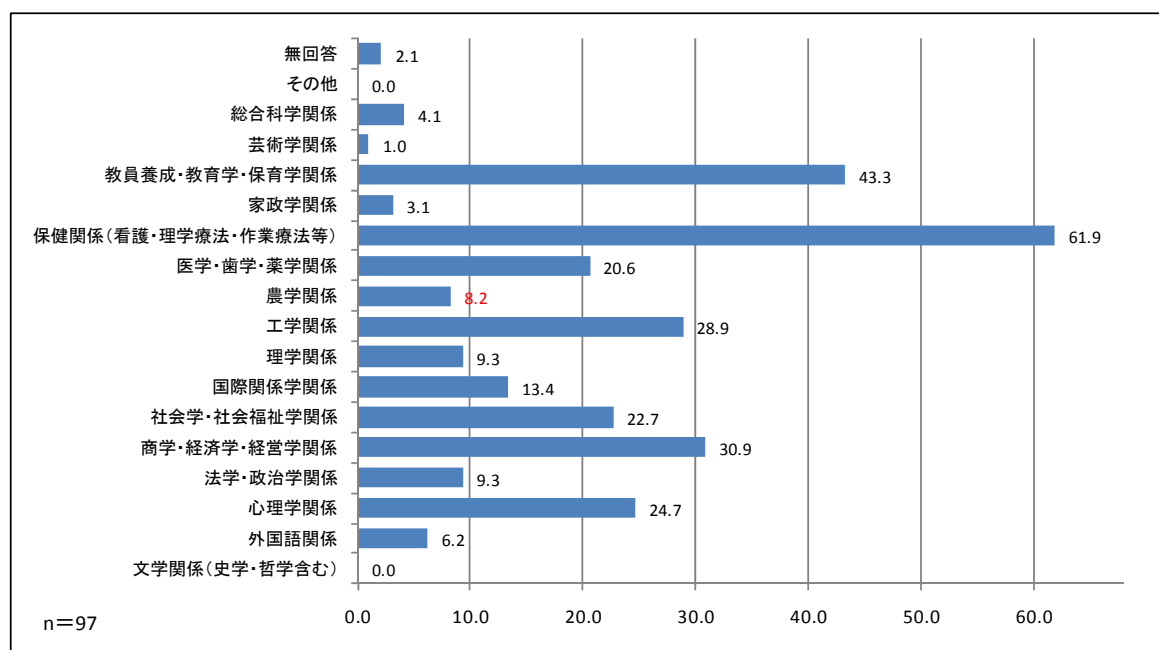
## 問2 最近3年間程度における生徒の進学動向（3つまでの複数回答）

### （1）学部・学科別分類

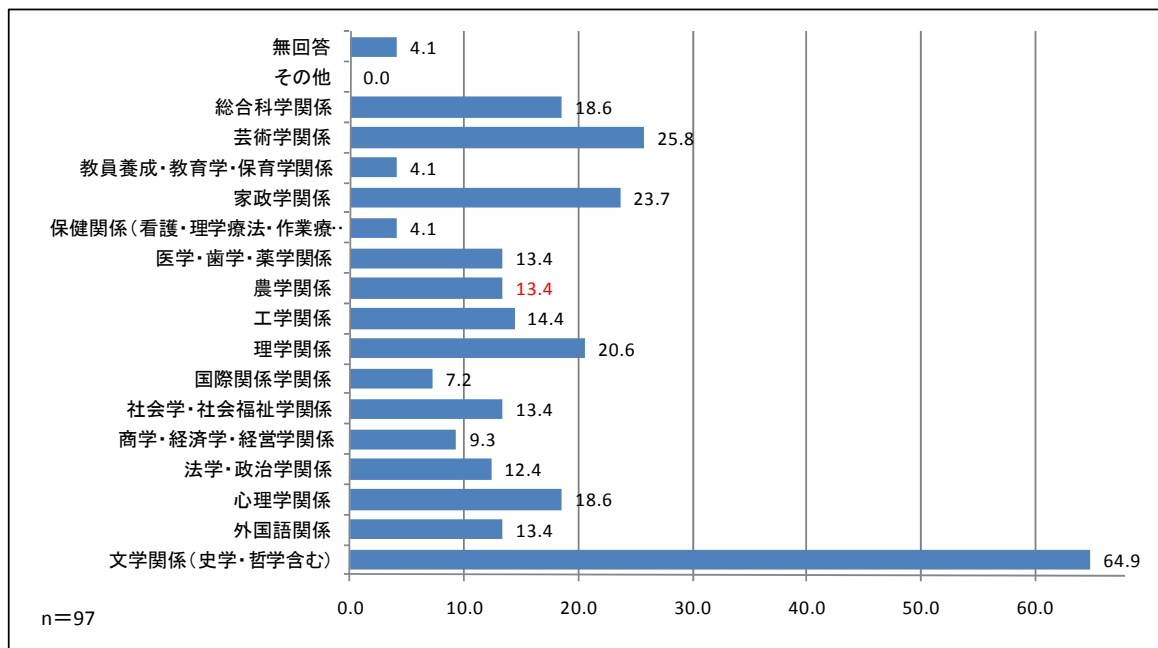
最近3年間程度における生徒の進学動向について学部・学科別分類で見ると、増加傾向の分野としては「保健関係（看護・理学療法・作業療法等）」が61.9%で最も多く、県内高校の進路指導教員の6割以上が「保健関係」の志願者増を認識している。次いで多いのは「教員養成・教育学・保育学関係」43.3%、「商学・経済学・経営学関係」30.9%、「工学関係」28.9%、「心理学関係」24.7%、「社会学・社会福祉学関係」22.7%などとなっている。

一方、減少傾向の分野については、「文学関係（史学・哲学含む）」が64.9%で最も多く、突出して高い割合を示している。このほか、「芸術学関係」25.8%、「家政学関係」23.7%、「理学関係」20.6%、「心理学関係」及び「総合科学関係」18.6%などとなっている。

#### ① 増加傾向の分野



② 減少傾向の分野



① 増加傾向の分野

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
	文学関係(史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会福祉学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係(看護・理学療法・作業療法)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他		延数	実数
回答者数(人)	0	6	24	9	30	22	13	9	28	8	20	60	3	42	1	4	0	2	281	97
構成比(%)	0.0	6.2	24.7	9.3	30.9	22.7	13.4	9.3	28.9	8.2	20.6	61.9	3.1	43.3	1.0	4.1	0.0	2.1	289.7	100.0

② 減少傾向の分野

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
	文学関係(史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会福祉学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係(看護・理学療法・作業療法)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他		延数	実数
回答者数(人)	63	13	18	12	9	13	7	20	14	13	4	23	4	25	18	0	4	4	273	97
構成比(%)	64.9	13.4	18.6	12.4	9.3	13.4	7.2	20.6	14.4	13.4	4.1	23.7	4.1	25.8	18.6	0.0	4.1	4.1	281.4	100.0

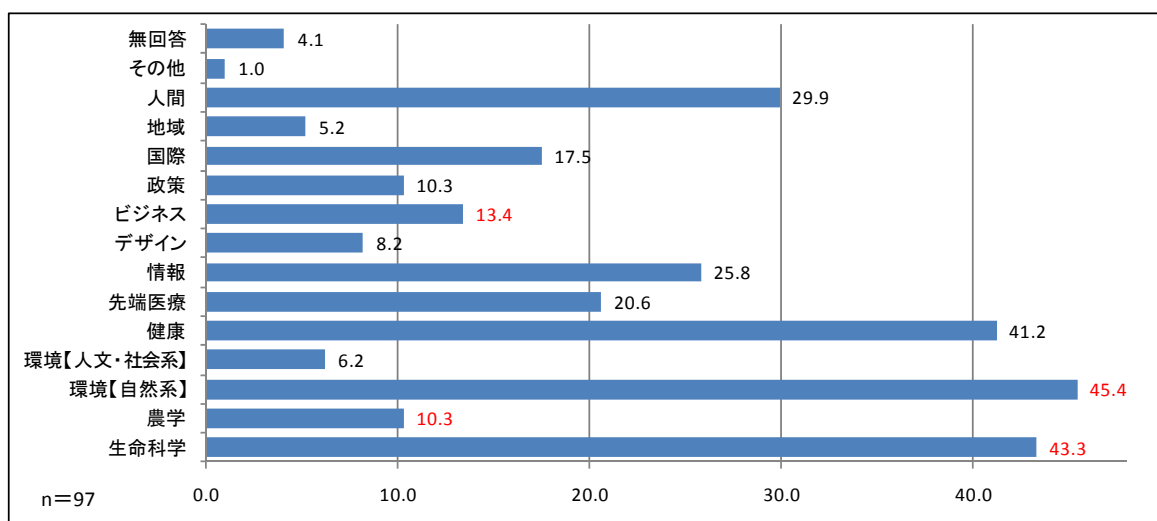
## (2) キーワード別分類

最近3年間程度における生徒の進学動向についてキーワード別分類で見ると、増加傾向の分野としては「環境【自然系】」が45.4%で最も多く、次いで「生命科学」43.3%、「健康」41.2%であり、県内高校の進路指導教員の4割強がこれらの分野の志願者は増えていると認識している。このほか、「人間」29.9%、「情報」25.8%、「先端医療」20.6%などとなっている。

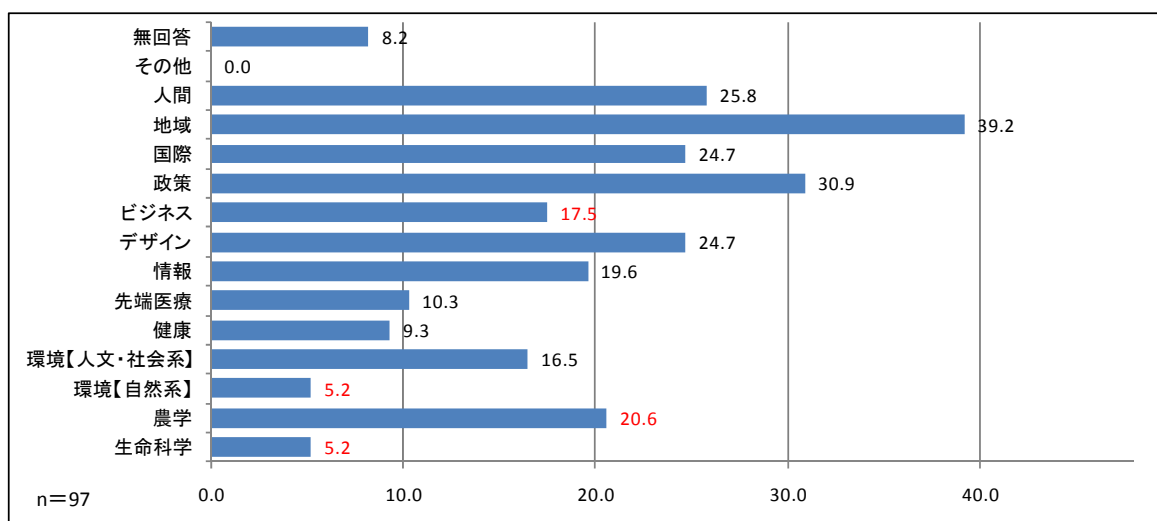
一方、減少傾向の分野については、「地域」が39.2%で最も多く、次いで「政策」30.9%、「人間」25.8%、「デザイン」及び「国際」24.7%、「農学」20.6%などとなっている。

「人間」については増加傾向の分野として回答者の29.9%が指摘している一方、減少傾向の分野としても25.8%が指摘しており認識に違いが見られる。

### ① 増加傾向の分野



### ② 減少傾向の分野



① 増加傾向の分野

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	無回答	合計	
	生命科学	農学	環境【自然系】	環境【人文・社会系】	健康	先端医療	情報	デザイン	ビジネス	政策	国際	地域	人間	その他		延数	実数
回答者数 (人)	42	10	44	6	40	20	25	8	13	10	17	5	29	1	4	274	97
構成比 (%)	43.3	10.3	45.4	6.2	41.2	20.6	25.8	8.2	13.4	10.3	17.5	5.2	29.9	1.0	4.1	282.5	100.0

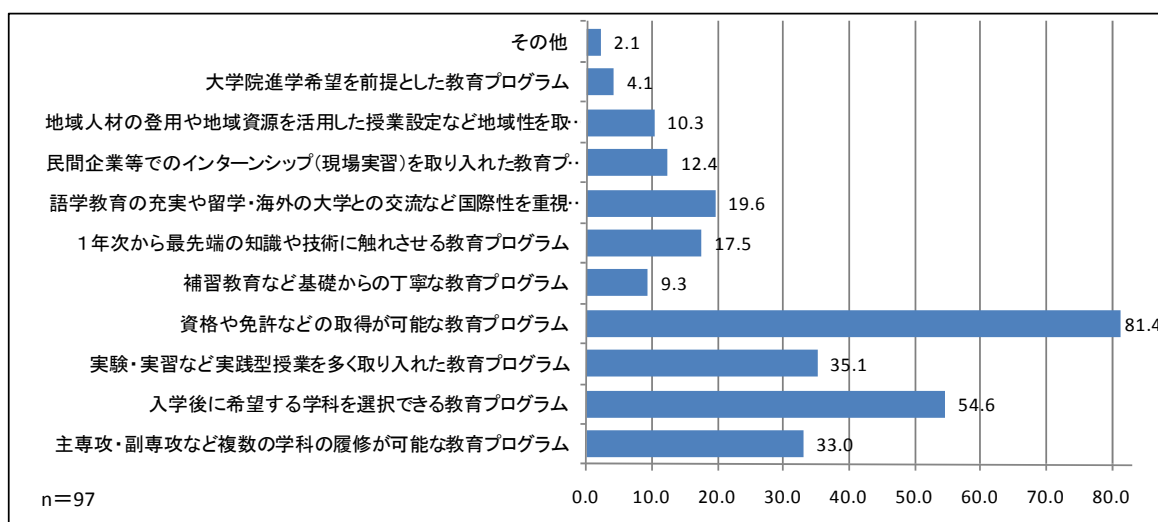
② 減少傾向の分野

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	無回答	合計	
	生命科学	農学	環境【自然系】	環境【人文・社会系】	健康	先端医療	情報	デザイン	ビジネス	政策	国際	地域	人間	その他		延数	実数
回答者数 (人)	5	20	5	16	9	10	19	24	17	30	24	38	25	0	8	250	97
構成比 (%)	5.2	20.6	5.2	16.5	9.3	10.3	19.6	24.7	17.5	30.9	24.7	39.2	25.8	0.0	8.2	257.7	100.0



### 問3 進路指導で大学を選ぶ際に重視すること（3つまでの複数回答）

生徒への進路指導において大学を選ぶ際に重視していることについて見ると、「資格や免許などの取得が可能な教育プログラム」が81.4%で最も多く、生徒の資格・免許への関心の高さを踏まえた対応と考えられる。次いで「入学後に希望する学科を選択できる教育プログラム」54.6%、「実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム」35.1%、「主専攻・副専攻など複数の学科の履修が可能な教育プログラム」33.0%などが多くなっている。



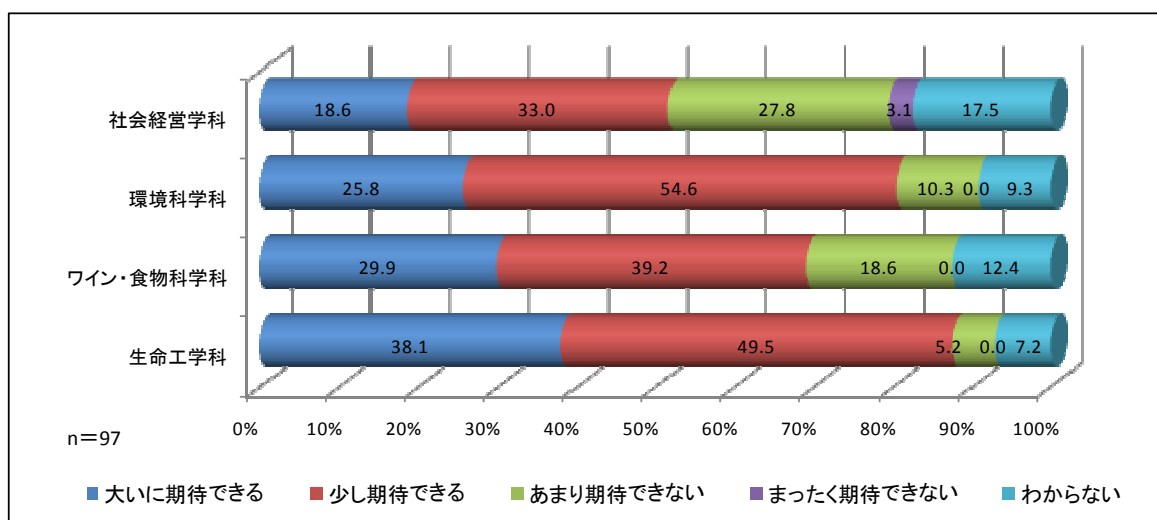
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計	
	主専攻・副専攻など複数の学科の履修が可能な教育プログラム	入学後に希望する学科を選択できる教育プログラム	実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム	資格や免許などの取得が可能な教育プログラム	補習教育など基礎からの丁寧な教育プログラム	1年次から最先端の知識や技術に触れさせる教育プログラム	語学教育の充実や留学・海外の大学との交流など国際性を重視した教育プログラム	民間企業等でのインターンシップ(現場実習)を取り入れた教育プログラム	地域人材の登用や地域資源を活用した授業設定など地域性を取	大学院進学希望を前提とした教育プログラム	その他		延数	実数
回答者数(人)	32	53	34	79	9	17	19	12	10	4	2	1	272	97
構成比(%)	33.0	54.6	35.1	81.4	9.3	17.5	19.6	12.4	10.3	4.1	2.1	1.0	280.4	100.0

#### 問4 新学部学科に対する生徒の進学希望について

##### (1) 生徒の進学希望に係る期待度

新学部（生命環境学部（仮称））の4学科について、生徒の進学希望に係る期待度を見ると、生命工学科では「大いに期待できる」38.1%、「少し期待できる」49.5%であり、ワイン・食物科学科では「大いに期待できる」29.9%、「少し期待できる」39.2%、環境科学科では「大いに期待できる」25.8%、「少し期待できる」54.6%、社会経営学科では「大いに期待できる」18.6%、「少し期待できる」33.0%である。

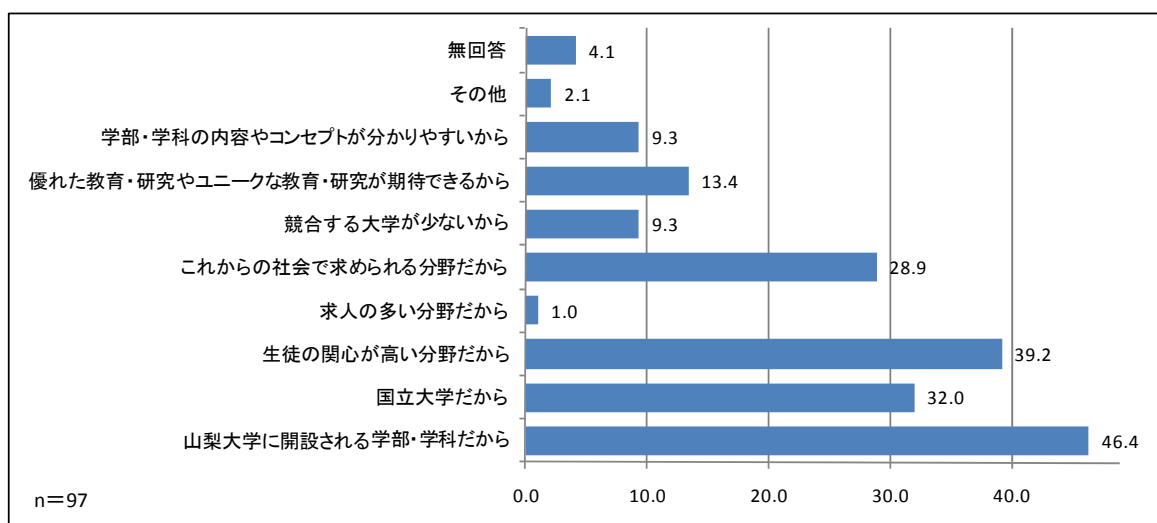
したがって、生徒の新学科への進学については、生命工学科では県内高校の進路指導教員の約9割、環境科学科については約8割、ワイン・食物科学科については約7割、社会経営学科については約5割が期待を持っていると言える。



		1	2	3	4	5	無回答	合計
		大いに期待できる	少し期待できる	あまり期待できない	まったく期待できない	わからない		
回答者数 (人)	生命工学科	37	48	5	0	7	0	97
	ワイン・食物科学科	29	38	18	0	12	0	97
	環境科学科	25	53	10	0	9	0	97
	社会経営学科	18	32	27	3	17	0	97
構成比 (%)	生命工学科	38.1	49.5	5.2	0.0	7.2	0.0	100.0
	ワイン・食物科学科	29.9	39.2	18.6	0.0	12.4	0.0	100.0
	環境科学科	25.8	54.6	10.3	0.0	9.3	0.0	100.0
	社会経営学科	18.6	33.0	27.8	3.1	17.5	0.0	100.0

(2) (1) ①～④で1又は2を回答した理由(2つまでの複数回答)

新学科に対する生徒の進学希望に係る期待度(問4(1))において、「大いに期待できる」又は「少し期待できる」を回答した回答者に対して回答理由を尋ねたところ、「山梨大学に開設される学部・学科だから」が46.4%で最も多く、次いで「生徒の関心が高い分野だから」39.2%、「国立大学だから」32.0%、「これからの社会で求められる分野だから」28.9%などとなっている。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	無回答	合計	
	山梨大学に開設される学部・学科だから	国立大学だから	生徒の関心が高い分野だから	求人の多い分野だから	これからの社会で求められる分野だから	競合する大学が少ないから	優れた教育・研究やユニークな教育・研究が期待できるから	学部・学科の内容やコンセプトが分かりやすいから	その他		延数	実数
回答者数(人)	45	31	38	1	28	9	13	9	2	4	180	97
構成比(%)	46.4	32.0	39.2	1.0	28.9	9.3	13.4	9.3	2.1	4.1	185.6	100.0

## (2) 進路指導教員クロス集計

### ■ 各学科への生徒の進学希望に係る期待度（問4（1））における理由（問4（2））

#### 問4（1）×問4（2）

#### ① 生命工学科

新学部の各学科に対する生徒の進学希望について、期待できると回答した回答者の回答理由を学科ごとに見ると、「生命工学科」への進学に期待できるとした回答者のうち「大いに期待できる」とした回答者については、「生徒の関心が高い分野だから」が45.9%で最も多く、次いで「これからの社会で求められる分野だから」が40.5%で続いている。また、「少し期待できる」を回答した回答者の回答理由については、「山梨大学に開設される学部・学科だから」が54.2%で最も多く、次いで「国立大学だから」が41.7%で続いている。

#### 問4(1)各学科への生徒の進学希望に係る期待度別の理由

##### ① 生命工学科

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	無回答	合計	
		山梨大学に開設される学部・学科だから	国立大学だから	生徒の関心が高い分野だから	求人が多い分野だから	これからの社会で求められる分野だから	競争する大学が少ないから	優れた教育・研究やユニークな教育・研究が期待できるから	学部・学科の内容やコンセプトが分かりやすいから	その他		延数	実数
回答者数 (人)	大いに期待できる	14	8	17	1	15	2	7	1	1	0	66	37
	少し期待できる	26	20	13	0	10	5	6	6	0	0	86	48
	合計	40	28	30	1	25	7	13	7	1	0	152	85
構成比 (%)	大いに期待できる	37.8	21.6	45.9	2.7	40.5	5.4	18.9	2.7	2.7	0.0	178.4	100.0
	少し期待できる	54.2	41.7	27.1	0.0	20.8	10.4	12.5	12.5	0.0	0.0	179.2	100.0
	合計	47.1	32.9	35.3	1.2	29.4	8.2	15.3	8.2	1.2	0.0	178.8	100.0

#### ② ワイン・食物科学科

「ワイン・食物科学科」への進学に期待できるとした回答者のうち「大いに期待できる」とした回答者については、「山梨大学に開設される学部・学科だから」が44.8%で最も多く、次いで「これからの社会で求められる分野だから」が37.9%で続いている。また、「少し期待できる」を回答した回答者の回答理由については、「山梨大学に開設される学部・学科だから」が52.6%で最も多く、次いで「国立大学だから」が39.5%で続いている。

② ワイン・食物科学科

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	無回答	合計	
		山梨大学に開設される学部・学科だから	国立大学だから	生徒の関心が高い分野だから	求人が多い分野だから	これからの社会で求められる分野だから	競合する大学が少ないから	優れた教育・研究やユニークな教育・研究が期待できるから	学部・学科の内容やコンセプトが分かりやすいから	その他		延数	実数
回答者数 (人)	大いに期待できる	13	8	9	0	11	2	5	3	1	0	52	29
	少し期待できる	20	15	12	0	7	5	7	5	1	0	72	38
	合計	33	23	21	0	18	7	12	8	2	0	124	67
構成比 (%)	大いに期待できる	44.8	27.6	31.0	0.0	37.9	6.9	17.2	10.3	3.4	0.0	179.3	100.0
	少し期待できる	52.6	39.5	31.6	0.0	18.4	13.2	18.4	13.2	2.6	0.0	189.5	100.0
	合計	49.3	34.3	31.3	0.0	26.9	10.4	17.9	11.9	3.0	0.0	185.1	100.0

③ 環境科学科

「環境科学科」への進学に期待できるとした回答者のうち「大いに期待できる」とした回答者については、「山梨大学に開設される学部・学科だから」が60.0%で最も多く、次いで「これからの社会で求められる分野だから」が40.0%で続いている。また、「少し期待できる」を回答した回答者の回答理由については、「山梨大学に開設される学部・学科だから」が43.4%で最も多く、次いで「生徒の関心が高い分野だから」が32.1%で続いている。

③ 環境科学科

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	無回答	合計	
		山梨大学に開設される学部・学科だから	国立大学だから	生徒の関心が高い分野だから	求人が多い分野だから	これからの社会で求められる分野だから	競合する大学が少ないから	優れた教育・研究やユニークな教育・研究が期待できるから	学部・学科の内容やコンセプトが分かりやすいから	その他		延数	実数
回答者数 (人)	大いに期待できる	15	8	9	0	10	1	2	0	1	0	46	25
	少し期待できる	23	16	17	1	15	6	10	5	1	0	94	53
	合計	38	24	26	1	25	7	12	5	2	0	140	78
構成比 (%)	大いに期待できる	60.0	32.0	36.0	0.0	40.0	4.0	8.0	0.0	4.0	0.0	184.0	86.2
	少し期待できる	43.4	30.2	32.1	1.9	28.3	11.3	18.9	9.4	1.9	0.0	177.4	139.5
	合計	48.7	30.8	33.3	1.3	32.1	9.0	15.4	6.4	2.6	0.0	179.5	116.4

#### ④ 社会経営学科

「社会経営学科」への進学に期待できるとした回答者のうち「大いに期待できる」とした回答者については、「山梨大学に開設される学部・学科だから」が 66.7%で最も多く、次いで「生徒の関心が高い分野だから」が 55.6%で続いている。また、「少し期待できる」を回答した回答者の回答理由については、「国立大学だから」が 53.1%で最も多く、次いで「山梨大学に開設される学部・学科だから」が 46.9%で続いている。

#### ④ 社会経営学科

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	無回答	合計	
		山梨大学に開設される学部・学科だから	国立大学だから	生徒の関心が高い分野だから	求人の多い分野だから	これからの社会で求められる分野だから	競合する大学が少ないから	優れた教育・研究やユニークな教育・研究が期待できるから	学部・学科の内容やコンセプトが分かりやすいから	その他		延数	実数
回答者数 (人)	大いに期待できる	12	4	10	0	7	1	0	1	0	0	35	18
	少し期待できる	15	17	9	1	6	2	4	2	0	0	56	32
	合計	27	21	19	1	13	3	4	3	0	0	91	50
構成比 (%)	大いに期待できる	66.7	22.2	55.6	0.0	38.9	5.6	0.0	5.6	0.0	0.0	194.4	62.1
	少し期待できる	46.9	53.1	28.1	3.1	18.8	6.3	12.5	6.3	0.0	0.0	175.0	84.2
	合計	54.0	42.0	38.0	2.0	26.0	6.0	8.0	6.0	0.0	0.0	182.0	74.6

以上のことから、生徒の進学について「大いに期待できる」とした回答者の学科別の回答傾向を見ると、「山梨大学に開設される学部・学科だから」という回答が比較的多いのは「ワイン・食物科学科」、「環境科学科」、「社会経営学科」、また「生徒の関心が高い分野だから」という回答が比較的多いのは「生命工学科」と「社会経営学科」、さらに「これからの社会で求められる分野だから」という回答が比較的多いのは「生命工学科」、「ワイン・食物科学科」、「環境科学科」となっている。

### (3) 進路指導教員自由回答(問5)

- 実際に社会に出て仕事をする上で、有益な内容も多く含んでいただきたいです。
- 地元の国公立大を希望する生徒が多いので、学部が増えると、今まで、学科がなかったから県外に出て行った生徒たちが地元に残って落ち着いて勉強できるのでありがたいです。ワイン、食物科学科と社会経営学科が定員30人ずつとありましたが、60人増の分、他学部の定員が減にならないと嬉しいです。
- 人文社会学系統の教育環境を整えてほしいと思います。
- 県内には社会科学系、農学系の国公立大がなかったので、県内志向の低い生徒、保護者にとってはとても魅力的なものになるのではと思います。動き出すまでは何ともわからないので、しばらくは静観する見方が多くなると思います。
- 生命〇〇学部で。
- 「地域の知の拠点」ということですので、ぜひ、山梨で育ち、山梨の産業に貢献したいとしている県内の高校生を多く学ばせていただきたいと思います。よろしくごお願い致します。
- 前回の応用化学と発酵生産のような事にならないよう期待します。・4学科のカリキュラムをしっかりとしたものにする事を望みます。(寄り合い所帯的なものではなくメッセージ性を持ったもの)
- 文系・理系のどちらの入試スタイルになるのか、位置づけを明確にしていれば生徒にも説明し易いと思います。
- 社会経営学科の位置づけ、内容に不明確な点が多い。
- 卒業が地域に就職定着できるような工夫を願います。
- 社会経営学科は、文系なのか理系なのかよくわからず、人気がないと思う。学部120人で募集し、途中から分かれていくプログラムの方が人気があると思う。
- 統合するよりは、今までのように専門的に分けておいた方が、生徒にもわかりやすく、目的が明確になるように思います。ソフトサイエンス等の改編の話も以前にありましたので、あまり変えない方が良いでしょう。
- 募集においては、地元山梨県の高校生ができるだけ多く入学できるように工夫して欲しい。・産・学・官の連携の下、山梨の地域の振興に貢献することを希望します。
- 本校は1年前のほぼ同様のアンケートに協力しましたが、(アンケート結果はいただきましたが)新学部・学科の改編を見送った経緯については、ほとんどご説明をいただけていないように思います。今回の農学部的な学科を独立させる計画は前回の文系を中心とした計画と併立するのか、前回の計画は全く消滅したのか、ご説明いただいた上で、今回のご依頼をいただきましたかったです。前回のアンケートを記憶している担任からの質問に答えられず困惑しました。
- 今現在、不況で就職のことを気にしている生徒が多くいます。その学部でどんな勉強が出来る、どんな分野の仕事に就職できるのかを具体的に明示してもらえたらいいです。
- 地元山梨ということで注目しています。
- このアンケートについてですが、依頼されたのが1/27(木)、高校入試のため生徒は休業なので、28(木)に配るしかないにも関わらず、生徒・保護者分を、2/2(火)までに、全員分提出するように言われたのですが、ちょっと急ぎすぎるのではないのでしょうか？
- 文系希望の生徒が少しでも多く入学できるようにしてほしい。
- ワイン、食物科学では、栄養士の資格も取得できると良い。

- 既存の学科との相違点を詳細にして欲しい。
- 意欲的な取り組みとして、評価できると思います。今後の山梨大学には、①法学、経済等のビジネスにかかわる文系の学部②理学部など、基礎科学を研究する学部の設置を期待します。これらの学部を希望する生徒たちは、地元を受け皿がなく、他県に流出せざるを得ない状況です。
- 地域性を考えた場合、醸造学などの分野での先進的研究・開発が期待されるが、民間レベルだと世襲制が強く、新たに事業を興すのが難しい分野である。農業高校、農業大学校などで学んだ者がさらに上位の教育を受けるために県外に多数進学しているのであれば将来性はある。
- 新情報は早く高校に教えて下さい。3年生には時間がありませんので。
- 生物、農学系の希望者が多い割には、今まで工学部の生命工学科1学科しかなくて、生徒の進路希望を生かすことができにくかったが、山梨大学にワイン食物科学科などができる予定でありがたい。また、文系の生徒の山梨大学への進学先は、教育人間科学部しかなかったが、社会経営学科の新設により、幅が広がり、生徒に喜ばれると思う。
- 「地域に根ざす」ためには地域企業との連携が不可欠であると考えられます。地域産業を守るとともに新規企業導入に耐えうる人材育成を常に視野に入れる必要があるかと思います。しかし、新学部設置を離れ、意見を言わせていただくと、大学があまりに産業界(企業)の方を聞きすぎ、本来の学問探究を疎かにしているようで、そうであってもいけないと思います。大きな長い視野に立っての人材育成を常に考えていく必要があるかと思います。
- 大学の魅力となるような学部になってほしいです。
- 山梨県の発展に貢献できる人材育成を目指してほしいです。地方大学の使命だと思っています。
- 山梨県の将来にかかわる重要な構想と思います。十分な検討・協議を行い、時代の要請に応えた学部の設置を御期待申し上げます。

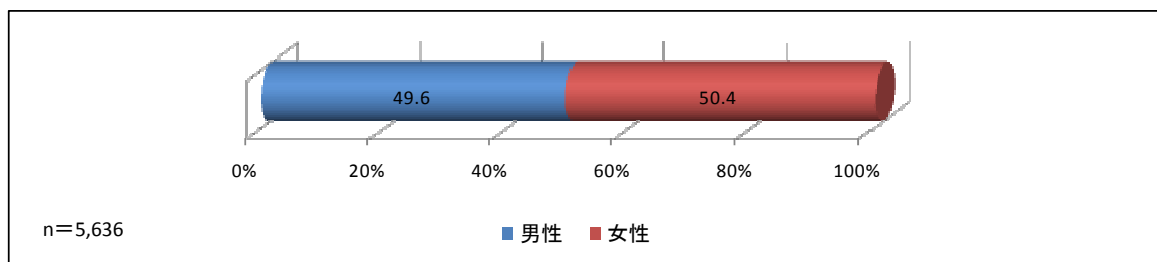


## 5 保護者対象調査結果

### (1) 保護者単純集計

#### 問1 子供の性別

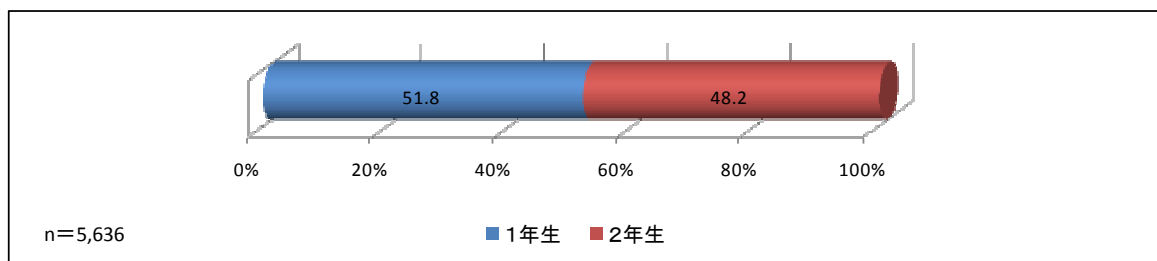
子供の性別内訳について見ると、「男性」49.6%、「女性」50.4%であり、ほぼ男女半々となっている。



	1 男性	2 女性	無回答	合計
回答者数(人)	2,794	2,841	1	5,636
構成比 (%)	49.6	50.4	0.0	100.0

#### 問2 子供の学年

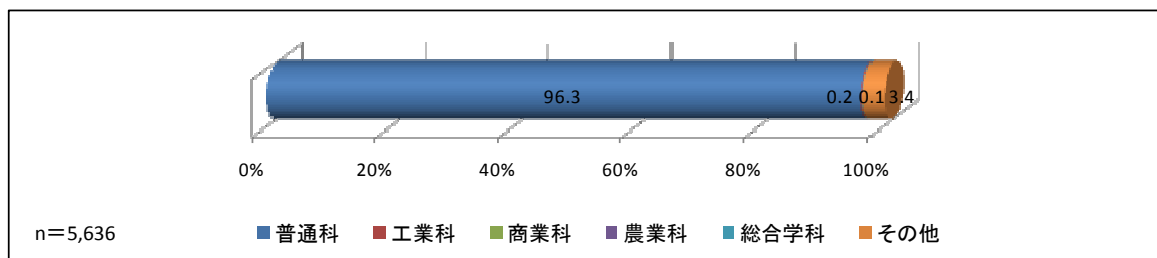
子供の学年について見ると、「1年生」が51.8%、「2年生」が48.2%であり、ほぼ同数となっている。



	1 1年生	2 2年生	無回答	合計
回答者数(人)	2,920	2,715	1	5,636
構成比 (%)	51.8	48.2	0.0	100.0

### 問3 子供の在籍学科

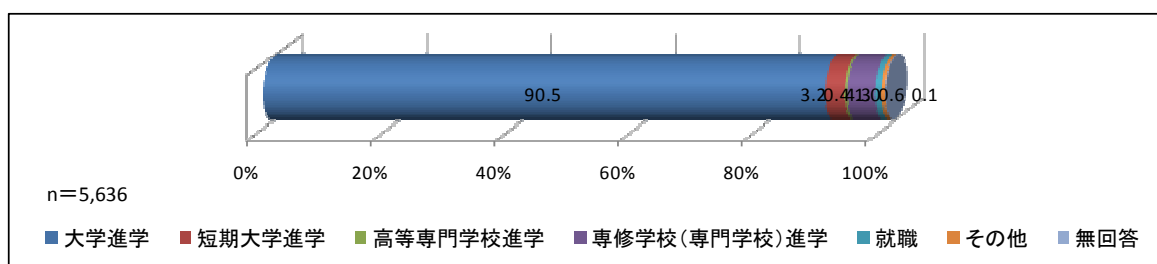
子供の在籍学科については、「普通科」が96.3%であり、ほぼ「普通科」で占められている。



	1 普通科	2 工業科	3 商業科	4 農業科	5 総合学科	6 その他	無回答	合計
回答者数(人)	5,426	12	2	1	3	189	3	5,636
構成比 (%)	96.3	0.2	0.0	0.0	0.1	3.4	0.1	100.0

### 問4 子供の高校卒業後の進路に関する希望

子供の高校卒業後の進路に係る希望について見ると、「大学進学」が90.5%で最も多く、圧倒的に「大学進学」を希望する保護者が多くなっている。

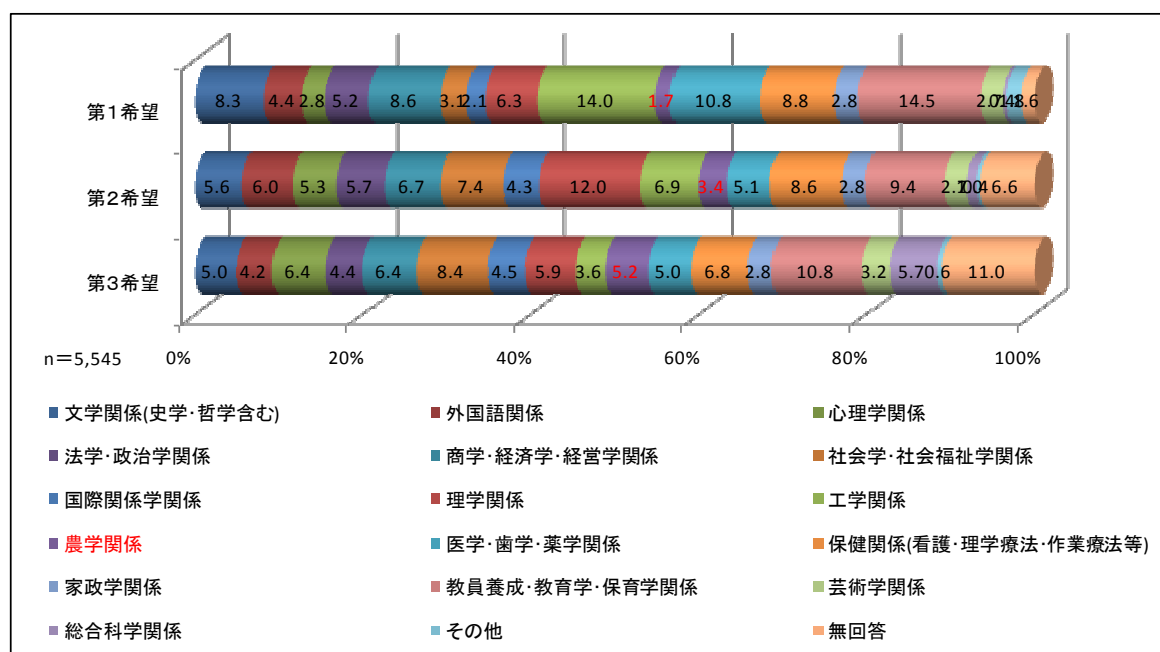


	1 大学進学	2 短期大学 進学	3 高等専門学 校進学	4 専修学校 (専門学校) 進学	5 就職	6 その他	無回答	合計
回答者数(人)	5,098	179	23	245	55	31	5	5,636
構成比 (%)	90.5	3.2	0.4	4.3	1.0	0.6	0.1	100.0

問5 子供の進学分野に関する希望 ※問4で1～4を回答した回答者のみ回答

(1) 学部・学科別分類

子供の高校卒業後の進路希望(問4)において「大学進学」、「短期大学進学」、「高等専門学校進学」又は「専修学校(専門学校)進学」を回答した回答者の学部・学科別分類における進学希望分野を見ると、第1希望では「教員養成・教育学・保育学関係」が14.5%で最も多く、次いで「工学関係」14.0%となっている。第2希望では「理学関係」が12.0%で最も多く、第3希望では「教員養成・教育学・保育学関係」10.8%が最も多い。全般的に回答は分散しているものの、傾向としては理工学系や教育学・保育学系への希望がやや多くなっている。



【第1希望】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
	文学関係 (史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係 (看護・理学療法・作業療法等)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他			
回答者数 (人)	459	246	155	291	476	174	118	350	778	93	599	489	155	804	151	23	98	86	5,545	
構成比 (%)	8.3	4.4	2.8	5.2	8.6	3.1	2.1	6.3	14.0	1.7	10.8	8.8	2.8	14.5	2.7	0.4	1.8	1.6	100.0	

注) 構成比(%)が10.0%以上のものに網掛けをしている。(【第2希望】、【第3希望】についても同じ。)

【第2希望】

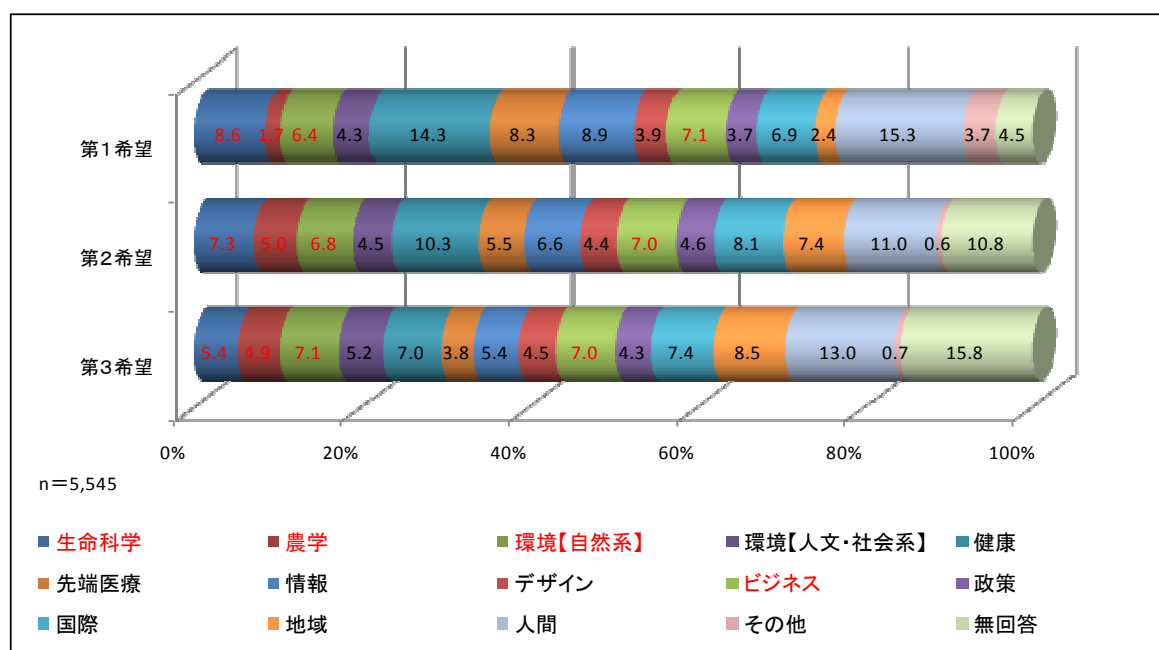
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
	文学関係 (史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係 (看護・理学療法・作業療法等)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他			
回答者数 (人)	308	334	294	318	371	411	239	666	381	191	283	478	157	523	148	56	21	366	5,545	
構成比 (%)	5.6	6.0	5.3	5.7	6.7	7.4	4.3	12.0	6.9	3.4	5.1	8.6	2.8	9.4	2.7	1.0	0.4	6.6	100.0	

【第3希望】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
	文学関係 (史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係 (看護・理学療法・作業療法等)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他			
回答者数 (人)	279	235	357	245	353	466	247	328	200	290	275	376	155	599	178	318	34	610	5,545	
構成比 (%)	5.0	4.2	6.4	4.4	6.4	8.4	4.5	5.9	3.6	5.2	5.0	6.8	2.8	10.8	3.2	5.7	0.6	11.0	100.0	

## (2) キーワード別分類

子供の高校卒業後の進路希望（問4）において「大学進学」、「短期大学進学」、「高等専門学校進学」又は「専修学校（専門学校）進学」を回答した回答者のキーワード別分類における進学希望分野を見ると、第1希望では「人間」が15.3%で最も多く、次いで「健康」14.3%となっている。第2希望でも「人間」11.0%や「健康」10.3%が比較的多く、第3希望でも「人間」13.0%が多くなっている。



【第1希望】

	1 生命科学	2 農学	3 環境 【自然系】	4 環境 【人文・社会系】	5 健康	6 先端医療	7 情報	8 デザイン	9 ビジネス	10 政策	11 国際	12 地域	13 人間	14 その他	無回答	合計
回答者数 (人)	479	93	353	240	792	463	492	217	393	205	385	132	850	204	247	5,545
構成比 (%)	8.6	1.7	6.4	4.3	14.3	8.9	3.9	4.4	7.1	3.7	6.9	2.4	15.3	3.7	4.5	100.0

注)構成比(%)が10.0%以上のものに網掛けをしている。(【第2希望】、【第3希望】についても同じ。)

【第2希望】

	1 生命科学	2 農学	3 環境 【自然系】	4 環境 【人文・社会系】	5 健康	6 先端医療	7 情報	8 デザイン	9 ビジネス	10 政策	11 国際	12 地域	13 人間	14 その他	無回答	合計
回答者数 (人)	406	280	376	247	570	306	366	246	390	255	451	410	611	32	599	5,545
構成比 (%)	7.3	5.0	6.8	4.5	10.3	5.5	6.6	4.4	7.0	4.6	8.1	7.4	11.0	0.6	10.8	100.0

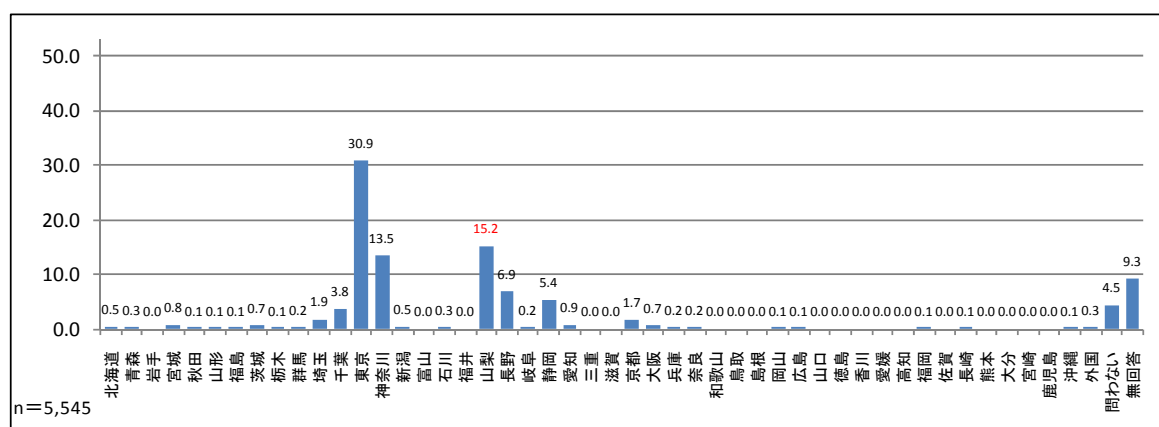
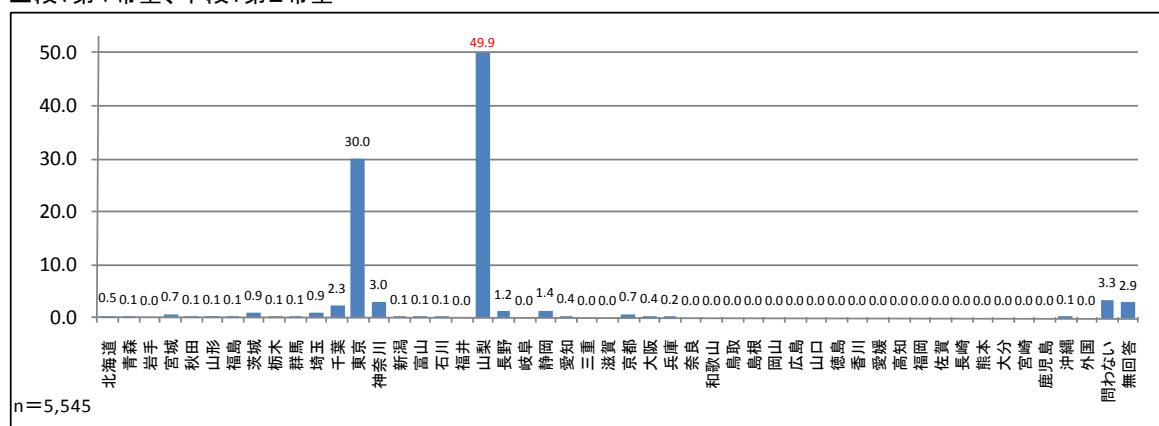
【第3希望】

	1 生命科学	2 農学	3 環境 【自然系】	4 環境 【人文・社会系】	5 健康	6 先端医療	7 情報	8 デザイン	9 ビジネス	10 政策	11 国際	12 地域	13 人間	14 その他	無回答	合計
回答者数 (人)	298	273	393	289	386	210	300	251	386	241	411	471	723	37	876	5,545
構成比 (%)	5.4	4.9	7.1	5.2	7.0	3.8	5.4	4.5	7.0	4.3	7.4	8.5	13.0	0.7	15.8	100.0

問6 進学希望地域 ※問4で1～4を回答した回答者のみ回答

子供の高校卒業後の進路希望（問4）において「大学進学」、「短期大学進学」、「高等専門学校進学」又は「専修学校（専門学校）進学」を回答した回答者の進学希望地域について見ると、第1希望では「山梨」が49.9%で最も多く、ほぼ半数を占めている。次いで多いのは「東京」30.0%であり、山梨と東京で8割を占めている。第2希望については、「東京」が30.9%で最も多く、次いで「山梨」15.2%、「神奈川」13.5%となっている。

上段：第1希望、下段：第2希望



【第1希望】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野
回答者数 (人)	30	5	2	40	3	3	3	52	8	4	48	130	1,666	168	7	5	5	1	2,767	65
構成比 (%)	0.5	0.1	0.0	0.7	0.1	0.1	0.1	0.9	0.1	0.1	0.9	2.3	30.0	3.0	0.1	0.1	0.1	0.0	49.9	1.2
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡
回答者数 (人)	1	79	20	0	1	40	20	9	2	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	2
構成比 (%)	0.0	1.4	0.4	0.0	0.0	0.7	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	41	42	43	44	45	46	47	48	49	無回答	合計									
	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	外国	問わ ない											
回答者数 (人)	0	0	1	0	1	0	8	2	183	159	5,545									
構成比 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	3.3	2.9	100.0									

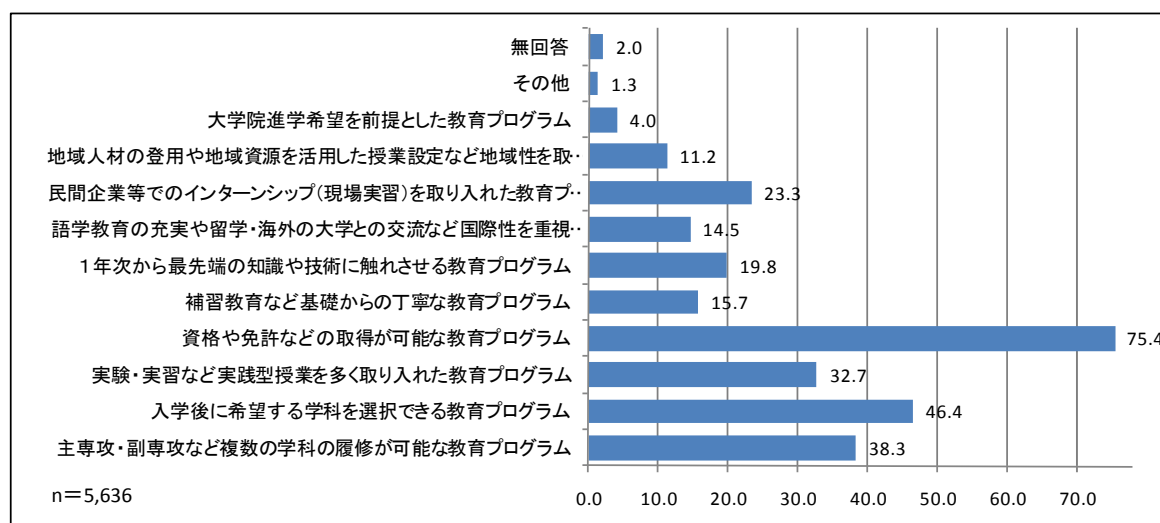
【第2希望】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野
回答者数 (人)	30	16	2	43	3	3	8	41	3	13	107	211	1,715	750	26	2	15	1	842	383
構成比 (%)	0.5	0.3	0.0	0.8	0.1	0.1	0.1	0.7	0.1	0.2	1.9	3.8	30.9	13.5	0.5	0.0	0.3	0.0	15.2	6.9
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡
回答者数 (人)	9	302	49	1	1	95	39	11	10	1	0	2	3	4	0	0	0	1	1	6
構成比 (%)	0.2	5.4	0.9	0.0	0.0	1.7	0.7	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	41	42	43	44	45	46	47	48	49	無回答	合計									
	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	外国	問わ ない											
回答者数 (人)	1	3	1	1	1	2	6	17	250	514	5,545									
構成比 (%)	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	4.5	9.3	100.0									



### 問7 大学を選ぶ際に重視すること（3つまでの複数回答）

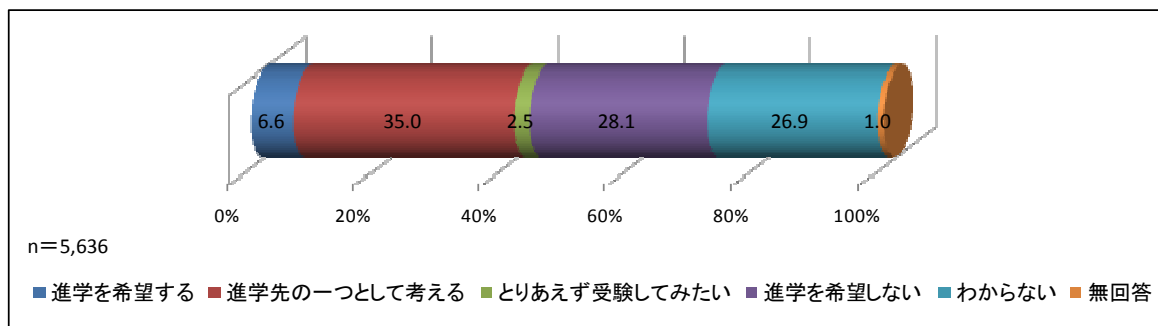
大学を選ぶ際に重視することについては、「資格や免許などの取得が可能な教育プログラム」が75.4%で最も多く、大半の回答者が資格や免許の取得を重視している。このほか、「入学後に希望する学科を選択できる教育プログラム」46.4%、「主専攻・副専攻など複数の学科の履修が可能な教育プログラム」38.3%、「実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム」32.7%などが多くなっている。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計	
	主専攻・副専攻など複数の学科の履修が可能な教育プログラム	入学後に希望する学科を選択できる教育プログラム	実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム	資格や免許などの取得が可能な教育プログラム	補習教育など基礎からの丁寧な教育プログラム	1年次から最先端の知識や技術に触れさせる教育プログラム	語学教育の充実や留学・海外の大学との交流など国際性を重視した教育プログラム	民間企業等でのインターンシップ(現場実習)を取り入れた教育プログラム	地域人材の登用や地域資源を活用した授業設定など地域性を取	大学院進学希望を前提とした教育プログラム	その他		延数	実数
回答者数(人)	2,157	2,616	1,841	4,250	887	1,116	815	1,312	634	223	71	115	16,037	5,636
構成比(%)	38.3	46.4	32.7	75.4	15.7	19.8	14.5	23.3	11.2	4.0	1.3	2.0	284.5	100.0

### 問8 子供の新学部への進学について

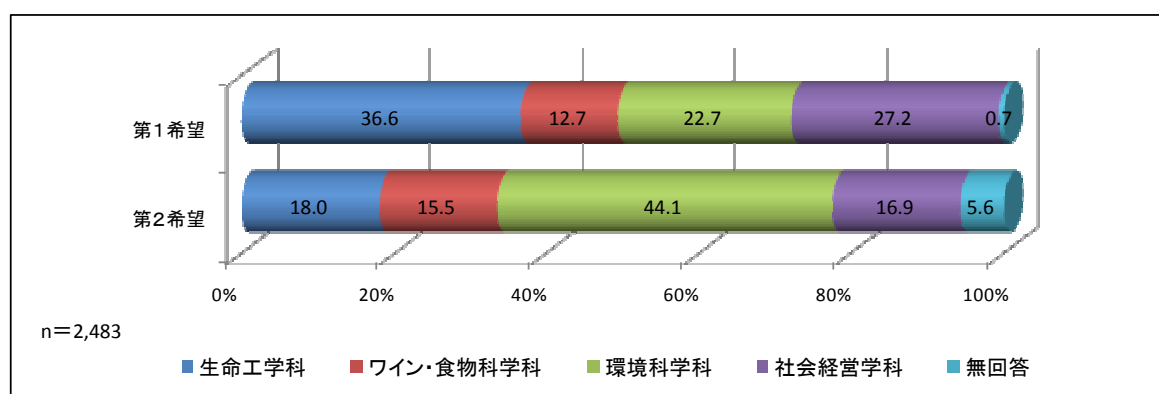
子供の新学部（生命環境学部（仮称））への進学に係る保護者としての希望について見ると、「進学を希望する」は6.6%、「進学先の一つとして考える」は35.0%、「とりあえず受験してみたい」は2.5%であり、これらを合わせると44.1%の保護者は子供が新学部を受験することを希望していると考えられる。



	1 進学を希望する	2 進学先の一つとして考える	3 とりあえず受験してみたい	4 進学を希望しない	5 わからない	無回答	合計
回答者数(人)	372	1,972	139	1,583	1,515	55	5,636
構成比 (%)	6.6	35.0	2.5	28.1	26.9	1.0	100.0

問9 (1) 子供の進学希望学科 ※問8で1～3を回答した回答者のみ回答

子供の新学部への進学希望(問8)において「進学を希望する」、「進学先の一つとして考える」又は「とりあえず受験してみたい」を回答した回答者の進学希望学科について見ると、第1希望では「生命工学科」が33.6%で最も多く、次いで「社会経営学科」27.2%、「環境科学科」22.7%、「ワイン・食物科学科」12.7%となっている。第2希望については「環境科学科」が44.1%で最も多く、次いで「生命工学科」18.0%、「社会経営学科」16.9%、「ワイン・食物科学科」15.5%となっている。



【第1希望】

	1 生命工学科	2 ワイン・食物科学科	3 環境科学科	4 社会経営学科	無回答	合計
回答者数(人)	910	316	564	676	17	2,483
構成比(%)	36.6	12.7	22.7	27.2	0.7	100.0

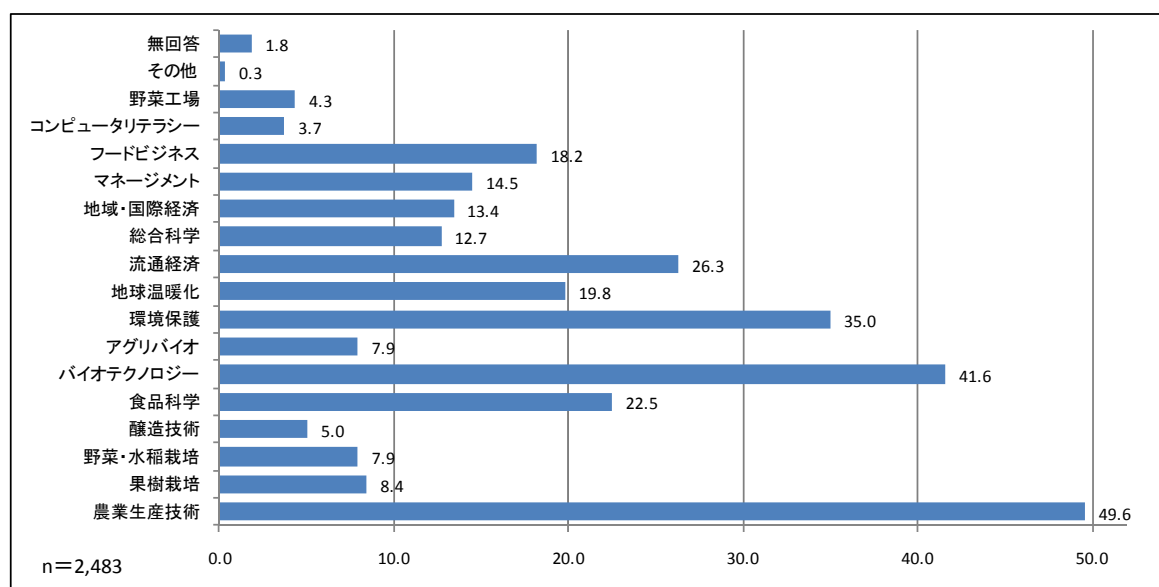
【第2希望】

	1 生命工学科	2 ワイン・食物科学科	3 環境科学科	4 社会経営学科	無回答	合計
回答者数(人)	447	384	1,094	420	138	2,483
構成比(%)	18.0	15.5	44.1	16.9	5.6	100.0

問9（2） 農学を学ぶ上で将来必要なこと（3つまでの複数回答）

※問8で1～3を回答した回答者のみ回答

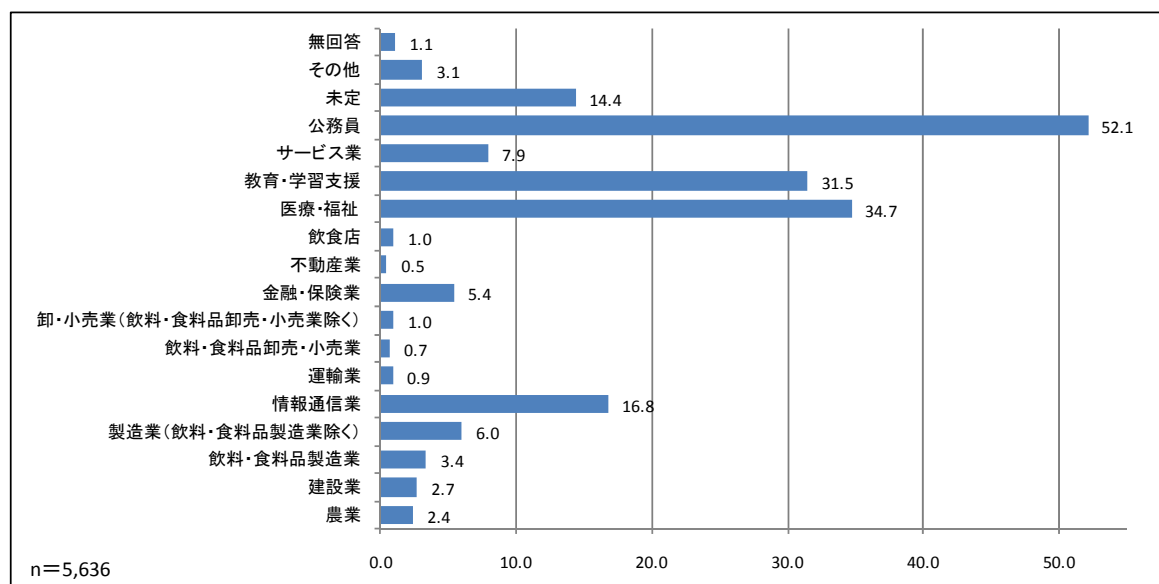
子供の新学部への進学希望（問8）において「進学を希望する」、「進学先の一つとして考える」又は「とりあえず受験してみたい」を回答した回答者に対して、農学を学ぶ上で将来必要なことについて尋ねたところ、「農業生産技術」が49.6%で最も多く、次いで「バイオテクノロジー」41.6%、「環境保護」35.0%、「流通経済」26.3%などの回答が多くなっている。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
	農業生産技術	果樹栽培	野菜・水稲栽培	醸造技術	食品科学	バイオテクノロジー	アグリバイオ	環境保護	地球温暖化	流通経済	総合科学	地域・国際経済	マネージメント	フードビジネス	コンピュータリテラシー	野菜工場	その他		延数	実数
回答者数 (人)	1,231	209	197	123	559	1,032	196	868	492	652	315	332	361	453	93	108	7	44	7,272	2,483
構成比 (%)	49.6	8.4	7.9	5.0	22.5	41.6	7.9	35.0	19.8	26.3	12.7	13.4	14.5	18.2	3.7	4.3	0.3	1.8	292.9	100.0

### 問10 就職希望の業種（2つまでの複数回答）

子供の将来の就職先として希望する業種を見ると、「公務員」が52.1%で最も多く、半数以上の保護者が「公務員」を望んでいることが伺える。このほか、「医療・福祉」34.7%、「教育・学習支援」31.5%、「情報通信業」16.8%などの回答が比較的多くなっている。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
	農業	建設業	飲料・ 食料品 製造業	製造業 (飲料・ 食料品 製造業 除く)	情報通 信業	運輸業	飲料・ 食料品 卸売・ 小売業	卸・小 売業 (飲料・ 食料品 卸売・ 小売業 除く)	金融・ 保険業	不動産 業	飲食店	医療・ 福祉	教育・ 学習支 援	サービ ス業	公務員	未定	その他		延数	実数
回答者数 (人)	134	151	189	340	947	49	42	54	303	28	58	1,958	1,774	446	2,937	809	174	63	10,456	5,636
構成比 (%)	2.4	2.7	3.4	6.0	16.8	0.9	0.7	1.0	5.4	0.5	1.0	34.7	31.5	7.9	52.1	14.4	3.1	1.1	185.5	100.0

## (2) 保護者クロス集計

- 学部・学科別の進学希望分野（問5（1））（第1希望）で「農学関係」を回答した回答者及びキーワード別の進学希望分野（問5（2））（第1希望）で「生命科学」、「農学」、「環境【自然系】」、「ビジネス」を回答した回答者の第1希望の進学希望地域（問6）  
問5（1）（2）×問6

子供の進学希望分野（第1希望）として、学部・学科別分類で「農学関係」を回答した回答者及びキーワード別分類で「生命科学」、「農学」、「環境【自然系】」、「ビジネス」を回答した回答者における子供の進学希望地域を見ると、「農学関係」、「生命科学」、「農学」及び「環境【自然系】」を第1希望にあげた回答者についてはいずれも「山梨」が5割程度を占め最も多く、次いで「東京」が3割前後が続いている。これに対し子供の進学希望分野として「ビジネス」を第1希望にあげた回答者については、「東京」が46.1%で最も多く、次いで「山梨」が32.6%が続いている。

問5(1)学部・学科別分類の第1希望で「農学関係」を回答した回答者および問5(2)キーワード別分類の第1希望で「生命科学」「農学」「環境【自然系】」「ビジネス」を回答した回答者(680人)の問6進学希望地域(第1希望)

都県	進学希望地域の上位都道府県
農学関係<93人>※1	山梨(46.2%)／東京(33.3%)／問わない(5.4%)／北海道・長野(3.2%)等
生命科学<479人>	山梨(50.1%)／東京(27.1%)／問わない(4.2%)／千葉(3.5%)／北海道(2.7%)等
農学<93人>※2	山梨(54.8%)／東京(24.7%)／問わない(4.3%)等
環境【自然系】<353人>	山梨(51.0%)／東京(26.1%)／問わない(4.2%)等
ビジネス<393人>	東京(46.1%)／山梨(32.5%)／神奈川(8.1%)／問わない(2.0%)等
合計<1,411人>	山梨(45.5%)／東京(32.4%)／問わない(3.7%)／静岡(3.5%)等

※1の「農学関係」は問5(1)学部・学科別分類における「農学関係」回答者、※2の「農学」は問5(2)キーワード別分類における「農学」回答者

■ 新学部進学希望者（問8）の進学希望学科（問9（1）） 問8×問9（1）

新学部に子供が進学あるいは受験することを希望する回答者の進学あるいは受験を希望する学科を見ると、第1希望については、「進学を希望する」、「進学先の一つとして考える」、「とりあえず受験してみたい」のいずれも「生命工学科」が最も多く、次いで「社会経営学科」、「環境科学科」、「ワイン・食物科学科」の順となっている。

第2希望については、「進学を希望する」、「進学先の一つとして考える」、「とりあえず受験してみたい」のいずれも「環境科学科」が4割強を占め最も多く、他の3学科は15.0%から20.0%の範囲でほぼ並んでいる。

問8新学部進学希望で「進学を希望する」「進学先の一つとして考える」「とりあえず受験してみたい」を回答した回答者の問9(1)進学希望学科

(第1希望)

		1 生命工学科	2 ワイン・食物 科学科	3 環境科学科	4 社会経営学 科	無回答	合計
回答者数 (人)	進学を希望する	139	61	81	89	2	139
	進学先の一つとして考える	725	232	453	548	14	725
	とりあえず受験してみたい	46	23	30	39	1	46
	合計	910	316	564	676	17	910
構成比 (%)	進学を希望する	37.4	16.4	21.8	23.9	0.5	37.4
	進学先の一つとして考える	36.8	11.8	23.0	27.8	0.7	36.8
	とりあえず受験してみたい	33.1	16.5	21.6	28.1	0.7	33.1
	合計	36.6	12.7	22.7	27.2	0.7	36.6

(第2希望)

		1 生命工学科	2 ワイン・食物 科学科	3 環境科学科	4 社会経営学 科	無回答	合計
回答者数 (人)	進学を希望する	77	68	156	54	17	372
	進学先の一つとして考える	344	295	878	344	111	1,972
	とりあえず受験してみたい	26	21	60	22	10	139
	合計	447	384	1,094	420	138	2,483
構成比 (%)	進学を希望する	20.7	18.3	41.9	14.5	4.6	100.0
	進学先の一つとして考える	17.4	15.0	44.5	17.4	5.6	100.0
	とりあえず受験してみたい	18.7	15.1	43.2	15.8	7.2	100.0
	合計	18.0	15.5	44.1	16.9	5.6	100.0

■ 学科別進学希望（問9（1））における第1希望と第2希望のクロス集計

問9（1）×問9（1）

学科別の進学希望で第1希望に回答した回答者の第2希望の学科を見ると、第1希望で「生命工学科」、「ワイン・食物科学科」及び「社会経営学科」を回答した回答者については、いずれも第2希望で「環境科学科」を回答する回答者が5割以上を占めている。「環境科学科」を第1希望とした回答者の第2希望については、「生命工学科」が41.5%で最も多く、次いで「社会経営学科」が39.5%となっている。

問9(1)学科別進学希望における第1希望と第2希望のクロス集計

		1 生命工学科 (第2希望)	2 ワイン・食物 科学科 (第2希望)	3 環境科学科 (第2希望)	4 社会経営学 科 (第2希望)	無回答	合計
回答者数 (人)	生命工学科(第1希望)	2	197	548	130	33	910
	ワイン・食物科学科(第1希望)	72	1	168	67	8	316
	環境科学科(第1希望)	234	87	0	223	20	564
	社会経営学科(第1希望)	139	99	378	0	60	676
	合計(第1希望)	447	384	1,094	420	121	2,466
構成比 (%)	生命工学科(第1希望)	0.2	21.6	60.2	14.3	3.6	100.0
	ワイン・食物科学科(第1希望)	22.8	0.3	53.2	21.2	2.5	100.0
	環境科学科(第1希望)	41.5	15.4	0.0	39.5	3.5	100.0
	社会経営学科(第1希望)	20.6	14.6	55.9	0.0	8.9	100.0
	合計(第1希望)	18.1	15.6	44.4	17.0	4.9	100.0



### (3) 保護者自由回答 (問 11)

- 資格を取れる学部にして欲しい。
- 就職先が多くある事、資格がとれて生かせる事など実用的、実社会に役立つ学部であることを望みます。
- 地元の学生に対し、体験学習等を行って欲しい。
- 地域(地元)の産業の発展に又、日本の技術の発展に貢献できる人材の育成をこれからもお願いします。(山梨大学は工学部においては日本の技術進歩に大きな貢献をしてきています。又、教育学部、医学部は教員医師を多く育成して実績があると思います。)すばらしい大学だと思いますが、今一つ地方にあるのでPR不足かと思う時もあります。
- 地域の学生が入りやすい「枠」があるとよい。
- いろいろな事が専門的に学べる学科ができれば、就職にも役立つのでぜひ作って頂きたいと思います。
- 大学卒業後に就職に結びつくような学部であって欲しいです。山梨の産業に貢献でき、卒業生が地元で活躍できるような基礎をつくってくれる位置づけになって欲しいと思います。
- 地域の知の拠点として、ワイン、食品化学等は、地元優先の入学者の枠をつくった方がいい。
- 新学部の中(食物科学科)に管理栄養士などの資格が取れたらと思います。
- 現在と将来の経済状況や地球環境の問題を前提とした市場原理主義などに左右されない新しい未来を指向する産業分野の探求や育成の為の基幹となるような人材が山梨から産まれる礎となってほしいと願います。
- ワイン・食物化学に大変興味があります。知識を高めて地域に貢献できる人材作りを希望します。
- 新学部について、地元からの優先枠をもうけてほしい。就職先の確保をしっかりとしてほしい。
- 環境・農学系学部・学科の設置は社会の変革に伴う必要性に答えるものであると思うのでぜひ設置してほしい。
- 山梨のためになる学部を作り山梨の子供達を育ててほしいと思います。
- 地域に根ざした業種を育成することは、とても良いことだと思います。高校生が魅力に思えるようなプログラム、そして卒業後の就職が円滑に決められるような学部にして下さい。
- 山梨の産業、地域活性に貢献できる人材の育成に役立つ教育機関であってほしいと思います。
- 出来るだけ早く設置してほしい。
- 山梨県という立地環境を考えた時に、地域の産業社会に関わる上で新学部の構想は良いものと思います。実現すれば可能であれば、子供の進学先の選択において、すすめてみたいと思います。
- 生命工学とともに医療工学、臨床工学を学べる科があるといいと思います。それを目指すには他県へ出なければ学べません。
- 地元で学べる事(学部)が増えるのは、とても良いことだと思います。学びたい意欲のある子供達が、学びたい学部や学科を求めて、県外へ出ることは、子供の成長を考えると必要かもしれません。しかし、県内で進学先(将来を考え)その選択肢が増える事は、一家庭(金銭面)だけでなく、地域の発展にもつながるのではないのでしょうか。
- 文系の学部の多様化、教育学部以外の学部の設置。
- 山梨県は、「果樹王国山梨」といわれるほど、果物の生産が産業の重要な部分を占めていると思うの

で、山梨大学に農学系学部が新設されることは、将来の山梨のためにも大変意義のあることだと思います。

- もともと、農業県である山梨に農学部が無かった事が不思議でした。ただ、農学部は理系でありながら、文系でもあるという二つの要素を持っており、新学部は農学部的であり、他の学部も併せもっている様なので、分野が広すぎて、的がぼれていない気がします。名称 etc も含めて何を希望する人材が必要なのかもっと明確にして頂けないと受験しにくいと思います。
- 文系学部を増やして欲しい。新学部は地域発展にプラスになる要素を持っていると思います。地域枠を設け、山梨で就職し、発展に役立って欲しいと思います。
- 学部名称からは教育内容やイメージが少々わかりづらい。最近では学部の名前だけでは志望大学を選びにくくなっている。大学のウェブサイトなどでは学科やコースの内容、勉強する科目まで受験生にはわかりやすい説明でお願いしたい。
- 時代に合った学部が出来、注目しています。
- 農学とは、表面的なとらえ方をしてほしくはないです。実習農場等、実験施設などクリアしなければいけないことが多いはずです。最先端の技術を学ぶとしても、最初は地に足をつけた農学です。
- エコ、リサイクルなど現代の社会に適応した学部が増えることは望ましいことだと思います。しかし、就職難の時代に、新学部がより就職につながっていくのか、不安です。
- 山梨には地域の経済や経営について専門に学べる大学がなかったと思います。(県立大学に、国際経済があったように思います。)なので、社会経営学科、ワイン、食物科学科には、大いに期待します。
- 薬学関係も含めて検討してほしい。
- 山梨県、日本の産業を担う人材育成のためには今回の学部設置は必要と思います。しかし、社会や企業が育成された人材を活用する場はまだ少なく、卒業後の就職先が充分あることが見込めるでしょうか？大学、地域・国が政策として新しい産業の構築も視野に入れ努力すること、企業も入り全体(社会)で取り組むことが必要と思います。又、日本だけでなく、世界経済やアジアの動向が今後のキーワードとなり、国際経済・ビジネス的センスも必要だと思います。
- 画期的なことだと思います。子供達が希望を持って進める学部になるように願います。
- 新学部創設、大変うれしいです。子を持つ親として、今、一番の心配は将来、安定した就職先が得られるかということです。そのためには、大学の受け皿を一つでも多くつくってほしいと思っています。県民にとって山梨大学は最も信頼のおける魅力ある大学です。生命環境学部の創設を大いに歓迎します。
- 医学部は、現在あるので薬学部や、歯学部が新設されたら良いと思います。
- 生命環境学部(新学部)についてという事ですか？いい事だと思います。山梨の特産を生かしていけるたのもしい学部だと思います。他には外国語学部を希望します。山梨の地で勉強できたら助かります。親は子供を遠くへ出さなくてもいいので。
- 文系の経済・商学・法学が設置されたら他県に出る事を考えずに済むのですが。
- 酪農学科があったらよかったなと思いました。(養豚、養鶏などもあったら入れたかったです。)
- 就職率の高い学部となる学習指導ができると良いです。
- 地方らいながら教育を受け、内容が山梨大から世界へ発進できる教育、提案できる教育をめざして欲しいと思います。
- 新学部には興味があります。新設にあたっては、高レベルの研究、教育内容の充実を望みます。
- いつごろ設置するのですか。

- 既に工学部の設置はあるので、似かよった学部以外の方が希望者も増えるのではないかとと思います。理学系の分野で幅広く計画されることを望みます。
- 子どものやりたい事は違うようですが、親としては今後学んでいく上で重要で将来性のある分野だと思しますので、その学部が充実した内容になれば地元ですし、親は行かせたいと思います。
- 法学部も作ってほしい。
- 各科共、教員免許が取得できるのは大きな魅力だと思います。梨大の教育学部は各専修コース別選抜で狭き門ですが、この機会に学部の再編成をし、専修コースは入学後に決定できるようにし、門戸を広げて欲しいと思います。(例、都留大の初等教育学科のように)
- 地元山梨に新たな学部が増設されることは大変喜ばしいことであり、その効果を期待します(山梨県内に対して)。子どもにとってもよい刺激になると思います。大学受験の選択肢となりうると思います。
- ワインをはじめとして、山梨地場の技術・ノウハウを基礎として教育という形で、県の魅力を全国に発信できることは、素晴らしいことだと考えます。
- 教育学系の人数の拡大
- 新学部を早期に実施してほしいと思います。山梨大学に期待します。
- 大学は卒業したものの就職できない現状は、ただ学歴の取得だけの4年間のようでもったいない気がします。就職にも強味を発揮できる実力や技術・資格等を身に付けられるようにしてもらいたいと思います。
- 新学部ができるということは、子どもたちにとって山梨大学で学ぶときの学部選択の幅が広がることで歓迎しています。魅力的な学部が新設されますことを願っています。
- 保護者としては、卒業後の進路が一番気になるところです。山梨の地域の特色を生かし、将来山梨県の農業・産業を担い、発展させていく人材を育成してください。そのために、地域の企業や、行政と積極的に連携していくことが必要かと思えます。
- 私もこの学部で学びたかったです。子どもが進学を希望するかどうかはわかりませんが、山梨県内にあってほしい学部だと個人的には思っています。できるだけ早く設置していただけると嬉しいです。
- 入学したはいいが、卒業後の就職先の確保はどのようにされるのでしょうか。
- 新学部を計画しているのであれば、山梨大学を含め山梨の大学にない(工学部等に関連もない)学部で計画して頂きたい。山梨の大学(国公立)は学部が限られ、選択肢が限られてしまう。
- どの学部も山梨県にとって必要なものであり、今までの地元の大学にない親も学びたくなる様な、身近であり、人間が生活していく上で重要な食・環境・生命・経営の学びの場として設ける事はとても良い事であり、将来性がある事だと思います。
- 地元の大学に新学部が設置されるのは、大歓迎です。進学の実績が増え、県内の産業にもプラスになると思います。
- 山梨の特性を活かせる学部になることを希望します。まだ1年生なので、様子を見て進路の選択肢としたい。
- 地球環境の保護(山梨中心としつつ日本、世界と幅広い視野で)のための政策や1人1人の課題何を今すべきか。ワインは、心身に与える健康面を香り成分とポリフェノールが体内に有益に働く度合い(白・赤・ロゼ)ぶどう以外の果樹や食品でも発酵食品全般の健康への貢献性の追及。生命工学は、けいたいTV等の電磁波の悪影響(環境ホルモンなどからも)から身の守り方遺伝子を健全に保ち方、子孫への悪影響を予防する。インスタント食品等の添加物が人体に悪影響及ぼさないか、又その防ぎ方手作りやインスタントのわりあい etc
- 山梨大学の卒業生です。新たな学部は、これからの山梨県をになっていく若い世代に受け入れられ

るような魅力ある学部にしていただきたい。

- 目標としている学部(法学部)ではないので、残念ながら我が子は希望しませんが、別紙の各学部の内容を拝見すると大変興味深く、ワイン、食物科学科などは地域の産業と連携することが出来、良いと思います。又、社会経営学科は、経済関係希望の学生の県外流出を防ぐことが出来、将来の地元の経済界の発展の礎につながると思います。各学部とも少人数で密度の濃い教育を受けることが出来るのではと期待しています。
- 果樹の盛んな山梨県としては、地元大学に農学部があると、連携して大学と地域共々よいのではないかと思います。先端技術の研究を進めてほしい。
- 新学部(農学部)の設置には、保護者としても非常に関心があります。
- 学部を増やし、選択肢を増やすことは良いこと、山梨の農業、これからの日本の農業を支えていくということ、必要なこと、少し遅すぎたのではないかと思います。山梨の若者が山梨を離れ県外に進学してしまうのは県内に大学の数、学科か余りにも少なすぎるからだ。経済学部、商学部、芸術大学、体育大学、国際関係学部、外国語学部等余りになさ過ぎる。今からでも遅くない、遅れを取り戻す。県内に若者が集まる、残れるように魅力ある大学作りを目指してほしい。今の山梨の大学には魅力がない。若者が出て行ってしまうのも、無理はない。現代のニーズを取り入れてほしい。
- 山梨県内に住む人間として梨大の学部数が少ないのは大変残念に思っていたことなので、新学部設置というのは喜ばしい限りです。更に世の状況を考えた時、若者が深く研究して明日の日本、世界を支えていくべき事項にかかわる分野と思われるので期待しています。何分本人の進路なので本人にまかせますが、親とすると、地元がやはり安心です。貴校の益々の発展をお祈りしています。
- 新学部ができることにより、地元高校生の選択肢が拡がり、また、大学も今よりもさらに充実し、活性化すると思われます。他県より移り住み工学部山梨大にはほどことなく物足りなさを感じていました。是非新学部を開設し、子どもたちの未来に道を広げてほしいと願います。
- 食物科学の中に、栄養学も取り入れ、管理栄養士の受験資格のとれる学部にしていただきたい。
- 工学部、教育人間科学部を減らして農学系新学部を設置することに反対。
- 県内の就職先を確実にして下さい。
- 地方大学淘汰時代になってますので、東京の大学等と統合するほうが良いのではないのでしょうか。山梨にある意味はないと思います。
- 新学部ができることは、よいことだと思いますが、我が子の望む学部ではなかったことは少しがっかり。やっぱり県外に出なければならぬかという思いです。
- 地域枠の拡大や推薦枠の確保など地元学生が入学しやすいシステムを希望いたします。
- 山梨の大学には、社会系・環境系の学びを深める学部がないと思われます。進路選択の幅を広げる(山梨で学ぶという選択肢がふえる)という意味でも意義深いものがあると思います。
- 農業も今の時代「経営」です。山梨独自の農業を発展させるのが、一番の景気回復だろうと思います。一昔前の様に、農家はただ単に畑を耕すのではなく、多方面から農を考えるのが必要と思います。そのためには、この新学部の設置は有効だと思います。
- 新学部が設置されますことを期待しています。幅広い分野にふれ、研究できることを望んでいます。
- 新学部設備、是非宜しく願います。
- 薬学、理学療法、作業療法などの医療系の学部の充実をしていただけると良いと思います。
- 自分の研究に力を入れる人ではなく、学生を育てることにきちんとした考えと意欲をもった人を教員としてほしい。山梨のこと、農業のことを広い視野をもって考えられる教員をまず集めてほしい。この学部と資格で就職先が県内にどのくらいあるかと不安を感じる。就職にも大学として力を注いでほしい。



- 地域の大学という位置づけで地域産業を発展させる分野に力を入れて欲しい。今までありがちな学問という視点でなく、研究職にすすめる人も少ないので社会への連携を図った流れをつくって欲しい。
- 学びの幅が広がるには、とても良いことだと思います。生きていくことに直接係わる農学系の勉強ができることはうれしいことです。農業は「ダサイ」という観念を覆すような大いなる発展を望みます。
- 地域産業の1つである農業に貢献できる人材の育成を期待しています。
- 薬学部があればと思います。
- 日本の将来だけでなく、世界の環境や地球の循環システム等にも視野を広げる考察し、人々の幸せや自然の生態系を守っていくような人材を育成してほしい。
- 卒業後の進路や就職等についての指針を知りたいです。新設校舎、研究棟、その他、ハード面での構想について知りたいです。
- 地域と結びついたものになってほしい。(学びとしても、それを活かせる場につながるように、また、入学できる地元の生徒も多くとって欲しい)
- 定員を増やしてほしい。
- 山梨大学新学部設置に期待しています。ワイン醸造学があることに興味を持っていましたが、生命環境学として山梨県の発展にもつながっていくものと期待しています。
- 多くの学部を設けてほしい。たとえば薬学部・情報学部等、地元で学びたい人もたくさんいると思いますが、学部がないために他県に行ってしまいます。
- 薬学部、法学部等、山梨にない学部を作ってほしいです。
- 新学部については、総合学部(横断的なカリキュラムなど)としての検討が良いと思われること。・教授陣・研究テーマの具体的検討がキーポイントになると考えます。
- 新学部のコンセプトはとてもいいと思います。これからは環境を優先させた学部注目が集まると思います。また山梨独特のワイン醸造や果実栽培学のアイデアは素晴らしい。今後、農業ビジネスにも注目が集まると考えられます。
- 地域の産業社会にかかわる諸問題の解決を進める人材の養成という点から、ぜひ地域枠での採用もしてほしい。
- 山梨県内への就職先は少ないのでは？
- 入学定員がもう少し多ければ…と思います。
- 新型インフルエンザ等、将来、ウィルスの研究が必要とされていると思うが、あまり勉強できる大学が少ないと思う。ぜひ、山梨大学でウィルスの勉強を取り入れてほしい。
- 子供が希望する進路に合う学部学科がない。他県へ出すしかないと考えている。
- 早期の設置を希望します。
- 地球温暖化などによる気候変動があれば、世界の食糧事情が大きく変わり、日本も影響を受ける事は避けられません。これから農業は非常に大切になってくると思います。ワインは確かに山梨の特産品であり、地域と一体となった特色のある研究ができると思いますが、その他に食料危機にも備えられるような研究ができれば素晴らしいと思います。
- 学部の永続と卒業後の進路の確実性。
- 農学系の私立大学を卒業した子供がいます。広い敷地にさまざまな設備があったように思います。家畜を飼ったり、加工場があったり…また近所の方々が散歩したり、子供達が社会学習に来たりと、キャンパスもオープンでした。広い敷地に充実した設備がある市民に開かれた新学部を望みます。

- 時代に合った学部だと思います。宝石学校のような地域にあった学部を造って下さい。地元を優先に！多くの生徒を学ばせて下さい。上ばかりでなく下も。
- 社会経営学科は新学部の構成、学科として他の3学科との整合性が欠けるので、外した方が良く、他の3学科を各10名増員して40名定員が望ましい。生命工学科の卒業後の主な活躍分野の中に製薬があるが、取得可能な主な資格・免許の数が少なすぎるのではないか。
- 学科名は仮称ということですが、やはり社会経営学科がその名称の学部の中では学科名がそぐわない感じがします。
- 我が子は医者になることをめざしていますが、山梨大学の新学部はとても魅力があると思います。山梨という地域性を活かせっつ、これから自給力を高める為に、もっと価値と関心を持ってほしい。生物学・農学・醸造について若い人が学んでほしいと思っています。
- 子供達の将来の選択肢が広がるような学科設立を目指してほしい。
- 公開講座などを行い、地域に理系大学のすばらしさを広めてほしい。農学系の学生は化学工学が弱い傾向にあるので、履修してほしい。
- 卒業後の進路が山梨にあり、山梨でこれらの学部で得た知識が活かされていく必要があると思います。そのためには、受け入れる企業がなければ活躍できないと思います。取得した資格や免許があれば卒業後、就職先が山梨にあることを望みます。
- 山梨の産業に対応した学部の新設は就職の点でも流出につながらず、良い事と思います。県内への進学は限られた学部しかなかったけれど、視野が広がり、(我が家の中では)進学の一つとして考えてくれればと思いました。
- 経済。
- とても興味深いです。将来的にも技術等取得し、就職に役立つのであれば、進学させたいと考えています。(私自身も放送大学時代に、ワインの研究をしていることを知り、聴講を希望したのですが、聴きそびれてしまい、残念に思いました)。山梨の風土を活かして、また特産物を開発したりと、地域活性化は重要だと思います。
- 世界に通用する理念と、社会に通用する資格が取得できる学部を目指してもらいたい。
- 今日的な課題ともなっている地球環境の保全という点からも、求められている分野だと思います。山梨の特徴を活かした研究機関であって欲しく、現場にて役立つ学部にして下さい。
- 地元の国立大学に学部選択の幅が広がるのは大変いいことだと思います。
- 生命環境学部で社会経営学科とは、非常に無理がある。文系学部を作るべき。法学系があると大学の格が上がると思います。
- 新学部設置にあたり各学科、研究課題、目的を達成するのに研究室、実習室、実習場の設備が整うのか心配だ。
- 自分の子供に向いているかは別問題として、温暖化・環境保護・食料自給率等、今後、重要になる分野の学科だと思います。
- 地元の大学に新しい学部が新設されることには賛成です。地域で学べる機会が増えることは良いと思います。
- 生命と環境という将来に重要な分野だと思います。期待しています。
- 「山梨大では、高校理科の教員免許は取得できない」とのことで、上の子どもは、県外の大学へ行っています。学部完成後には大学院の設置の予定もあるとのこと、有難いことと思います。
- 現在子供が高二なので・・・今からでは、進路の変更もむづかしいと思いました。もう少し早い段階で、新学部が実現していたらと思います。又、定員も今の所少ないので、もう少し、増員になれば良いなど

いう印象です。

- 山梨大学の卒業生のレベルの低さを考えると、もっと本質の教育をすべきと考えます。新学部を設置して、学生を集めようなどとは考えず、現在の問題点に目を向けるべきです。
- 不況の影響等で自宅から通える県内の大学への進学希望も増えていると思います。新たな学部の設置は、とても良いと思います。新設学部は、特に地元山梨の将来をになう人材の育成にかかわっていく学部も多いようですので、期待をしております。
- 新学部が何を求めて、何をしたいのか、意味が分からないアンケートの様に思いました。具体性が全くないと思います。大学として何を追求したいのですか？
- 県内就職に有利な資格。
- 卒業後の進路をふまえて、地域枠(県内在住者)の設置、現在、高2の為、できる限り早く設置(新学部)して欲しい。
- 専門分野を学部に取り入れることは、これからの山梨にとっても大変良いことだと思います。
- 地域に根付く大学として農業分野の学部が新設されるのはとても有意義なことだと思います。地域の活性化に役立つ人材の育成、研究の推進のために早期実現を期待しています。
- かつて、新聞に出たとき、新学部についての創設を早稲田大と連携してという記事がありましたが、このことでしょうか。私的な意見ですが生命に役立つ学びをお願いしたいです。
- 今回の新設学部は、地元の将来を考える意味でもすばらしいと思います。ぜひ地元の生徒の都心部への流出を防ぐ意味でも、やる気のある地元高校生への門戸を広げて頂ければと思います。郷土を一番考え愛しているのは、そこで育った人が一番だと思います。地場産業の活性化と共にぜひ生命環境学部の設置を期待致します。
- 山梨大学に農学系学部が出来ることを望んでいたもので、一日も早く、設置されることを願っています。又、地域人材の登用も併せて希望致します。
- とてもよいと思います。弟もいるので、進路として考えられるものです・・・。
- うちの子は、まさにこの生命環境学部系の進学を希望しているのですが、山梨には、そういった学部がないので、山梨大学に新設するのであれば、是非進めたいと思います。親としては、子供の希望する学校へ行かせてやりたいのですが、費用の事を考えると(子供は1人ではないので)、やはり、県内だとありがたいです。
- 工学部との棲み分けの明確化(農学部とするなら)→相互履修が可能であれば問題ないと思うが、学生が何を学んでいるか判る学部であってほしい(出来れば入学を希望する時点で)。法学部が欲しい。
- 地域産業発展の為の地域人材育成の教育をこれからもよろしくお願ひしたいと思います。
- 卒業後、しっかりした就職実績が示すことのできる新学部設置を期待している。
- 法学系も考えてほしいです。
- 教育人間科学部の教員養成にも是非力を入れて頂きたいと思います。新学部設置はとても良いことだと思います。
- 山梨大学の特色であるワインや微生物学、燃料電池やクリーンエネルギーなど、学科の枠にとらわれず幅広い知識や技術の習得できる新学部であってほしいと思います。また、子どもたちの理科離れも課題になっている中、生命工学科外2科では、中学・高校の理科(専修)免許が取得できればと思います。私は、発酵生産学科の卒業生です。今回のアンケート調査で新学部設置計画を知り感激しております。
- 地域の農業、自然環境保護、発展に従事する技術者を育てる為に重要な新学部になると思います。



恵まれた環境の山梨に適していると思います。全国から優秀な才能を集める学部になるはずです。是非新設願います。

- 学部が増えて広き門になる事は喜ばしいです。ただ学部的には希望しない学部で残念です。
- 地場産業の発展に貢献できる人材の育成ができるよう、教育内容は、じっくり検討して決めてほしい。地域枠(合格者)を設けるなど、地元出身者、優遇措置を図ってほしい。
- 山梨県内にない学部ができると、県外へ行かなくてすみ、経済的にも助かります。
- これからの社会に役立つ分野の研究は大切で、地域の大学にその新学部が設置されることに賛成いたします。
- 私の周囲には「県外への進学なんて考えられない」という人が多く、他県から転入してきて驚きました。地域に根ざした学部は地域至上主義でなく、地域の良い点だけでなく、悪い点も見つめた上で山梨ひいては、日本の技術力の向上に寄与できる人材を育成して欲しい。不登校率ワースト1の県でまた人が県内にこもるのは良い事と思えないので、他県の人が見ても魅力ある学部になって欲しいと思います。
- 新学部には、即戦力になれるような、力を付けられる学部を希望します。
- 就職率の高い学部になるよう希望します。山梨の子ども達に優遇制度の導入を希望します。
- 通学に便利なところに進学先が増えるのはとても有難いことです。この不況の中、やはり就職ということが気になります。企業との連携など実践的なものを取り入れた学部であって欲しいと思います。
- 是非、農学系の学部を新設してほしいです。
- 今の時代、将来の就職先の事を考えると(就職難)どの道へ進ませるべきかととても考えます。新学部も良いのですが、その先企業との連携ができる学部として勉強が出来るとよいと思います。どの学部を作っても、大学に行っても学んだ事が生かせない仕事がないのでは・・・不安を感じます。
- 獣医学科が山梨にはありません。新学部が出来るのならばぜひに・・・と切に思います。
- 歯の技工士は、学校が医学の方と一緒にあるのでしょうか。又ホームページ等が調べられないので、学校案内説明等があれば行きたいと思いますが教えて頂きたいです。
- さまざまな選択肢が出来てよいと思います。
- 就職難の中、実際に仕事に結びつく教養を身に付けるカリキュラムを希望します。
- 酪農・動物学が含まれると興味深いです。
- 地域の産業に関わる人材を育てるという意味で大変意義のある学部だと思います。食料自給率の低い日本で若いうちから食に対する関心を持ち、尚かつ地域の発展・環境に配慮した学習をすすめる中で日本の社会に貢献できる人材を輩出してほしいです。
- ぜひ 2011 年 4 月には設置出来ます様、期待しています。
- 山梨の土地柄、資源を活用し、林業等でアピールする姿勢で情報交換も十分に行い、活発に行ってほしい。
- 難しく、良くわからなかったです。
- 地域採用枠の設定。
- 山梨の特産物であるワインに対しての学科が新設される事には、とても期待しています。卒業後の進路についても、確定していただければ、本人達も、そこに向かって勉強していけるとと思います。山梨大学に目標としている学部がなく、静岡大にしようか、信州大にしようか・・・と悩んでいましたので、この学部の新設に期待しています。

- 今現在、生命工学科への進学を希望しています。大学で勉強したことが、その後の進路、就職に充分いかせるよう、企業や自治体との連携を考えたあり方に期待しています。
- 新学部設置を実現してほしい。
- 薬学部の設置を希望します。他、医系専門職の資格取得可能な学部も希望です。
- もう少し早く食物科学が出来ていれば、良かったです。姉は東京へ行ってしまいました。
- 卒業後、就職出来る事が一番大事だと思います。現在、就職難の為、大学に入っても就職が出来る様にしてほしいです。
- 私も子どもも興味のなかった分野の学部なので、新設される事に驚いた。
- 地域の知の拠点となる新学部を設置していただけるのは、ありがたいです。是非、将来のためにも、県内在住の生徒を多く学べる場としていただき、山梨の活性化をはかっていただけると嬉しいです。
- 時代を見た良い学部だと思います。早い設置を望みます。
- 学部を増設することは大賛成です。
- 社会経営学科など国立大学で必要なのか。国立大と私立大という区別がなくなるのか。国立大学らしさの内容を希望します。
- そこで学んだ人物の力が山梨で活かせることを願っています。
- 農業系高校へのアピールが普通科高校生より大事かと思う。他県への流出も防ぎ、伝統産業(地場)の将来の担い手を育成してほしい。
- 幅広い分野での課程を学ぶことができるよう期待しています。
- 学部が増える事は自宅通学できるという事になるので親としても助かります。今回の学部に限らず、文系の学部や、もっと幅広く勉強できる様になると良いと思います。
- 山梨県内の大学進学を希望しているので、新しい分野の学部ができることは選択肢が増え、喜ばしいことである。是非実現してほしいです。
- 素晴らしい計画だと思います。ぜひ2011年4月に設置して頂きたいと思います。
- 卒業後、県内で学んだことが活用できることを望みますので企業などとの連携を強く持っていけるシステムを希望します。
- 山梨県の学力は他県に比べ低いことは最近ニュースでも知られているが、コミュニケーション能力も他県に比べ低いのではないかと思います。礼儀教養共に他県に劣らぬ生徒(学生)を集めて欲しいと思います。
- 山梨という田舎のせまい土俵の中で育ってきた子供達は、大学進学についてはどうしても県外へ出る方が多くなってしまいます。県内に国公立が少なく学部が限られているためです。今の経済状況では、県外私立大への進学はあきらめるしかないのが現状です。地元での就職を考えた時に、山梨大の新学部設置には大いに賛成です。もっと幅広い学部にも興味がわき地域活性化につながればよいかと思います。
- 新しい学部が設置され、そこから希望の職種につける事ができたら…子供達の選択幅も広がり良い事だと思います。
- 山梨にはまだまだ様々な学部が必要だと思います。山梨にないために他県へ進学してしまい、人材の流出がおこっています。多くの学部学科の新設が県内企業や県を活性化するために必要だと思います。
- これからの社会には必要な学部だと思います。

- 学部・学科が増えることで、勉学の幅が広がるので学生にとってもとてもいい事だと思います。
- 山梨の産業を考えると農業関係はこれから必要かと思います。資格・免許を見て社会経営学では取得可能資格が弱い気がします。(子供の希望が商・経営・経済なので)家庭としては県内の進学(できれば国立)してくれると助かるのですが、社会経営学が充実してくれると進学を勧めやすくなります。
- 何を学習し、その後の進路について明確にしてほしい。化学工業、IT産業などです。具体的情報がわからない。
- 食物科学等(食品)に対しては私たちの身近な問題であり興味あります。・環境科学にも身近な問題であるため。
- 興味があります。新学部設置はとても良いと思います。
- ワインだけでなく他の醸造学も学べる学科であってほしい。
- 地域の産業社会に関わる諸問題の解決を進める人材を養成するとあるが、あまり山梨県の地場産業にこだわりすぎや、先端的すぎる学部では理論だけで実際の社会で役に立たない。ある程度応用のきく知識と経営等の養成プランであってほしい。単位さえ取れば誰でも教員免許は取得できるが少子化で必要性はない状態。社会で生きれる人材造りが必要と思う。
- 地元の大学に学びの場が増えるということは良いことだと思います。
- 情報認識不足で、はっきりわかりませんが、新学部設置については今後、山梨にも農業地域がたくさんあるので、是非取り組んでもらいたい。
- 地域の知の拠点として大いに期待します。
- 新学部設置はとても良い学部だと思いました。子供が文系を希望しているので進学することはないと思いますが私としては興味深い内容でした。
- 県内の大学は学部が少ないので新学部が増える事は選択肢広がるので、とても良いと思います。
- 薬学・理学療法士等の資格が取得出来る学部を山梨に設立してほしい。
- 未来の見える学部かもしれないです。将来の希望が開ける気がします。
- 県内で「生命環境学」を希望していたので、とても有難く思いました。是非、山梨大に進学出来る様頑張ってもらいたいものです。
- 卒業後のことも重要だと思います。
- 山梨だから、できる勉強(ワインとか果実栽培とか)を、深く学べる学部にしてほしい。昔の発酵生産学科のような「山梨大にしかない…山梨大には〇〇学科がある」というような特色のある学部にしてほしい。
- これから子供達は農業については、難しいと思う。作ることに對してする人は少ないと思う。しかし環境に良いもの、体に良い物は必要と思うので、最新の研究は大事だと思う。農学をどれだけの人が学ぶかは難しいと思う。留学生受け入れるの方が良いかもしれない。就職としてどうかわからないが、教員免許も取得できるので良いと思う。仮称だったのでイメージがわかりませんでした。後で図が示された紙面を見、理解できました。専門的に学べ、研究していくので、良いかと思います。新学部、未来の子供達の為にも頑張っていってほしいと願います。
- 子供にとって選択肢が増え、県内で学ぶことが出来るのは良い。そのあとの受入先との開拓を早急にもしてほしい。
- 地域の産業、社会に結びつく学部。教育を要望致します。
- 理系生徒だけでなく、文系生徒も対応できるようなカリキュラムを組めば、生徒が集まると思う。テクノロジーの世界には、今、文系生徒の発想力が求められていると感じる。地場産業に密接に結びつい

た内容にすると、県内の生徒が集まり、地域での leader 育成も実現できる。

- 新学部新設する理由は少子化、学生集め等、現在の社会状況を反映していると思うが、どこまで優秀な教員を集められるかが課題であり、魅力的な指導教官がいないと、他校と差別化ができないと考える。よって現段階では残念ながら興味が持てない。医療、介護、環境、エネルギーというワードはあまねくエコノミストが使っている。
- イメージ図から見ると、山梨ならではの特色があり、よいと思うが、他大学の純粋な農学部の学習内容もあって欲しい。山梨の中には、他県に比べて選択できる学部が少ないので、学生はどうしても県外へ進学することを考えてしまう。だから、せつかく新しい学部を設置するのなら、他大学のような農学系の要素をしっかりと入れて、その上で山梨ならではの学科を入れていくような学部を作って欲しいと思う。
- 地域性は大切ですが、学生の時は常に大きな枠をもって学んでもらいたい。
- 専門だけでなく、教員免許の取得できる学科であると同い生命環境学部を期待しています。
- 地域の企業と関連し、活性化(山梨が)していくことが望ましい。
- 少子化で定員の削減が予想されますが、地域の子供達を優先して入学できるよう、より考慮して下さい。
- 新学部を卒業して学んだ知識や技術を生かせる職場に就職できるのか不安です。また他の大学の同じ様な学部と競争して勝ち残っていく知識・技術を学ぶことができるのか、期待も含めて見ていきたいです。
- 親は大変興味がありますが、本人がどう思うかという、確かではありません。せつかく山梨という場所にある大学ですから、その様な特色ある学部新設は、意義があると思います。その学部に行くとか将来どの様な道があるか、より具体的に見えてくるとより説得力があると思います。
- 新設学部ができることは若い力を育てることとして期待しております。大学も経営難という現状の中、少しずつチャレンジリットとして変革されていくことを望みます。従来型という枠から脱却しない限り教育改革は成し遂げられないと思われま。又、地元大学として最も根強い学校というポリシー、県内出身者＝卒業生の〇%というような状況、そして卒業生が自信を持って社会貢献できるような学風を大切に頂けるということを期待します。
- 社会経営学科が他の学科とどう連携していくか興味があります。ワインと野菜のマーケティングを発展させて全国・外国に山梨から発進させてほしい。
- 全国で第4位の森林率である山梨県で農学系学部を設置するのに森林科学系の学科がないのはおかしい。
- 山梨の大学であれば貴学部を希望します。是非、新設に向けて御尽力下さい。
- 地元の大学で農産物の後継者を担う人材の育成ともなる新学部の設立、とても良いことだと思います。又、取得免許も豊富で就職の為の選択肢が広がりがうれしいです。
- 山梨の地域の特性を生かした部ができることは、とてもいいことだと思います。
- 法学部、政治学部を希望します。
- 現在高2の娘ですが、もう少し早く情報がわかれば希望として選んだかもしれませんが、現在は私立大学に希望をしばっています。
- 食の安全につながる付加価値のある農産物生産について、第一次産業としての農業を最終目標とせず、農業生産の基本である実務が想定されていない学部は中途半端ではないでしょうか。卒業後の分野として、公務員だのみというのは情けなく感じます。新たな分野の確立などを期待します。
- 新学部に入学者希望する人数がそれ程多いとは思えないのですが、アンケートをもとに設置計画を見

直す事もあるのでしょうか？

- なくてはならない学部と思う。
- 親娘共々とても興味深く拝見しておりました。他大学の進学を第一志望にしておりましたが、学力の許す限りで「受験だけでも・・・」などと意欲に目覚めてくれただけでもうれしい限りです。身近におけるものなら・・・親の本音です。
- 良いと思います。
- 私が(今)学生だったら、入ってみたい学部です。
- トマトの水耕栽培のように1個の種から数万個の実がなると読んでいます。たねの持っている能力を最大限活かす方々を考えていただきたいと素人ながら考えます。
- 山間地の保全を考える学部であってほしい。日本の伝統的林業(江戸期以前)にも目を向けたカリキュラムがあっても良いのでは。
- 子供は、現在高校1年生ですが、受験までに新学部設立は間に合うのでしょうか。
- 地域の特化した学部の設置はおもしろい試みだと思います。
- 地域活性化のためにも新学部は多くの人に関心を持たれると思いますので、是非設置してほしいと思います。
- 親として自宅から通学できる山梨大学は第一希望としたいし、新しい学部にも興味があります……。ただ、子供の希望する大学・学部でないのが残念です。
- 東京に近く自然に恵まれた立地でありながら、都市的な感覚がなく、大学にしても、地元にも目を向けるのではなくて、大都会、日本全体、世界、人類につながるような研究・学部を目指して欲しいと思います。
- 新学部が地場産業の発展に貢献する人材育成の場であってほしい。
- 社会経営学科(仮称)が県内にできることはうれしく思います。今までは近くでも東京などに行かないとなかったのです。
- 学生が伸び伸び学べる環境作りをお願いします。
- 山梨県は15万8千ヘクタールの県有林を持つ、全国でも有数の森林県ですが、県内に農学部林学科の設置される大学がありません。新学部にぜひ森林科学科の設置も検討していただきたいです。
- 文系、理系に関わらず、受験できるとよい。
- ぜひ魅力ある学部になるよう期待しています。
- 地域の特性を生かした学部であり、興味があります。
- どんな職業に結びつくのかイメージが持てないので、将来の展望を具体的に示してほしい。資格、免許についてはプリントで読んだが、就職先はあるのか疑問。
- 山梨県の産業を考えたとき、工業とともに農業も、大変重要な産業であることは明らかですので、この様な新しい学部を設立されることは、広く全国から優秀な人材を招致できる大変すばらしいプランだと思います。是非、進めていただきたいと期待しております。
- 地域に根ざし、将来産業分野として発展性のある領域の学部
- 新学部の導入はとても興味深いものです。時代にそった学部であることは、子供達にとってもうれしいことだと思います。
- 今日の山日新聞で初めて知りました。新聞や学校を通じ、もっと詳しく伝えて欲しいと思う。新学部設立のために工学部と教育の定員を減らすのは、どうかと思います。山梨→ぶどう→ワイン→農学という

運びからかもしれませんが、それだけでは他県から優秀な熱意のある学生が集まるとは思いません。実習先は県内沢山ありますが、高齢化で後継者不足も現実です。フランスやヨーロッパなど山梨の国際化も考えてみてはいかがでしょうか。そして、その研究を生かして、山梨に就職できるワインの大きな研究所がなければ4年～6年の勉強で終わってしまいます。ぶどう畑の近くに小さなワイン工場だけでは発展していかないと思いますが…。来春開設であれば今の高1、2年生に少しでも早い情報を流してあげて下さい。ネーミングも農学部とわかりやすい方が良いのでは…。これで山梨大も工学部と農学部ではっきり内容がわかりやすくなりました。山梨県民の学生が県内大学に行けるよう、新学部設立を増やして総合大学になって欲しいです。次は農学部→薬学部に結びつけてくれたらと切に希望します。

- 地元の大学なので地元の学生が優先して入学できるよう希望します。
- 農学・環境よりも山梨大学では法律・経済系の学部がほしいと思います。その理由は、1、農・環境系では就職が期待できないこと。2、山梨県には、法・経系国立大学がないこと(学院大とは明らかに競合しない)
- 定員の数だけ学生が集まるのでしょうか？4つの学部設置の意味、本当にあるのでしょうか。
- 薬学部や心理学部系がほしいです。果樹業を営んでおりますが、原料となる果物生産が高齢化と利益にみあわない為、縮小傾向にある現実をみるとあまり興味をもてません。
- 「地域の知の拠点」として活躍できる高・知的能力を持った人材を育てる事はとても必要で素晴らしい事と思います。期待します。
- 1年次からゼミ形式の授業をとり入れて欲しい。
- 地域卒の有無、偏差値などの情報を詳しく発表してほしい。
- 新学部の分野は、これからの社会の未来を考えると重要になってくる分野のひとつである。科学の発展している今だから農業分野がのびしろがあると思うので、独創的な輝きある教育を期待します。
- 今後、地元の大学を受験する際、学部、学科が増えることは一つの選択肢が増え良いことと思います。しかし、現在、とても就職が四年卒業しできるかが不安の材料です。
- 学部が増えて入学定員が増えるのはうれしいです。入学できるように勉強をがんばってほしいとなりました。
- 新学部で学んだ事が、どれだけ社会に出た時に活かせるか、最終的には取得した資格などが企業では就職の重要性だと思われれます。山梨のように他県にくらべ、就職先が少ないので県外に就職先を向けた時、他大学より深く学んだかで差があるかないか質の善し悪しで大学の評価がされ、魅力ある学部として輝くと思います。
- たまたま私の子供は違う分野を希望しておりますが、県民として、郷土の地場産業に貢献していただける人材育成の学部であるととても期待しております。
- 他大学にない新分野が出来る事はとても良い事だと思います。他県からもたくさんの希望者に集まって発展させてほしいです。
- 山梨の持っているすばらしい産業を次の世代の子供達にしっかりと伝えていくことはとても大切なことだと思います。私がおし学べるのであれば、ぶどう作り、ワイン作り、貴金属加工、印伝。山梨大学の新学部には柔軟に地域性をとり入れて教育してほしいと思います。
- 山梨に農業部が必要という考えには賛成ですが、農学系で山梨県民に期待に応えられるかどうか。
- 地域の産業社会にかかわる人材を養成する事は素晴らしいと思います。
- 保護者としては興味がありますが、進学するのは子供本人なので何とも言えません。これからの地球にとっても力となる勉強、研究ができるすばらしい学部だと思います。日本をひっぱってってもらいた

いと思います。

- 当大学出身の生徒と仕事(農業関係)をしていますが、山梨大学出身を自慢、自負しすぎて、ひたむきな姿勢がありません。・学問を教えることは今でも十分出来ていると思います。人間形成をもっと大切にして下さい。・私が管理職になったら、今の山梨大学出身の生徒は全体に採用しません。県の農大の生徒を採用した方が、素直で使えます。・人間としての人格を育てる教育をお願いします。
- 山梨の主要産業である農業に関する学部設置は大変意義があると思う。特にワインについての研究は日本一の機関になるべく、高い水準を望む。
- 新学部…生命環境学部について大変期待しております。
- 山梨大学が山梨県の発展に貢献できるような高い技術を持ってくれることを願います。
- 入学定員を多くしてほしい。
- 就職に結びつく知識や技能・資格を修得できる学部であること期待します。
- 経済学部がほしいです。
- 山梨の基幹産業である果樹園芸に関する学部か学科は、必要不可欠だと思います。そこから醸造、発酵、観光ビジネス、アグリバイオ等々に発展していくのだと思いますので…。
- より魅力のある学部を作って県内の高校生が多く、いずれ県内に就職できる様になる様にしてほしいです。
- 資格・免許が取得できる事は、とても良いことだと思います。
- 将来性のある良い学部だと思います。
- 新しい時代と地域の特性に合った学部だと思う。
- 山梨県内の学生を優先的に入学させたらどうかと思います。
- 山梨県の特徴を考えた上で、新学部は設置する意義のあるものだと思います。ここで学んだ学生が山梨をさらに発展させてくれることを期待しています。
- 山梨の特産である果実は地球温暖化等の異常気象により、品質数量とも不安定な状態が続いています。農業が注目されている今、新品種・農薬・肥料・流通等、総合的な学部が出来たら山梨の農業に夢がもてると思います。
- 地域とも連携して授業や研究を進めていってほしい。授業料免除等にもう少し力を入れてほしい。
- 山梨県内には理系の大学、学部が少ないので新学部の開設に大変期待しています。特に電子、電気系ではない理系ということで、普通科からの進学もしやすいのではないかと思います。地域に根ざした学部期待します。
- 県内果樹栽培が多いですので、農学部発展は地元の活性化にもつながり大変よろしいかと思いません。
- 地元の大学に新しい学部ができるということは、子供にとって選択肢が増えるので良いことだと思います。
- 選択の幅が広がるのはとてもよいことだと思う。
- 社会経営学科の定員が30人というのは少し少ない気がします。
- 新学部、大変良いと思いますが、定員数をもっと増やした方が良いと思います。
- 山梨県の国公立に社会経営学科が出来るのは、とてもありがたいです。ただ、定員30人は少ない感じがします。
- 山梨大学を代表するような学部になるよう期待しています。

- 就職に有利な学部にしてほしい。
- 山梨の経済発展の為にすばらしいことだと思います。
- 日本の農業が盛んになるよう頑張ってもらうために大変良い事だと思う。
- 子供の進路は子供の希望通りを望むので、特に親からどこへとは思われないので、アンケートと言われてもよくわかりません。
- 生命環境学部から卒業後の進路を見ると、多種多様であり、資格や免許など取得できるので、新学部設置は良いのではないかと思います。
- ワインが特産だけでなく、もう少し広角的な視野をとり入れてほしい。
- 早急に実現を希望します。
- 生命環境学部(仮称)が、山梨大学に新設されるということで、子供たちにとって新たな進学先が広がったように思います。地域に密着した農学系学部誕生に期待します。
- 山梨は農業が盛んなので、とても良い案だと思います。
- 新しい学部ができるという事は非常に良い事だと思います。できれば東京の方の大学に行かなくても山梨の大学で色々な学部がもっとできればと思いました。医学部があるのだから、獣医学部的なものあればとも・・・。
- 新学部にはワイン、食物科学科等、地域に関する学科があり、とても新しい学部の感じがします。そして興味も持ちました。
- 山梨県の為にも新学部設置は良い事だと思います。今後も、新学部の設置をめざし、山梨県人の県外流出を防いでほしいと思います。
- 地域に直接かかわれる、そして県内、県外での就職の充実がはかれるような気がします。
- 食の安全、安定供給という事を、グローバルに学べる社会に貢献出来るその様な内容で学べる学部だと良いと思います。
- 山梨の土地柄にあった学部で興味を持てます。ただ、息子は文系なので社会経営学科が適応するのかと思います。山梨の国公立では経済・経営がないのでとても嬉しく思います。
- 学習する内容が環境面や農業生産といった面で、今後重要となってくると考えられます。子供たちには、どのような進路をとろうとも、学修し、しっかりとした考えをもって生活をしてほしいと思います。後継者問題等ありますが、農業を大切に、発展させる山梨県となってほしいです。そのためにもこれからの人が学ぶ場があるということは良いことではないでしょうか。
- 山梨県人を多く合格させてほしい。
- 生命工学科の卒業後の主な活躍分野、製薬とありますが、薬剤師になれるということですか？もう少し詳しく説明してほしいです。
- 法学部があってほしい。
- ネーミングが重要です。
- 良いと思います。ただ、子供の興味関心とは、やや方向が違うようです。
- 知の拠点として新設するにふさわしい学部だと思います。地域の発展のためになる学部であると考えます。
- 今の時代とても希望していた学部です。
- 臨床心理系の学部・学科などの分野も新設してほしい。
- 近年、就職難とさげばれてるなか、新しく始まる学部として方向性ではなく、はっきりとした企業名、地



方団体等を示して欲しいです。

- これから重要になる分野であると思います。環境と食は人が一番大切なところであると思います。
- 新設します学部期待您的です。地元へ貢献できることで地元へ就職できるというと思います。
- 生命・環境学部には、多大な希望をもっております。子供も幸い興味をもつ分野だと思われま。将来を考えると暗いと思っているこの頃ですが、1つの光を見たような気がします。
- 新学部は、日本に山梨しかない様な技術・特色を持ち、優秀な人材を世に送り出せる様な学部にして欲しい。
- 長女が通っておりますが、時代と今(一年生)の子の違ひもあるので・・・子供にも大学にも可能性に期待して・・・。
- 最終は、大学卒業することが目的ではなく、働く事が目的なので、社会に通用する人材を育ててほしいと願います。(社会性)勉強だけ出来ても協調性のない子が多い様に感じているので。
- 自分の子供に関係ないかもしれないが、フランスのボルドー大学のようにワイン醸造学において世界の山梨大学となるように願います。山梨のワインの未来のために・・・。
- 山中湖村でもワインを作っているの、栽培、製造について学びたいと思っていたので新学部を期待しています。
- 山梨の地域性・特色を生かした学部の設置は楽しみであり、期待します。
- 県内に専門分野の学部が開設されること大変歓迎しております。
- 果樹王国山梨の未来の為、期待しています。
- 入学時は間口を広くしてよいが、在学中に本当に質の高い教養が身に付き、山梨県全体が向上するような学部となっていたらと考えております。
- 生きてく上での食という切り離せない生活の一部において農学を時代の色をふまえて学び、開発していく能力を身に付けるというのは、とても魅力的な学部とは思いますが・・・何を学べる所か、あまりピンときません。
- 社会経営学科に大変興味を持ちました。山梨大学への進学を視野に入れ、今後大学進学を考えたと思います。
- 良いと思います。
- 近い将来、必ず食べ物に関する分野の成長が注目されると思っています。温暖化、新興国の発展によって今までよりずっと食に対する考え方は変わってくるのではないかと。そんな時に新学部について重要な役割をするのではないかと。思います。
- 山梨の地場産業であるワインや果物などに関する農業等、発展してほしいと思います。
- 子どもの数の減少に伴い、学部存続ができるか心配。
- 山梨大学さん推薦で生徒さんを受け入れていますが、進学校の評定5と、普通校の評定5は意味合いがかなりちがうことだけはよく理解して学生選びをしてほしいと思います。
- 将来、世の中で役立つ勉強をさせてもらいたいです。
- 学部新設に伴い、工学部、教育人間科学部の定員を減らさないでほしいと思います。
- 「地域の知の拠点」も大切だと思いますが、私共の子供が進む希望の学問は山梨大学には存在しません。希望の道歩く為には県外へ出るしかないのです。新しい学部は国中地域の為の学部に感じられます。山梨全体を見据えた学部を考えていただけませんか。山梨県に住んでいるのに(生まれたのに)高校を卒業したら県外へ出なければならぬ子ども達が沢山いるのです。もったいない

と思いませんか？

- 食料、食材、食育などを、健康や環境問題、科学と関連づけてトータルで研究できる人材を育ててほしいと思います。
- 地域産業が活発になる事につながると思います。
- 漠然として具体的に学部が発足してみないと正直分かりません。ただ今現在の地球全体のことを考えればものすごくマッチしていると思います。
- 新学部ができることは、よいことだと思う。年々、学問分野も多様化になり、「生徒の学び」を保障する点でも、新学部をつくることは、よいと思う。
- 山梨県の特色を生かして新学部の検討をされているので、すばらしいと思います。
- 就職につながる学部を希望します。
- 地元の学校なので、地元の子供が学びやすいように、優先枠などを設けて卒業後も山梨に残って活躍できるような企業との連携ができるとうれしいと思います。今は世界がグローバル化しているので、山梨が中心で情報発信できることも可能な時代なので、ネットワークを広げてほしいです。
- 高校二年生の母親です。今息子は環境化学科への進学を第一希望としており、県外への進学を考えております。この環境化学科を含む生命環境学部設置が現在高校二年生の進学の選択に間に合う事が出来れば、息子同様、山梨大学へ進学させたいと思います。あと一年であります、強く願っております。
- 山梨の特性を活かした考え方はいいと思います。
- これから必要とされる学部だと思います。地域にとっても為になる学問となると思います。
- 新学部の設置の実現の為、頑張ってください。応援する事があれば、鋭意協力致します。
- 特色があり、将来に役立つ学部にしていただきたいと思います。
- 学力的に国立大学は無理だと思うので希望はしていませんが、山梨はフルーツがたくさん採れておいしいので、このような学部があれば大勢の人が希望すると思うのでいいことだと思います。
- 現在、大学等に進学しても卒業したとしても就職先がなく頭を抱えてしまう人たちも多くいると思いますが、山梨大学のこの新学部設置し、卒業したとしての就職先等の現状はどのようなものなのでしょうか。又、どのようなところからあるのでしょうか。(似たような他大学等の現状でもかまいませんので、教えて頂きたいと思います)
- 他の大学で取り入れていない事に取り組むことはすばらしい。独自性のある方針で教育するのは非常に大事になってくると思われる。
- ハードルを高くした方がよいのでは…。
- 地産に沿っているとは思いますが、普通の学部…今回の新学部の中だと経済学部などの方が選択はしやすいと思う。就職先が決まってしまうような学部に感じました。
- 子供が学びたい物を深く学べ学生達が卒業してから横のつながりが強いような子供に育ててもらいたい。
- 大いに期待しています。「山梨に住みたい」と思える郷土づくりにつながると思います。
- 大学で学んだ事が社会で活かせるように。最終目標は、自立した社会人になってほしいと思います。社会適応出来る「人間社会」「地域社会」でコミュニケーションがとれる人間教育を目指していただきたいと思います。
- 山梨県の産業に発展を望みます。

- 今春、高3に進級し、進路を真剣に考えなくてはなりません。農学系の学部を設置している大学が少なく、受験校など限られているなあと感じていた所、山梨大学に設置する予定だと知りうれしく思います。是非、進学先の1つとして考えてほしいと思います。これからの山梨県の大きな地域産業の問題点を解決してほしいと思います。
- 進学部でいろいろな学習ができる事はいいと思います。
- 農学系の学部を希望する場合は県内にはなかったのでもともとも良いと思う。
- 山梨の地域産業である果樹栽培や、ワインに関わる学科があるのは、とても良いと思うが、都内や、東部地域の住民には観光などに従事する割合が高く、農業には正直関心が薄いように思います。
- 新学部に入學し、卒業時に必ず就職できる様に力を入れてほしいです。
- 山梨の特色を生かそうとしている様子はいかがですが、時代にあった新システム新事業など未来現実とむすびつけて学びたい学科を増やしてほしいと思います。学びたい学科が山梨大学にはないので他県へ行かなければならないのが現状です。不景気で大学イコール将来の就職となっているようですが、学びたい気持ちや、何を学びたいかの思いが大切だと思います。教授、この教授から学びたいという人材を山梨大学の新学部任命して下さい。
- もっと色々な学部を設置してほしい。行きたい学部がないみたいです。
- 問5(2)は、選択肢にかたよりがありませんか。
- 新学部新設で山梨の新しい分野での発展を願います。
- 生命工学科は個人的に学んでみたいと思いますが、子供が進学するのはわかりません。
- 山梨の国公立大学として、地域に貢献できる人材を育成する。
- 時代に合わせた適切な方向性を感じます。
- 特色があり、魅力的な学部を作ってください。卒業後の進路(就職)がしっかりしている学部にして下さい。
- 新学部の事を詳しく知りたい。
- できるだけ早い、新学部の設置を希望します。
- 定員をもっと増やしてほしい。
- 色々な対応できる学部が出来るのは良いと思います。期待しています。
- 山梨の農業を活性化させる核となることを期待しています。
- とても良い方向だと思います。
- 山梨の大勢の学生を受け入れ育てて欲しいです。
- 新学部設置の賛成です。
- もう少し具体的に、新しい学部について知りたいです。
- 生命環境学部の社会学科は経済系の学科のイメージがあります。卒業後の進路を考えると就職に不安を感じますので、農業、社会など充実したカリキュラムを望みます。
- あらゆる分野の学部をふやしてほしい。(就職先と結びつくような)
- 選択できる分野が増えることは地元の大学としてうれしく思います。現在は受験の時は、理系、文系をはっきり決めて進学先を選ばなければなりません、将来は大学に入學してから進路を決めることもできると良いと考えます。生命環境学部の紹介を拝見しましたが資格を取得できることも大変魅力があり、期待したいです。

- 他の大学の同種の学部との差別化、特徴の有る教育内容が必要です。山梨大学を選んでもらえるようなユニークな内身の有る学部、学科を工夫して下さい。(はやりの追いかけでは埋もれてしまう)
- 具体的には、よくわかりませんが新しい学部が出来る事は良い事だと思います。
- どれだけ実習実践的な学習を積めるか、仕事に就くための資格取得や経験がどれだけできるか、具体的なカリキュラムを提示してほしいと思います。
- 人が生きていく上で絶対に必要な「食」山梨のような恵まれた環境の中で発展して行って欲しい。高齢化が進んでいる農業の現場を魅力ある場所にして、若い人たちが意欲的に学べる新学部になるよう期待しています。
- 文系には、新学部の設置予定はないのですか？地方の国公立大学が地域活性化のための新学部を設置なさるのは、大変素晴らしいことと思います。ただし文系学生にとっては、あまり魅力のない大学なのではないかと感じています。教育関係に進むのには、最高の教育機関であるとは思いますが、大学は自宅から近ければよいというものでもありません。
- もう少し入学定員を増やしてほしいです。
- 女の子を持つ家庭ですが、県立の短大がほしいです。近年の経済事情からです。女の子が受けやすい食物栄養学とか家政科などを充実してほしいです。上の兄は東京の私立に行っています。2番目に子供まで私立というわけには行かない状況です。あと1、2年の内にもっともっと充実してほしいと思います。
- 山梨県の地域性にあった学部なのでぜひ新設してほしい。
- 県内の国公立大学として、山梨地域の人材、山梨地域の産業を支える資質を持つような教育を目指してほしい。文系からの受験もできる状況をつくることで数Ⅲを履修できなかった生徒にもチャンスが生まれ広く人材を求めることができると思います。
- 学部が増える事はよい事だと思います。
- 地域の為にも、是非、新学部設置を実現して頂きたいと考えます。
- 県内出身者の入学の割合が高くなるように、受験の枠を考えていただけると助かります。
- 山梨県という地域において必要とされる職種として大変有望で、ぜひ実現して頂きたい。女子なので、できたら親元で就職してくれたら親としては安心できる。
- 人口増加による食料不足到来が危惧される中で資源・国土の少ない日本にとって有用な学部となる事を記念します。学部設立の志や周辺の期待を考えた教育理念の下、一貫性のある指導、教育を実践して頂きたい。
- 具体的な学部内容等を開示してほしい。(進路決定する上で必要なため)山梨大学の工学部の生命工学科はどうなるのですか。
- 少子化・過疎化が進む最近、地域で働く為の知識を学び資格が取得できる学部が出来る事はとても良い事だと思います。期待します。
- 韮崎工業の環境化学科があったのですが、その上のことが大学で学べることは良いことかと思いません。山梨にはサントリー、JAやサドヤなどワインの会社があるので全国にもっと知名度を上げて行ってほしいと思います。
- 環境科学やバイオの研究など世界的にグローバル化が進む中で専門的に学べる事にとっても期待しています。
- 学部が増えるのは、県内学生の選択肢が増えて良いことです。
- 地域の産業を活性化させる期待が持てる、新しい学部に大変興味深く感じました。反面、普通科からの入学は、大変困難だと推測します。

- 選択肢が増えるので、とてもよいと思います。
- 現代のニーズにあっていて、とてもよいと思います。ただ、もう少し、入学定員を増やしてほしいです。
- 新たな挑戦、がんばって下さい。就職難の時、卒業したら起業するぐらいの気合いをもてるトータル的な授業をして下さい。
- 実践的な技術修得と資格取得が出来る学部が必要。
- 素晴らしい試みであると思います。
- 新学部は、とても選択肢(就職先)の広い印象を受けました。また、どの学科にも魅力を感じ期待します。
- 環境問題が大きく報じられていますが、山梨で採れる果樹、植物等の変化等を真剣に考えている社会ではないと思います。桃、ぶどうの生産量は農家の減少とともに環境の変化によっても減少しています。大学は環境の変化、地域産業の変化等を研究し、様々な変化に対応するには何をどうすれば良いかの提案をして欲しいと思います。
- 山梨に生命環境学部が出来るのは、今まで希望していてもなかった為、他県にいかねばならなかった子供達がいる為、これからの子供達は良かったと思います。これから大変必要な学部だと思います。
- 山梨の大学はとにかく選択場所が少なく、他県に進学をするしかないというのが現状ですが、新学部を増学部していただけることで選択の幅が広がったことは喜ばしいですが、今後、大学卒業後の進路が充実したものとなるようお願いしたいと思います。
- 新学部が増え、選択枠が広がるというのは非常に良いことだと思います。時代に合わせた必要な学部学科は、これからも見直しをしながら、増やしたり、減らしたりすべきだと思います。
- 山梨の産業の発展に役立つ研究が行われること、また後継者として若者が地元でさらに深い知識を学ぶ機会ができる(増える)ことは、望ましいことだと思う。
- 山梨の学生をたくさん入学させて欲しい。
- 山梨県には基本的に大学の選択肢が少なすぎると思います。山梨県に若者が定着し、農業、産業各部門の企業が就職先として、山梨県をとりあげてくれることを期待しています。そのためには山梨大学が新学科を新設することは、とても良いことであり、楽しみでもあります。県民としてありがたく思います。発展を期待いたします。
- 県内に1校の先生へ 国立で経営学部的な科ができてよかったなと思います。
- 新学部ができることは、前から知っていました。もっと情報を知りたいです。
- 山梨県内は大学や専門学校がとても少ないし、学部学科の種類も少ない。県内でも色々な学科が学べるようにしてほしい。
- 4学部ともに、内容がむずかしく、わかりづらいです。すいません…。卒業後も就職に生かせ、実践に役立つ新学部であってほしいですし、地元の山梨の活性化に力を与えてくれる大学を望みます。
- これから、必要になる分野だと思います。山梨県民として期待しています。
- 選択肢の少ない山梨県内の中で学科が新設されるのは喜ばしい事だと思います。特に地元に関係の深いワイン、果樹栽培学などを学ぶ事ができ、各分野で活躍される人物が一人でも多く輩出される事を期待します。
- 新学部ができることは地元において、とても希望のもてることだと思います。自分の進もうとする進路が広がってきていいと思います。
- 興味がないので、ニュースで見ただけだったが、県内大学の学部なのでもっと身近に感じられた。

- 新学部によりいろいろなことがひろがって明るい希望がもてるように頑張ってください。
- 地域の子供を進学させてもらいたい。
- 新学部ができることは、これからの子供達にとって夢と希望を持つことができるので、とても良いことだと思います。
- 現在の社会状況を見ると就職率が低下しています。近い将来も状況がすごく良くなるとは考えにくいです。大学へ入学し、資格等を取得してもちゃんと就職につながるのか不安があります。
- 理系と文系が混在し、理解し難い学部のように思える。受験生はどちらが有利となるのかわからない。地場産業振興も良いが、経済、政治等の学部が新設されることも希望したい。
- 将来、卒業生が県内にとどまり、県内農業、地域産業の発展のために活躍できるように、新学部系統の企業誘致や施策が必要だと思う。
- 地場産業を活かした、地域の大学を目指して欲しいと思います。
- 地域密着型で、なぜもっと前に新設しなかったか不思議なくらいです。応援したいです。
- 新学部には大変興味もあり、県内で学ぶ場所があれば是非とも多くの学生が学べるようにしてほしいです。
- 真理を探究する最高学府として、子供達が存分に学べる環境を築かれていかれることを希望します。
- 地域産業にかかわる、スキルアップできる人材育成。
- 4つの学部のくわしい内容はわかりませんが、今、現在の社会生活に密接し大切な事であると思います。是非、実現してほしいと思います。
- 卒業後に学んだ事を活かし、就職できる学部の設置を考えてほしいです。例、薬学部、臨床検査技師とか他県へ行かなくても山梨で学べる学部を設置してほしいです。
- 地域の特色を取り入れた、山梨大学オリジナルの学部が設立されることを希望します。また民間企業をタイアップしたユニークな学部も良いかと思います。
- 新学部に期待します。新学部新設にあたり子供達が意欲を持って学習出来る環境作りをしてほしいです。
- 将来の就職に備え、経営的な考え、論理的な手法も取り入れたらどうか。
- 農業は大変、辛い、厳しいというイメージから、若者の農業離れ、後継者不足が現状としてあると思います。新しい農業の在り方、農業のハイテク化等、若い人たちが、やってみたいと思えるような農業やフードビジネスを拓いていける人材の育成。地域に密着した教育プログラムが必要なのではないのでしょうか。
- ワインは昔からある発酵研究と関連があるので、ぜひ新設置学科として頑張してほしいと思います。
- 是非、経済学部を作って頂きたいです。県内が希望で国立希望なので山梨大学により沢山の学部があればとてもありがたい。今、学部が少ないので魅力がありません。法学部や経済学部等あれば今の子供達も将来楽しみではないでしょうか。
- 子供を山梨の手元に置きたくても就職先がない。梨大で新しく学部を設置するというが、進学した後にはたして就職先があるのか？山梨の地場産業だからなどの理由のみでの設置だけなら必要なし。確実に将来の働き口があるというのなら話は別だが、不安な先の見えない学部には子供を入れさせられない。
- 現在、山梨大学では文化系では教育学部しかなく卒業後の活躍の場が非常に狭く感じられます。是非とも将来性のある生命環境学部の設置を希望します。
- 卒業後の地域貢献を前提とした地元学生の優先枠を設けてはどうでしょうか。

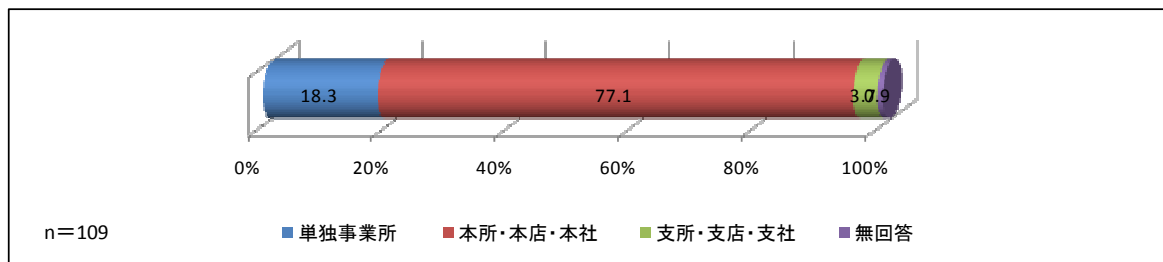
- 生命工学科に進んだとして、地元や地域に転職先があるのか？それなら薬学部の方が良いのではないか？
- 大学卒業後の就職が一番気がかりなので、新学部を設置する場合、その学部を卒業した人が就職できるような企業の誘致などをしない限り、新学部設置のメリットというか魅力はない気がします。
- 環境も、場所もとても良いと思うので、もっと学部を増やして頂けたらいいと思います。
- 新学部設置にあたり、現役高校生や、その保護者を対象に、こうしたアンケートを実施することは、意義あることと思います。食糧政策が、不安定な日本は、食糧不足の世界事情をしっかりと認識しなければなりません。地球規模で進行する環境汚染と食糧不足への対策が急務です。そうした中、貴大学が、農学系学部を新設することは、タイムリーで、大いに期待します。
- すばらしいことと思いますので、早期設置を希望します。
- 全く期待できない。

## 6 事業所対象調査結果

### (1) 事業所単純集計

#### 問1 単独事業所・本所・支所の別

事業所の単独・本所・支所別内訳は、「本所・本店・本社」が77.1%で最も多く、「単独事業所」は18.3%、「支所・支店・支社」は3.7%となっている。

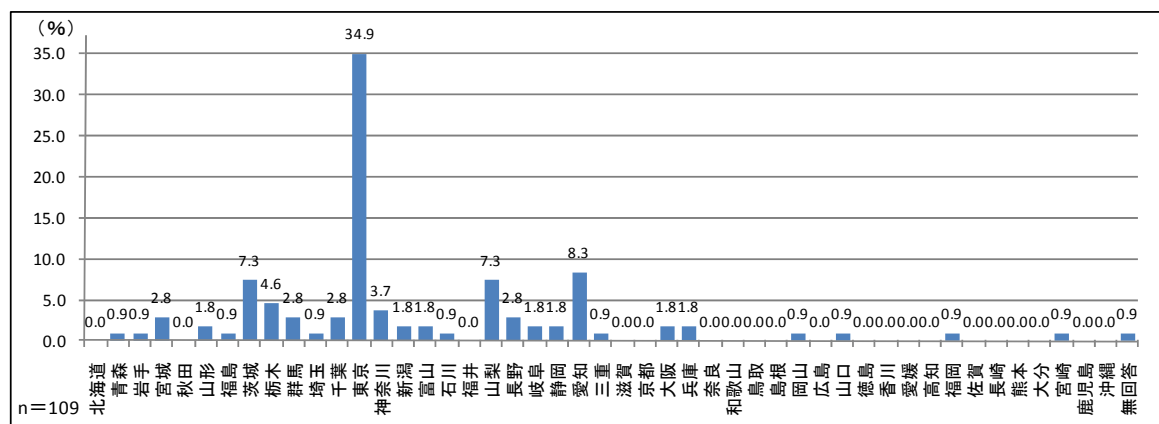


	1 単独事業所	2 本所・本店・本社	3 支所・支店・支社	無回答	合計
回答者数(人)	20	84	4	1	109
構成比(%)	18.3	77.1	3.7	0.9	100.0



## 問2 所在地

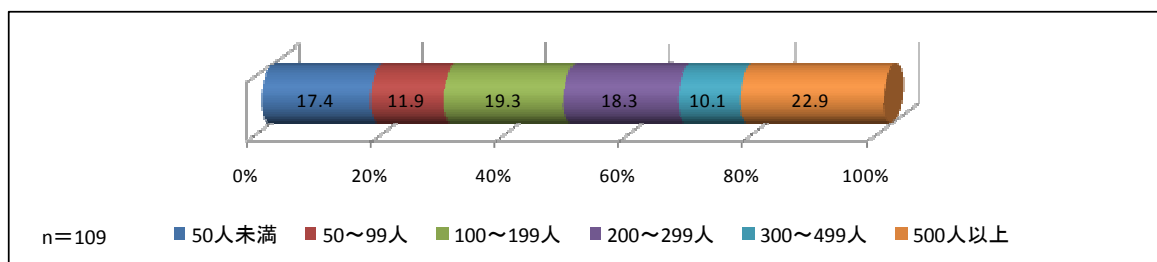
事業所の所在地については、「東京」が34.9%で最も多く、約3分の1を占めている。  
このほか「愛知」8.3%、「茨城」7.3%、「山梨」7.3%などとなっている。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野
回答者数 (人)	0	1	1	3	0	2	1	8	5	3	1	3	38	4	2	2	1	0	8	3
構成比 (%)	0.0	0.9	0.9	2.8	0.0	1.8	0.9	7.3	4.6	2.8	0.9	2.8	34.9	3.7	1.8	1.8	0.9	0.0	7.3	2.8
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡
回答者数 (人)	2	2	9	1	0	0	2	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
構成比 (%)	1.8	1.8	8.3	0.9	0.0	0.0	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
	41	42	43	44	45	46	47	無回答	合計											
	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄													
回答者数 (人)	0	0	0	0	1	0	0	1	109											
構成比 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.9	100.0											

### 問3 従業員規模

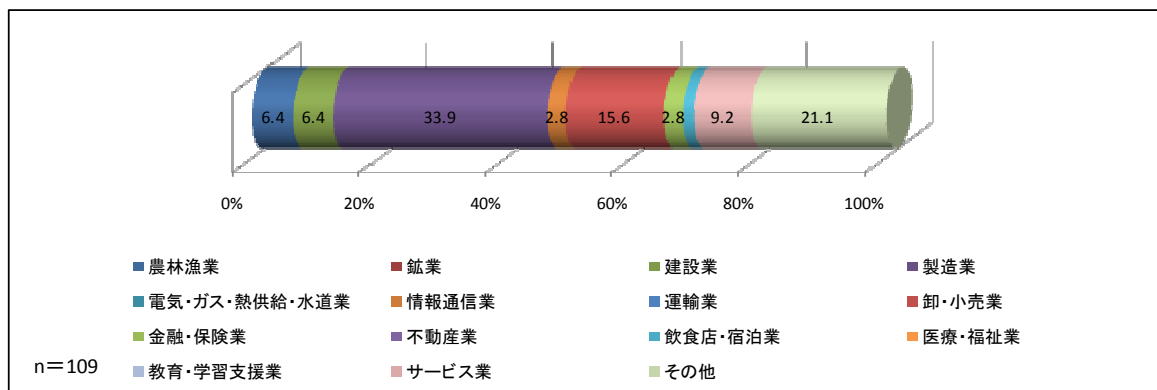
事業所の従業員規模別内訳については、「500人以上」が22.9%で最も多く、次いで「100～199人」19.3%、「200～299人」18.3%、「50人未満」17.4%、「50～99人」11.9%、「300～499人」10.1%となっている。



	1	2	3	4	5	6	無回答	合計
	50人未満	50～99人	100～199人	200～299人	300～499人	500人以上		
回答者数(人)	19	13	21	20	11	25	0	109
構成比(%)	17.4	11.9	19.3	18.3	10.1	22.9	0.0	100.0

#### 問4 主な業種

事業所の主な業種については、「製造業」が 33.9%で最も多く、次いで「卸・小売業」15.6%、「サービス業」9.2%などとなっており、「その他」が 21.1%となっている。

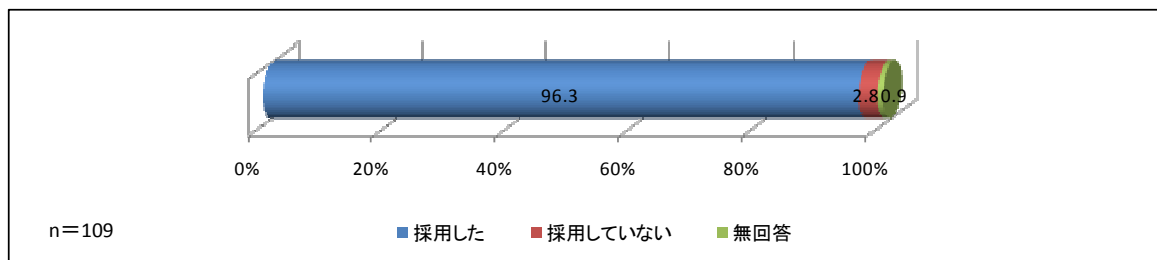


	1 農林 漁業	2 鉱業	3 建設業	4 製造業	5 電気・ ガス・ 熱供給・ 水道業	6 情報通 信業	7 運輸業	8 卸・ 小売業	9 金融・ 保険業	10 不動産 業	11 飲食店 ・宿泊業	12 医療・ 福祉業	13 教育・ 学習支 援業	14 サービ ス業	15 その他	無回答	合計
回答者数 (人)	7	0	7	37	0	3	0	17	3	0	2	0	0	10	23	0	109
構成比 (%)	6.4	0.0	6.4	33.9	0.0	2.8	0.0	15.6	2.8	0.0	1.8	0.0	0.0	9.2	21.1	0.0	100.0

## 問5 採用実績

### (1) 過去3年間の従業員の新規採用の有無

過去3年間における従業員の新規採用実績について見ると、「採用した」が96.3%であり、ほとんどの事業所において従業員の新規採用が行われている。

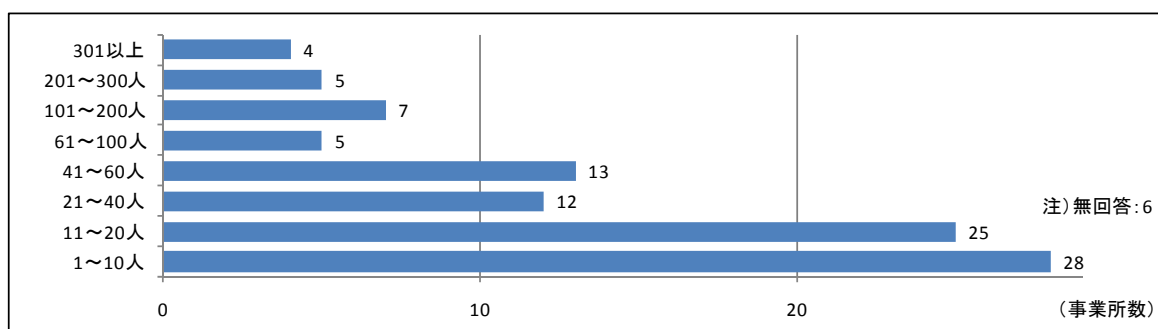


	1 採用した	2 採用していない	無回答	合計
回答者数(人)	105	3	1	109
構成比(%)	96.3	2.8	0.9	100.0

(2) 過去3年間における従業員の新規採用人数(3年間累計)

※問5(1)で1を回答した回答者のみ回答

過去3年間に従業員を新規採用した事業所における、3年間の新規採用人数(3年間累計)について見ると、「1~10人」が28事業所で最も多く、3年間の累計でも新規採用を10人以下に抑えている事業所が多い。このほか、「11~20人」が25事業所、「21~40人」が12事業所、「41~60人」が13事業所などとなっている。



	1 1~10人	2 11~20人	3 21~40人	4 41~60人	5 61~100人	6 101~200人	7 201~300人	8 301以上	無回答	合計
回答者数 (人)	28	25	12	13	5	7	5	4	6	105
構成比 (%)	26.7	23.8	11.4	12.4	4.8	6.7	4.8	3.8	5.7	100.0

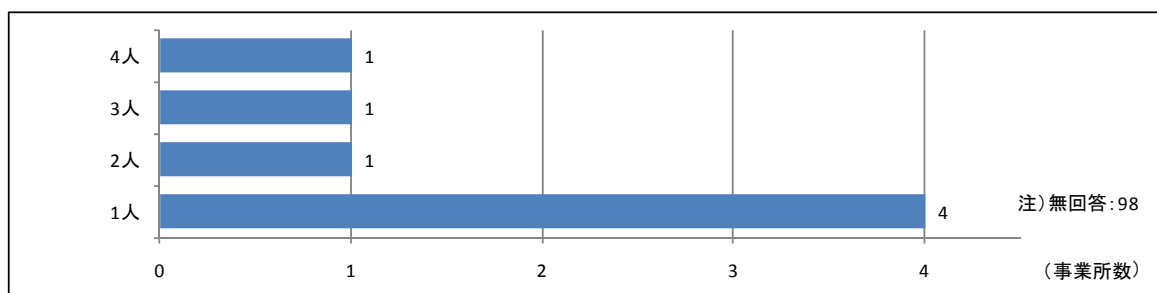
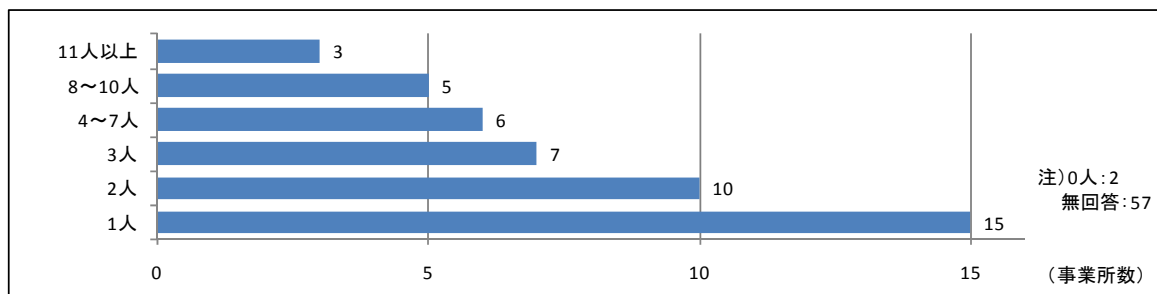
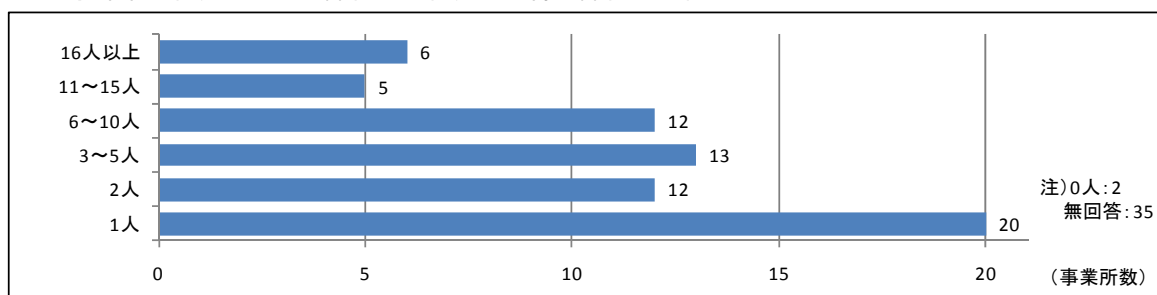
### (3) 新規採用者のうち農学系学部卒業者数と農学系研究科修了者数

※問5(1)で1を回答した回答者のみ回答

過去3年間の新規採用者のうち、農学系学部卒業者数及び農学系研究科（修士課程、博士課程）修了者数について見ると、学部卒業者については「1人」採用が20事業所で最も多く、「2人」採用は12事業所、「3～5人」採用は13事業所、「6～10人」採用は12事業所となっている。

研究科修了者については、修士課程に関しては「1人」採用が15事業所、「2人」採用が10事業所であり、博士課程に関しては「1人」採用が4事業所、「2人」、「3人」、「4人」採用がそれぞれ1事業所となっている。

上段：学部卒業者、中段：修士課程修了者、下段：博士課程修了者



<学部卒業者>

	1 0人	2 1人	3 2人	4 3~5人	5 6~10人	6 11~15人	7 16人以上	無回答	合計
回答者数(人)	2	20	12	13	12	5	6	35	105
構成比(%)	1.9	19.0	11.4	12.4	11.4	4.8	5.7	33.3	100.0

<修士課程修了者>

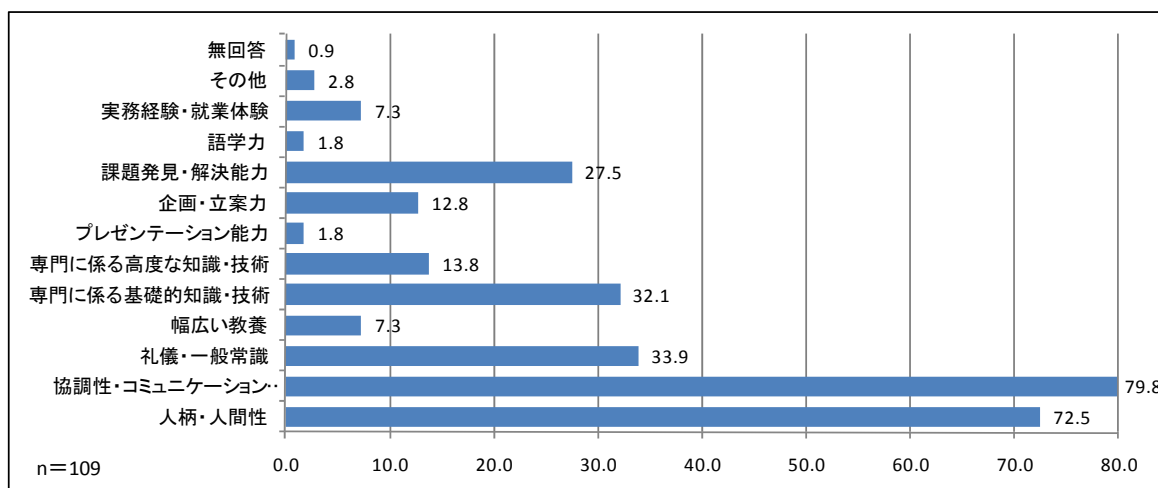
	1 0人	2 1人	3 2人	4 3人	5 4~7人	6 8~10人	7 11人以上	無回答	合計
回答者数(人)	2	15	10	7	6	5	3	57	105
構成比(%)	1.9	14.3	9.5	6.7	5.7	4.8	2.9	54.3	100.0

<博士課程修了者>

	1 1人	2 2人	3 3人	4 4人	無回答	合計
回答者数(人)	4	1	1	1	98	105
構成比(%)	3.8	1.0	1.0	1.0	93.3	100.0

### 問6 従業員採用に際して特に重視する事柄（3つまでの複数回答）

授業員の新規採用に際して特に重視している事柄を見ると、「協調性・コミュニケーション能力」が79.8%で最も多く、次いで「人柄・人間性」が72.5%であり、これら2つの事柄については大半の事業所が新規採用に当たり重視している。このほか、「礼儀・一般常識」33.9%、「専門に係る基礎的知識・技術」32.1%、「課題発見・解決能力」27.5%などが比較的多くなっている。



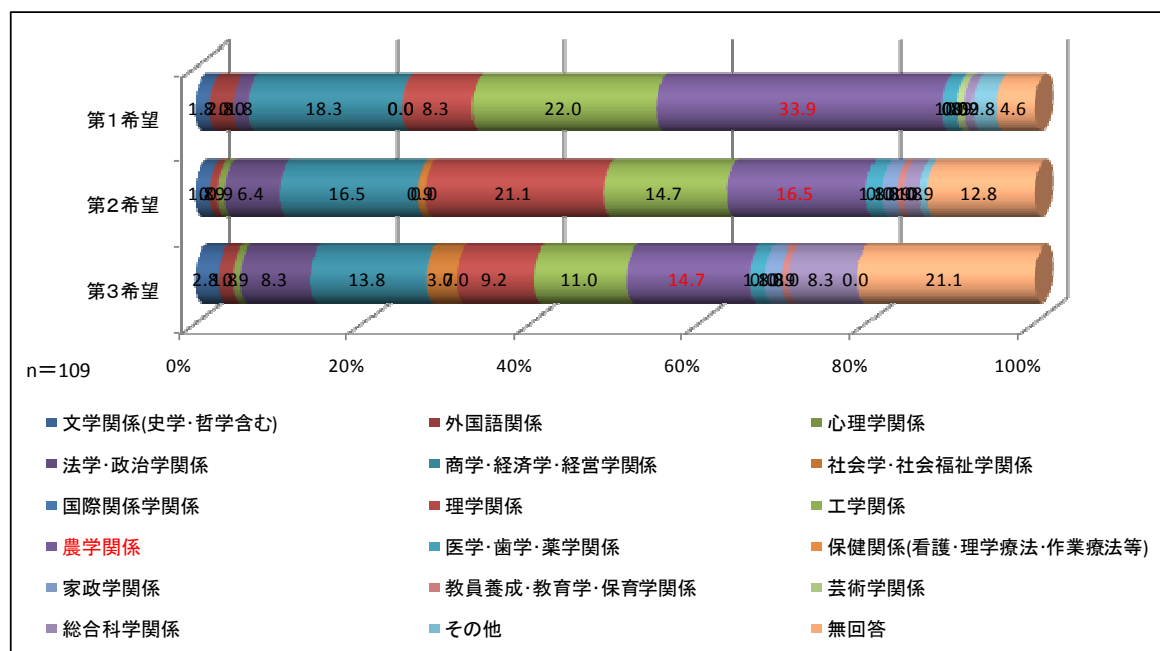
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	無回答	合計	
	人柄・人間性	協調性・コミュニケーション能力	礼儀・一般常識	幅広い教養	専門に係る基礎的知識・技術	専門に係る高度な知識・技術	プレゼンテーション能力	企画・立案力	課題発見・解決能力	語学力	実務経験・就業体験	その他		延数	実数
回答者数 (人)	79	87	37	8	35	15	2	14	30	2	8	3	1	321	109
構成比 (%)	72.5	79.8	33.9	7.3	32.1	13.8	1.8	12.8	27.5	1.8	7.3	2.8	0.9	294.5	100.0



問7 従業員採用に当たり特に関心の高い分野あるいは今後採用を増やしていきたい分野

(1) 学部・学科別分類

従業員の採用に当たり特に関心の高い分野あるいは今後採用を増やしていきたい分野について学部・学科別分類で見ると、第1希望では「農学関係」が33.9%で最も多く、3分の1の事業所が「農学関係」をあげている。次いで「工学関係」22.0%、「商学・経済学・経営学関係」18.3%などとなっている。第2希望については「理学関係」が21.1%で最も多く、「商学・経済学・経営学関係」16.5%、「農学関係」16.5%、「工学関係」14.7%などとなっており、第3希望については「農学関係」14.7%、「商学・経済学・経営学関係」13.8%、「工学関係」11.0%などとなっている。全般的に農学系、理工学系、商学・経済学・経営学関係への関心が比較的高い結果となっている。



【第1希望】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
	文学関係 (史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係 (看護・理学療法・作業療法等)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他			
回答者数 (人)	2	3	0	2	20	0	0	9	24	37	2	0	0	0	1	1	3	5	109	
構成比 (%)	1.8	2.8	0.0	1.8	18.3	0.0	0.0	8.3	22.0	33.9	1.8	0.0	0.0	0.0	0.9	0.9	2.8	4.6	100.0	

注) 構成比(%)が10.0%以上のものに網掛けをしている。(【第2希望】、【第3希望】についても同じ。)

【第2希望】

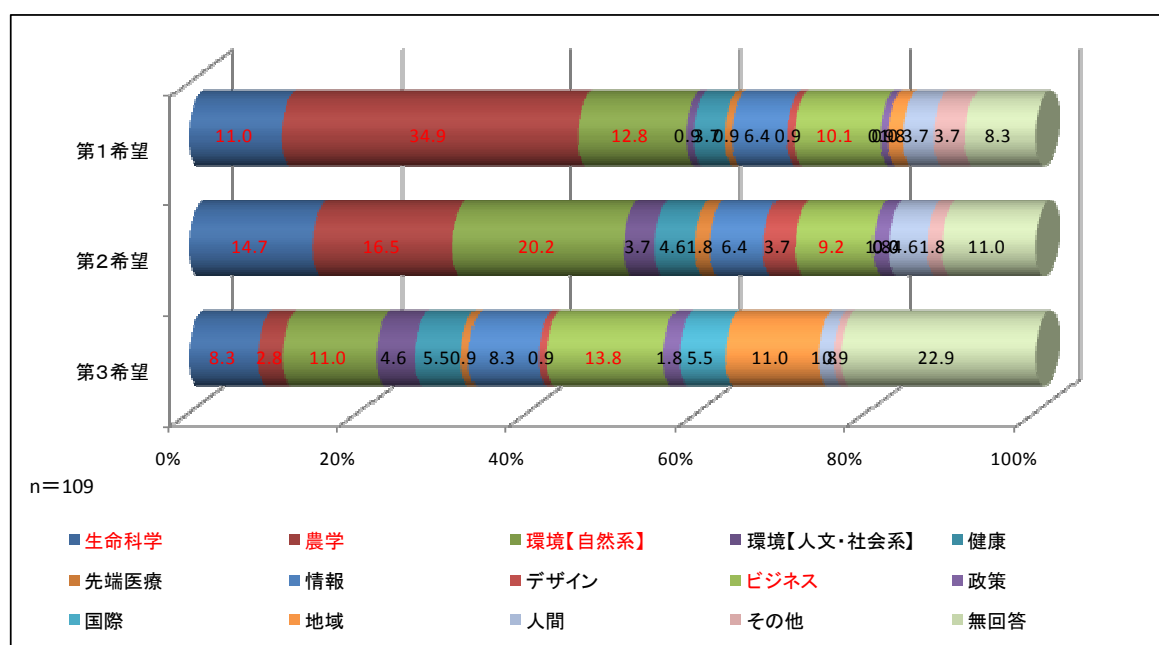
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
	文学関係 (史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係 (看護・理学療法・作業療法等)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他			
回答者数 (人)	2	1	1	7	18	1	0	23	16	18	2	0	2	1	0	2	1	14	109	
構成比 (%)	1.8	0.9	0.9	6.4	16.5	0.9	0.0	21.1	14.7	16.5	1.8	0.0	1.8	0.9	0.0	1.8	0.9	12.8	100.0	

【第3希望】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	無回答	合計	
	文学関係 (史学・哲学含む)	外国語関係	心理学関係	法学・政治学関係	商学・経済学・経営学関係	社会学・社会学関係	国際関係学関係	理学関係	工学関係	農学関係	医学・歯学・薬学関係	保健関係 (看護・理学療法・作業療法等)	家政学関係	教員養成・教育学・保育学関係	芸術学関係	総合科学関係	その他			
回答者数 (人)	3	2	1	9	15	4	0	10	12	16	2	0	2	1	0	9	0	23	109	
構成比 (%)	2.8	1.8	0.9	8.3	13.8	3.7	0.0	9.2	11.0	14.7	1.8	0.0	1.8	0.9	0.0	8.3	0.0	21.1	100.0	

## (2) キーワード別分類

従業員の採用に当たり特に関心の高い分野あるいは今後採用を増やしていきたい分野についてキーワード別分類で見ると、第1希望では「農学」が34.9%で最も多く、次いで「環境【自然系】」12.8%、「生命科学」11.0%、「ビジネス」10.1%などとなっている。第2希望については「環境【自然系】」が20.2%で最も多く、「農学」16.5%、「生命科学」14.7%、などとなっており、第3希望については「ビジネス」13.8%、「環境【自然系】」11.0%、「地域」11.0%などとなっている。



【第1希望】

	1 生命科学	2 農学	3 環境 【自然系】	4 環境 【人文・社会系】	5 健康	6 先端医療	7 情報	8 デザイン	9 ビジネス	10 政策	11 国際	12 地域	13 人間	14 その他	無回答	合計
回答者数 (人)	12	38	14	1	4	1	7	1	11	1	0	2	4	4	9	109
構成比 (%)	11.0	34.9	12.8	0.9	3.7	0.9	6.4	0.9	10.1	0.9	0.0	1.8	3.7	3.7	8.3	100.0

注)構成比(%)が10.0%以上のものに網掛けをしている。(【第2希望】、【第3希望】についても同じ。)

【第2希望】

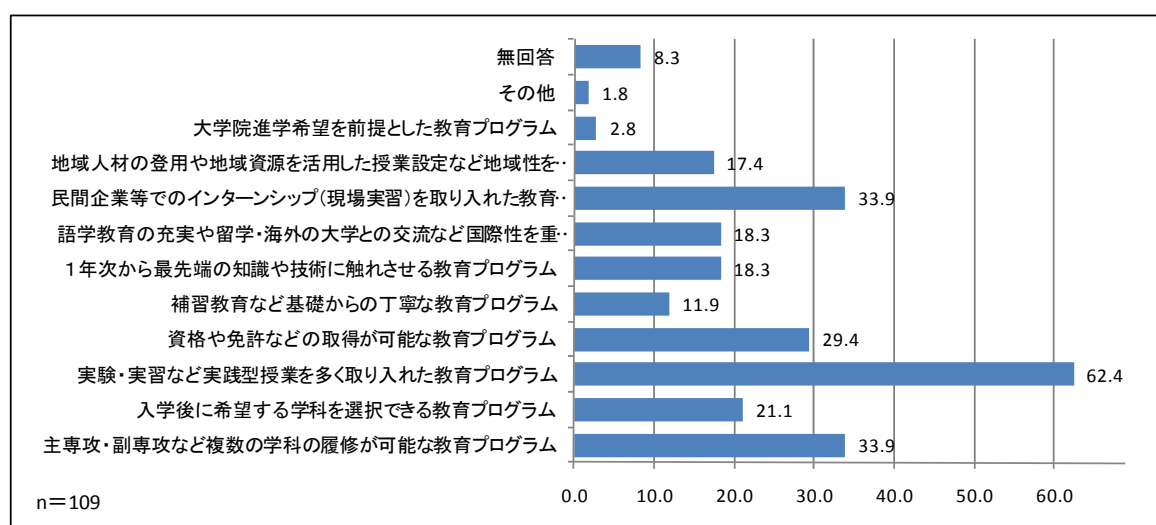
	1 生命科学	2 農学	3 環境 【自然系】	4 環境 【人文・社会系】	5 健康	6 先端医療	7 情報	8 デザイン	9 ビジネス	10 政策	11 国際	12 地域	13 人間	14 その他	無回答	合計
回答者数 (人)	16	18	22	4	5	2	7	4	10	2	0	0	5	2	12	109
構成比 (%)	14.7	16.5	20.2	3.7	4.6	1.8	6.4	3.7	9.2	1.8	0.0	0.0	4.6	1.8	11.0	100.0

【第3希望】

	1 生命科学	2 農学	3 環境 【自然系】	4 環境 【人文・社会系】	5 健康	6 先端医療	7 情報	8 デザイン	9 ビジネス	10 政策	11 国際	12 地域	13 人間	14 その他	無回答	合計
回答者数 (人)	9	3	12	5	6	1	9	1	15	2	6	12	2	1	25	109
構成比 (%)	8.3	2.8	11.0	4.6	5.5	0.9	8.3	0.9	13.8	1.8	5.5	11.0	1.8	0.9	22.9	100.0

### 問8 新学部教育に対して期待すること（3つまでの複数回答）

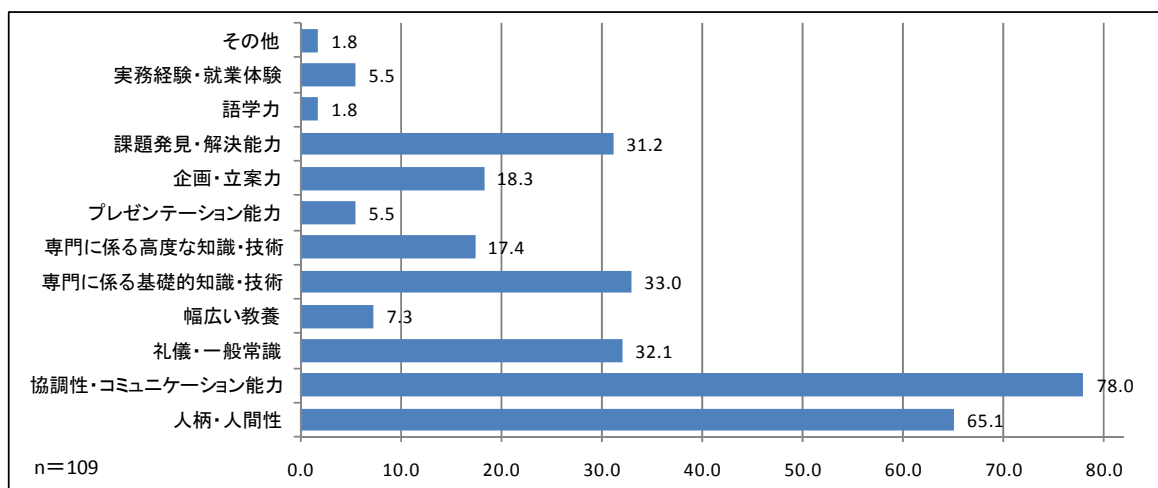
新学部教育に対して期待することについては、「実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム」が62.4%で最も多く、次いで「主専攻・副専攻など複数の学科の履修が可能な教育プログラム」33.9%、「民間企業等でのインターンシップ（現場実習）を取り入れた教育」33.9%、「資格や免許などの取得が可能な教育プログラム」29.4%などの回答が比較的多くなっている。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計	
	主専攻・副専攻など複数の学科の履修が可能な教育プログラム	入学後に希望する学科を選択できる教育プログラム	実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム	資格や免許などの取得が可能な教育プログラム	補習教育など基礎からの丁寧な教育プログラム	1年次から最先端の知識や技術に触れさせる教育プログラム	語学教育の充実や留学・海外の大学との交流など国際性を重視した教育プログラム	民間企業等でのインターンシップ(現場実習)を取り入れた教育プログラム	地域人材の登用や地域資源を活用した授業設定など地域性を重視した教育プログラム	大学院進学希望を前提とした教育プログラム	その他		延数	実数
回答者数(人)	37	23	68	32	13	20	20	37	19	3	2	9	283	109
構成比(%)	33.9	21.1	62.4	29.4	11.9	18.3	18.3	33.9	17.4	2.8	1.8	8.3	259.6	100.0

### 問9 新学部卒業者に望む能力等（3つまでの複数回答）

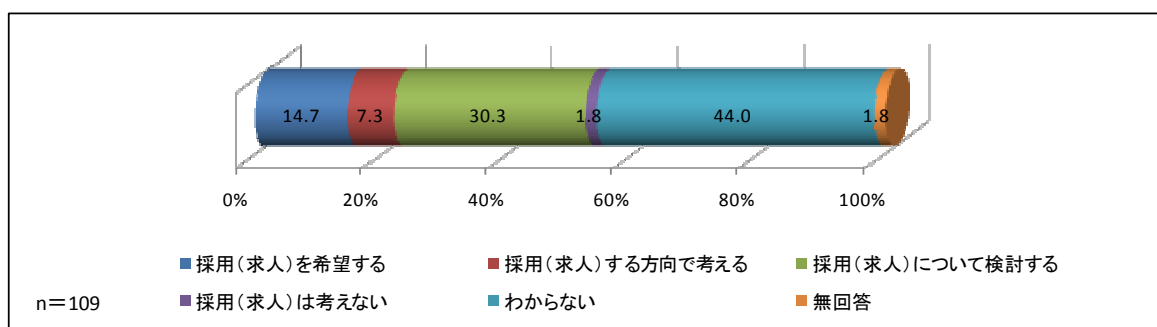
新学部（生命環境学部（仮称））の卒業者を採用するとした場合の新学部卒業者に望む能力等については、「協調性・コミュニケーション能力」が78.0%で最も多く、次いで「人柄・人間性」65.1%であり、これらの事柄を回答する事業所が多くを占めている。このほか、「専門に係る基礎的知識・技術」33.0%、「礼儀・一般常識」32.1%、「課題発見・解決能力」31.2%などの回答が比較的多くなっている。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	無回答	合計	
	人柄・人間性	協調性・コミュニケーション能力	礼儀・一般常識	幅広い教養	専門に係る基礎的知識・技術	専門に係る高度な知識・技術	プレゼンテーション能力	企画・立案力	課題発見・解決能力	語学力	実務経験・就業体験	その他		延数	実数
回答者数 (人)	71	85	35	8	36	19	6	20	34	2	6	2	0	324	109
構成比 (%)	65.1	78.0	32.1	7.3	33.0	17.4	5.5	18.3	31.2	1.8	5.5	1.8	0.0	297.2	100.0

### 問 10 新学部卒業者の新規採用について

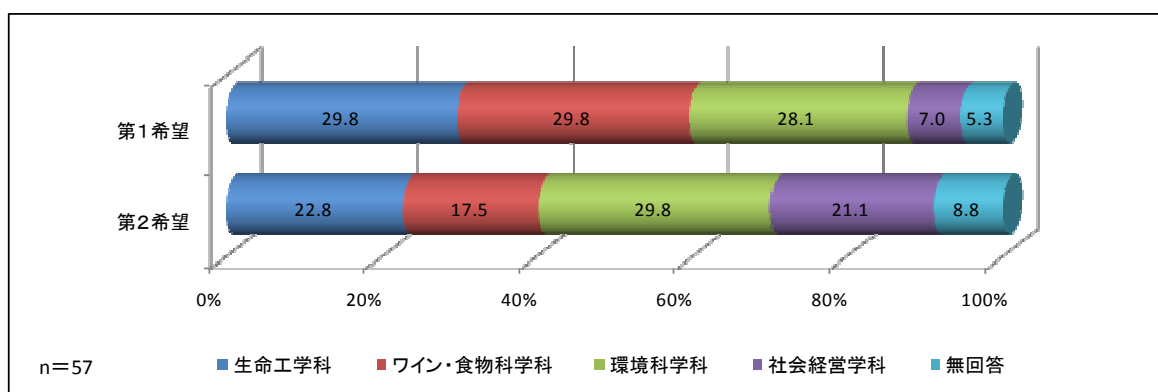
新学部卒業者に対する新規採用意向については、「採用（求人）を希望する」は 14.7%、「採用（求人）する方向で考える」は 7.3%であり、これらを合わせると 22.0%の事業所は新学部卒業者の新規採用に積極的な回答を示している。また、「採用（求人）について検討する」は 30.3%、現時点では「わからない」が 44.0%であり、これらの事業所に関しては今後の経済情勢や事業展開等により判断するものと考えられる。



	1 採用(求人)を 希望する	2 採用(求人)す る方向で考える	3 採用(求人)に ついて検討する	4 採用(求人)は 考えない	5 わからない	無回答	合計
回答者数 (人)	16	8	33	2	48	2	109
構成比 (%)	14.7	7.3	30.3	1.8	44.0	1.8	100.0

問11 新学部の中で特に採用を希望する学科 ※問10で1～3を回答した回答者のみ回答

新学部卒業者の採用（問10）について「採用（求人）を希望する」、「採用（求人）する方向で考える」又は「採用（求人）について検討する」を回答した事業所の学科別採用意向を見ると、第1希望では「生命工学科」29.8%、「ワイン・食物科学科」29.8%、「環境科学科」28.1%、「社会経営学科」7.0%であり、理系よりの3学科への希望がいずれも3割弱となっている。第2希望については「環境科学科」が29.8%で最も多く、次いで「生命工学科」22.8%、「社会経営学科」21.1%、「ワイン・食物科学科」17.5%となっている。



【第1希望】

	1 生命工学科	2 ワイン・食物科学科	3 環境科学科	4 社会経営学科	無回答	合計
回答者数(人)	17	17	16	4	3	57
構成比(%)	29.8	29.8	28.1	7.0	5.3	100.0

【第2希望】

	1 生命工学科	2 ワイン・食物科学科	3 環境科学科	4 社会経営学科	無回答	合計
回答者数(人)	13	10	17	12	5	57
構成比(%)	22.8	17.5	29.8	21.1	8.8	100.0



## (2) 事業所自由回答 (問 12)

- 新学部および貴大学の発展を期待しております。
- 当協会は、ご質問の内容とは組織形態が異なり、お答えしようと思いましたが、適当な表現ができないので、記入できる事項のみとしました。
- より多くの実習を行ってほしいと思います。
- 金属製品の製造業の商品開発部なので、工学系(機械・電気)の学生を多く採用してきています。環境について最近注目されているので、環境科学科卒業生の採用は考えられます。
- 弊社の機能(生産)は下記住所の加賀本社に集中しております。石川県加賀市宮町力 1-1
- 今までに工学部応用化学科と循環システム工学科の卒業生数名採用しています。今後も山梨大卒業生の採用をしていきたいと思っています。
- 知識・技術の取得と同時にそれを生かす積極性や、調整能力を兼ね備えた人間性を養うようなご指導もお願い致します。
- ハイレベルな学部を期待します。
- 工学部との連携
- 学生にとって魅力ある学習内容を望みます。特に地域の活性化を担う若者を育てていただきたいと思っています。(山梨県出身者より)
- 最近、卒論が必須科目となっていない大学が増えているが、卒業研究を経験しない学部生は採用するつもりはない。できれば、3年生から何らかの形で卒業研究と係りを持つことで指導教官と関係を深め、卒業後も本人のバックボーンとして良い影響を維持する関係であっていただきたい。
- 各学科の研究内容等を県民に県「広報等」により内容の情報をアピール(報告)を希望いたします。



山梨大学 生命環境学部（仮称；生命工学科、ワイン・食物科学科、環境科学科、社会経営学科などから成る農学系学部：先端的な科学技術や知識をもち、生物資源、自然環境、産業の経営等に関する高い見識をもって、生命・食・環境・経営を総合的に捉え、生命科学技術、食物生産技術、生物資源の利用、生物生態環境の保全、地域の産業社会にかかわる諸問題の解決を進める人材を養成する。）設置に関するアンケート調査

このアンケート調査は、高校生の皆様の卒業後の進路等に関する意向等を把握し、山梨大学における新学部設置計画の基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、この調査票は無記名方式です。また、結果はコンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用したりすることはありません。回答は設問の順に該当する選択肢番号を回答欄に直接記入してください。

(回答欄)

【属性について】

問1 あなたの性別についておたずねします。

- 1 男性                      2 女性

問2 あなたの学年についておたずねします。

- 1 1年生                      2 2年生

問3 あなたの在籍学科についておたずねします。

- 1 普通科                      2 工業科                      3 商業科  
4 農業科                      5 総合学科                      6 その他

問4 あなたの居住地についておたずねします。

- 1 山梨県                      2 静岡県                      3 愛知県                      4 長野県                      5 岐阜県  
6 三重県                      7 茨城県                      8 千葉県                      9 東京都                      10 その他

【高校卒業後の進路等について】

問5 あなたは高校卒業後、どのような進路を希望しますか。

- 1 大学進学  
2 短期大学進学  
3 高等専門学校進学  
4 専修学校（専門学校）進学  
5 就職  
6 その他（具体的に                      ）

問6 問5で、1、2、3、4のいずれかを回答した方におたずねします。それ以外の方は、問8へ進んでください。

あなたが進学したい分野はどれですか。(1) 学部・学科別分類、(2) キーワード別分類について、それぞれ第3希望まで選んでください。

(1) 学部・学科別分類

- |                  |                         |                                  |
|------------------|-------------------------|----------------------------------|
| 1 文学関係 (史学・哲学含む) | 2 外国語関係                 | 第1希望<br><input type="checkbox"/> |
| 3 心理学関係          | 4 法学・政治学関係              |                                  |
| 5 商学・経済学・経営学関係   | 6 社会学・社会福祉学関係           | 第2希望<br><input type="checkbox"/> |
| 7 国際関係学関係        | 8 理学関係                  | 第3希望<br><input type="checkbox"/> |
| 9 工学関係           | 10 農学関係                 |                                  |
| 11 医学・歯学・薬学関係    | 12 保健関係 (看護・理学療法・作業療法等) | 第3希望<br><input type="checkbox"/> |
| 13 家政学関係         | 14 教員養成・教育学・保育学関係       |                                  |
| 15 芸術学関係         | 16 総合科学関係               |                                  |
| 17 その他 (具体的に )   |                         |                                  |

(2) キーワード別分類

- |  |                                  |
|--|----------------------------------|
| 1 生命科学 (バイオテクノロジー、遺伝子工学、微生物学等)             | 第1希望<br><input type="checkbox"/> |
| 2 農学 (生物生産、発酵化学、アグリバイオ、ワイン・くだもの等)          |                                  |
| 3 環境【自然系】(環境科学、環境工学、環境生態学、環境システム学、環境保全学等)  | 第2希望<br><input type="checkbox"/> |
| 4 環境【人文・社会系】(環境哲学(倫理学)、環境法学、環境経済学、環境ビジネス等) |                                  |
| 5 健康 (健康科学、スポーツ、栄養学、食品学等)                  | 第3希望<br><input type="checkbox"/> |
| 6 先端医療 (再生医療、ゲノム創薬、生体移植等)                  |                                  |
| 7 情報 (ソフトウェア、情報システム、ネットワーク、コンテンツ等)         | 第3希望<br><input type="checkbox"/> |
| 8 デザイン (インテリアデザイン、商品デザイン、建築デザイン、都市デザイン等)   |                                  |
| 9 ビジネス (企業経営、マーケティング、会計、貿易、流通、金融等)         |                                  |
| 10 政策 (政策科学、公共政策、総合政策、地域政策等)               |                                  |
| 11 国際 (国際関係、国際経済、国際ビジネス、国際文化、国際協力等)        |                                  |
| 12 地域 (地域文化、地域社会、地域経済、地域開発等)               |                                  |
| 13 人間 (人間関係、コミュニケーション、心理学、人間行動学等)          |                                  |
| 14 その他 (具体的に )                             |                                  |

問7 問5で、1、2、3、4のいずれかを回答した方におたずねします。あなたは、進学先として、どの地域を希望しますか。次の中から第2希望まで選んでください。

- |       |        |       |        |       |       |         |                                  |
|-------|--------|-------|--------|-------|-------|---------|----------------------------------|
| 1 北海道 | 2 青森   | 3 岩手  | 4 宮城   | 5 秋田  | 6 山形  | 7 福島    | 第1希望<br><input type="checkbox"/> |
| 8 茨城  | 9 栃木   | 10 群馬 | 11 埼玉  | 12 千葉 | 13 東京 | 14 神奈川  |                                  |
| 15 新潟 | 16 富山  | 17 石川 | 18 福井  | 19 山梨 | 20 長野 | 21 岐阜   | 第2希望<br><input type="checkbox"/> |
| 22 静岡 | 23 愛知  | 24 三重 | 25 滋賀  | 26 京都 | 27 大阪 | 28 兵庫   |                                  |
| 29 奈良 | 30 和歌山 | 31 鳥取 | 32 島根  | 33 岡山 | 34 広島 | 35 山口   | 第2希望<br><input type="checkbox"/> |
| 36 徳島 | 37 香川  | 38 愛媛 | 39 高知  | 40 福岡 | 41 佐賀 | 42 長崎   |                                  |
| 43 熊本 | 44 大分  | 45 宮崎 | 46 鹿児島 | 47 沖縄 | 48 外国 | 49 問わない |                                  |

問8 あなたは大学を選ぶ際にどのようなことを重視しますか。次の中から3つまで選んでください。

- |   |                          |
|---|--------------------------|
| 1 主専攻・副専攻など複数の学科の履修が可能な教育プログラム            | <input type="checkbox"/> |
| 2 入学後に希望する学科を選択できる教育プログラム                 |                          |
| 3 実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム             |                          |
| 4 資格や免許などの取得が可能な教育プログラム                   | <input type="checkbox"/> |
| 5 補習教育など基礎からの丁寧な教育プログラム                   |                          |
| 6 1年次から最先端の知識や技術に触れさせる教育プログラム             | <input type="checkbox"/> |
| 7 語学教育の充実や留学・海外の大学との交流など国際性を重視した教育プログラム   |                          |
| 8 民間企業等でのインターンシップ（現場実習）を取り入れた教育プログラム      |                          |
| 9 地域人材の登用や地域資源を活用した授業設定など地域性を取り入れた教育プログラム |                          |
| 10 大学院進学希望を前提とした教育プログラム                   |                          |
| 11 その他（具体的に                               | )                        |

**【新学部の概要について】**

山梨大学では、「地域の知の拠点」として、地域の産業・文化・教育・医療の中核を担い、世界を舞台に活躍できる高い知的能力と道徳意識を持った高度専門職業人の養成を重要な使命とし、現在の3学部に加え、生命工学、ワイン・食物科学、環境科学、社会経営学を柱とした第4の学部設置を目指しています。

なお、学部完成後に大学院（博士課程、修士課程）医学工学総合研究部と連携した大学院を設置する計画です。

問9 あなたは山梨大学で設置計画中の新学部への進学を希望しますか。次の中から1つだけ選んでください。

- |                |                |                          |
|----------------|----------------|--------------------------|
| 1 進学を希望する      | 2 進学先の一つとして考える | <input type="checkbox"/> |
| 3 とりあえず受験してみたい | 4 進学を希望しない     |                          |
| 5 わからない        |                |                          |

問10 問9で1、2、3のいずれかを回答した方におたずねします。それ以外の方は、問11へ進んでください。

(1) あなたが山梨大学で設置計画中の新学部に進学するとすれば、どの学科を希望しますか。

第2希望まで選んでください。

- |             |                          |                          |
|-------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 生命工学科     | <input type="checkbox"/> | 第1希望                     |
| 2 ワイン・食物科学科 |                          | <input type="checkbox"/> |
| 3 環境科学科     |                          |                          |
| 4 社会経営学科    |                          |                          |
|             |                          |                          |

(2) 農学を学ぶというとき、将来どのようなことが必要だと考えますか。次の中から3つまで選んでください。

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 農業生産技術</li> <li>3. 野菜・水稲栽培</li> <li>5. 食品科学</li> <li>7. アグリバイオ</li> <li>9. 地球温暖化</li> <li>11. 総合科学</li> <li>13. マネージメント</li> <li>15. コンピュータリテラシー</li> <li>17. その他（具体的に</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>2. 果樹栽培</li> <li>4. 醸造技術</li> <li>6. バイオテクノロジー</li> <li>8. 環境保護</li> <li>10. 流通経済</li> <li>12. 地域・国際経済</li> <li>14. フードビジネス</li> <li>16. 野菜工場</li> </ul> | <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div> |
|---|---|---|

**【将来について】**

問11 あなたは将来の就職先としてどの業種を希望しますか。次の中から2つまで選んでください。

- 1 農業
  - 2 建設業
  - 3 飲料・食料品製造業
  - 4 製造業（飲料・食料品製造業除く）
  - 5 情報通信業
  - 6 運輸業
  - 7 飲料・食料品卸売・小売業
  - 8 卸・小売業（飲料・食料品卸売・小売業除く）
  - 9 金融・保険業
  - 10 不動産業
  - 11 飲食店
  - 12 医療・福祉
  - 13 教育・学習支援
  - 14 サービス業
  - 15 公務員
  - 16 未定
  - 17 その他（具体的に
- 

問12 山梨大学の新学部について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

\*\*\* これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。 \*\*\*

山梨大学 生命環境学部（仮称；生命工学科、ワイン・食物科学科、環境科学科、社会経営学科などから成る農学系学部：先端的な科学技術や知識をもち、生物資源、自然環境、産業の経営等に関する高い見識をもって、生命・食・環境・経営を総合的に捉え、生命科学技術、食物生産技術、生物資源の利用、生物生態環境の保全、地域の産業社会にかかわる諸問題の解決を進める人材を養成する。）設置に関するアンケート調査

このアンケート調査は、高校生の高校卒業後の進路や新学部に対する関心度などに係る進路指導の先生方のご意見を把握し、山梨大学における新学部設置計画の基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、この調査票は無記名方式です。また、結果はコンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用したりすることはありません。回答は設問の順に該当する選択肢番号を回答欄に直接記入してください。

（回答欄）

問1 生徒への進路指導に際して特に重視する事柄はどれですか。次の中から3つまで選んでください。

- |                   |                |   |
|-------------------|----------------|---|
| 1 教育課程            | 2 教員組織         | <input style="width: 60px; height: 40px;" type="text"/> |
| 3 就職指導・補習教育等の学生支援 | 4 就職実績・大学院進学実績 |   |
| 5 入学難易度           | 6 入試制度         | <input style="width: 60px; height: 40px;" type="text"/> |
| 7 立地場所            | 8 学費           | <input style="width: 60px; height: 40px;" type="text"/> |
| 9 世間での評判          | 10 生徒の性格・適性    |   |
| 11 生徒や保護者の希望      | 12 施設・設備       |   |
| 13 その他（具体的に       | ）              |   |

問2 最近3年間程度における生徒の進学希望動向に関して、おおよそで結構ですので、増加傾向の分野および減少傾向の分野について、(1) 学部・学科別分類、(2) キーワード別分類ごとにそれぞれ上位3つまで選んでください。

(1) 学部・学科別分類

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 1 文学関係（史学・哲学含む） | 2 外国語関係                |
| 3 心理学関係         | 4 法学・政治学関係             |
| 5 商学・経済学・経営学関係  | 6 社会学・社会福祉学関係          |
| 7 国際関係学関係       | 8 理学関係                 |
| 9 工学関係          | 10 農学関係                |
| 11 医学・歯学・薬学関係   | 12 保健関係（看護・理学療法・作業療法等） |
| 13 家政学関係        | 14 教員養成・教育学・保育学関係      |
| 15 芸術学関係        | 16 総合科学関係              |
| 17 その他（具体的に     | ）                      |

① 進学希望者が増加傾向の分野

<input style="width: 60px; height: 40px;" type="text"/>	<input style="width: 60px; height: 40px;" type="text"/>	<input style="width: 60px; height: 40px;" type="text"/>
---	---	---

② 進学希望者が減少傾向の分野

<input style="width: 60px; height: 40px;" type="text"/>	<input style="width: 60px; height: 40px;" type="text"/>	<input style="width: 60px; height: 40px;" type="text"/>
---	---	---

(2) キーワード別分類

- 1 生命科学 (バイオテクノロジー、遺伝子工学、微生物学等)
- 2 農学 (生物生産、発酵化学、アグリバイオ、ワイン・くだもの等)
- 3 環境【自然系】(環境科学、環境工学、環境生態学、環境システム学、環境保全学等)
- 4 環境【人文・社会系】(環境哲学(倫理学)、環境法学、環境経済学、環境ビジネス等)
- 5 健康 (健康科学、スポーツ、栄養学、食品学等)
- 6 先端医療 (再生医療、ゲノム創薬、生体移植等)
- 7 情報 (ソフトウェア、情報システム、ネットワーク、コンテンツ等)
- 8 デザイン (インテリアデザイン、商品デザイン、建築デザイン、都市デザイン等)
- 9 ビジネス (企業経営、マーケティング、会計、貿易、流通、金融等)
- 10 政策 (政策科学、公共政策、総合政策、地域政策等)
- 11 国際 (国際関係、国際経済、国際ビジネス、国際文化、国際協力等)
- 12 地域 (地域文化、地域社会、地域経済、地域開発等)
- 13 人間 (人間関係、コミュニケーション、心理学、人間行動学等)
- 14 その他 (具体的に )

① 進学希望者が増加傾向の分野

--	--	--

② 進学希望者が減少傾向の分野

--	--	--

問3 生徒への進路指導で、大学を選ぶ際にどのようなことを重視しますか。次の中から3つまで選んでください。

- 1 主専攻・副専攻など複数の学科・コースの履修が可能な教育プログラム
- 2 入学後に希望する学科やコースを選択できる教育プログラム
- 3 実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム
- 4 資格や免許などの取得が可能な教育プログラム
- 5 補習教育など基礎からの丁寧な教育プログラム
- 6 1年次から最先端の知識や技術に触れさせる教育プログラム
- 7 語学教育の充実や留学・海外の大学との交流など国際性を重視した教育プログラム
- 8 民間企業等でのインターンシップ(現場実習)を取り入れた教育プログラム
- 9 地域人材の登用や地域資源を活用した授業設定など地域性を取り入れた教育プログラム
- 10 大学院進学希望を前提とした教育プログラム
- 11 その他(具体的に )

【新学部の概要について】

山梨大学では、「地域の知の拠点」として、地域の産業・文化・教育・医療の中核を担い、世界を舞台に活躍できる高い知的能力と道徳意識を持った高度専門職業人の養成を重要な使命とし、現在の3学部に加え、生命工学、ワイン・食物科学、環境科学、社会経営学を柱とした第4の学部設置を目指しています。

なお、学部完成後に大学院(博士課程、修士課程)医学工学総合研究部と連携した大学院を設置する計画です。



問4 山梨大学で設置計画中の新学部において現在構想している4つの学科に関して、それぞれ生徒の進学希望に係る期待度はどの程度を想定しますか。各学科ごとにお答えください。

(1) 進学希望について

- |              |           |            |
|--------------|-----------|------------|
| 1 大いに期待できる   | 2 少し期待できる | 3 あまり期待でない |
| 4 まったく期待できない | 5 わからない   |            |

① 生命工学科

② ワイン・食物科学科

③ 環境科学科

④ 社会経営学科

(2) (1) で1又は2を回答された方(①～④のうち一つでも1又は2を回答された方)のみにおたずねします。それ以外の方は、問5へ進んでください。

(1) で1又は2を回答した理由について、次の中から2つまで選んでください。

- 1 山梨大学に開設される学部・学科だから
- 2 国立大学だから
- 3 生徒の関心が高い分野だから
- 4 求人の多い分野だから
- 5 これからの社会で求められる分野だから
- 6 競合する大学が少ないから
- 7 優れた教育・研究やユニークな教育・研究が期待できるから
- 8 学部・学科の内容やコンセプトが分かりやすいから
- 9 その他(具体的に \_\_\_\_\_ )



問5 山梨大学の新学部について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

\*\*\* これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。 \*\*\*





問5 問4で、1、2、3、4のいずれかを回答した方におたずねします。それ以外の方は、問7へ進んでください。

お子様の進学する分野についておたずねします。(1) 学部・学科別分類、(2) キーワード別分類について、それぞれ第3希望まで選んでください。

(1) 学部・学科別分類

- |                  |                         |                                  |
|------------------|-------------------------|----------------------------------|
| 1 文学関係 (史学・哲学含む) | 2 外国語関係                 | 第1希望<br><input type="checkbox"/> |
| 3 心理学関係          | 4 法学・政治学関係              |                                  |
| 5 商学・経済学・経営学関係   | 6 社会学・社会福祉学関係           | 第2希望<br><input type="checkbox"/> |
| 7 国際関係学関係        | 8 理学関係                  | 第3希望<br><input type="checkbox"/> |
| 9 工学関係           | 10 農学関係                 |                                  |
| 11 医学・歯学・薬学関係    | 12 保健関係 (看護・理学療法・作業療法等) | 第3希望<br><input type="checkbox"/> |
| 13 家政学関係         | 14 教員養成・教育学・保育学関係       |                                  |
| 15 芸術学関係         | 16 総合科学関係               |                                  |
| 17 その他 (具体的に )   |                         |                                  |

(2) キーワード別分類

- |  |                                  |
|--|----------------------------------|
| 1 生命科学 (バイオテクノロジー、遺伝子工学、微生物学等)             | 第1希望<br><input type="checkbox"/> |
| 2 農学 (生物生産、発酵化学、アグリバイオ、ワイン・くだもの等)          |                                  |
| 3 環境【自然系】(環境科学、環境工学、環境生態学、環境システム学、環境保全学等)  | 第2希望<br><input type="checkbox"/> |
| 4 環境【人文・社会系】(環境哲学(倫理学)、環境法学、環境経済学、環境ビジネス等) |                                  |
| 5 健康 (健康科学、スポーツ、栄養学、食品学等)                  | 第3希望<br><input type="checkbox"/> |
| 6 先端医療 (再生医療、ゲノム創薬、生体移植等)                  |                                  |
| 7 情報 (ソフトウェア、情報システム、ネットワーク、コンテンツ等)         | 第3希望<br><input type="checkbox"/> |
| 8 デザイン (インテリアデザイン、商品デザイン、建築デザイン、都市デザイン等)   |                                  |
| 9 ビジネス (企業経営、マーケティング、会計、貿易、流通、金融等)         |                                  |
| 10 政策 (政策科学、公共政策、総合政策、地域政策等)               |                                  |
| 11 国際 (国際関係、国際経済、国際ビジネス、国際文化、国際協力等)        |                                  |
| 12 地域 (地域文化、地域社会、地域経済、地域開発等)               |                                  |
| 13 人間 (人間関係、コミュニケーション、心理学、人間行動学等)          |                                  |
| 14 その他 (具体的に )                             |                                  |

問6 問4で、1、2、3、4のいずれかを回答した方におたずねします。お子様の進学先として、どの地域を希望しますか。次の中から第2希望まで選んでください。

- |       |        |       |        |       |       |         |                                  |
|-------|--------|-------|--------|-------|-------|---------|----------------------------------|
| 1 北海道 | 2 青森   | 3 岩手  | 4 宮城   | 5 秋田  | 6 山形  | 7 福島    | 第1希望<br><input type="checkbox"/> |
| 8 茨城  | 9 栃木   | 10 群馬 | 11 埼玉  | 12 千葉 | 13 東京 | 14 神奈川  |                                  |
| 15 新潟 | 16 富山  | 17 石川 | 18 福井  | 19 山梨 | 20 長野 | 21 岐阜   | 第2希望<br><input type="checkbox"/> |
| 22 静岡 | 23 愛知  | 24 三重 | 25 滋賀  | 26 京都 | 27 大阪 | 28 兵庫   |                                  |
| 29 奈良 | 30 和歌山 | 31 鳥取 | 32 島根  | 33 岡山 | 34 広島 | 35 山口   | 第2希望<br><input type="checkbox"/> |
| 36 徳島 | 37 香川  | 38 愛媛 | 39 高知  | 40 福岡 | 41 佐賀 | 42 長崎   |                                  |
| 43 熊本 | 44 大分  | 45 宮崎 | 46 鹿児島 | 47 沖縄 | 48 外国 | 49 問わない |                                  |

問7 あなたは大学を選ぶ際にどのようなことを重視しますか。次の中から3つまで選んでください。

- |   |                          |
|---|--------------------------|
| 1 主専攻・副専攻など複数の学科・コースの履修が可能な教育プログラム        | <input type="checkbox"/> |
| 2 入学後に希望する学科やコースを選択できる教育プログラム             |                          |
| 3 実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム             |                          |
| 4 資格や免許などの取得が可能な教育プログラム                   | <input type="checkbox"/> |
| 5 補習教育など基礎からの丁寧な教育プログラム                   |                          |
| 6 1年次から最先端の知識や技術に触れさせる教育プログラム             |                          |
| 7 語学教育の充実や留学・海外の大学との交流など国際性を重視した教育プログラム   | <input type="checkbox"/> |
| 8 民間企業等でのインターンシップ（現場実習）を取り入れた教育プログラム      |                          |
| 9 地域人材の登用や地域資源を活用した授業設定など地域性を取り入れた教育プログラム |                          |
| 10 大学院進学希望を前提とした教育プログラム                   |                          |
| 11 その他（具体的に                               | ）                        |

### 【新学部の概要について】

山梨大学では、「地域の知の拠点」として、地域の産業・文化・教育・医療の中核を担い、世界を舞台に活躍できる高い知的能力と道徳意識を持った高度専門職業人の養成を重要な使命とし、現在の3学部に加え、生命工学、ワイン・食物科学、環境科学、社会経営学を柱とした第4の学部設置を目指しています。

なお、学部完成後に大学院（博士課程、修士課程）医学工学総合研究部と連携した大学院を設置する計画です。

問8 お子様在山梨大学で設置計画中の新学部へ進学することを希望しますか。次の中から1つだけ選んでください。

- |                |                |                          |
|----------------|----------------|--------------------------|
| 1 進学を希望する      | 2 進学先の一つとして考える | <input type="checkbox"/> |
| 3 とりあえず受験してみたい | 4 進学を希望しない     |                          |
| 5 わからない        |                |                          |

問9 問8で1、2、3のいずれかを回答した方におたずねします。それ以外の方は、問10へ進んでください。

(1) お子様在山梨大学で設置計画中の新学部に進学するとすれば、どの学科を希望しますか。

第2希望まで選んでください。

- |             |                          |
|-------------|--------------------------|
| 1 生命工学科     | 第1希望                     |
| 2 ワイン・食物科学科 | <input type="checkbox"/> |
| 3 環境科学科     |                          |
| 4 社会経営学科    | 第2希望                     |
|             | <input type="checkbox"/> |

(2) 農学を学ぶというとき、将来どのようなことが必要だと考えますか。次の中から3つまで選んでください。

- |                 |              |                          |
|-----------------|--------------|--------------------------|
| 1. 農業生産技術       | 2. 果樹栽培      | <input type="checkbox"/> |
| 3. 野菜・水稻栽培      | 4. 醸造技術      |                          |
| 5. 食品科学         | 6. バイオテクノロジー | <input type="checkbox"/> |
| 7. アグリバイオ       | 8. 環境保護      |                          |
| 9. 地球温暖化        | 10. 流通経済     | <input type="checkbox"/> |
| 11. 総合科学        | 12. 地域・国際経済  |                          |
| 13. マネージメント     | 14. フードビジネス  |                          |
| 15. コンピュータリテラシー | 16. 野菜工場     |                          |
| 17. その他（具体的に    |              | )                        |

**【将来について】**

問10 お子様の将来の就職先としてどの業種を希望しますか。次の中から2つまで選んでください。

- 1 農業
- 2 建設業
- 3 飲料・食料品製造業
- 4 製造業（飲料・食料品製造業除く）
- 5 情報通信業
- 6 運輸業
- 7 飲料・食料品卸売・小売業
- 8 卸・小売業（飲料・食料品卸売・小売業除く）
- 9 金融・保険業
- 10 不動産業
- 11 飲食店
- 12 医療・福祉
- 13 教育・学習支援
- 14 サービス業
- 15 公務員
- 16 未定
- 17 その他（具体的に



問11 山梨大学の新学部について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

\*\*\* これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。 \*\*\*

山梨大学 生命環境学部（仮称；生命工学科、ワイン・食物科学科、環境科学科、社会経営学科などから成る農学系学部：先端的な科学技術や知識をもち、生物資源、自然環境、産業の経営等に関する高い見識をもって、生命・食・環境・経営を総合的に捉え、生命科学技術、食物生産技術、生物資源の利用、生物生態環境の保全、地域の産業社会にかかわる諸問題の解決を進める人材を養成する。）設置に関するアンケート調査

このアンケート調査は、貴事業所における従業員の採用についてのお考えや「生命環境学部（仮称）」に対するご意見などをお聞かせいただき、山梨大学における新学部設置計画の基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、この調査票は無記名方式です。また、結果はコンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用したりすることはありません。回答は設問の順に該当する選択肢番号を回答欄に直接記入してください。

(回答欄)

## 【属性について】

問1 貴事業所の単独事業所・本所・支所の別についておたずねします。

- 1 単独事業所      2 本所・本店・本社      3 支所・支店・支社

問2 貴事業所の所在地についておたずねします。

- 1 北海道   2 青森   3 岩手   4 宮城   5 秋田   6 山形   7 福島  
 8 茨城   9 栃木   10 群馬   11 埼玉   12 千葉   13 東京   14 神奈川  
 15 新潟   16 富山   17 石川   18 福井   19 山梨   20 長野   21 岐阜  
 22 静岡   23 愛知   24 三重   25 滋賀   26 京都   27 大阪   28 兵庫  
 29 奈良   30 和歌山   31 鳥取   32 島根   33 岡山   34 広島   35 山口  
 36 徳島   37 香川   38 愛媛   39 高知   40 福岡   41 佐賀   42 長崎  
 43 熊本   44 大分   45 宮崎   46 鹿児島   47 沖縄

問3 貴事業所の従業員規模についておたずねします。

- 1 50人未満      2 50～99人      3 100～199人  
 4 200～299人      5 300～499人      6 500人以上

問4 貴事業所の主要な業種についておたずねします。

- 1 農林漁業      2 鉱業      3 建設業  
 4 製造業      5 電気・ガス・熱供給・水道業      6 情報通信業  
 7 運輸業      8 卸・小売業      9 金融・保険業  
 10 不動産業      11 飲食店・宿泊業      12 医療・福祉業  
 13 教育・学習支援業      14 サービス業      15 その他

【従業員の採用について】

問5 過去3年間の貴事業所における従業員の新規採用実績についておたずねします。(なお、本社等で一括採用し、貴事業所に配属されるような場合は、貴事業所に配属された人数でお答えください。)

(1) 過去3年間(平成19年度～21年度)に従業員を新規に採用されましたか。

- 1 採用した                      2 採用していない

(2) (1)で「1 採用した」を回答した事業所のみにおたずねします。それ以外の事業所は問6へ進んでください。

過去3年間における従業員の新規採用人数(累計)についてお答えください。

 人

(3) (2)の新規採用人数のうち、農学系学部卒業・研究科(修士課程・博士課程)修了の人数についてお答えください。

学部卒業	修士課程修了	博士課程修了
人	人	人

問6 貴事業所において、従業員採用に当たり特に重視する事柄はどれですか。次の中から3つまで選んでください。

- |                 |                   |                          |
|-----------------|-------------------|--------------------------|
| 1 人柄・人間性        | 2 協調性・コミュニケーション能力 | <input type="checkbox"/> |
| 3 礼儀・一般常識       | 4 幅広い教養           |                          |
| 5 専門に係る基礎的知識・技術 | 6 専門に係る高度な知識・技術   | <input type="checkbox"/> |
| 7 プレゼンテーション能力   | 8 企画・立案力          |                          |
| 9 課題発見・解決能力     | 10 語学力            | <input type="checkbox"/> |
| 11 実務経験・就業体験    | 12 その他(具体的に )     |                          |

問7 貴事業所において、従業員採用に当たり特に関心のある分野あるいは今後採用を増やしていきたい分野はどれですか。(1)学部・学科別分類、(2)キーワード別分類について、それぞれ第3希望まで選んでください。

(1) 学部・学科別分類

- |                 |                        |                          |
|-----------------|------------------------|--------------------------|
| 1 文学関係(史学・哲学含む) | 2 外国語関係                | <input type="checkbox"/> |
| 3 心理学関係         | 4 法学・政治学関係             |                          |
| 5 商学・経済学・経営学関係  | 6 社会学・社会福祉学関係          | <input type="checkbox"/> |
| 7 国際関係学関係       | 8 理学関係                 |                          |
| 9 工学関係          | 10 農学関係                | <input type="checkbox"/> |
| 11 医学・歯学・薬学関係   | 12 保健関係(看護・理学療法・作業療法等) |                          |
| 13 家政学関係        | 14 教員養成・教育学・保育学関係      | <input type="checkbox"/> |
| 15 芸術学関係        | 16 総合科学関係              |                          |
| 17 その他(具体的に )   |                        |                          |

第1希望

第2希望

第3希望



(2) キーワード別分類

- 1 生命科学 (バイオテクノロジー、遺伝子工学、微生物学等)
- 2 農学 (生物生産、発酵化学、アグリバイオ、ワイン・くだもの等)
- 3 環境【自然系】 (環境科学、環境工学、環境生態学、環境システム学、環境保全学等)
- 4 環境【人文・社会系】 (環境哲学 (倫理学)、環境法学、環境経済学、環境ビジネス等)
- 5 健康 (健康科学、スポーツ、栄養学、食品学等)
- 6 先端医療 (再生医療、ゲノム創薬、生体移植等)
- 7 情報 (ソフトウェア、情報システム、ネットワーク、コンテンツ等)
- 8 デザイン (インテリアデザイン、商品デザイン、建築デザイン、都市デザイン等)
- 9 ビジネス (企業経営、マーケティング、会計、貿易、流通、金融等)
- 10 政策 (政策科学、公共政策、総合政策、地域政策等)
- 11 国際 (国際関係、国際経済、国際ビジネス、国際文化、国際協力等)
- 12 地域 (地域文化、地域社会、地域経済、地域開発等)
- 13 人間 (人間関係、コミュニケーション、心理学、人間行動学等)
- 14 その他 (具体的に )

第1希望

第2希望

第3希望

【新学部の概要について】

山梨大学では、「地域の知の拠点」として、地域の産業・文化・教育・医療の中核を担い、世界を舞台に活躍できる高い知的能力と道徳意識を持った高度専門職業人の養成を重要な使命とし、現在の3学部に加え、生命工学、ワイン・食物科学、環境科学、社会経営学を柱とした第4の学部設置を目指しています。

なお、学部完成後に大学院 (博士課程、修士課程) 医学工学総合研究部と連携した大学院を設置する計画です。

問8 貴事業所では、山梨大学で設置計画中の新学部の教育に対して、どのようなことを期待しますか。次の中から3つまで選んでください。

- 1 主専攻・副専攻など複数の学科・コースの履修が可能な教育プログラム
- 2 入学後に希望する学科やコースを選択できる教育プログラム
- 3 実験・実習など実践型授業を多く取り入れた教育プログラム
- 4 資格や免許などの取得が可能な教育プログラム
- 5 補習教育など基礎からの丁寧な教育プログラム
- 6 1年次から最先端の知識や技術に触れさせる教育プログラム
- 7 語学教育の充実や留学・海外の大学との交流など国際性を重視した教育プログラム
- 8 民間企業等でのインターンシップ (現場実習) を取り入れた教育プログラム
- 9 地域人材の登用や地域資源を活用した授業設定など地域性を取り入れた教育プログラム
- 10 大学院進学希望を前提とした教育プログラム
- 11 その他 (具体的に )

問9 貴事業所において、山梨大学で設置計画中の新学部卒業者を採用するとすれば、どのような能力等を望みますか。次の中から3つまで選んでください。

- |                 |                   |                          |
|-----------------|-------------------|--------------------------|
| 1 人柄・人間性        | 2 協調性・コミュニケーション能力 | <input type="checkbox"/> |
| 3 礼儀・一般常識       | 4 幅広い教養           |                          |
| 5 専門に係る基礎的知識・技術 | 6 専門に係る高度な知識・技術   | <input type="checkbox"/> |
| 7 プレゼンテーション能力   | 8 企画・立案力          |                          |
| 9 課題発見・解決能力     | 10 語学力            | <input type="checkbox"/> |
| 11 実務経験・就業体験    | 12 その他（具体的に )     |                          |

問10 山梨大学に新学部が設置された場合、貴事業所では、新学部卒業者を新規採用することについて、どのように考えますか。

- |                  |                  |                          |
|------------------|------------------|--------------------------|
| 1 採用（求人）を希望する    | 2 採用（求人）する方向で考える | <input type="checkbox"/> |
| 3 採用（求人）について検討する | 4 採用（求人）は考えない    |                          |
| 5 わからない          |                  |                          |

問11 問10で1、2、3を回答した事業所のみにおたずねします。それ以外の事業所は問12へ進んでください。

貴事業所において、山梨大学で設置計画中の新学部卒業者を新規採用するとすれば、特にどの学科の卒業者を希望しますか。第2希望まで選んでください。

- |             |                          |
|-------------|--------------------------|
| 1 生命工学科     | 第1希望                     |
| 2 ワイン・食物科学科 | <input type="checkbox"/> |
| 3 環境科学科     | 第2希望                     |
| 4 社会経営学科    | <input type="checkbox"/> |

問12 山梨大学の新学部について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

\*\*\* これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。 \*\*\*

**生命環境学部(仮称;生命工学科、ワイン・食物科学科、環境科学科、社会経営学科などから成る**

**農学系学部)の概要**：先端的な科学技術や知識をもち、生物資源、自然環境、産業の経営等に関する高

い見識をもって、生命・食・環境・経営を総合的に捉え、生命科学技術、食物生産技術、生物資源の利用、

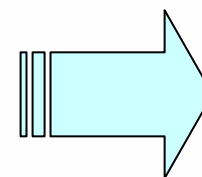
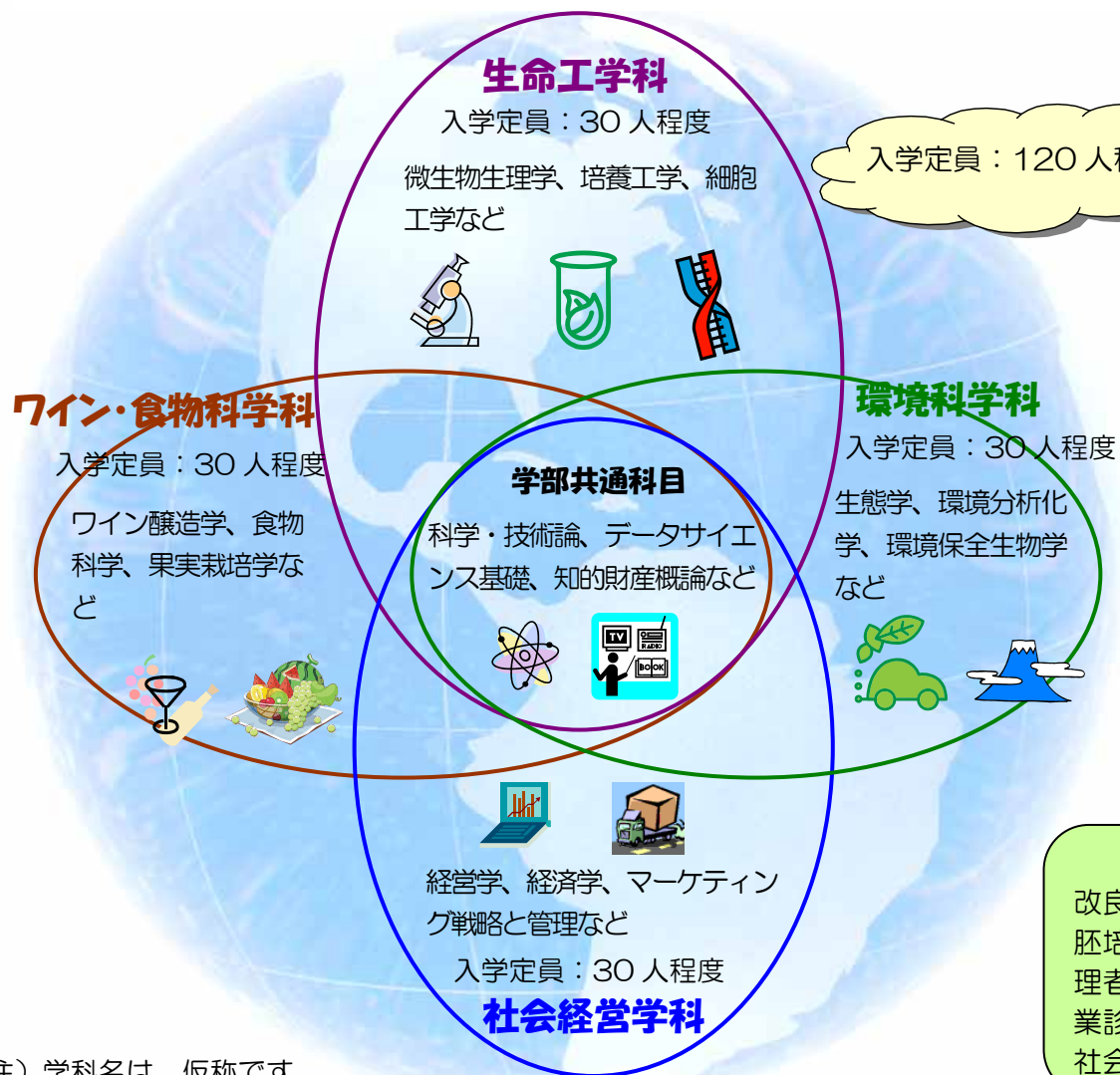
生物生態環境の保全、地域の産業社会にかかわる諸問題の解決を進める人材を養成します。

(注) 学部・学科名称及び入学定員については、今後、変更になる場合があります。

生命工学科（仮称） （入学定員30名程度）	ワイン・食物科学科（仮称） （入学定員30名程度）	環境科学科（仮称） （入学定員30名程度）	社会経営学科（仮称） （入学定員30名程度）
<p>教育研究の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 分子生物学、細胞工学、遺伝子工学等の先端バイオサイエンスについて学びます。</li> <li>○ 生物機能のファインケミカル、エネルギー、環境、食料、健康、医療等への工学的応用について学びます。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>卒業後の主な活躍分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食品、製薬、化粧品、植物バイオ関連法人、公務員等</li> </ul>	<p>教育研究の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワイン醸造学、果実栽培学、食物科学等について学びます。</li> <li>○ 食の安全、植物の成長・発育、安定生産のための生育調整等について学びます。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>卒業後の主な活躍分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワイン関連、食品、JA関連団体、農業法人、公務員等</li> </ul>	<p>教育研究の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人間活動を含む物質循環系や生態系など、社会をとりまく自然の動態について学びます。</li> <li>○ 自然科学の基礎の上に、環境計測技術や環境保全学、バイオマス利用工学などを学びます。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>卒業後の主な活躍分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境・エネルギー関連の製造業、環境系コンサルタント、公務員等</li> </ul>	<p>教育研究の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の産業社会の構造や動態を把握するための原理や基礎知識について学びます。</li> <li>○ 地域や産業を経営管理するための専門的・実践的な理論及び数理的手法について学びます。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>卒業後の主な活躍分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 金融業、マスコミ、流通・小売業、製造業、IT産業、公務員等</li> </ul>
<p>取得可能な主な資格・免許</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 衛生管理者、作業環境測定士、廃棄物処理施設技術管理者、教員免許（中学・高校理科）など</li> </ul>	<p>取得可能な主な資格・免許</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食品衛生管理者、改良普及員、山梨大学ワイン科学士、教員免許（高校農業）など</li> </ul>	<p>取得可能な主な資格・免許</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公害防止管理者、教員免許（中学・高校理科）など</li> </ul>	<p>取得可能な主な資格・免許</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 販売士、中小企業診断士、簿記検定、教員免許（中学・高校社会、商業）など</li> </ul>

# 生命環境学部(仮称)のイメージ

生命工学科、ワイン・食物科学科、環境科学科、社会経営学科などから成る農学系学部



## 卒業生の進路

- ・ バイオテクノロジー関連
- ・ 食品製造業
- ・ ワイン・酒造関連
- ・ 医薬品開発・製造業
- ・ 化学工業
- ・ アグリバイオ関連
- ・ 医療関連
- ・ 総合商社
- ・ フードビジネス
- ・ JA関連団体
- ・ 官公庁・自治体
- ・ 流通業
- ・ エコビジネス
- ・ サービス業
- ・ IT産業
- ・ 農業ビジネス
- ・ 金融・保険業
- ・ 農業法人
- ・ 大学院 他

## 取得可能な資格・免許

改良普及員、飼料製造管理者、食品衛生監視員、食品衛生管理者、胚培養士、衛生管理者、作業環境測定士、廃棄物処理施設技術管理者、情報処理技術者、山梨大学ワイン科学士、販売士、中小企業診断士、簿記検定、教員免許（中学の理科・社会、高校の理科・社会・農業・商業）など

(注) 学科名は、仮称です。

学部・学科名称及び入学定員については、今後、変更になる場合があります。

## 別添資料 4

### 相互乗り入れ科目一覧



## 相互乗り入れ科目一覧

(●開講学科、○受講学科)

授業科目名 (単位数)	生命工学科	地域食物科学科	環境科学科	地域社会システム学科
生物化学工学Ⅱ (2単位)	●	○		
応用微生物学Ⅰ (2単位)	●	○		
生体物質論 (2単位)	●	○		○
生体触媒学 (2単位)	●	○		
発生工学 (2単位)	●	○		
構造生物学 (2単位)	●	○		○
細胞培養工学 (2単位)	●	○		
バイオインフォマティクス (2単位)	●		○	○
遺伝子工学 (2単位)	●		○	
微生物育種学 (2単位)	○	●		
発酵工業学 (2単位)	○	●	○	
食品成分分析学 (2単位)	○	●		
農作物病理学 (2単位)	○	●		
栽培植物育種法 (2単位)	○	●		
食品加工学 (2単位)	○	●		
基礎生化学実習 (4単位)	○	●		
農作物栽培学 (2単位)		●		○
食品製造学 (2単位)		●		○
環境保全学 (2単位)	○	○	●	○
地球環境科学 (2単位)	○	○	●	○
環境影響評価 (2単位)			●	○
環境毒性学 (2単位)	○	○	●	
経営学総論 (2単位)	○	○	○	●
法律学概論 (2単位)	○			●
科学技術政策論 (2単位)	○	○	○	●
マーケティングと消費者行動 (2単位)		○		●
国際経営論 (2単位)		○		●
データサイエンス及び演習 (2単位)			○	●
エネルギーマネジメント (2単位)			○	●
環境政治論 (2単位)			○	●
環境経済政策論 (2単位)			○	●
社会数理システム (2単位)			○	●
環境法 (2単位)			○	●
合計 33科目 (68単位)	● 9科目 (18単位)	● 9科目 (20単位)	● 4科目 (8単位)	● 11科目 (22単位)
	○ 13科目 (28単位)	○ 14科目 (28単位)	○ 11科目 (22単位)	○ 8科目 (16単位)



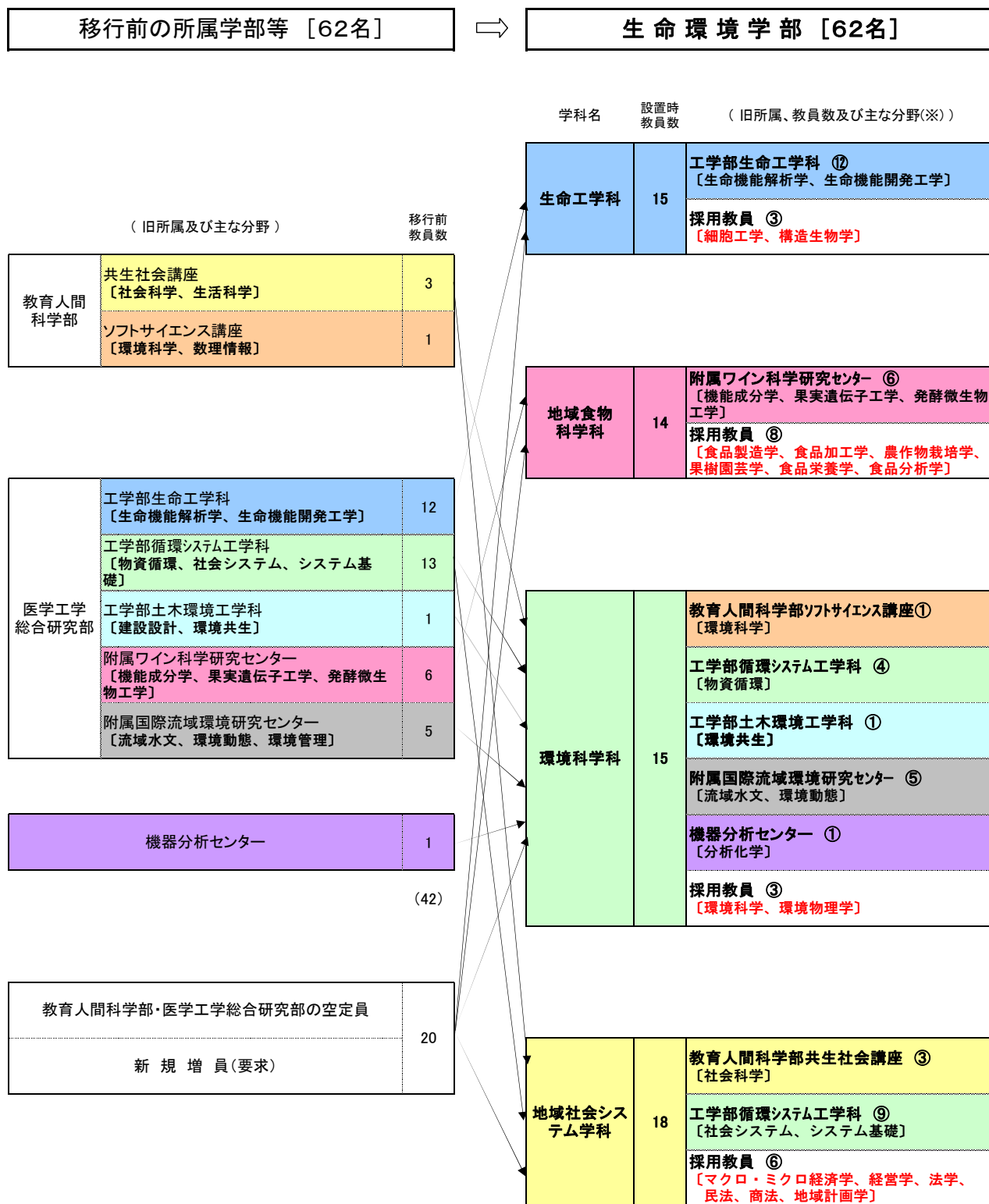


## 別添資料 5

生命環境学部専任教員構成図（移行表）



## 生命環境学部専任教員構成図(移行表)



※ 現員で不足している分野等に関しては、教員を新規に採用し対応する。(朱書き部分)



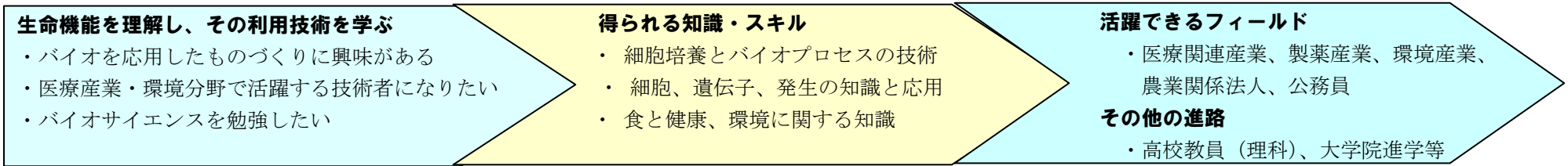
## 別添資料 6

### 生命環境学部履修モデル

1. 生命工学科	① [バイオモデル]	・・・	1
	② [微生物利用モデル]	・・・	2
2. 地域食物科学科	① [食品製造技術者モデル]	・・・	3
	② [ワイン技術者モデル]	・・・	4
	③ [食物生産者モデル]	・・・	5
3. 環境科学科	① [環境管理モデル]	・・・	7
	② [環境評価モデル]	・・・	8
4. 地域社会システム学科	① [マネジメント実務スキルモデル]	・・・	9
	② [グローバル共生行動モデル]	・・・	10



## 【生命工学科】(バイオモデル)



【専門科目履修モデル ①】 ◎は必修

専門基礎科目部門：35単位 専門発展科目部門：30単位 専門特別科目部門：10単位 合計：92単位以上修得

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	◎生命環境基礎ゼミ②	環境科学入門②	◎生物資源論②	◎生物資源実習①	◎生物工学実験Ⅰ③	◎生物工学実験Ⅲ③	◎生命工学卒業論文⑥	(生命工学卒業論文)
	◎共生科学入門②	◎生命倫理学②	◎基礎統計学②	◎リスキミング概論②	◎生物工学実験Ⅱ③	◎生物工学実験Ⅳ③	◎科学英語演習Ⅰ②	◎科学英語演習Ⅱ②
	◎情報処理及び演習②	◎基礎化学②	◎基礎統計学演習②	基礎物理学Ⅱ②	生物化学工学Ⅱ②	構造生物学②	特別講義Ⅱ①	特別講義Ⅲ①
	◎基礎数学②	◎基礎生物学②	◎生命科学概論②	生物無機化学②	バイオインフォマティクス②	環境健康科学②	生命科学方法論②	法律学概論②
	◎基礎数学演習②	◎微積分学②	◎基礎物理学Ⅰ②	◎生物化学工学Ⅰ②	遺伝子工学②	細胞培養工学②		
	◎化学概論②	線形代数学②	◎化学実験②	◎発生工学②	◎ゲノミクス演習①	環境保全学②		
	◎生物学概論②	生物分析化学②	◎応用微生物学Ⅰ②	生物有機化学②	技術英語Ⅰ②	技術英語Ⅱ②		
		◎細胞生理学②	◎発生工学基礎実習②	◎インターンシップⅡ①				
		◎動物解剖学②	◎生化学演習①					
		インターンシップⅠ①	◎遺伝科学概論②					
			生体触媒学②					
	14単位	16単位	19単位	20単位	16単位	16単位	11単位	5単位

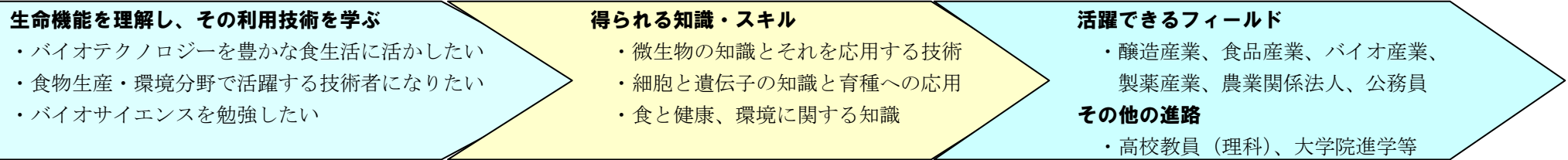
赤字：専門基礎科目(学部共通科目) 青字：専門基礎科目(理系共通科目) 黒字：専門発展科目 紫字：専門特別科目

【全学共通教育科目】

人間形成科目部門：4単位以上	語学教育科目部門：14単位以上	教養教育科目部門：10単位以上	32単位以上修得
----------------	-----------------	-----------------	----------

【卒業必要単位数】 124単位以上

## 【生命工学科】(微生物利用モデル)



### 【専門科目履修モデル ②】 ◎は必修

専門基礎科目部門：35単位 専門発展科目部門：30単位 専門特別科目部門：10単位 合計：92単位以上修得

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	◎生命環境基礎ゼミ②	環境科学入門②	◎生物資源論②	◎生物資源実習①	◎生物工学実験Ⅰ③	◎生物工学実験Ⅲ③	◎生命工学卒業論文⑥	(生命工学卒業論文)
	◎共生科学入門②	◎生命倫理学②	◎基礎統計学②	◎リスクマネジメント概論②	◎生物工学実験Ⅱ③	◎生物工学実験Ⅳ③	◎科学英語演習Ⅰ②	◎科学英語演習Ⅱ②
	◎情報処理及び演習②	◎基礎化学②	◎基礎統計学演習②	基礎物理学Ⅱ②	栽培植物育種法②	微生物育種学②	特別講義Ⅰ①	特別講義Ⅳ①
	◎基礎数学②	◎基礎生物学②	◎生命科学概論②	食品加工学②	遺伝子工学②	農産物病理学②		経営学総論②
	◎基礎数学演習②	◎微積分学②	◎基礎物理学Ⅰ②	◎生物化学工学Ⅰ②	発酵工業学②	環境保全学②		
	◎化学概論②	線形代数学②	◎化学実験②	◎発生工学②	◎ゲノミクス演習①	技術英語Ⅱ②		
	◎生物学概論②	生物分析化学②	◎応用微生物学Ⅰ②	応用微生物学Ⅱ②	技術英語Ⅰ②	環境健康科学②		
	生物物理化学②	◎細胞生理学②	◎発生工学基礎実習②	インターシップⅡ①				
		◎動物解剖学②	◎生化学演習①					
			◎遺伝科学概論②					
			生体触媒学②					
			インターシップⅠ①					
	14単位	16単位	19単位	20単位	16単位	16単位	9単位	5単位

赤字：専門基礎科目(学部共通科目) 青字：専門基礎科目(理系共通科目) 黒字：専門発展科目 紫字：専門特別科目

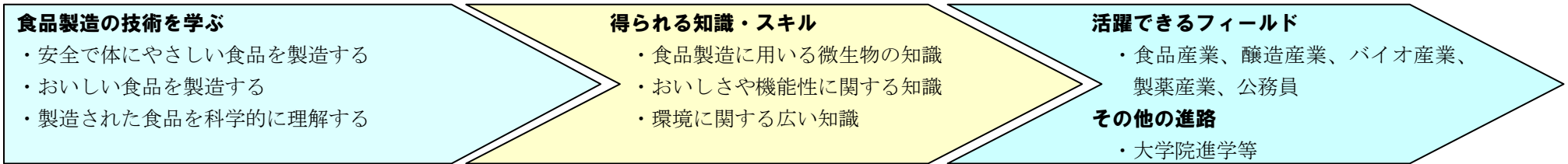
### 【全学共通教育科目】

人間形成科目部門：4単位以上	語学教育科目部門：14単位以上	教養教育科目部門：10単位以上	32単位以上修得
----------------	-----------------	-----------------	----------

### 【卒業必要単位数】 124単位以上



## 【地域食物科学科】（食品製造技術者モデル）



### 【専門科目履修モデル①】 ◎は必修

専門基礎科目部門：29単位 専門発展科目部門：16単位 専門特別科目部門：12単位 合計：92単位以上修得

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	◎生命環境基礎ゼミ②	◎食物科学入門②	◎生物資源論②	◎生物資源実習①	発酵工業学②	微生物育種学②	◎地域食物科学卒業論文⑥	(地域食物科学卒業論文)
	◎共生科学入門②	環境科学入門②	◎基礎統計学②	◎リスクマネジメント概論②	機能成分学②	細胞培養工学②	◎科学英語演習Ⅰ②	◎科学英語演習Ⅱ②
	経済経営学入門②	◎基礎化学②	◎基礎統計学演習②	食品栄養学②	食品保蔵学②	ワイン品質評価学②	特別講義Ⅰ①	
	◎情報処理及び演習②	◎基礎生物学②	生命科学概論②	◎基礎生化学実習④	◎醸造微生物実験②	環境保全学②	特別講義Ⅱ①	
	◎基礎数学②	生命倫理学②	基礎物理学Ⅰ②	食品加工学②	◎農作物生産学実験②	◎機能成分分析実験②		
	◎基礎数学演習②		応用微生物学Ⅱ②	農作物栽培学②	◎果実遺伝子実験②	◎食品製造学実験②		
	◎化学概論②			食品製造学②	◎特別講義Ⅲ①	◎栄養学実験②		
◎生物学概論②			マーケティングと消費者行動②	◎生命科学方法論②	◎特別講義Ⅳ①			
			インターシップⅠ①		◎特別講義Ⅳ①	環境健康科学②		
	16単位	10単位	12単位	18単位	15単位	17単位	10単位	2単位

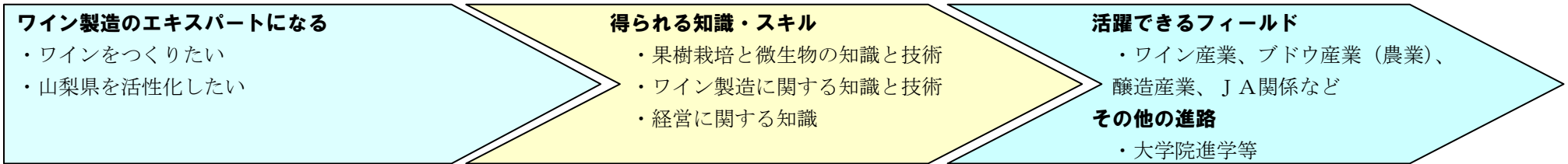
赤字：専門基礎科目（学部共通科目） 青字：専門基礎科目（理系共通科目） 黒字：専門発展科目 紫字：専門特別科目

### 【全学共通教育科目】

人間形成科目部門：4単位以上	語学教育部門：14単位以上	教養教育科目部門：10単位以上	32単位以上修得
----------------	---------------	-----------------	----------

### 【卒業必要単位数】 124単位以上

**【地域食物科学科】（ワイン技術者モデル（ワイン科学特別コース））**



**【専門科目履修モデル②】** ◎は必修

専門基礎科目部門：29単位 専門発展科目部門：34単位 専門特別科目部門：14単位 合計：92単位以上修得

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	◎生命環境基礎ゼミ② ◎共生科学入門② 経済経営学入門② ◎情報処理及び演習② ◎基礎数学② ◎基礎数学演習② ◎化学概論② ◎生物学概論② 16単位	◎食物科学入門② ◎基礎化学② ◎基礎生物学② ◎ワイン科学I② 8単位	◎生物資源論② ◎基礎統計学② ◎基礎統計学演習② 基礎物理学I② ◎ワイン微生物学② 応用微生物学I② ◎ワイン科学II② 14単位	◎生物資源実習① ◎リスキミング概論② 食品栄養学② ◎基礎生化学実習④ 農作物生産学② 農作物栽培学② ◎ワイン科学ゼミI② 食品加工学② マーケティングと消費者行動② ◎インターシップI① 20単位	発酵工業学② 機能成分学② ◎植物生理学② ◎醸造微生物実験② ◎果実遺伝子実験② ◎農作物生産学実験② ◎ワイン科学ゼミII② ◎特別講義III① 15単位	微生物育種学② ◎ワイン品質評価学② 農作物病理学② ◎ワイン製造科学実習② ◎機能成分分析実験② ◎ブドウ栽培学実習② ◎栄養学実験② ◎食品製造学実験② ◎特別講義IV① ◎インターシップII① 18単位	◎地域食物科学卒業論文⑥ ◎科学英語演習I② 特別講義I① 特別講義II① 10単位	(地域食物科学卒業論文) ◎科学英語演習II② 2単位

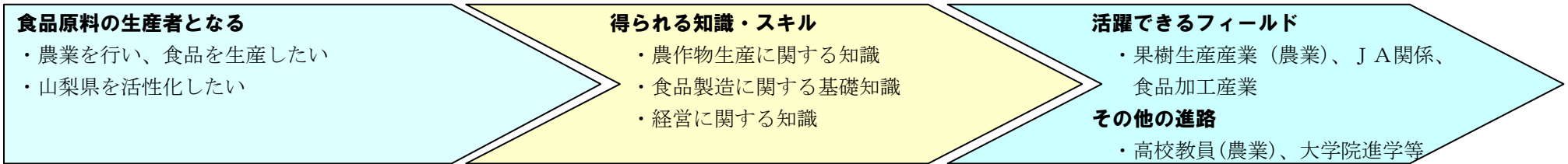
赤字：専門基礎科目（学部共通科目） 青字：専門基礎科目（理系共通科目） 黒字：専門発展科目 紫字：専門特別科目

**【全学共通教育科目】**

人間形成科目部門：4単位以上	語学教育部門：14単位以上	教養教育科目部門：10単位以上	32単位以上修得
----------------	---------------	-----------------	----------

**【卒業必要単位数】** 124単位以上

## 【地域食物科学科】（食物生産者モデル）



【専門科目履修モデル③】 ◎は必修

専門基礎科目部門：29単位 専門発展科目部門：16単位 専門特別科目部門：12単位 合計：92単位以上修得

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	◎生命環境基礎ゼミ② ◎共生科学入門② 経済経営学入門② ◎情報処理及び演習② ◎基礎数学② ◎基礎数学演習② ◎化学概論② ◎生物学概論② 16単位	◎食物科学入門② ◎基礎化学② ◎基礎生物学② 地球環境科学② 8単位	◎生物資源論② ◎基礎統計学② ◎基礎統計学演習② 基礎物理学Ⅰ② ワイン微生物学② 応用微生物学Ⅰ② 12単位	◎生物資源実習① ◎リスマネジメント概論② 食品栄養学② ◎基礎生化学実習④ 農作物生産学② 農作物栽培学② 食品製造学② インターンシップⅠ① 16単位	発酵工業学② 機能成分学② 植物生理学② ◎醸造微生物実習② ◎農作物生産学実習② ◎果実遺伝子実習② 栽培植物育種法② 食品保蔵学② ◎特別講義Ⅲ① 17単位	農作物病理学② ◎食品製造学実験② ◎栄養学実験② ◎機能成分分析実験② 環境保全学② 構造生物学② 国際経営論② 野菜園芸学① 野菜栽培実習② ◎特別講義Ⅳ① インターンシップⅡ① 19単位	◎地域食物科学卒業論文⑥ ◎科学英語演習Ⅰ② 特別講義Ⅰ① 特別講義Ⅱ① 10単位	(地域食物科学卒業論文) ◎科学英語演習Ⅱ② 2単位

赤字：専門基礎科目（学部共通科目） 青字：専門基礎科目（理系共通科目） 黒字：専門発展科目 紫字：専門特別科目

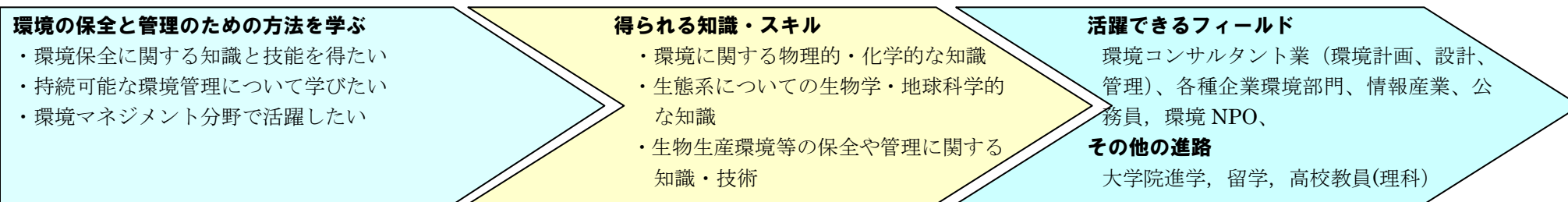
【全学共通教育科目】

人間形成科目部門：4単位以上	語学教育部門：14単位以上	教養教育科目部門：10単位以上	32単位以上修得
----------------	---------------	-----------------	----------

【卒業必要単位数】 124単位以上



## 【環境科学科】（環境管理モデル）



【専門科目履修モデル①】 ◎は必修

専門基礎科目部門：31単位 専門発展科目部門：6単位 専門特別科目部門：12単位 合計：92単位以上修得

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	◎生命環境基礎ゼミ②	◎環境科学入門②	◎生物資源論②	◎生物資源実習①	環境計測実習②	環境健康科学②	◎環境科学卒業論文⑥	(環境科学卒業論文)
	◎共生科学入門②	食物科学入門②	◎基礎統計学②	◎リスマネジメント概論②	環境調査実習②	環境マネジメント実習②	◎科学英語演習Ⅲ①	◎科学英語演習Ⅳ①
	◎情報処理及び演習②	生命倫理学②	◎基礎統計学演習②	基礎物理学Ⅱ②	地圏科学実習②	環境保全学②	特別講義Ⅰ①	
	経済経営学入門②	◎微積分学②	生命科学概論②	◎環境科学基礎実験Ⅱ②	遺伝子工学②	環境テクノロジー及び実習②	特別講義Ⅱ①	
	◎化学概論②	◎線形代数学②	◎基礎物理学Ⅰ②	システムダイナミクス及び実習②	発酵工業学②	環境影響評価②	特別講義Ⅲ①	
	◎生物学概論②	基礎化学②	微生物生態学②	環境経済政策論②	インターンシップⅠ①	環境毒性学②	特別講義Ⅳ①	
	◎基礎数学②	基礎生物学②	◎環境科学基礎実験Ⅰ②	環境経済政策論②	インターンシップⅡ①	環境毒性学②		
	◎基礎数学演習②	◎地球環境科学②	水循環学②	テーマ対イェンス及び演習②	◎科学英語演習Ⅰ①	植物生態学②		
	資源循環ものづくり実習②	生態学②		科学技術政策論②	特別講義Ⅰ①	社会数理システム②		
		経営学総論②		環境政治論②	特別講義Ⅱ①	環境法②		
			エネルギーマネジメント②	特別講義Ⅲ①	◎科学英語演習Ⅱ①			
				特別講義Ⅳ①				
	18単位	20単位	16単位	19単位	17単位	19単位	11単位	1単位

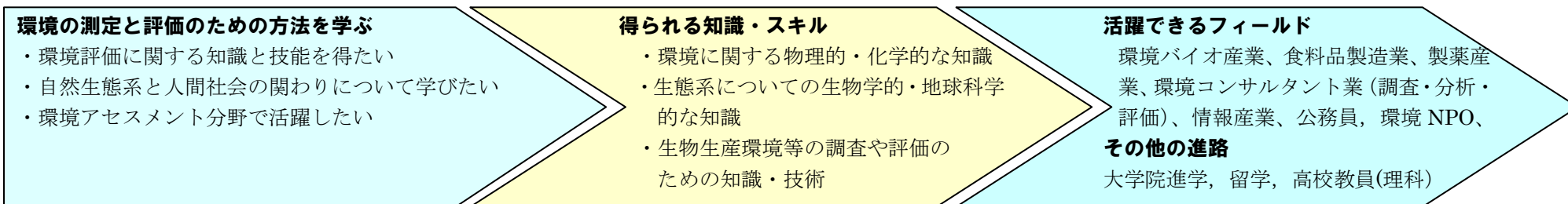
赤：専門基礎科目（学部共通科目） 青：専門基礎科目（理系共通科目） 黒：専門発展科目 紫：専門特別科目

## 【全学共通教育科目】

人間形成科目部門：4単位以上	語学教育部門：14単位以上	教養教育科目部門：10単位以上	32単位以上修得
----------------	---------------	-----------------	----------

【卒業必要単位数】 124単位以上

## 【環境科学科】（環境評価モデル）



【専門科目履修モデル②】 ◎は必修

専門基礎科目部門：31単位 専門発展科目部門：6単位 専門特別科目部門：12単位 合計：92単位以上修得

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	◎生命環境基礎ゼミ②	◎環境科学入門②	◎生物資源論②	◎生物資源実習①	環境計測実習②	環境健康科学②	◎環境科学卒業論文⑥	(環境科学卒業論文)
	◎共生科学入門②	食物科学入門②	◎基礎統計学②	◎リスクマネジメント概論②	環境調査実習②	環境アセスメント実習②	◎科学英語演習Ⅲ①	◎科学英語演習Ⅳ①
	◎情報処理及び演習②	生命倫理学②	◎基礎統計学演習②	基礎物理学Ⅱ②	地圏科学実習②	環境影響評価②	特別講義Ⅰ①	
	経済経営学入門②	◎微積分学②	生命科学概論②	◎環境科学基礎実験Ⅱ②	環境分析化学Ⅰ②	環境化学②	特別講義Ⅱ①	
	◎化学概論②	◎線形代数学②	◎基礎物理学Ⅰ②	大気環境科学②	環境分析化学Ⅱ②	環境毒性学②	特別講義Ⅲ①	
	◎生物学概論②	基礎化学②	◎環境科学基礎実験Ⅰ②	水圏科学②	多様性生物論②	植物生態学②	特別講義Ⅳ①	
	◎基礎数学②	基礎生物学②	気象学②	土壌科学②	バイオインフォマティクス②	環境法②		
	◎基礎数学演習②	◎地球環境科学②	微生物生態学②	データサイエンス及び演習②	インターンシップⅠ①	◎科学英語演習Ⅱ①		
	資源循環ものづくり実習②	生態学②	環境情報学及び実習②	科学技術政策論②	インターンシップⅡ①			
		経営学総論②			◎科学英語演習Ⅰ①			
				特別講義Ⅰ①				
				特別講義Ⅱ①				
				特別講義Ⅲ①				
				特別講義Ⅳ①				
	18単位	20単位	18単位	17単位	21単位	15単位	11単位	1単位

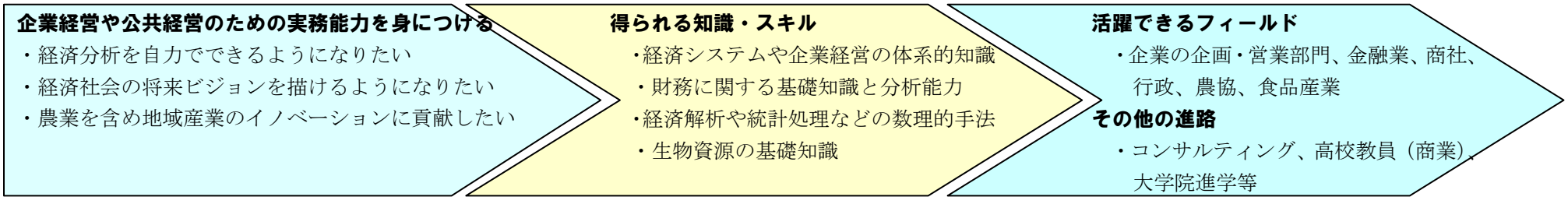
赤：専門基礎科目（学部共通科目） 青：専門基礎科目（理系共通科目） 黒：専門発展科目 紫：専門特別科目

【全学共通教育科目】

人間形成科目部門：4単位以上	語学教育部門：14単位以上	教養教育科目部門：10単位以上	32単位以上修得
----------------	---------------	-----------------	----------

【卒業必要単位数】 124単位以上

**【地域社会システム学科】(マネジメント実務スキルモデル)**



【専門科目履修モデル①】 ◎は必修 ○は選択必修

専門基礎科目部門：17単位 専門発展科目部門：54単位 専門特別科目部門：12単位 合計：92単位以上修得

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	◎生命環境基礎ゼミ② ◎共生科学入門② 基礎数学② 基礎数学演習② ◎情報処理及び演習② ◎経済経営学入門② 12単位	食物科学入門② ◎経済学概論② ◎経済・経営数学② ◎経営学総論② ◎法律学概論② 10単位	◎基礎統計学② ◎基礎統計学演習② ◎生物資源論② ○マクロ経済学② ○ミクロ経済学② ○財政学② ○経営戦略論② ◎政治学原論② ○行政学② ○民法総論② 20単位	◎生物資源実習① ◎リスクマネジメント概論② 地方財政学② 公共経済学② 経済地理学② ○マーケティングと消費者行動② ○国際関係論Ⅰ② エネルギーマネジメント② 地域計画学② 民法各論② 商法② データサイエンス及び演習② ○社会調査法② 社会経営学実習Ⅰ② 27単位	食料問題とグローバル経済② 簿記学② 人的資源管理論② 数理計画法② サービス産業論② 地域共生デザイン② 政策過程論② 地域経営論② 労働法② ◎社会経営学セミナーⅠ② 社会経営学実習Ⅱ② インターンシップⅠ① 23単位	社会数理システム② 計量経済学② 国際経営論② 会計学② 環境法② 農作物栽培学② 食品製造学② 構造生物学② ◎社会経営学演習② 18単位	◎社会経営学(社会経営学卒業論文⑥卒業論文) 生体物質論② 8単位	

赤字：専門基礎科目(学部共通科目)

黒字：専門発展科目

紫字：専門特別科目

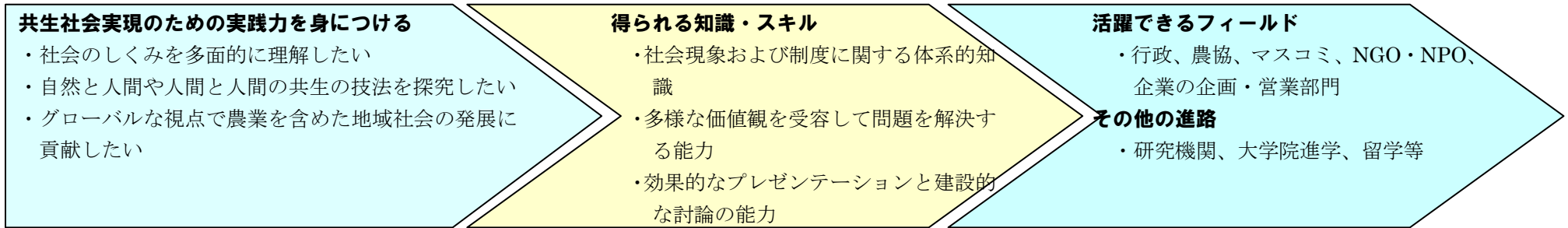
【全学共通教育科目】

人間形成科目部門：4単位以上	語学教育部門：14単位以上	教養教育科目部門：10単位以上	32単位以上修得
----------------	---------------	-----------------	----------

【卒業必要単位数】

124単位以上

**【地域社会システム学科】（グローバル共生活動モデル）**



【専門科目履修モデル②】 ◎は必修 ○は選択必修

専門基礎科目部門：17単位 専門発展科目部門：54単位 専門特別科目部門：12単位 合計：92単位以上修得

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	◎生命環境基礎ゼミ② ◎共生科学入門② 基礎数学② 基礎数学演習② ◎情報処理及び演習② ◎経済経営学入門② 12単位	環境科学入門② ◎経済学概論② ◎経済・経営数学② ◎経営学総論② ◎法律学概論② 10単位	◎基礎統計学② ◎基礎統計学演習② ◎生物資源論② ○マクロ経済学② ○ミクロ経済学② ○財政学② ○経営戦略論② ◎政治学原論② ○行政学② 統治機構論② ○民法総論② 22単位	◎生物資源実習① ◎リスクマネジメント概論② 地方財政学② 公共経済学② 経済地理学② 地方自治論② 環境政治論② 環境経済政策論② 地域計画学② ○国際関係論 I② 科学技術政策論② 民法各論② ○社会調査法② 社会経営学実習 I② 27単位	食料問題とグローバル経済② 人的資源管理論② 政策過程論② 国際関係論 II② 地域経営論② 地域共生デザイン② 比較憲法論② 労働法② 行政法② ◎社会経営学セミナー I② 社会経営学実習 II② インターンシップ I① 23単位	国際経営論② 環境法② 地球環境科学② 環境影響評価② 環境保全学② 農作物栽培学② 食品製造学② ◎社会経営学演習② 16単位	◎社会経営学（社会経営学卒業論文⑥） 6単位	◎社会経営学（社会経営学卒業論文）

赤字：専門基礎科目（学部共通科目）

黒字：専門発展科目

紫字：専門特別科目

【全学共通教育科目】

人間形成科目部門：4単位以上	語学教育部門：14単位以上	教養教育科目部門：10単位以上	32単位以上修得
----------------	---------------	-----------------	----------

【卒業必要単位数】 124単位以上

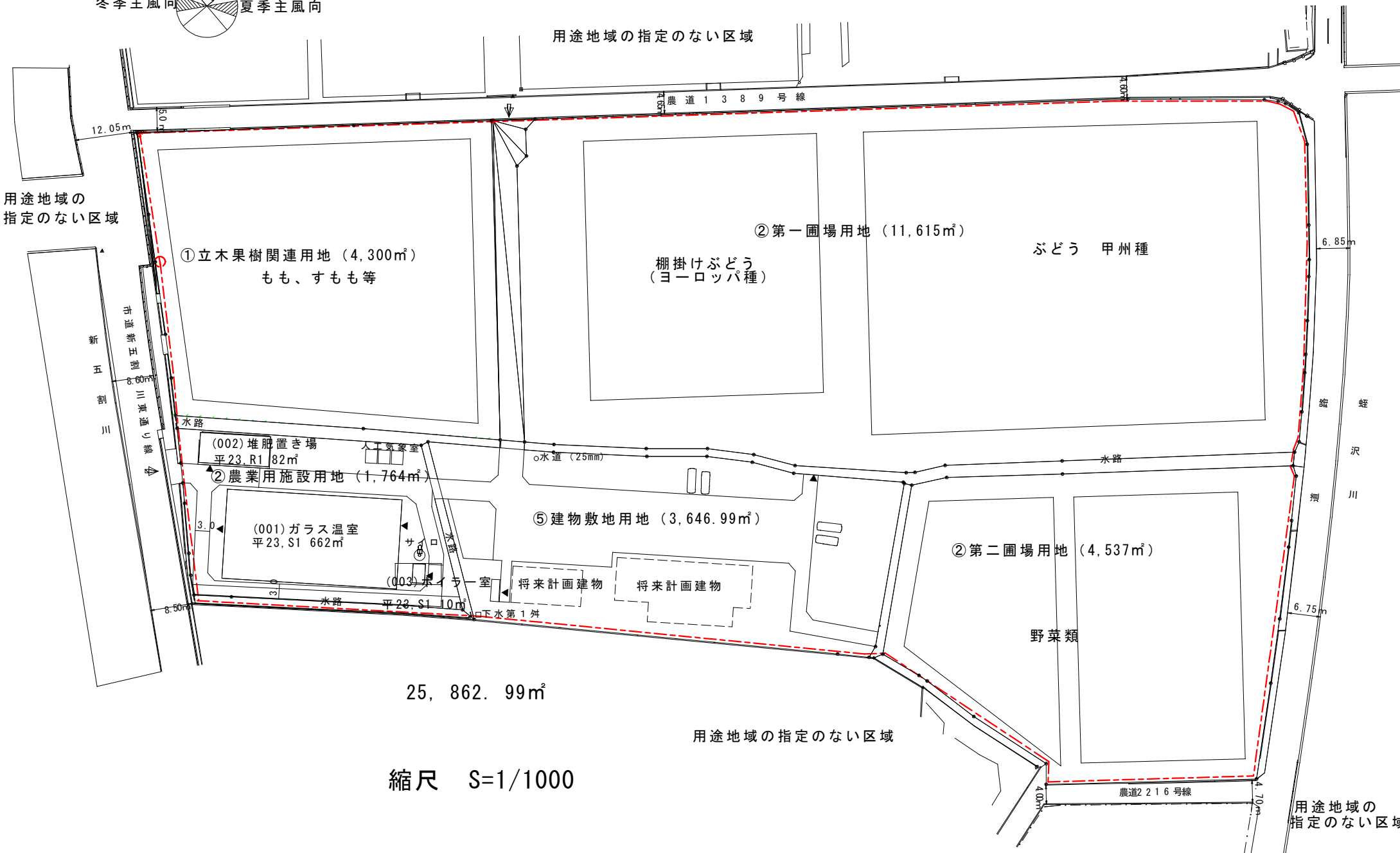
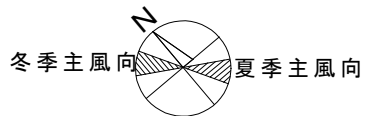


別添資料7

農 場 整 備 計 画



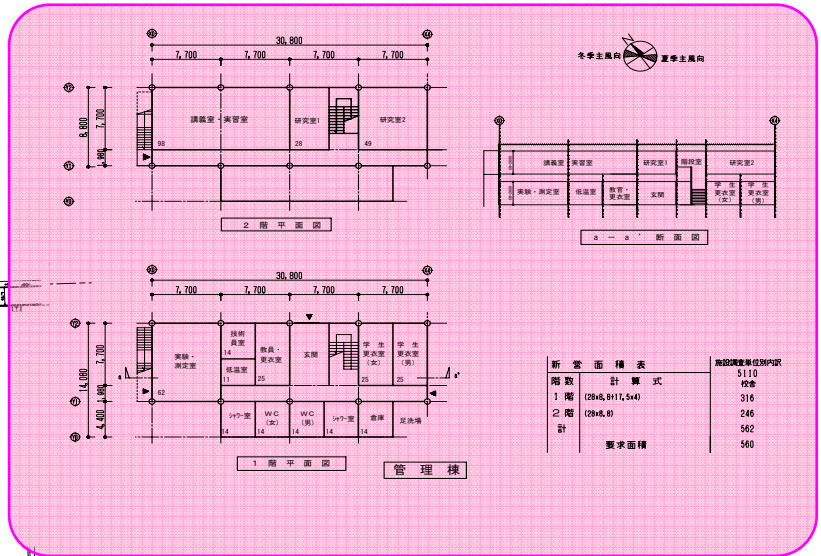
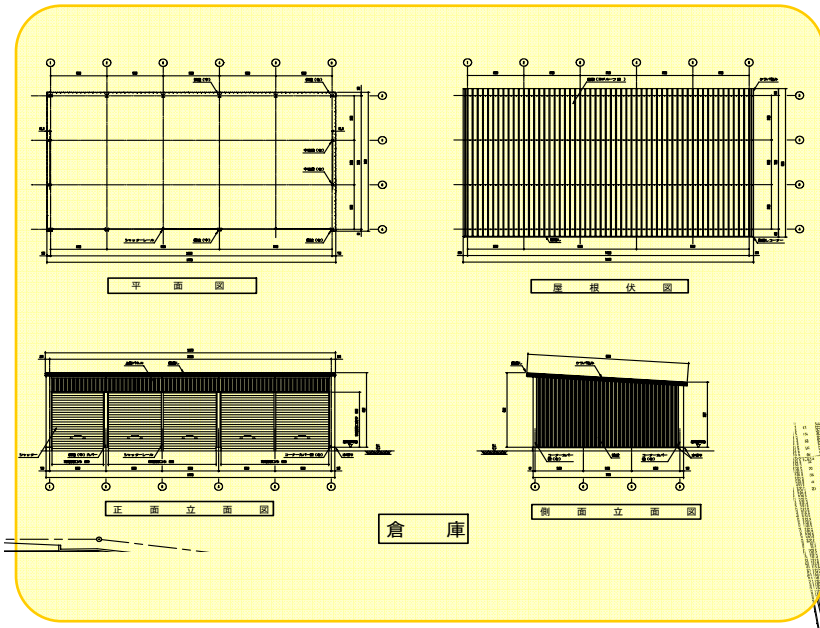
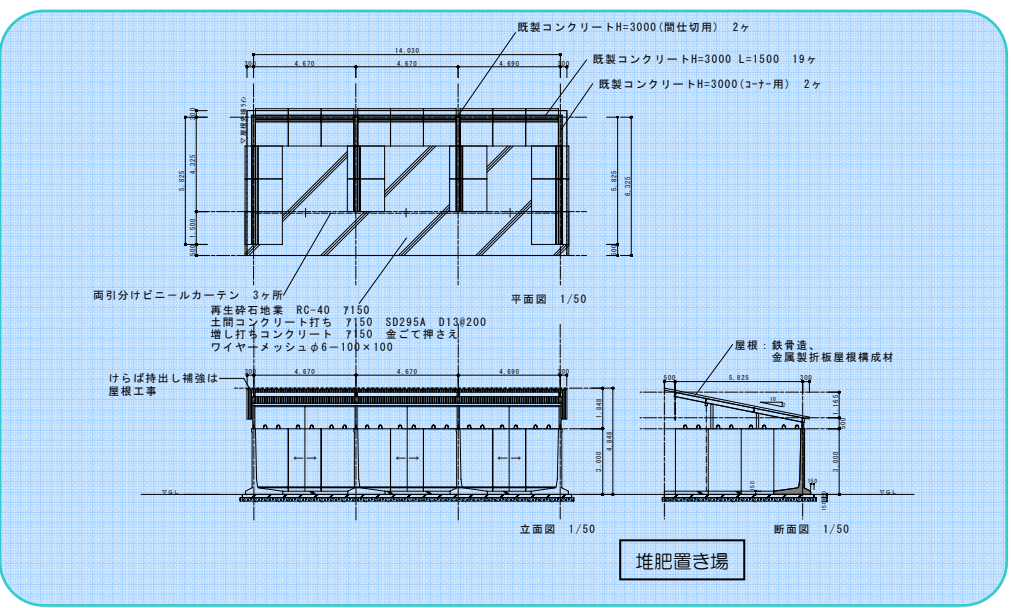
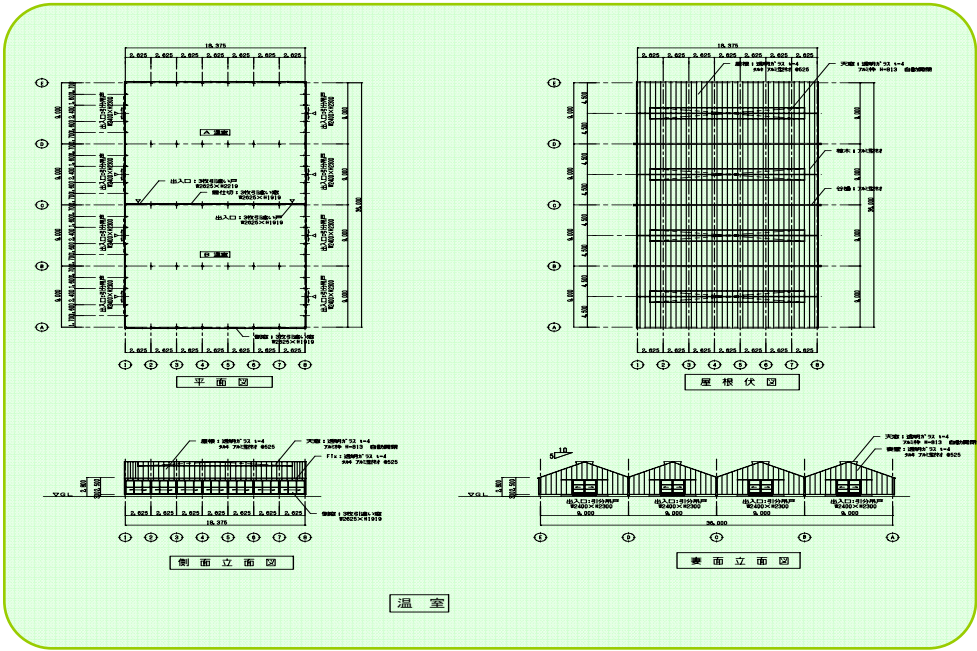
# 生命環境学部用地（圃場配置図）



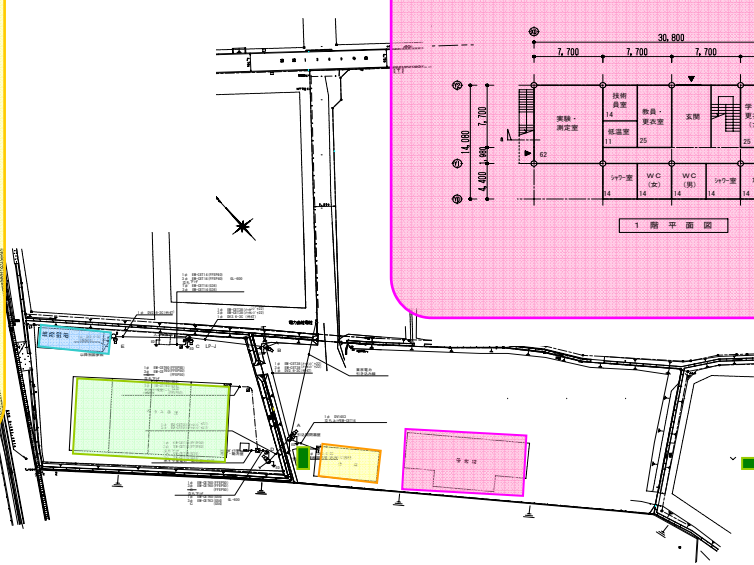
25,862.99㎡

縮尺 S=1/1000

用途地域の指定のない区域



圃場配置図・各建物図



農場設備等の整備計画

品名等	数量	金額 (千円)	備考
加温ハウス	1式	59,745	
堆肥置き場			
藻類オープン培養装置（栽培ユニット 外） (株)アルミス	1式	2,240	
プレハブ倉庫	1棟	7,403	
簡易トイレ	1式	1,155	
トラクター GF130PSSK1B 三菱	1台	1,057	
草刈機 ラビットモア-RMK1600 (株)オーレック	1台	1,070	
農薬散布機 スピートスプレー 3S-C522S ショーシン	1台	2,262	
運搬車 ES742（油圧リフト・ダンプ仕様） 五十鈴	1台	905	
軽トラック サンバートラック S4WD 0.6L キャブ付 スバル	1台	1,316	

## 別添資料 8

教育・研究機器等整備計画



教育・研究機器等整備計画

〔購入(発注)済機器等〕

品名・規格等	数量	金額 (千円)	設置場所	購入 年度	備考
持続的な食料生産・供給カリキュラムの開発システム 一式					
<b>生物資源実習用機器</b>		<b>8,511</b>			
送風定温恒温器DNF-600型(OT62型架台付)	1台	487	B1-105	H22	
オートクレーブLSX-500(50L) (株)トミ-精工	1台	499	B1-105	H22	
2-1686-01安全キャビネット1355(カスパーナ(フットペダル付)) サーモフィッシャー・サイエンティフィック(株)	1台	997	B1-105	H22	
植物インキュベーターLH-100SP型 日本医化器械(株)	1台	734	B2-213	H22	
小型堆肥化実験装置 かぐやひめ(蓄試式) 富士平工業(株)	3台	1,155	B1-102A	H22	
土壌・作物体総合分析装置SFP-3 富士平工業(株)	1式	3,574	B1-102A	H22	
人工気象器LPH-220S型 日本医化器械(株)	1式	1,065	B1-304B	H22	
<b>農学実習用機器</b>		<b>2,791</b>			
送風定温恒温器DNF-600型(OT62型架台付)	1台	487	ワイン研 1階工場	H22	
オートクレーブLSX-500(50L) (株)トミ-精工	1台	498	ワイン研 1階工場	H22	
2-1686-01安全キャビネット1355(カスパーナ(フットペダル付)) サーモフィッシャー・サイエンティフィック(株)	1台	997	ワイン研 2階植菌室	H22	
植物インキュベーターLH-220S型 日本医化器械(株)	1台	809	ワイン研 1階工場	H22	
<b>生物工学実習用機器</b>		<b>7,140</b>			
アミノ酸(NIN法)分析システム (株)日立ハイテクノロジーズ	1式	7,140	B1-102A	H22	
<b>食品製造実習用機器</b>		<b>38,181</b>			
GERSTEL ODP付カスロマトグラフ質量分析計	1台	9,996	ワイン研 2階暗室	H22	
味認識装置 TS-5000Z (株)インテリジェントセンサーテクノロジ	1台	8,998	ワイン研 2階暗室	H22	
高速アミノ酸分析計 852-0040 (株)日立ハイテクノロジーズ	1台	14,994	ワイン研 2階暗室	H22	
ブドウ棚(ワイヤー、柱等)	1式	4,193	圃場	H22	
<b>環境シミュレーション及び実習用機器</b>		<b>32,686</b>			
全容250ml藻類培養装置 BMZ-25NP3型 エイブル(株)	1式	10,500	B1-309	H22	
人工気象器LPH-220SC型 日本医化器械(株)	1式	1,403	B1-308	H22	
カスロマトグラフィシステム AKTApurifier UPC 10 GEヘルスケア・シグマ(株)	1台	4,893	B1-102A	H22	
高機能人工気象室LPH-0.5P-SH-2型 日本医化器械(株)	1式	13,650	圃場	H23	
藻類オープン培養装置(栽培ユニット 外) (株)アルミス	1式	2,240	圃場(加温ハ ウス内)	H23	
<b>その他設備等</b>		<b>74,913</b>			
加温ハウス	1式	59,745	圃場	H23	
堆肥置き場					
プレハブ倉庫	1棟	7,403	圃場	H23	
簡易トイレ	1式	1,155	圃場	H23	
トラクター GF130PSSK1B 三菱	1台	1,057	圃場	H23	
草刈機 リットモア-RMK1600 (株)オーレック	1台	1,070	圃場	H23	
農薬散布機 スピートスプレー 3S-C522S ショーシン	1台	2,262	圃場	H23	
運搬車 ES742(油圧リフト・ダンプ仕様) 株式会社	1台	905	圃場	H23	
軽トラック サンパ-トラック S4WD 0.6L キャブ付 スバル	1台	1,316	圃場	H23	
<b>合 計</b>		<b>164,222</b>			



## 教育・研究機器等整備計画

〔購入予定機器等〕

年度	機 器	設置場所	備考
24	化学実験機器（真空乾燥設備）	生命工学科学生実験室	
24	生命環境基礎機器（凍結乾燥装置等）	生命工学科学生実験室	
24	生物学実験機器（超低温フリーザー等）	生命工学科学生実験室	
24	生物資源実習機器（水位観測用データロガー等）	生命工学科学生実験室	
24	基礎生化学実習設備（実験台等）	食物生産科学科学生実験室	
24	食品製造学実験機器（テクスチャーアナライザー等）	食物生産科学科学生実験室	
24	栄養学実験機器（リアルタイムPCR等）	食物生産科学科学生実験室	
24	農作物生産学実験機器（TOC分析装置等）	食物生産科学科学生実験室	
25	生化学演習機器（生細胞顕微観察機器等）	生命工学科学生実験室	
25	機能成分分析実験機器（冷却水循環装置等）	食物生産科学科学生実験室	
25	果実遺伝子実験機器（電気泳動装置等）	食物生産科学科学生実験室	
25	醸造微生物実験機器（遠心分離機等）	食物生産科学科学生実験室	
25	環境計測実習機器（分析天秤等）	環境科学科学生実験室	
26	細胞生物学演習機器（微生物遺伝子機能観察機器等）	生命工学科学生実験室	
26	環境調査実習機器（ゲル撮影装置等）	環境科学科学生実験室	
26	環境マネジメント実習機器（分光光度計等）	環境科学科学生実験室	

## 別添資料 9

教育研究活動等の状況に関する情報の公表内容



## 教育研究活動等の状況に関する情報の公表内容

ホーム > 大学概要 > 教育情報の公表

[http://www.yamanashi.ac.jp/modules/profile/index.php?content\\_id=121](http://www.yamanashi.ac.jp/modules/profile/index.php?content_id=121)

### ① 大学の教育研究上の目的に関すること

教育人間科学部
医学部
工学部
生命環境学部（予定）
大学院教育学研究科
大学院医学工学総合教育部

### ② 教育研究上の基本組織に関すること

学部、学科、課程等の名称
--------------

### ③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員組織
教員数
教員の保有学位、職務上の実績

### ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針
入学者数
収容定員
在学者数
卒業・修了者数
進学者数、就職者数、就職先及び進学先の状況

### ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

授業科目（電子シラバス）
授業の方法及び内容並びに年間の授業計画の概要（電子シラバス）

### ⑥ 修学の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

卒業・修了年限及び卒業・修了にあたっての必要な修得単位数
取得可能な学位
取得可能な資格関係

### ⑦ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

所在地
交通案内
キャンパスマップ
大学施設
学生寄宿舍
運動施設
課外活動の状況（サークル一覧）

### ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料、入学料
入学料免除、授業料免除
施設利用

### ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

学内の学生支援組織
奨学金の概要
その他の学生支援

別添資料 1 0

国立大学法人山梨大学就業規則



## 国立大学法人山梨大学職員就業規則

平成16年	4月	1日	制定
平成17年	4月	1日	改正
平成18年	1月	1日	改正
平成18年	3月	22日	改正
平成18年	6月	21日	改正
平成18年	7月	10日	改正
平成19年	4月	1日	改正
平成19年	11月	21日	改正
平成20年	9月	1日	改正
平成20年	12月	24日	改正
平成21年	3月	18日	改正
平成21年	11月	25日	改正
平成22年	3月	24日	改正
平成23年	2月	23日	改正
平成23年	3月	28日	改正

### 第1章 総則

### 第2章 採用・退職等

#### 第1節 採用

#### 第2節 昇任等

#### 第3節 異動

#### 第4節 休職

#### 第5節 退職及び解雇

### 第3章 給与

### 第4章 服務

### 第5章 勤務時間、休日及び休暇

#### 第1節 勤務時間

#### 第2節 休日・休暇

#### 第3節 休業

### 第6章 職員研修

### 第7章 特許

### 第8章 賞罰

### 第9章 安全衛生

### 第10章 旅費

### 第11章 福利・厚生

### 第12章 災害補償

### 第13章 退職手当

### 第14章 補則

#### 附則

### 第1章 総則

#### (目的)

**第1条** この規則は、「労働基準法」(昭和22年法律第49号。以下「労基法」という。)第89条の規定により、国立大学法人山梨大学(以下「本学」という。)に勤務する職員の就業に関して必要な事項を定めることを目的とする。

#### (適用範囲)

**第2条** この規則は、本学に勤務する常勤の職員(国立大学法人山梨大学有期雇用職員就業規則第

2条第1項各号に定めるもの及び国立大学法人山梨大学外国人教師等就業規則第2条各号に定めるものを除く。以下「常勤職員」という。)に適用し、非常勤の職員については別に定める。

**第2条の2** 前条に規定する常勤職員の中に、医学部附属病院の収入により人件費を支弁する職員を置くことができる。

2 前項の職員について必要な事項は、学長が別に定める。

(定義)

**第3条** この規則において学部長等とは、産学官連携・研究推進機構、総合情報戦略機構、教育人間科学部、医学部、医学部附属病院、工学部、教育学研究科、医学工学総合研究部、学内共同教育研究施設及び保健管理センターの長をいう。

2 この規則において大学教員及び附属学校教員とは次の者をいう。

(1) 大学教員とは、教授、准教授、講師及び助教をいう。

(2) 附属学校教員とは、教育人間科学部附属学校の教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭及び栄養教諭をいう。

(法令との関係)

**第4条** この規則に定めのない事項については、労基法、その他の関係法令及び諸規程の定めるところによる。

(権限の委任)

**第5条** 国立大学法人山梨大学長（以下「学長」という。）は、この規則に定められた権限の一部を、自らの代わりに理事又は学部長等若しくはそれ以外の常勤職員に行使させることができる。

(遵守遂行)

**第6条** 本学及び常勤職員は、それぞれの立場でこの規則を誠実に遵守し、その遂行に努めなければならない。

## 第2章 採用・退職等

### 第1節 採用

(採用)

**第7条** 大学教員の採用にあたっては、国立大学法人山梨大学教員選考手続に関する規程に基づき学長が決定する。

2 附属学校教員の採用にあたっては、教育人間科学部長が行い、学長が決定する。

3 前各項以外の常勤職員の採用にあたっては、選考により学長が決定する。

(任期付採用)

**第8条** 学長は、別に定める「国立大学法人山梨大学教員の任期に関する規程」により、期間を定めて大学教員を採用することができる（以下「任期付大学教員」という。）。)

(欠格条項)

**第9条** 次の各号のいずれかに該当する者は、本学の常勤職員となることはできない。

(1) 成年被後見人又は被保佐人

(2) 禁錮以上の刑に処せられている者

(労働条件の明示)

**第10条** 学長は、常勤職員の採用に際しては、採用をしようとする職員に対し、あらかじめ、次の事項を記載した文書を交付するものとする。

(1) 給与に関する事項



- (2) 就業の場所及び従事する業務に関する事項
- (3) 労働契約の期間に関する事項
- (4) 始業及び終業の時刻，所定勤務時間を超える勤務の有無，休憩時間，休日並びに休暇に関する事項
- (5) 退職に関する事項

(提出書類)

**第11条** 常勤職員に採用される者は，次の各号に掲げる書類をすみやかに学長に提出しなければならない。ただし，国，地方公共団体，独立行政法人通則法第2条第1項の規定に基づく個別法により設置された法人（以下「独立行政法人」という。），国立大学法人法の規定に基づき設置された国立大学法人又は国立大学共同利用機関法人（以下「国立大学法人等」という。）及び学長がこれに相当すると認めるその他の機関の職員から引き続き常勤職員となった者（以下，「交流職員」という。）のうち，学長が提出を要しないと認めた者については，第2号から第6号に定める書類の全部又は一部を省略することができる。

- (1) 履歴書
  - (2) 就こうとする業務に必要な資格に関する証明書
  - (3) 住民票記載事項の証明書（外国籍の場合は，外国人登録証明書又はパスポートの写し）
  - (4) 健康診断書
  - (5) 扶養親族等に関する書類
  - (6) その他学長が必要と認める書類等
- 2 前項の提出書類の記載事項に異動があったときは，その都度すみやかに，学長に届け出なければならない。

(試用期間)

**第12条** 常勤職員として採用された者（任期付大学教員を除く。）には，採用の日から6ヶ月の試用期間（以下「試用期間」という。）を設ける。ただし，学長が必要と認めたときは，試用期間を短縮し又は設けないことがある。

- 2 試用期間中において，勤務実績が不良であること，その他の事由に基づいて雇用の継続が適当でない場合には，解雇することがある。
- 3 試用期間は勤続年数に通算する。

## 第2節 昇任等

(昇任)

**第13条** 大学教員の昇任については，選考によることを原則とし，当該学部等の選考規則に従って行い，学長が決定する。

- 2 附属学校教員の昇任にあたっては，教育人間科学部長が行い，学長が決定する。
- 3 前各項以外の常勤職員の昇任にあたっては，選考により学長が決定する。

(降任)

**第14条** 常勤職員が次の各号の一に該当すると学長が認めた場合には，降任させることがある。

- (1) 勤務実績がよくない場合
  - (2) 心身の故障のため職務の遂行に支障があり，又はこれに堪えない場合
  - (3) その他，必要な適性を欠く場合
- 2 学長は，前項の規定を適用しようとする場合は，本学に設置される人事委員会（以下「人事委員会」という。）の審査の結果に基づいて行うものとする。ただし，本人の同意があった場合にはこの限りでない。
- 3 学長は，常勤職員本人が降任を申し出た場合には，業務の運営上支障がない限り，その意向を尊重し，必要な措置を講じるものとする。

(降任の手続)

**第15条** 前条第1項により常勤職員を降任する場合は、事由を記載した説明書を交付して行うものとする。なお、前条第2項ただし書きによる場合はこの限りでない。

2 常勤職員は、前項本文による説明書交付のために出頭を命じられた場合は、正当な事由のない限りこれに応じなければならない。

## 第16条 (削除)

### 第3節 異動

(配置換・兼任)

**第17条** 学長は、常勤職員に対し、業務上必要な場合は、配置換又は兼任を命ずることができる。

2 配置換とは、就業する場所、従事する業務の変更及び職種の変更をいう。

3 兼任とは、常勤職員に本学の他の業務（他の職種の業務を含む）を兼ねさせることをいう。

4 常勤職員は、本条第1項により配置換又は兼任を命ぜられた場合は、正当な理由がない限り拒むことができない。ただし、職種の変更を伴う配置換の場合は、本人の同意を得た上で行うものとする。

(出向)

**第18条** 本学は、業務上必要な場合には、本学に在籍させたままで、常勤職員に対して期間を定め、又は定めなくて本学以外の機関、団体等に出向させることがある。

2 前項に掲げる出向にあたっては、原則として出向させる日の14日前に内示し、家族的責任など本人の事情を十分考慮するとともに、本人の同意を得た上で行うものとする。

3 出向における勤務条件等については、別に定める「国立大学法人山梨大学常勤職員出向規程」による。

(転籍)

**第18条の2** 学長は、当該常勤職員との合意により、当該常勤職員を第11条ただし書きに掲げる機関へ転籍させることがある。この場合、本学と当該常勤職員の雇用契約は終了する。

2 学長は、前項に規定する転籍をさせるときは、転籍に係わる勤務条件等を事前に明示する。

(赴任)

**第19条** 学長から、赴任の命令を受けた常勤職員は、その命を受けた日から、次に掲げる期間内に赴任しなければならない。ただし、やむを得ない理由により定められた期間内に新任地に赴任できないときは、新任地の上司の承認を得なければならない。

(1) 住居移転を伴わない赴任の場合 即日

(2) 住居移転を伴う赴任の場合 7日以内（第53条に定める休日を含む）

### 第4節 休職

(休職)

**第20条** 学長は、常勤職員が次の各号の一に該当したときは、当該常勤職員に対し、休職を命じることができる。

(1) 第60条に定める病気休暇が引続き90日を超えた場合

(2) 国又は地方公共団体等の公職に就き、職務に支障をきたすと認められる場合

(3) 刑事事件に関し起訴され、業務の正常な遂行に支障をきたす場合

(4) 学長が認める施設等において、職務に関連があると認められる調査、研究等に従事する場合

(5) 大学教員が研究成果活用企業の役員等を兼ねる場合で、大学教員としての職務に従事することができないと認められる場合

(6) 我が国が加盟している国際機関、外国政府の機関等からの要請に基づき、常勤職員を派遣

する場合

- (7) 常勤職員（交流職員のうち、前の機関に復帰を前提として本学の常勤職員となった者を除く。）から労働組合の業務に専従したいとの申し出があった場合
  - (8) 水難、火災、その他の災害により、生死不明又は所在不明となった場合
  - (9) 前各号の他、学長が休職にすることが適当と認めた場合
- 2 前項各号に掲げる休職の取扱いについて特に定める必要があるものについては、別に定める「国立大学法人山梨大学職員休職規程」によるものとする。
  - 3 試用期間中の常勤職員については、本条の規定は適用しない。

（休職の期間）

- 第21条** 前条第1項第1号の休職の期間は医師の証明に基づき、また、同項第4号及び第7号の休職の期間は必要に応じ、いずれも3年を超えない範囲内において学長が定める。この休職の期間が3年に満たない場合においては、初めに休職にした日から引き続き3年を超えない範囲内においてこれを更新することができる。
- 2 前項の規定にかかわらず、附属学校教員が結核性疾患のため前条第1項の規定により休職する期間は、満2年とする。ただし、学長が特に必要があると認めるときは、当該休職の期間を満3年まで延長することができる。
  - 3 前条第1項第2号及び第8号の休職の期間は、学長が認める必要な期間とする。
  - 4 前条第1項第3号の休職の期間は、その事件が裁判所に係属する間とする。
  - 5 前条第1項第4号及び第5号の休職の期間は、5年を超えることはできない。

（休職の手続及び不服の申出）

- 第22条** 休職の手続及び不服の申出については、第15条の規定を準用する。

（復職）

- 第23条** 学長は、第21条により定めた休職期間が満了するまでに休職事由が消滅したと認められる場合には、復職を命じる。なお、第20条第1項第1号により休職した常勤職員が復職しようとする場合には、医師の証明書を添付して、学長に願出するものとする。この際、学長は必要に応じ当該常勤職員に対し指定する医師の診断を受けることを命ずることができるものとし、その結果、治癒に至っていないと判断した場合は就業を禁止し、その禁止している期間は同条に定める同一の負傷又は疾病による休職として取り扱うものとする。
- 2 学長は、前項により常勤職員を復職させる場合は、原則として休職前の職場に復帰させる。ただし、心身の条件その他を考慮し、他の職務に就かせることがある。

（休職中の身分等）

- 第24条** 休職となった者は、常勤職員としての身分を保有するが、職務に従事しない。
- 2 休職を命ぜられた職員の休職期間中の給与については、「国立大学法人山梨大学職員給与規程」（以下「職員給与規程」という。）による。

## 第5節 退職及び解雇

（退職）

- 第25条** 常勤職員は、次の各号の一に該当するときは、退職とし、常勤職員としての身分を失う。
- (1) 第8条の規定により期間を定めて雇用をされた場合の雇用期間が満了したとき
  - (2) 第21条第1項に定める休職期間が満了し、休職事由がなお消滅しないとき
  - (3) 第26条の規定により退職を願出で学長が承認したとき
  - (4) 第27条の規定により定年退職日に達したとき
  - (5) 第28条の規定により、定年を延長された者の当該期限が到来したとき
  - (6) 第29条の規定により再雇用された場合の雇用期間が満了したとき
  - (7) 第30条の規定により解雇されたとき

- (8) 第73条の規定により解雇されたとき
- (9) 本学の役員（専任の役員に限る。）に就任したとき
- (10) 死亡したとき

（自己都合による退職手続）

**第26条** 常勤職員は、自己の都合により退職しようとするときは、原則として、退職を予定する日の30日前までに、学長に退職願を提出しなければならない。

2 常勤職員は、退職願を提出しても、退職するまでは、従来の職務に従事しなければならない。

（定年）

**第27条** 常勤職員の定年は、満60歳とする。ただし、大学教員については、満65歳とする。

2 定年による退職の日（以下「定年退職日」という。）は、定年に達した日以後における最初の3月31日とする。

（定年の特例）

**第28条** 学長は、定年に達した職員が前条の規定により退職すべきこととなる場合において、その職員の職務の特殊性又はその職員の職務の遂行上の特別の事情からみて、その退職により業務の運営に著しい支障が生ずると認められる十分な理由があるときは、その職員に係る定年退職日の翌日から起算して1年を超えない範囲内で、定年退職日を延長することができる。

2 学長は、前項の規定により延長された定年退職日が到来する場合において、前項の事由が引き続き存するときは、1年を超えない範囲内で定年退職日を延長することができる。ただし、その期限は、その職員に係る定年退職日の翌日から起算して3年を超えることができない。

（再雇用）

**第29条** 学長は、定年により退職した者について、その者の知識及び経験等を考慮し、業務の能率的運営を図るため特に必要があると認めるときは、再雇用することができる。

2 再雇用に関する必要事項は、別に定める「国立大学法人山梨大学職員の再雇用に関する規程」による。

（解雇）

**第30条** 常勤職員が次の各号の一に該当する場合には、解雇することがある。

- (1) 勤務実績が著しくよくない場合
- (2) 心身に故障が生じたため、職務の遂行に著しく支障があり又はこれに堪えない場合
- (3) 第21条第2項に定める休職期間が満了し、休職事由がなお消滅しない場合
- (4) 大学が雇用確保のために最大限の経営努力を払ったにもかかわらず、経営上やむを得ない事由が生じた場合
- (5) 天災事変その他やむを得ない事由のために事業の継続が不可能となった場合
- (6) 第9条各号に該当するに至った場合
- (7) その他、本学常勤職員として必要な適格性を欠く場合

2 学長は、前項の規定を適用しようとする場合は、人事委員会の審査の結果に基づいて行うものとする。ただし、第3号から第5号の場合はこの限りでない。

（解雇制限）

**第31条** 前条の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する期間は解雇しない。ただし、第1号の場合において、療養開始後3年を経過しても負傷又は疾病が治癒せず労基法第81条の規定によって打切補償を支払う場合は、この限りでない。

- (1) 業務上負傷し、又は疾病にかかり療養のため休業する期間及びその後30日間
- (2) 産前産後の女性職員が第62条第6号及び第7号の規定により休業する期間及びその後30日間

（解雇予告）

**第32条** 第30条の規定により常勤職員を解雇する場合は、少なくとも30日前に本人に予告

- をするか、又は労基法第 12 条の規定に基づく平均賃金（以下「平均賃金」という。）の 30 日以上以上の解雇予告手当を支払うものとする。ただし、試用期間中の常勤職員であって採用後 14 日以内の者を解雇する場合又は所轄労働基準監督署長の認定を受けた場合はこの限りでない。
- 2 前項の予告期間を短縮する場合には、短縮した日数 1 日につき平均賃金の 1 日分の解雇予告手当を支払うものとする。

（退職時の責務）

- 第 33 条** 常勤職員が退職するときは、本学が指定する日までに、本学が指定した者に完全に業務の引継ぎをしなければならない。
- 2 常勤職員が退職するときは、本学からの貸与品、業務に関して入手した資料、本学の知的財産に関する資料（複製物を含む。）等は、直ちに返納し、本学に債務のあるときは、退職の日までに完済しなければならない。
- 3 退職した者は、その在職中に行った自己の職務に関する責任を免れない。
- 4 退職した者は、在職中に知り得た秘密を他に漏洩してはならない。

（退職等の証明書）

- 第 34 条** 学長は、退職した者が、退職証明書の交付を請求した場合は、遅滞なくこれを交付する。
- 2 常勤職員が第 32 条の規定により解雇予告がされた日から退職の日までの間において、当該解雇理由について証明書を請求した場合は、学長は遅滞なくこれを交付する。
- 3 前 2 項の証明書に記載する事項は次のとおりとする。
- (1) 雇用期間
  - (2) 業務の種類
  - (3) その事業における地位
  - (4) 給与
  - (5) 退職の事由（解雇の場合は、その理由）
- 4 証明書には、前項の事項のうち、退職し又は解雇予告された者が請求した事項のみを証明するものとする。

### 第 3 章 給与

（給与）

- 第 35 条** 常勤職員の給与については、職員給与規程による。

### 第 4 章 服務

（誠実義務）

- 第 36 条** 常勤職員は、学長の指示命令を守り、職務上の責任を自覚し、誠実かつ公正に自己の職務を遂行しなくてはならない。
- 2 常勤職員は、法令及び諸規程を遵守するとともに上司の命令に従い、職場の秩序を保持し、互いに協力してその職務を遂行しなければならない。

（職務専念義務）

- 第 37 条** 常勤職員は、この規則又は関係諸規程に定める場合を除いては、本学がなすべき責を有する職務の遂行に専念しなければならない。

（職務専念義務免除期間）

- 第 38 条** 常勤職員は、前条の規定にかかわらず、次の各号の一の事由に該当する場合には、職務専念義務を免除される。
- (1) 学長が承認した勤務時間内レクリエーションに参加を承認された期間。ただし、一の年（1 月 1 日から 12 月 31 日までの一暦年）において 16 時間以内とする。
  - (2) 勤務時間内に労使交渉に参加することを承認された期間

(3) 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（以下「均等法」という。）第12条の規定に基づく次の区分において、勤務時間内に健康診査を受けることを承認された期間。

- ア 妊娠23週まで 4週間に1回
- イ 妊娠24週から35週まで 2週間に1回
- ウ 妊娠36週から出産まで 1週間に1回
- エ 出産後1年以内 1回

(4) 母胎及び胎児の健康保持に影響があると認められ、次により承認された期間

- ア 均等法第13条の規定に基づく通勤緩和 正規の勤務時間の始め又は終わりにつき1日を通じて1時間を超えない範囲でそれぞれ必要とされる時間
- イ 勤務の途中における休息又は補食 必要とされる時間

(5) 勤務時間内に総合的な健康診査を受けることを承認された期間

- 2 常勤職員は、前項の期間の承認を受けようとする場合は、あらかじめ休暇簿に記入して学長に請求しなければならない。
- 3 職務専念義務免除期間は、必要に応じて1日、1時間又は1分を単位として取扱うものとする。

(遵守事項)

**第39条** 常勤職員は、次の各号に掲げる行為をしてはならない。

- (1) みだりに勤務を欠くこと
  - (2) 職務の内外を問わず、本学の信用を傷つけ、その利益を害し、又は職員全体の不名誉となるような行為をすること
  - (3) 職務上知り得た秘密を他に漏らすこと
  - (4) 職務や地位を、本学とは無関係の私的利用のために用いること
  - (5) 学長の許可なく、事業を営み、又は職務以外の業務に従事すること
  - (6) 特定の政党、宗教に偏向して、本学の敷地及び施設内（以下「本学内」という。）で、その普及活動を行うこと
  - (7) 本学内で、喧騒の他、秩序・風紀を乱し、職場環境を著しく悪化させること
  - (8) 学長の許可なく、本学内で営利を目的とする金品の貸借をし、物品の売買をすること
- 2 常勤職員は、職務上又は職務外において交通事故、その他刑罰法規に抵触する事件等を起こした場合は、遅滞なく報告しなければならない。

(職員の倫理)

**第40条** 常勤職員の倫理について、遵守すべき職務に係る倫理原則及び倫理の保持を図るために必要な事項については、別に定める「国立大学法人山梨大学職員倫理規程」による。

(人権侵害に関する措置)

**第41条** セクシュアルハラスメントなどの人権侵害の防止等に関する措置は、別に定める「国立大学法人山梨大学職員人権侵害防止等に関する規程」による。

(内部告発者の保護)

**第41条の2** 本学内で行われたこの規則及び関係法令等に反する事実を本学に通報した常勤職員は、通報したことにより、いかなる不利益も受けない。ただし、誹謗中傷を目的とした通報に関してはこの限りでない。

(就業の禁止)

**第42条** 学長は常勤職員が次の各号に該当するときは、その就業を禁止することがある。

- (1) 職場の風紀秩序を乱したとき
  - (2) 法定伝染病に罹患しているとき又はそのおそれがあるとき
  - (3) その他前各号に準ずるとき
- 2 前項の規定により就業を禁止させられた常勤職員は、この規則に定める年次有給休暇若しくは

は病気休暇を取得することとし、これを取得しないときは、その期間を欠勤として取り扱うものとする。

(兼業の制限)

**第43条** 常勤職員は、学長の許可を受けなければ事業を営み又は職務以外の業務に従事すること(以下「兼業」という。)はできない。

2 兼業に関する許可基準等は、別に定める「国立大学法人山梨大学職員兼業規程」による。

(人事評価)

**第43条の2** 学長は、常勤職員の勤務状況について、勤務成績の評価(以下「人事評価」という。)を行い、その評価結果に応じた措置を講ずるように努めるものとする。

2 人事評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

## 第5章 勤務時間、休日及び休暇

### 第1節 勤務時間

(勤務時間等)

**第44条** 常勤職員の所定勤務時間は、休憩を除き1週38時間45分、1日7時間45分とする。

2 常勤職員の勤務の始業、終業の時刻及び休憩の時間は次のとおりとする。

(1) 始業時刻は午前8時30分とする。

(2) 終業時刻は午後5時15分とする。

(3) 休憩時間は午後0時から午後1時までとし、自由に利用することができる。

3 職員が保育のため特に請求した場合においては、前項第2号及び第3号の規定にかかわらず、終業時刻は午後5時、休憩時間は午後0時15分から午後1時までとすることができる。

4 業務若しくは勤務条件等の特殊性又は地域的若しくは季節的事情により必要なときは、前項に定める時刻等を変更することができる。

(勤務時間の特例)

**第45条** 前条の規定によることが困難な常勤職員の勤務時間等については、「国立大学法人山梨大学に勤務する職員の勤務時間等に関する規程」(以下「職員の勤務時間等に関する規程」という。)による。

2 前項に掲げる常勤職員とは、大学教員、附属学校教員のほか、医学部附属病院看護部、手術部、材料部、検査部、放射線部、輸血細胞治療部、救急部、集中治療部、栄養管理部、薬剤部及びMEセンターに所属する職員とする。

(事業場外の勤務)

**第46条** 常勤職員は、業務の都合上必要があると認める場合は、出張を命ぜられることがある。

2 出張を命ぜられた常勤職員が帰任したときは、速やかに上司に復命しなければならない。

3 常勤職員が、出張その他本学の職務をおびて本学外で勤務する場合であって、勤務時間を算定しがたいときは第44条の時間を勤務したものとみなす。ただし、当該業務を遂行するためには通常所定勤務時間を超えて勤務することが必要となる場合においては、当該業務に関しては、当該業務の遂行に通常必要とされる時間勤務したものとみなす。

4 前項ただし書の場合において、当該業務に関し、当該事業場の労働者の過半数を代表する者との書面による協定があるときは、その協定で定める時間を同項ただし書きの当該業務の遂行に必要とされる時間とする。

(時間外・深夜・休日勤務)

**第47条** 業務の都合上必要があると認める場合は、第44条の定めにかかわらず超過勤務、又は休日勤務を命ずることがある。この場合において、法定の勤務時間を超え、又は法定の休日における勤務については、学長は、労働者の過半数を代表する者と「時間外・休日労働に関す

る協定」を締結し、これを、あらかじめ所轄労働基準監督署長に届け出るものとする。

2 常勤職員は、前項により学長から超過勤務又は休日勤務を命ぜられた場合は、正当な理由のない限り、これに応じなければならない。

(育児・介護を行う常勤職員の特例)

**第48条** 小学校就学前の子の養育又は家族の介護を行う常勤職員であつて、請求のあった者については、業務の正常な運営を妨げる場合を除き、前条の規定にかかわらず、1月について24時間、1年について150時間を超えて超過勤務を命じることはない。

2 小学校就学前の子の養育又は家族の介護を行う常勤職員であつて、請求のあった者については、業務の正常な運営を妨げる場合を除き、深夜業(午後10時から午前5時までをいう。以下同じ。)に従事させることはない。

3 小学校就学前の子を養育する常勤職員であつて、請求のあったものについては、業務の正常な運営を妨げる場合を除き、前条の規定にかかわらず、超過勤務を命じることはない。

4 前3項の対象者、手続等の必要事項については、別に定める「国立大学法人山梨大学職員の育児休業等に関する規程」(以下「職員育児休業等規程」という。)又は「国立大学法人山梨大学職員の介護休業等に関する規程」(以下「職員介護休業等規程」という。)による。

(妊産婦職員の特例)

**第49条** 妊娠中及び産後1年を経過しない女性職員が請求した場合は、第47条の規定にかかわらず、超過勤務、休日の勤務及び深夜業を命じることはない

(災害時の勤務)

**第50条** 災害その他避けることのできない事由によって、法定の勤務時間を超え又は法定の休日に、臨時に勤務させる必要がある場合は、所轄労働基準監督署長の事前の許可、又は事後の届け出により、第47条第1項後段に規定する「時間外・休日労働に関する協定」で定めた範囲を超えて、常勤職員に勤務を命ずることがある。

2 常勤職員は、前項により学長から災害時の勤務を命ぜられた場合は、正当な理由のない限り、これに応じなければならない。

(宿日直)

**第51条** 常勤職員は、勤務時間外において、建物・書類の保全等を図るため、宿日直勤務を命ぜられることがある。なお、宿日直勤務の職務内容その他の事項については、別に定める「国立大学法人山梨大学職員宿日直規程」による。

2 常勤職員は、前項により学長から宿日直勤務を命ぜられた場合は、正当な理由のない限り、これに応じなければならない。

(出勤簿)

**第52条** 常勤職員は、始業開始時刻までに出勤し、直ちに出勤簿に押印を行うものとする。ただし、やむを得ない場合には署名にかえることができる。この場合、事後速やかに押印に訂正するものとする。

2 前項にかかわらず、職員の勤務時間等に関する規程第5条に定める職員は、出勤簿に代えて、別に定める勤務状況報告書に出退勤時間を記録するものとする。

## 第2節 休日・休暇

(休日)

**第53条** 休日は、次の各号に定める日とする。

(1) 日曜日(法定休日)

(2) 土曜日

(3) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日

(4) 12月29日から翌年1月3日までの日(前3号に規定する休日を除く。)

(5) 8月14日から16日までの期間(甲府事業場に勤務する常勤職員に限る。)。ただし、当



該期間のいずれかの日が休日にあたる場合は、学長が指定する日

(6) その他、特に指定する日

- 2 業務の都合上、前項の規定によることが困難な常勤職員の休日については、職員の勤務時間等に関する規程による。

(休日の振替)

**第54条** 学長は、常勤職員に前条第1項第1号及び第2号の休日において特に勤務をすることを命ずる必要がある場合には、あらかじめ勤務時間が割り振られた日（以下この条において「勤務日」という。）を休日に変更して当該勤務日に割り振られた勤務時間を当該勤務することを命ずる必要がある日に割り振ることができる。ただし、職員の勤務時間等に関する規程別表第2に掲げる職員については、適用しない。

- 2 学長は、前項の休日の振替を行うにあたっては、当該週の勤務時間が第44条に規定する所定勤務時間を超えないようにし、また当該週に1日以上の日を設けなければならない。
- 3 前条第1項第2号の休日と同項第3号から第5号の休日重なった日において特に勤務することとなった場合は、第1項本文の規定は適用しない。

(代休)

**第54条の2** 学長は、前条による休日の振替を行うことが困難と認められる場合は、休日の振替に代えて当該休日の代休を与えることができる。

- 2 前項による休日の代休は、勤務を命じた休日から8週間以内において与えることができる。

(有給休暇の種類)

**第55条** 常勤職員の有給休暇は、年次有給休暇、病気休暇、特別休暇とする。

(年次有給休暇)

**第56条** 年次有給休暇は、一の年における休暇とし、その日数は、一の年において、次の各号に掲げる常勤職員の区分に応じて、当該各号に掲げる日数とする。

- (1) 次号から第3号までに掲げる常勤職員以外の常勤職員 20日
- (2) 当該年の中途において、新たに常勤職員となる常勤職員 その者の当該年における在職期間に応じ、別表第一の日数欄に掲げる日数（以下「基本日数」という。）
- (3) 国、地方公共団体、独立行政法人、国立大学法人等及び学長がこれに相当すると認めた機関（以下本条において「人事交流機関」という。）の職員から、引き続き本学の常勤職員となった者については次による。

ア 人事交流機関における年次有給休暇に相当する休暇が本学の基準（本条に定めるものをいう。）と同じ場合 本学の常勤職員となった日の前日における残日数

イ 上記ア以外の場合 本学の常勤職員となった日における基本日数に、20日を限度として当該日の前日に在職していた人事交流機関における年次有給休暇に相当する休暇の残日数を加えた日数。ただし、本学と人事交流機関との間で別に書面を交わした場合で、それによる方が交流職員にとって有利な場合はそれにより算出される日数。

- 2 年次有給休暇（この項の規定により繰り越されたものを除く。）は、一の年における年次有給休暇の20日を超えない範囲内の残日数及び残時間数を限度として、当該年の翌年に繰り越すことができる。

(年次有給休暇の計画的付与)

**第57条** 年次有給休暇の日数のうち、5日を超える部分については、労働者の過半数を代表とする者との間に協定を締結したときは、その労使協定に定める時季に計画的に取得させることができる。

(年次有給休暇の届出)

**第58条** 常勤職員は、年次有給休暇を取得する場合には、あらかじめ休暇簿に記入して学長に届け出なければならない。ただし、やむを得ない事由によってあらかじめ休暇を届け出ること

が困難であったことを学長が認めるときは、常勤職員は、事後速やかに、その事由を付して休暇を届け出ることができる。

- 2 年次有給休暇は、常勤職員の届け出た時季に与えるものとする。ただし、常勤職員の届け出た時季に与えることが業務の正常な運営に支障を生ずる場合は、学長は他の時季に変更させることがある。
- 3 学長は、第1項に定める届出の受理及び事後承認の権限等を、所属の長等に移譲することができるものとする。

(年次有給休暇の付与単位)

**第59条** 年次有給休暇は、1日を単位として与えるものとする。ただし、特に常勤職員から届け出があった場合は、1時間を単位として与えることができる。

- 2 前項ただし書きの場合において、1時間を単位として使用した年次有給休暇を日に換算する場合には、8時間をもって1日とする。
- 3 常勤職員のうち、職員の勤務時間等に関する規程により裁量労働制を適用される者にあつては、第1項の規定にかかわらず、年次有給休暇の付与単位は1日とする。ただし、別に定めのある場合はこの限りでない。

(病気休暇)

**第60条** 常勤職員が、負傷又は疾病による療養のため勤務しないことがやむを得ない場合は、最小限度と認める範囲内において、その勤務しない期間は、有給の病気休暇を与えるものとする。なお、同一の負傷又は疾病による病気休暇については連続して90日を超えない範囲で与えることができるものとする。

- 2 前項の場合において、業務上の災害及び通勤上の災害で連続して4日以上休暇を取得した場合の給与は、労働者災害補償保険法による災害補償の額を給与の一部とみなして、その差額を支払うものとする。
- 3 生理日における勤務が著しく困難であるとして女性職員から請求があつた場合には、必要な時間の病気休暇を与える。

(病気休暇の手續)

**第61条** 常勤職員は、前条の病気休暇の承認を受けようとする場合には、あらかじめ休暇簿に記入して学長に承認の請求をしなければならない。ただし、やむを得ない事由により、あらかじめ請求できなかった場合には、その事由を付して事後において承認を求めることができる。

- 2 病気休暇が一週間を超える場合には、治療予定期間を記載した医師の診断書を速やかに学長に提出しなければならない。
- 3 病気休暇が長期にわたり、前項診断書に記載された治療期間を経過した場合には更に診断書を学長に提出しなければならない。
- 4 長期にわたり病気休暇を取得している常勤職員が回復後出勤しようとする場合には、医師の証明書を添付して、学長の許可を受けなければならない。この際、学長は、必要に応じ、当該常勤職員に対し指定する医師の診断を受けることを命ずることができるものとし、その結果、治癒に至っていないと判断した場合は就業を禁止し、その禁止している期間は前条に定める同一の負傷又は疾病による病気休暇として取り扱うものとする。

(特別休暇)

**第62条** 常勤職員は、次の各号の一の事由により勤務日又は勤務時間中に勤務しない場合には、それぞれ当該各号に規定するところによりその勤務しない日又は時間は、特別休暇として、休暇の付与を受けることができる。

- (1) 常勤職員が選挙権その他公民としての権利を行使する場合で、その勤務しないことがやむを得ないと認められるときは、必要と認められる期間
- (2) 常勤職員が証人、鑑定人、参考人、裁判員（候補者を含む）等として国会、裁判所、地方公共団体の議会その他官公署へ出頭する場合で、その勤務しないことがやむを得ないと認められるときは、その必要と認められる期間

- (3) 常勤職員が骨髄移植のための骨髄液の提供希望者としてその登録を実施する者に対して登録の申出を行い、又は骨髄移植のため配偶者、父母、子及び兄弟姉妹以外の者に骨髄液を提供する場合で、当該申出又は提供に伴い必要な検査、入院等のため勤務しないことがやむを得ないと認められるときは、その必要と認められる期間
- (4) 常勤職員が自発的に、かつ、報酬を得ないで次に掲げる社会に貢献する活動（専ら親族に対する支援となる活動を除く。）を行う場合で、その勤務しないことが相当であると認められるときは、一の年において5日の範囲内の期間
- イ 地震、暴風雨、噴火等により相当規模の災害が発生した被災地又はその周辺の地域における生活関連物資の配布その他の被災者を支援する活動
- ロ 身体障害者療護施設、特別養護老人ホームその他の主として身体上若しくは精神上の障害がある者又は負傷し、若しくは疾病にかかった者に対して必要な措置を講ずることを目的とする施設における活動
- ハ 身体上若しくは精神上の障害、負傷又は疾病により常態として日常生活を営むのに支障がある者の介護その他の日常生活を支援する活動
- ニ その他大学が指定する社会貢献活動
- (5) 常勤職員が結婚する場合で、結婚式、旅行その他の結婚にともない必要と認められる行事等のため勤務しないことが相当であると認められるときは、結婚の日の5日前の日から当該結婚の日後6月を経過する日までの期間内における連続する5日の範囲内の期間
- (6) 8週間（多胎妊娠の場合にあっては、14週間）以内に出産する予定である女性の職員が申し出た場合は、出産の日までの申し出た期間。
- (7) 女性職員が出産した場合は、出産の日の翌日から8週間を経過する日までの期間（産後6週間を経過した女性職員が就業を申し出た場合において医師が支障がないと認めた業務に就く期間を除く。）
- (8) 生後1年に達しない子を育てる常勤職員が、その子の保育のために必要と認める授乳等を行う場合は、1日2回それぞれ30分の期間（その子の当該常勤職員以外の親が同じ日にこの号の休暇を取得する場合は、各回ごとに二人の合計が30分以内の期間とする。）
- (9) 常勤職員が妻（事実上の婚姻関係と同様の事情にある者を含む。以下この条において同じ。）の出産に伴い勤務しないことが相当であると認められる場合は、常勤職員の妻が出産するため病院に入院する等の日から当該出産の日後2週間を経過する日までの間において、2日の範囲内の期間（1暦日ごとに分割できる。）
- (10) 常勤職員の親族（別表第二の親族欄に掲げる親族に限る。）が死亡した場合で、常勤職員が葬儀、服喪その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事のため勤務しないことが相当であると認められるときは、親族に応じ同表の日数欄に掲げる連続する日数（葬儀のため遠隔の地に赴く場合にあっては、往復に要する日数を加えた日数）の範囲内の期間
- (11) 常勤職員が配偶者、子及び父母の追悼のための特別な行事（配偶者、子及び父母の死亡後15年以内に行われるものに限る。）のため勤務しないことが相当であると認められる場合は、1日の範囲内の期間
- (12) 常勤職員が、心身の健康の維持及び増進又は家庭生活の充実のため勤務しないことが相当であると認められる場合は、一の年における休日（振替後の休日及び代休を含む。）を除き、甲府事業場に勤務する職員にあっては1日、医学部事業場に勤務する職員にあっては、連続する4日間。ただし、特に必要があると認められる場合には、1暦日まで分割して取得することができる。
- (13) 地震、水害、火災その他の災害により常勤職員の現住居が滅失し、又は損壊した場合で、常勤職員が当該住居の復旧作業のため勤務しないことが相当であると認められるときは、連続する7日の範囲内の期間
- (14) 地震、水害、火災その他の災害又は交通機関の事故等により出勤することが著しく困難であると認められる場合は、その必要と認められる期間
- (15) 地震、水害、火災その他の災害時において、常勤職員が退勤途上における身体の危険を回避するため勤務しないことがやむを得ないと認められる場合は、その必要と認められる期間
- (16) 小学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む。）を養育する常勤職員が、その子の世話（負傷し、若しくは疾病にかかったときに世話を行うこと並びに疾病の予防を図るた

めに予防接種又は健康診断を受けさせることをいう。)のため申し出た場合は、一の年において5日(その養育する小学校就学の始期に達するまでの子が2人以上の場合にあっては、10日)の範囲内の期間

(17)常勤職員の妻が出産する場合であってその出産予定日の6週間(多胎妊娠の場合にあっては、14週間)前の日から当該出産の日後8週間を経過する日までの期間にある場合において、当該出産に係る子又は小学校就学の始期に達するまでの子(妻の子を含む。)を養育する常勤職員が、これらの子の養育のため申し出た場合は、当該期間内における5日の範囲内の期間

(18)職員介護休業等規程第3条に規定する要介護者(以下この条において「要介護者」という。)の介護その他次に定める世話をを行う常勤職員が、当該要介護者の世話をを行うため申し出た場合は、一の年において5日(要介護者が二人以上いる場合にあっては、10日)の範囲内の期間

ア 要介護者の通院等の付添い

イ 要介護者が介護サービスの提供を受けるために必要な手続の代行

ウ その他要介護者の必要な世話

(特別休暇等の手続)

**第63条** 常勤職員は、特別休暇(前条第六号、第七号、第十六号、第十七号及び第十八号の休暇を除く。)の承認を受けようとする場合には、あらかじめ休暇簿に記入して学長に請求しなければならない。ただし、病気、災害その他やむを得ない事由によってあらかじめ申請することができなかった場合には、事後速やかに、その事由を付して承認を受けることができる。

2 前条第六号、第十六号、第十七号及び第十八号の申出は、あらかじめ休暇簿に記入して学長に対し行わなければならない。

3 前条第七号に該当することとなった場合は、その旨を速やかに学長に届け出るものとする。

4 前三項の場合において、学長が必要と認めて証明書等の提出を求めたときは、これを提出しなければならない。

(休暇の付与単位)

**第64条** 病気休暇、特別休暇は、必要に応じて1日、1時間又は1分を単位として取扱うものとする。

2 病気休暇は、時間を日に換算する場合は、8時間をもって1日とする。

### 第3節 休業

(育児休業、育児短時間勤務及び育児時間)

**第65条** 職員のうち、子の養育を必要とする者は、学長に申し出て育児休業、育児短時間勤務及び育児時間の適用を受けることができる。

2 育児休業等の対象者、手続き等の必要事項については、職員育児休業等規程による。

(介護休業又は介護部分休業)

**第66条** 職員の家族で傷病等のため介護を要する者がいる場合は、学長に申出て介護休業等の適用を受けることができる。

2 介護休業等の対象者、期間、手続等の必要事項については、職員介護休業等規程による。

## 第6章 職員研修

(大学教員及び附属学校教員の研修)

**第67条** 大学教員及び附属学校教員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。

2 学長は、大学教員及び附属学校教員の研修について、それに要する施設、研修を奨励するための方途その他研修に関する計画を樹立し、その実施に努めなければならない。

3 大学教員及び附属学校教員には、研修を受ける機会が与えられなければならない。

- 4 大学教員及び附属学校教員は、教育研究その他の業務に支障のない限り、学長の承認を受けて、勤務場所を離れて研修を行なうことができる。
- 5 大学教員及び附属学校教員は、学長の定めるところにより、現職のままで、長期にわたる研修を受けることができる。

(大学教員及び附属学校教員以外の常勤職員の研修)

**第67条の2** 学長は、常勤職員に対し、業務に必要な知識及び技能等を高め、資質の向上を図るため、研修を命ずることがある。

- 2 常勤職員は、前項により研修を命ぜられた場合は、特段の事由のない限りこれを受けなければならない。
- 3 常勤職員は、勤務場所を離れて職務に関連する研修を行なおうとするときは、事前に計画書を提出し、学長の許可を受けなければならない。学長は、教育研究ならびに他の業務に支障のない場合に限り、それを認めることができる。
- 4 学長は、常勤職員に研修を受ける機会の提供に務めるものとする。

(大学院修学休業)

**第68条** 常勤職員は、業務に必要な資格、知識及び技能等を向上させるため、許可を受けて4年以内の期間、大学院の課程等に在学してその課程を履修するために休業することができる。

(大学院修学休業の効果)

**第69条** 大学院修学休業している常勤職員は、本学職員としての身分を保有するが、職務には従事しない。

- 2 大学院修学休業期間中は、給与を支給しない。
- 3 大学院修学休業した常勤職員の退職手当の支給等に当たっては、その休業した期間は、常勤職員として在職したものとみなして、適用するものとする。

(大学院修学休業の許可の失効等)

**第70条** 大学院修学休業の許可は、次の各号に掲げる場合はその効力を失う。

- (1) 当該大学院修学休業している常勤職員が休職又は停職の処分を受けた場合
  - (2) 当該大学院修学休業の許可に係る大学院の課程等を退学した場合
  - (3) 当該大学院修学休業の期間内に必要とする単位を修得することが困難である場合
  - (4) 前各号に準ずる場合で、学長が、当初の目的を達しない相当な理由があると判断した場合
- 2 前項に掲げる事由により、大学院修学休業の許可が失効した場合において、学長及び本学は、常勤職員が損失する学費等の費用については、その責を負わないものとする。

## 第7章 特許

(職務発明等)

**第71条** 本学が費用その他の支援をして行う研究等、又は本学が管理する施設設備を利用して行う研究等に基づき、常勤職員が行った発明・考案、著作物・有体物等に係る取扱いについては、次号に掲げる規程による。

- (1) 発明、考案に係る取扱いについては、別に定める「国立大学法人山梨大学職務発明等取扱規程」による。
- (2) 著作物、有体物に係る取扱いについては、別に定める「国立大学法人山梨大学職務著作物等取扱規程」による。

## 第8章 賞罰

(表彰)

**第72条** 学長は、常勤職員に表彰するに足る事由があるときは、別に定める「国立大学法人山梨大学職員表彰規程」により、これを表彰することができる。

2 表彰の種類は、永年勤続者表彰、善行表彰及び教育・研究業績等表彰とする。

(懲戒)

**第73条** 学長は、常勤職員が次条の各号の一に該当する場合は、次の区分に応じて懲戒することができる。

- (1) 戒告 始末書を提出させて戒め、注意の喚起を促す。
- (2) 減給 始末書を提出させるほか、給与の一部を減額する。ただし、1回に減ずる額は、平均賃金の1日分の半額を限度とし、かつ、一給与支払期間に複数回の減給を行う場合であっても、減ずる額の合計が当該期間の賃金の総額の10分の1を限度とする。
- (3) 停職 始末書を提出させるほか、1日以上6月以内を限度として出勤を停止し、職務に従事させず、その間の給与は支給しない。
- (4) 諭旨解雇 退職を勧告し、これに応じない場合には、30日前に予告して、若しくは30日以上以上の解雇予告手当を支払って解雇する。
- (5) 懲戒解雇 即時に解雇する。この場合において、労基法第20条第3項の規定による所轄労働基準監督署長の認定を受けたときは、解雇予告手当を支給しない。

(懲戒事由)

**第74条** 学長は、次の各号の一に該当するときは、所定の手続きの上、懲戒処分を行う。

- (1) 就業規則第39条の遵守事項に違反をしたとき
- (2) 就業規則第40条の倫理規程に違反をしたとき
- (3) 就業規則第41条の人権侵害行為があったと認められたとき
- (4) 就業規則第43条の兼業規程に違反をしたとき
- (5) 指導・監督する立場にある者が職責遂行上の配慮を怠った場合
- (6) その他本学の規定等に違反し、又は前各号に準ずる不都合な行為があったとき

(懲戒の手続き)

**第75条** 学長は、常勤職員を懲戒する場合には、事由を記載した説明書を交付して行うものとする。

- 2 学長は、常勤職員を懲戒する場合には、当該職員に対して、弁明のための機会を設けるものとする。
- 3 その他懲戒に必要な事項については、別に定める「国立大学法人山梨大学職員懲戒規程」による。

(訓告等)

**第76条** 学長は、第74条の懲戒事由に至らない場合でも、サービスを厳正にし、規律を保持する必要があるときは、訓告、厳重注意、注意を行う。

(損害賠償)

**第77条** 常勤職員が故意又は重大な過失によって本学に損害を与えた場合は、第73条及び前条の規定による懲戒処分又は訓告等を行うほか、その損害の全部又は一部を賠償させるものとする。

## 第9章 安全衛生

(安全・衛生管理)

**第78条** 学長は、常勤職員の安全衛生の確保と健康増進のために必要な措置を講じなければならない。

- 2 常勤職員の安全衛生及び健康管理については、労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）及びその他の関係法令の定めるところによるほか、別に定める「国立大学法人山梨大学職員安全衛生管理規程」による。

(協力義務)

**第79条** 常勤職員は、前条に掲げる安全衛生に関する関係法令等を遵守するとともに、本学が行う安全衛生及び健康管理に関する措置に協力しなければならない。

(非常災害時の措置)

**第80条** 常勤職員は、火災その他非常災害の発生を発見し、又はその発生のおそれがあることを知ったときは、緊急の措置をとるとともに直ちに担当部署等に連絡して、その指示に従い、被害を最小限に食いとめるように努力しなければならない。

## 第10章 旅費

(旅 費)

**第81条** 常勤職員が業務上、出張を命ぜられた場合の旅費については、別に定める「国立大学法人山梨大学職員旅費規程」による。

## 第11章 福利・厚生

(福利厚生)

**第82条** 学長は、常勤職員の健全な心身の保持、文化、教養、体育等の活動を通じた元気の回復、並びに勤務能率の発揮及び増進のために、次の各号に掲げる事項について計画し、これの実施に努めなければならない。

- (1) 常勤職員の保健に関する事項
- (2) 常勤職員のレクリエーションに関する事項
- (3) 常勤職員の厚生に関する事項
- (4) 常勤職員の福利・厚生のための施設の整備に関する事項

2 前項各号の実施にあたっては、その都度学長が定める。

(宿舎利用基準)

**第83条** 常勤職員の職員宿舎の利用については、別に定める「国立大学法人山梨大学職員宿舎規程」による。

## 第12章 災害補償

(業務上の災害補償)

**第84条** 常勤職員が業務上において被害を被った場合の補償等については、労基法、「労働者災害補償保険法」(昭和22年法律第50号。以下次条において「労災法」という。)及び「国立大学法人山梨大学職員災害補償規程」(以下「災害補償規程」という。)の定めるところによる。

(通勤途上の災害給付)

**第85条** 常勤職員が通勤途上において災害を被った場合の給付等については、労災法及び災害補償規程の定めるところによる。

## 第13章 退職手当

(退職手当)

**第86条** 常勤職員の退職手当について、その適用範囲、決定、計算、その他必要な事項については、別に定める「国立大学法人山梨大学職員退職手当規程」による。

## 第14章 補則

(補則)

**第87条** 国，都道府県，独立行政法人，国立大学法人等及び学長が定めるその他の機関から引き続き本学の常勤職員となった日の前日において，前機関で取得していた休職，病気休暇，特別休暇は，本学の常勤職員として取得したものとみなして，それぞれ本規則を適用するものとする。

#### 附 則

(施行日)

1 この規則は，平成16年4月1日から施行する。

(休暇の引継ぎ)

2 この規則の施行日前日に「一般職の職員の勤務時間，休暇等に関する法律」(平6年法律第33号)第16条の規定による休暇の承認等を受けていた常勤職員が，引き続き国立大学法人山梨大学成立の日に常勤職員となった場合は，施行日以降は，この規則の定めるところにより，第56条に規定する年次有給休暇として承認等を受けたものとみなす。

(休職期間等の算入)

3 この規則の施行日前日に，現に休職又は病気休暇等により勤務していない常勤職員の当該期間は，この規則に定める各々の期間に算入されるものとする。

(定年の経過措置)

4 この規則の施行日前日に，現に次の各号の労務的業務に従事する職員については，第27条の定めにかかわらず，定年を満63歳とする。

- 一 守衛，警備等の業務に従事する者
- 二 用務員，労務作業員等の労務に従事する者

(代替教員等の経過措置)

5 この規則の施行日前日に，現に育児休業等の代替措置のために任期を定めて雇用されている職員については，その残余期間をもって，第8条に規定する有期雇用職員として採用されたものとして取り扱うものとする。

**附 則** (平成17年4月1日)

この規則は，平成17年4月1日から施行する。

**附 則** (平成18年1月1日)

この規則は，平成18年1月1日から施行する。

**附 則** (平成18年3月22日)

この規則は，平成18年4月1日から施行する。

**附 則** (平成18年6月21日)

この規則は，平成18年6月21日から施行する。

**附 則** (平成18年7月10日)

この規則は，平成18年7月10日から施行する。

**附 則** (平成19年4月1日)

- 1 この規則は，平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日(以下「施行日前日」という。)に助教授である職員は，別に昇任，降任又は退職等の発令を受けない限り，この規則の施行日(以下「施行日」という。)において准教授となるものとする。



- 3 施行日前日に助手である職員は、別に昇任、降任又は退職等の発令を受けない限り、所属学部等における審査基準に基づき、施行日において助教又は助手となるものとする。
- 4 前項の規定により施行日前日に助手であった職員から施行日にあらためて助手となった者の定年年齢は、その者が引続き助手である限りにおいては、第27条第1項の規定にかかわらず、「65歳」とする。

附 則（平成19年11月21日）  
この規則は、平成19年12月1日から施行する。

附 則（平成20年9月1日）  
この規則は、平成20年9月1日から施行する。

附 則（平成20年12月24日）  
この規則は、平成21年1月1日から施行する。

附 則（平成21年3月18日）  
この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成21年11月25日）  
この規則は、平成21年12月1日から施行する。

附 則（平成22年3月24日）  
この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成23年2月23日）  
この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成23年3月28日）  
この規則は、平成23年4月1日から施行する。

別表第一(第56条関係)

在 職 期 間	日 数
1月に達するまでの期間	2日
1月を超え2月に達するまでの期間	3日
2月を超え3月に達するまでの期間	5日
3月を超え4月に達するまでの期間	7日
4月を超え5月に達するまでの期間	8日
5月を超え6月に達するまでの期間	10日
6月を超え7月に達するまでの期間	12日
7月を超え8月に達するまでの期間	13日
8月を超え9月に達するまでの期間	15日
9月を超え10月に達するまでの期間	17日
10月を超え11月に達するまでの期間	18日
11月を超え1年未満までの期間	20日

別表第二(第62条第10号関係)

親 族	日 数
配偶者	7日
父母	
子	7日
祖父母	3日(職員が代襲相続し、かつ、祭具等の承継を受ける場合にあっては7日)
孫	1日
兄弟姉妹	3日
おじ又はおば	1日(職員が代襲相続し、かつ、祭具等の承継を受ける場合にあっては7日)
父母の配偶者又は配偶者の父母	3日(職員と生計を一にしていた場合にあっては7日)
子の配偶者又は配偶者の子	1日(職員と生計を一にしていた場合にあっては5日)
祖父母の配偶者又は配偶者の祖父母	1日(職員と生計を一にしていた場合にあっては3日)
兄弟姉妹の配偶者又は配偶者の兄弟姉妹	
おじ又はおばの配偶者	1日